博　多 166

— 博多遺跡群第209次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1395集

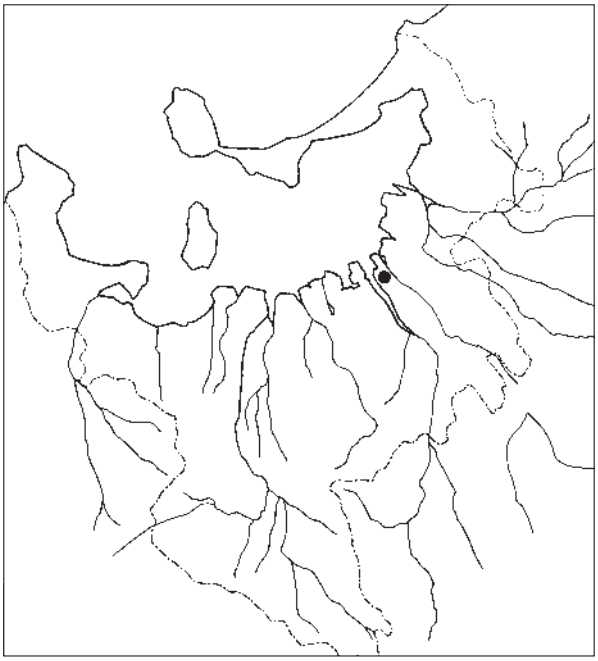
2020

福 岡 市 教 育 委 員 会

博　多 166

— 博多遺跡群第209次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1395集



調査番号　１６３８
遺跡略号　HKT-209

２０２０

福 岡 市 教 育 委 員 会

1. SK3132 出土 黄釉褐彩四耳壺

2. SK3132 出土　青釉四耳壺

3. SK3132 出土 青釉四耳壺

4. SK3132 出土 青釉四耳壺

5. SK3132 出土 黄釉鉢

6. SK2004 出土 青釉長瓶

7. SK001 出土 陶製経筒蓋

8. SE3057 出土 柿釉輪花碗

序

福岡市には、豊かな自然と、文化遺産がのこされています。地理的位置から、古くから対外交渉の拠点の一つとして大きな役割を担ってきました。

これら先人の遺産を保護し未来へと伝えていくことは、私たちの重要な務めです。

福岡市教育委員会では、開発によってやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録の保存、出土遺物などの活用に努めています。

本書は、事務所ビル建設に伴い、平成29年2月から12月にかけて発掘調査を実施した博多遺跡群第209次調査の成果を報告するものです。遺跡のある博多旧市街は中世において対外交渉の一大拠点として大きな役割を果たしました。今回の報告はその交易活動に関わる場とみられる区域の調査で、調査成果は、対外交渉史を解明する上での一助になるものと考えます。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から本書の刊行に至るまで、株式会社 南日本保証センター様をはじめとする関係者の方々とのご理解とご協力を賜りましたことに対し、こころからの感謝の意を表する次第です。

令和2年3月25日

福岡市教育委員会
教育長　星子明夫

例　言

1　本書は福岡市教育委員会が事務所ビル建設に伴い、福岡市博多区冷泉町10番21号で発掘調査を実施した博多遺跡群第209次調査の報告である。

1　本書で報告する調査の細目は下表のとおりである。

調査番号	遺跡略号	調査対象面積	調査面積	調査期間
１６３８	ＨＫＴ－209	960㎡	960㎡	2017年2月1日～12月28日

1　本書に掲載した遺構の写真撮影は調査担当の佐藤一郎・屋山洋（埋蔵文化財課主任文化財主事）・松﨑友理（同文化財主事）、実測は担当者の他、技能員の藤野雅基、名取さつきが行い、製図は佐藤、整理補助員の鳥井幸代・萩尾朱美が行った。

1　遺物の写真撮影は佐藤、実測は佐藤、技能員の林田憲三・立石真二・平田春美・元田晃子・野村美樹・久富美智子、製図は佐藤・元田・野村が行った。金属製品の保存処理・X線写真撮影は埋蔵文化財センターの比佐陽一郎による。

1　遺物の整理は整理作業員の鳥井・萩尾・甲斐田嘉子・執行恭子が行った。

1　遺構は3～4桁の通し番号を用い、遺構の種類に応じてSD（溝）、SE（井戸）、SK（土坑）の略号を番つけた。

1　本書に関わる図面、写真、遺物など一切の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管される予定である。

1　本書の執筆は佐藤の他、動物遺存体について屋山、板石硯・研石について久住猛雄（埋蔵文化財課文化財主事）、編集は佐藤が行った。

本文目次

Ⅰ．はじめに …… 5
　1．調査に至る経緯 …… 5
　2．調査の組織 …… 5
Ⅱ．遺跡の位置 …… 6
Ⅲ．調査の記録 …… 7
　1．調査の概要 …… 7
　2．遺構と遺物 …… 7
　（1）遺構 …… 7
　（2）遺物 …… 32
Ⅳ．小結 …… 103

挿図目次

第 1 図 博多遺跡群発掘区域図（縮尺 1/8000）…… 6
第 2 図 博多遺跡群第 209 次調査発掘地（縮尺 1/1000）…… 6
第 3 図 博多遺跡群第 209 次調査遺構配置図 1（縮尺 1/200）…… 8
第 4 図 博多遺跡群第 209 次調査遺構配置図 2（縮尺 1/200）…… 9
第 5 図 博多遺跡群第 209 次調査遺構配置図 3（縮尺 1/200）…… 10
第 6 図 博多遺跡群第 209 次調査遺構配置図 4（縮尺 1/200 …… 11
第 7 図 博多遺跡群第 209 次調査土層図 1（縮尺 1/60）…… 12
第 8 図 博多遺跡群第 209 次調査土層図 2（縮尺 1/60）…… 13
第 9 図 博多遺跡群第 209 次調査土層図 3（縮尺 1/60）…… 14
第 10 図 井戸実測図 1（縮尺 1/60）…… 16
第 11 図 井戸実測図 2（縮尺 1/60）…… 17
第 12 図 井戸実測図 3（縮尺 1/60）…… 18
第 13 図 井戸実測図 4（縮尺 1/60）…… 19
第 14 図 土坑実測図 1（縮尺 1/20）…… 20
第 15 図 土坑実測図 2（縮尺 1/60）…… 21
第 16 図 土坑実測図 3（縮尺 1/20）…… 22
第 17 図 土坑実測図 4（縮尺 1/30・1/60）…… 23
第 18 図 土坑実測図 5（縮尺 1/20）…… 24
第 19 図 土坑実測図 6（縮尺 1/40）…… 25
第 20 図 土坑実測図 7（縮尺 1/20）…… 26
第 21 図 方形竪穴実測図（縮尺 1/30）…… 27
第 22 図 土坑実測図 8（縮尺 1/20）…… 28
第 23 図 土坑実測図 9（縮尺 1/20）…… 30
第 24 図 土坑実測図 10（縮尺 1/20）…… 31
第 25 図 壺棺実測図（縮尺 1/20）…… 33
第 26 図 近世遺構実測図（縮尺 1/60）…… 33
第 27 図 出土遺物実測図 1（縮尺 1/3）…… 35
第 28 図 出土遺物実測図 2（縮尺 1/3）…… 36
第 29 図 出土遺物実測図 3（縮尺 1/3）…… 37

第 30 図 出土遺物実測図 4（縮尺 1/3）…… 38
第 31 図 出土遺物実測図 5（縮尺 1/3）…… 39
第 32 図 出土遺物実測図 6（縮尺 1/3）…… 40
第 33 図 出土遺物実測図 7（縮尺 1/3）…… 41
第 34 図 出土遺物実測図 8（縮尺 1/3）…… 42
第 35 図 出土遺物実測図 9（縮尺 1/3）…… 43
第 36 図 出土遺物実測図 10（縮尺 1/3）…… 44
第 37 図 出土遺物実測図 11（縮尺 1/3）…… 45
第 38 図 出土遺物実測図 12（縮尺 1/3）…… 46
第 39 図 出土遺物実測図 13（縮尺 1/3）…… 47
第 40 図 出土遺物実測図 14（縮尺 1/3）…… 48
第 41 図 出土遺物実測図 15（縮尺 1/3）…… 49
第 42 図 出土遺物実測図 16（縮尺 1/3）…… 50
第 43 図 出土遺物実測図 17（縮尺 1/3）…… 51
第 44 図 出土遺物実測図 18（縮尺 1/3）…… 52
第 45 図 出土遺物実測図 19（縮尺 1/3）…… 53
第 46 図 出土遺物実測図 20（縮尺 1/3）…… 54
第 47 図 出土遺物実測図 21（縮尺 1/3）…… 55
第 48 図 出土遺物実測図 22（縮尺 1/3）…… 56
第 49 図 出土遺物実測図 23（縮尺 1/3）…… 57
第 50 図 出土遺物実測図 24（縮尺 1/3）…… 58
第 51 図 出土遺物実測図 25（縮尺 1/3）…… 59
第 52 図 出土遺物実測図 26（縮尺 1/3）…… 60
第 53 図 出土遺物実測図 27（縮尺 1/3）…… 61
第 54 図 出土遺物実測図 28（縮尺 1/3）…… 62
第 55 図 出土遺物実測図 29（縮尺 1/3）…… 63
第 56 図 出土遺物実測図 30（縮尺 1/3）…… 64
第 57 図 出土遺物実測図 31（縮尺 1/3）…… 65
第 58 図 出土遺物実測図 32（縮尺 1/3）…… 66
第 59 図 出土遺物実測図 33（縮尺 1/3）…… 67
第 60 図 出土遺物実測図 34（縮尺 1/3）…… 68
第 61 図 出土遺物実測図 35（縮尺 1/3）…… 69
第 62 図 出土遺物実測図 36（縮尺 1/3）…… 70
第 63 図 出土遺物実測図 37（縮尺 1/3）…… 71
第 64 図 出土遺物実測図 38（縮尺 1/3）…… 72
第 65 図 出土遺物実測図 39（縮尺 1/3）…… 73
第 66 図 出土遺物実測図 40（縮尺 1/3）…… 74
第 67 図 出土遺物実測図 41（縮尺 1/3）…… 75
第 68 図 出土遺物実測図 42（縮尺 1/3）…… 76
第 69 図 出土遺物実測図 43（縮尺 1/3）…… 77
第 70 図 出土遺物実測図 44（縮尺 1/3）…… 78
第 71 図 出土遺物実測図 45（縮尺 1/3）…… 79
第 72 図 出土遺物実測図 46（縮尺 1/3）…… 80
第 73 図 出土遺物実測図 47（縮尺 1/3）…… 81
第 74 図 出土遺物実測図 48（縮尺 1/3）…… 82

第 75 図 出土遺物実測図 49（縮尺 1/3） …… 83
第 76 図 出土遺物実測図 50（縮尺 1/3） …… 84
第 77 図 出土遺物実測図 51（縮尺 1/3） …… 85
第 78 図 出土遺物実測図 52（縮尺 1/3） …… 86
第 79 図 出土遺物実測図 53（縮尺 1/3） …… 87
第 80 図 出土遺物実測図 54（縮尺 1/3） …… 88
第 81 図 出土遺物実測図 55（縮尺 1/4） …… 89
第 82 図 出土遺物実測図 56（縮尺 1/3） …… 90
第 83 図 出土遺物実測図 57（縮尺 1/3） …… 91
第 84 図 出土瓦実測図 1（縮尺 1/4）…… 92
第 85 図 出土瓦実測図 2（縮尺 1/4）…… 93
第 86 図 出土遺物実測図 58（縮尺 1/3） …… 94
第 87 図 出土遺物実測図 59（縮尺 1/3） …… 95
第 88 図 出土遺物実測図 60（縮尺 1/3） …… 96
第 89 図 出土遺物実測図 61（縮尺 2/3・1/3・1/2） …… 97
第 90 図 銅銭 X 線写真 1 …… 99
第 91 図 銅銭 X 線写真 2 …… 100
第 92 図 板石硯・研石の可能性のある資料 1（縮尺 1/3）…… 101
第 93 図 板石硯・研石の可能性のある資料 2（縮尺 1/3）…… 102

図 版 目 次

図版 1　SK1097･2061･1097･3020･1145/SX3056/ 土層 2
図版 2　SX3056/SK3030･1152･1155･3093･1155
図版 3　SE3062/SD3094/ SK3121/SX3151/SK3139/K-3137/ Ⅰ層
図版 4　Ⅰ区Ⅱ層下面
図版 5　SX1160/SK3030/SE3015･3057/ SK3089・4063/ SE3033/ SK3132
図版 6　SD3094/ SK4001･1155･3105/ SE3024･27･1007 /SK3088･3092
図版 7　SK3135･3139･3054･3147/ SE3090/ SK3088･3203･3151
図版 8　SK3135･1018a/b･3142･3140/SD4002･4003
図版 9　SK3147/ SE3036/A-1/2 Ⅲ層下 /SK3093･1149･3150/SX4072/ SE3057
図版 10　SK3131/ SE3090･3033/ SX3147/ K-1140/SE3033/ SX4106/ SE4131
図版 11　Ⅰ区Ⅱ層下 /SD3094
図版 12　SD4003･4004/ K-001/SK4001･4051･001
図版 13　SK002･007･008･018･022･024
図版 14　Ⅱ区Ⅰ層上 /SK047/SE052
図版 15　SE052/ SK011/ Ⅱ区Ⅱ層上
図版 16　B/C-4 Ⅱ層上 /SK070･082/SE049/ SK022･084･070
図版 17　SK089/C-4 Ⅱ層下 /SK086･/082/C-4 Ⅲ層下 /SK088
図版 18　SK093･085･095･087･106･104･110/ SE038
図版 19　SK088/ SX140/SD101･102/ SE038/ SK110
図版 20　SK110･088･082/SE053･054･057/ Ⅱ区Ⅱ層下
図版 21　Pit099/SK122/SE134･057･054･053･067･064
図版 22　SE053･054･064･055･050･048･135/ SK131
図版 23　SE065･052/ SX130/ A･B-1 Ⅲ層上 / SE066
図版 24　SE072･052･066･020･051/ 南張出部
図版 25　出土遺物

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

2016（平成 28）年 5 月 26 日、（株）南日本保証センターから本市に対して博多区冷泉町 10 番 21 号における事務所ビル建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会文書（28 － 2 － 144）が申請された。申請地は周知の埋蔵文化財であるところの博多遺跡群の中央やや北寄りに位置する。埋蔵文化財課が、これを受けて同年 6 月 28 日に現況の建物解体前に南側駐車場部分、12 月 9 日に解体後の建物部分の試掘調査を実施した結果、現地表下 1.8m の中世の遺物包含層、約 3.0m の黄白色砂上面の間で複数の遺構面が確認された。申請者と埋蔵文化財は文化財保護に関する協議をもったが、申請面積 1,105.57㎡の内掘削による影響が及ぶ 960㎡を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は翌 2017（平成 29）年 2 月 1 日から 12 月 28 日まで行われた。平成 30 年度に整理に着手、翌平成 31 年度に報告することとした。

２．調査の組織

発掘調査委託　（株）南日本保証センター

発掘調査受託　福岡市

発掘調査（平成 28･29 年度）

福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課

課長	常松 幹雄
調査第 1 係長	吉武 学
事前審査担当	池田 祐司（主任文化財主事）
	大森 真衣子（文化財主事）

資料整理（平成 30･ 令和元年度）

福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課

課長	大庭 康時（平成 30 年度）
	菅波 正人（令和元年度）
調査第 1 係長	吉武 学
事前審査担当	中尾 祐太　朝岡 俊也

発掘調査

屋山　洋　（主任文化財主事・平成 28 年度）、松﨑 友理（文化財主事・平成 28 年度～ 29 年 5 月）

佐藤 一郎（主任文化財主事・平成 29 年度）

資料整理

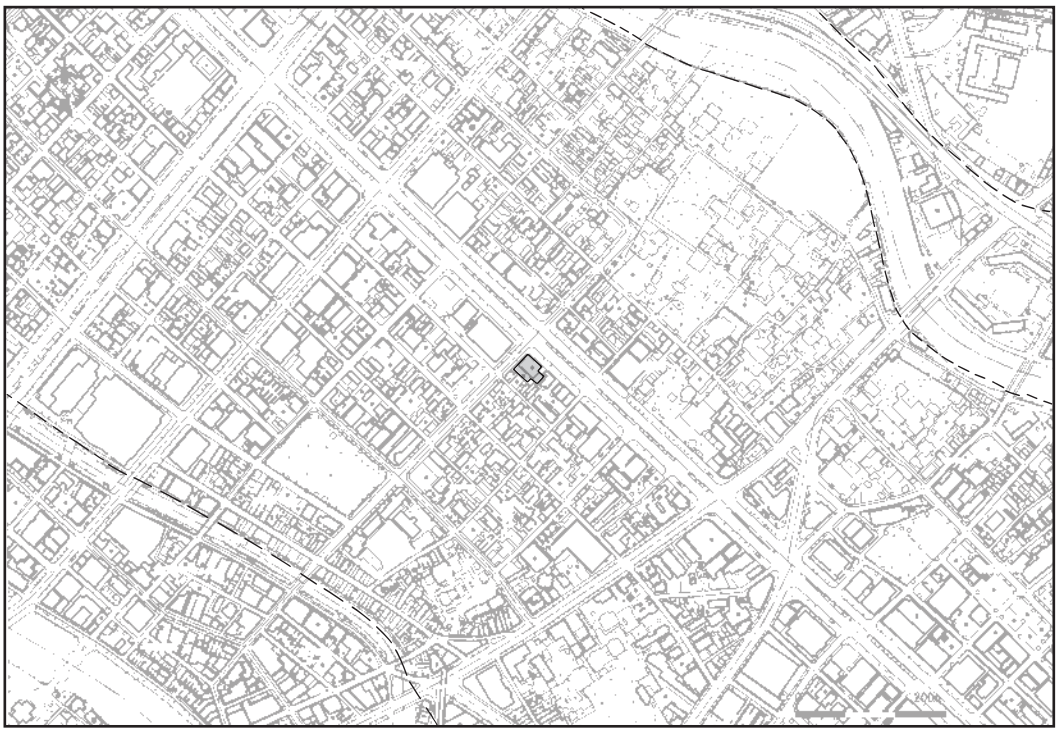
試掘調査は平成 28 年に埋蔵文化財課事前審査係の大森・池田・佐藤が行った。

調査・整理の庶務は文化財活用部文化財活用課（平成 30･ 令和元年度）松原加奈枝が行った。

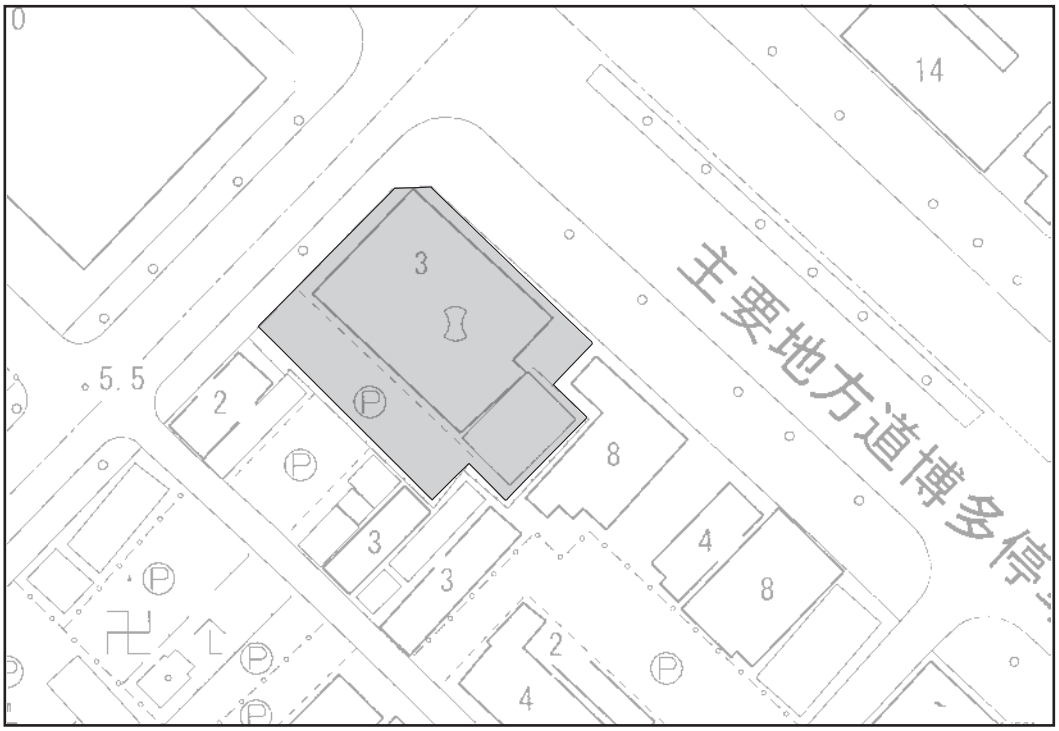
また、準備工・施工の上村建設株式会社、飛島建設株式会社、地元冷泉町町内、発掘作業員、整理作業員の方々のご協力により、博多遺跡群第 209 次発掘調査、報告書作成にまで至ることができたことに対し心から謝意を表する。

Ⅱ．遺跡の位置

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口部右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地する。調査地は古砂丘の中央よりやや北に位置し、地山の標高は 2m 前後を測り、砂丘の裾部にあたる。



第 1 図　博多遺跡群発掘区域図（縮尺 1 /8000）



第 2 図　博多遺跡群第 209 次調査発掘地（縮尺 1 /1000）

Ⅲ．調査の記録

１．調査の概要

29m × 33m の長方形の南東部に 10m × 6m の張り出し部が付く調査区は建設工事に先行して鋼矢板で周囲に土留工事が施されている。調査区の長軸は周辺の地割と同じ真北から約 45° 西に振れている。

調査対象の遺構面までの表土は重機により鋤取り、土砂はダンプトラックで外部に搬出し、以降掘下げで生じた残土は調査区内で処理することとした。調査区を長軸で二分、北東側をⅠ区、南西側をⅡ区とし、二分した調査区と残土置き場を工程の半ばに重機で切り返して調査することとなったが、残土置場として限界に達した。7 月中旬から調査区の切り返しのために残土の反転を行ったが、両調査区の境界線付近には未掘の部分が生じた。

遺構は古砂丘上に堆積した遺物包含層の上面から掘り込まれ、調査はⅠ層（灰褐色土～灰色土を主とし、焼土や炭化物を含む）上面（標高 3.5m 前後）で中世後半以降の遺構、撹乱、Ⅱ層（黒色砂～黒褐色砂を主とする）上面（標高 2.5m 前後）では中世前半の遺構、Ⅲ層（地山の黄白色砂）上面では、上面で検出漏れの遺構の他、古代以前の遺構を検出した。検出した遺構は、古墳時代初期の壺棺墓 1 基、土師器埋納 3 基、古代の溝 3 条・井戸 1 基、中世前半の溝 3 条・井戸 20 基・土坑 40 基以上（土坑のほとんどは廃棄土坑とみられ、炭化物と灰が相互に堆積している土坑、陶磁器片を多量に廃棄した土坑、獣骨が折り重なり出土した＝動物遺体を廃棄した土坑など）、中世後半の井戸 3 基・土坑 20 基以上である。

２．遺構と遺物

以下検出した遺構と出土した遺物について主要なものを報告する。調査区は長軸を N－45° －W に取る南東部に張り出しが付く長方形であるが、北東辺を北から 10m 毎に A・B・C、北西辺を北から 10m 毎に 1 ～ 5 と区分けし、遺構配置図に図示するように数字とアルファベットの組み合わせでグリッドを示す。遺物包含層出土遺物はグリッド毎に取り上げた。個別遺構の位置もグリッドで説明している。

遺構番号は調査当初から打って返しまでのⅠ区では、近世遺構・撹乱も含む全ての遺構に 4 桁の番号を付し、上 1 桁目は検出した遺構面を示している。打って返し後のⅡ区では、柱穴・ピット状遺構は Pit ＋番号、近世遺構・撹乱は番号を付し、それ以外の遺構は S+ 遺構の性格を示す D･E･K の記号に 3 桁の番号を付すこととした。検出した遺構面を示す上 1 桁の番号については、付していない。

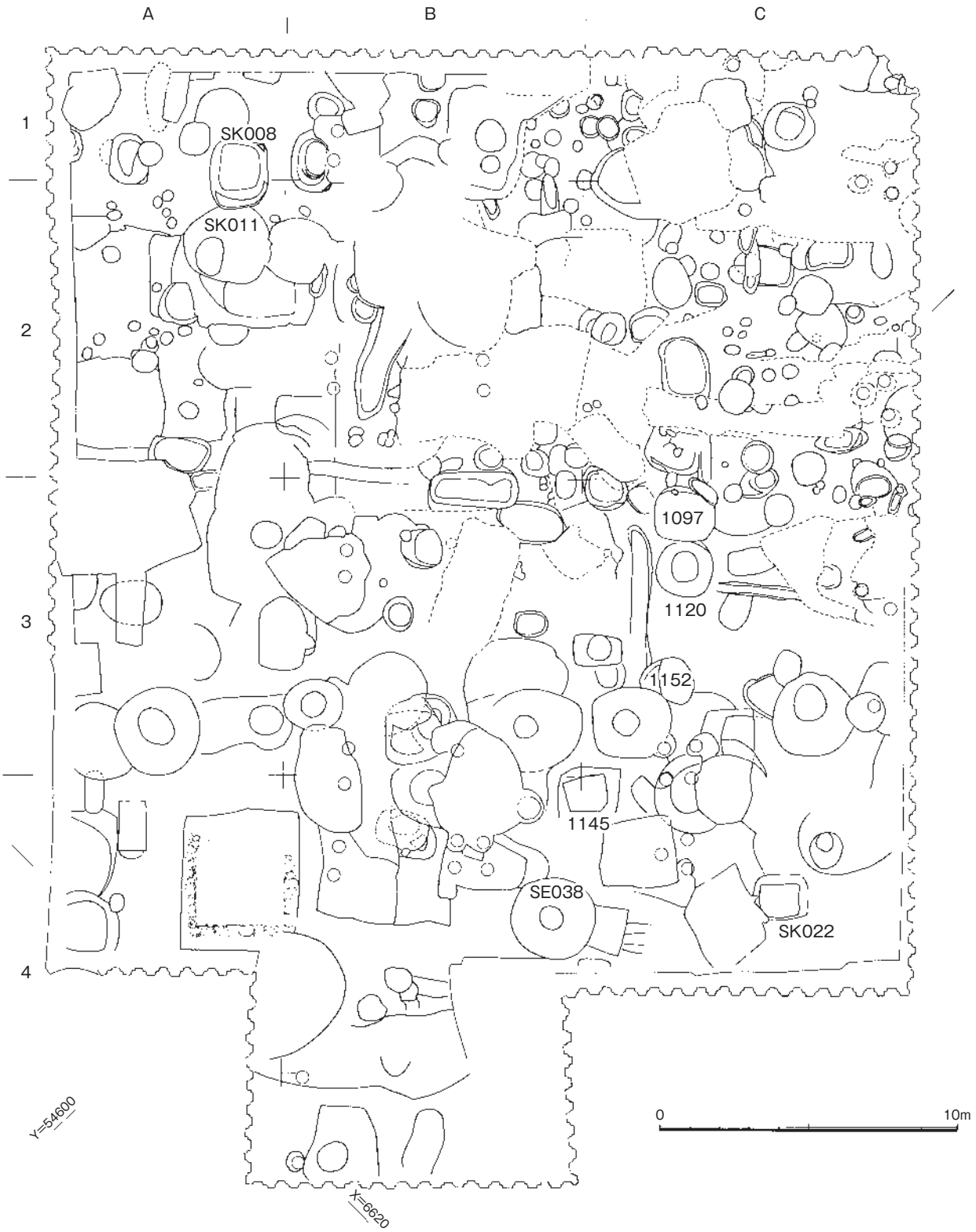
検出遺構　井戸

SE3033　C－1 グリッドⅢ層上面で検出した。掘り方の平面形は径 2.8m の不整円形を呈し、深さ 1.9m を測る。基底部中央に径 0.7m、深さ 0.6m の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.5m を測る。

SE3057　B/C－1 Ⅲ層上面で検出した。掘り方は径 2.6 ～ 3.0m の不整楕円形を呈し、深さ 0.8m を測る。北側は調査区外に延びる。北側で径 0.7m、深さ 0.25m の桶側を抜き取った痕跡がみられた。底面の標高 0.7m を測る。溝 SD に切られる。

SE3062　B－1/2 Ⅲ層上面で検出した。打って返しの境界にあり、南西側は検出できなかった。掘り方は径 3.0m 前後の不整楕円形とみられ、深さ 1.9m を測る。基底部中央とみられる辺りに径 0.75m、深さ 0.75m の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.55m を測る。

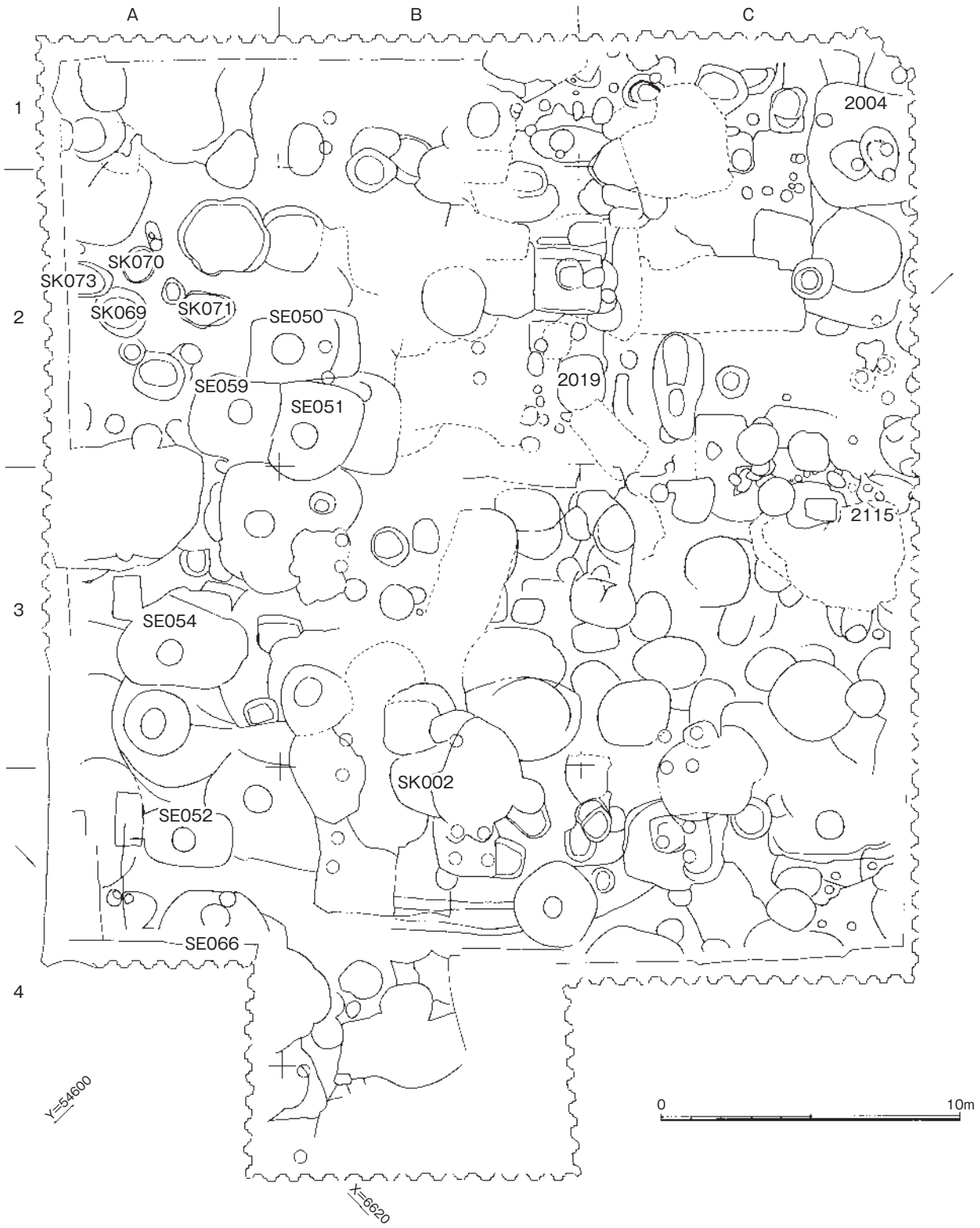
SE3090　B－2 Ⅲ層上面で検出した。掘り方は径 2.1m の不整円形を呈し、深さ 1.95m を測る。掘り方中央の検出面から 0.5m 下で径 0.5m、深さ 1.4m の桶側の痕跡あり。底面の標高 0.5m を測る。



第３図　博多遺跡群第 209 次調査遺構配置図１（縮尺１/200）

SE3136　C－3 Ⅲ層上面で検出した。掘り方は径 2.1 ～ 2.3m の不整円形を呈する。深さ 1.65m を測る。桶側の痕跡は検出できなかった。底面の標高 0.65m を測る。

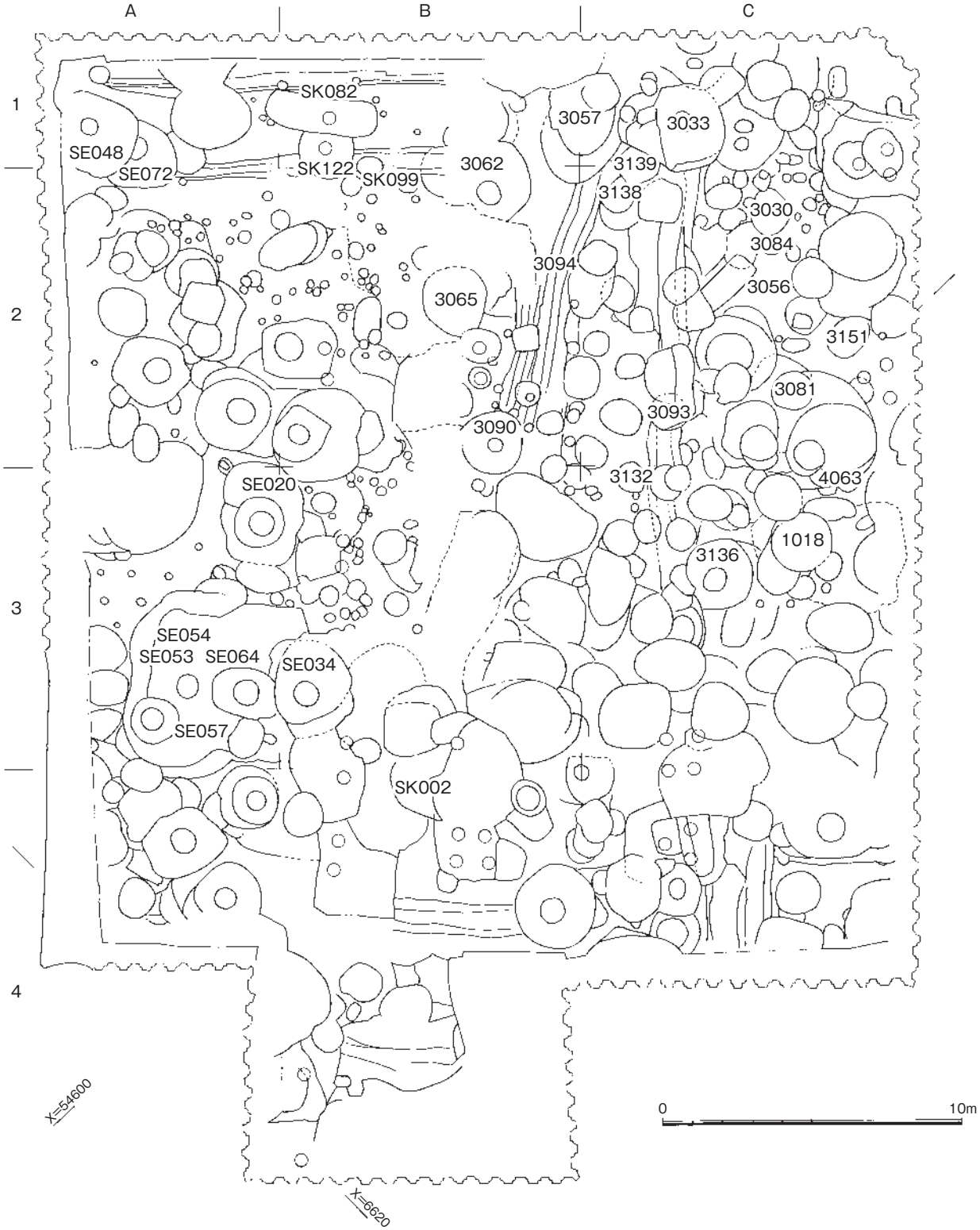
SE020　A/B－3 Ⅲ層上面で検出した。掘り方は径 2.7m × 3.6m の不整楕円形を呈し、深さ 1.5m を測る。基底部中央に径 0.75m、深さ 0.6m の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.8m を測る。



第４図　博多遺跡群第 209 次調査遺構配置図２（縮尺１/200）

SE038　Ｂ－４Ｉ層上面で検出した。掘り方は径 2.7m の不整円形を呈し、深さ 2.3m を測る。掘り方中央の検出面から 0.8m 下で径 0.8m、深さ 0.6m の瓦側が３段検出された。底面の標高 1.3m を測る。

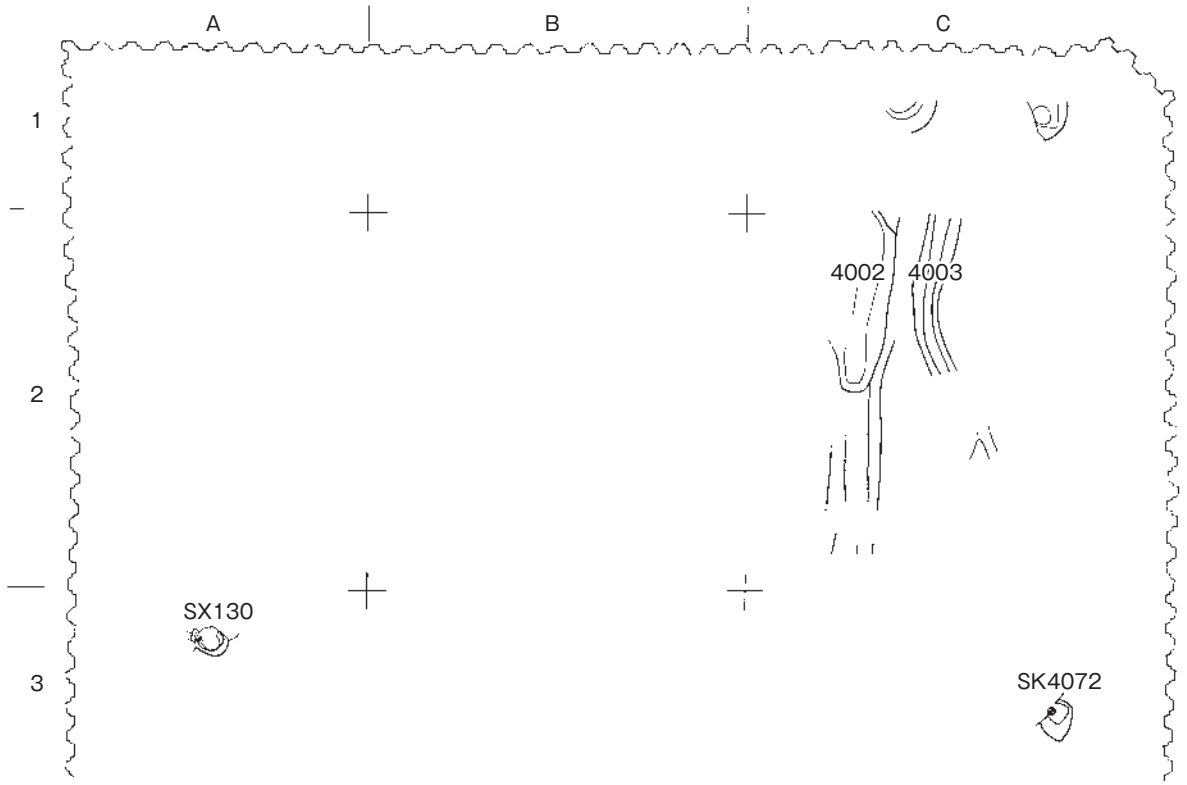
SE048/070　Ａ－1/2 で検出した。SE048 の南西側は調査区外に延び、東側は SE070 を切る。SE048 の掘り方は径 2.6 ～ 3.0 m の不整円形を呈し、深さ 1.6m を測る。掘り方中央の検出面から 0.4m



第５図　博多遺跡群第 209 次調査遺構配置図３（縮尺１/200）

下で径 0.6m、深さ 1.3m の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.5m を測る。SE070 は径 2.3m の不整円形を呈し、深さ 1.5m を測る。中央に径 0.8m、深さ 0.6m の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.65m を測る。

SE050　A/B－2 Ⅱ層上面で検出した。掘り方は 2.4m × 2.0m の隅丸方形を呈し、深さ 1.5m を測る。基底部中央に径 0.8m 深さ 0.35m の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.4m を測る。



第６図　博多遺跡群第 209 次調査遺構配置図４（縮尺１/200）

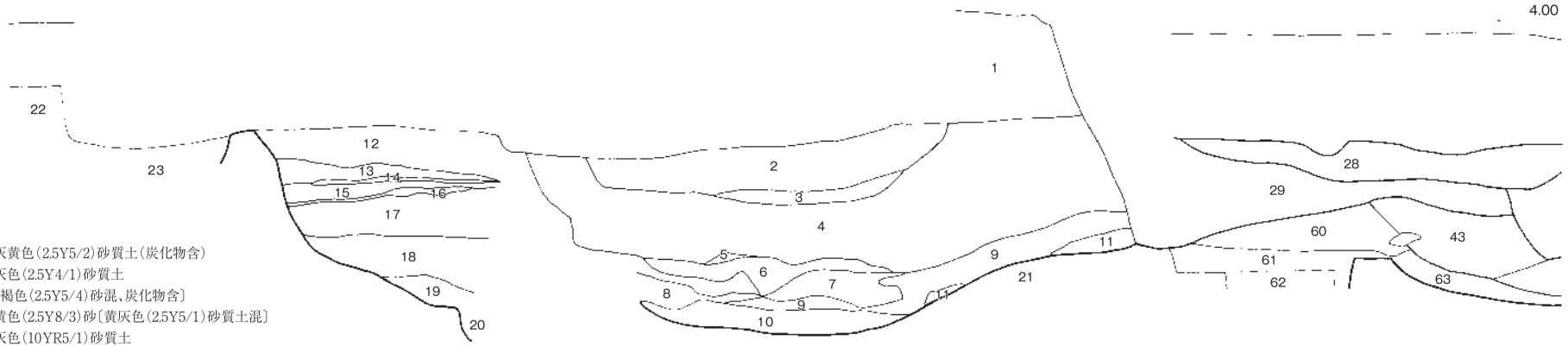
SE064　Ａ－３Ⅲ層上面で検出した。掘り方は径 1.7 ～ 2.3m の不整楕円形を呈し、深さ 0.75m を測る。基底部中央に径 0.85m、深さ 0.6m の桶側の痕跡がみられた。底面から 0.15m 程木質が残存する。底面の標高 1.0m を測る。井戸 SE134 に切られる。

SE134　Ｂ－３Ⅲ層上面で検出した。掘り方は径 2.5 ～ 2.8m の不整円形を呈し、深さ 1.6m を測る。基底部南寄りに径 0.8m、深さ 0.4 の桶側の痕跡がみられた。底面から最大で 0.4m 程木質が残存する。底面の標高 1.45m を測る。井戸 SE064 を切る。

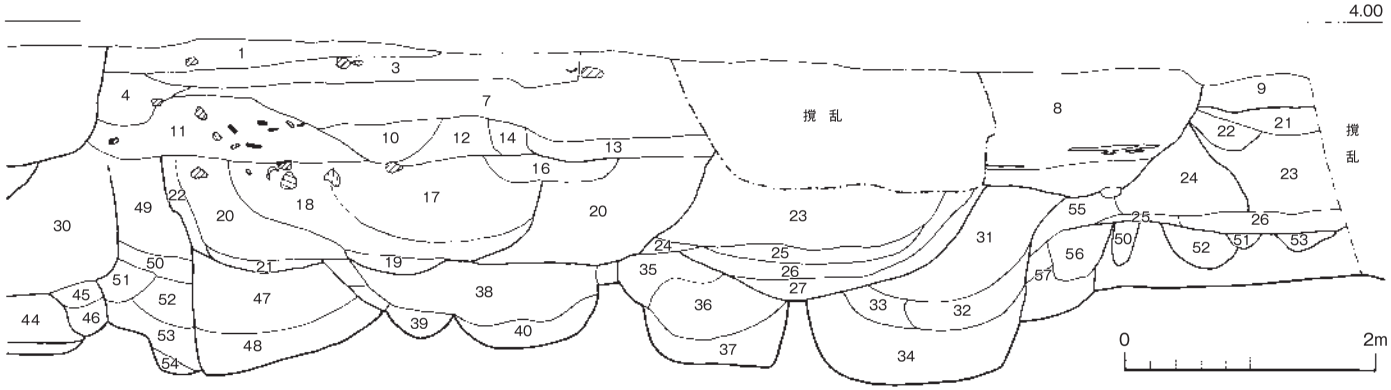
SE059/051　A/B－２で検出した。SE059 東側は SE051 を切る。SE059 の掘り方は径 2.8m の不整円形を呈し、深さ 1.3m を測る。掘り方中央の検出面から 0.6m 下で径 0.85m、深さ 0.75m の桶側二段の痕跡がみられた。底面の標高 05.5m を測る。SE051 は 3.0m × 3.4m の不整円形を呈し、深さ 1.2m を測る。基底部西寄りに径 0.7m 深さ 0.15m の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.7m を測る。

SE4131　Ａ－３調査区北端Ⅲ層上面で検出した。東側は調査区外に延び、南側は　に切られ、掘り方全体の平面形・規模は不明、深さは 1.2m を測る。基底部に一辺 0.6m、深さ 0.5m の井桁とその下部に径 0.4m、深さ 0.3 の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.6m を測る。

SE052　Ａ－４Ⅰ層上面で検出した。掘り方は 1.9m × 3.0m の隅丸方形を呈し、深さ 2.4m を測る。掘り方中央の検出面から 0.8m 下から径 0.8m、深さ 0.3m の瓦側が３段検出された。底面の標高 0.4m を測る。

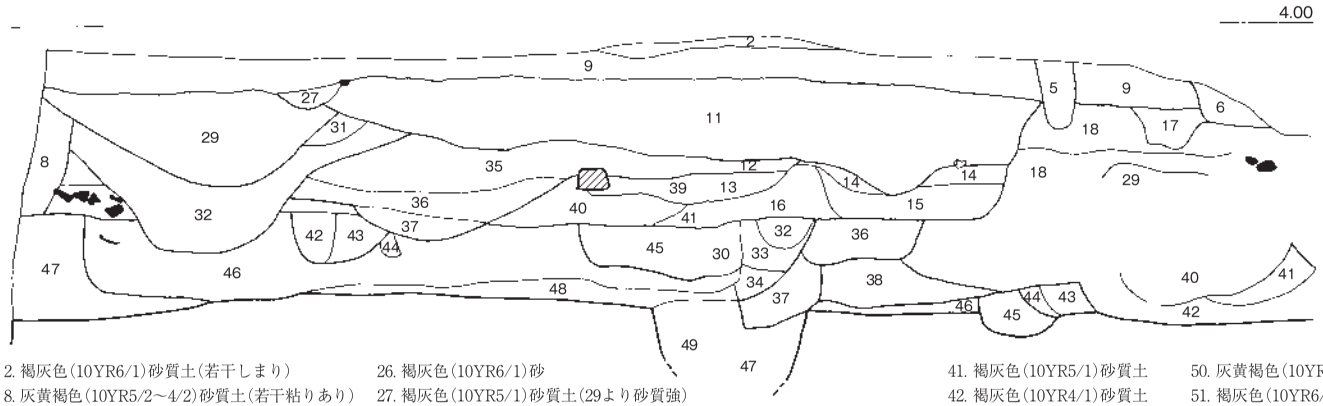


1. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(炭化物含)
2. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
〔黄褐色(2.5Y5/4)砂混、炭化物含〕
3. 暗黄色(2.5Y8/3)砂〔黄灰色(2.5Y5/1)砂質土混〕
4. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
〔にぶい黄褐色(10YR5/3)砂混、砂質強〕
5. 灰白色(10YR8/2)砂
6. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(砂質強)
7. にぶい黄褐色(10YR7/3)砂
8. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
9. 褐灰色(10YR5/1)砂
10. 灰黄褐色(10YR6/2)砂
11. 浅黄橙色(10YR8/3)砂
12. 灰黄褐色(10YR/)砂質土(砂質強、一部酸化)
13. にぶい黄褐色(10YR4/2)砂
〔褐灰色(10YR5/1)砂質土混〕
14. にぶい黄橙色(10YR5/3)砂(一部酸化)
15. 褐灰色(10YR7/3)砂質土
16. 灰白色(10YR8/2)砂
17. 灰黄橙色(10YR6/2)砂
〔褐灰色(10YR5/1)砂質土混〕
18. にぶい黄橙色(10YR7/3)砂
〔褐灰色(10YR6/1)砂質土少量混〕
19. にぶい黄橙色(10YR6/4)砂
20. にぶい黄橙色(10YR7/3)砂
21. にぶい黄橙色(10YR7/3)砂(地山)
22. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(撹乱)
23. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(撹乱)

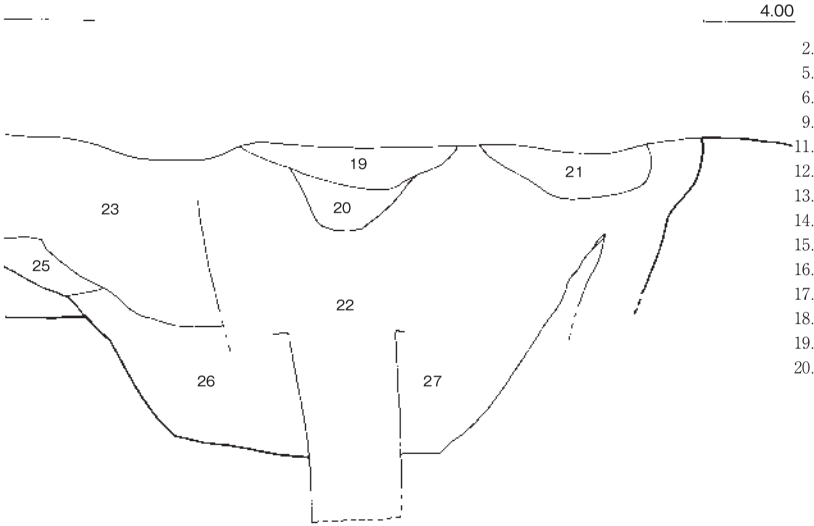


1. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
2. 褐灰色(10YR6/1)砂質土(若干しまり)
3. 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土(炭化物含)
4. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
〔炭化物・にぶい黄橙色(10YR7/3)焼土含〕
5. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(9より若干しまり)
6. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土(9より若干しまり)
7. にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土
(しまりあり、下部に炭化物含)
8. 褐灰黄褐色(10YR5/2～4/2)砂質土
(若干粘りあり)
9. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
10. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
11. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(礫・瓦多量含)
12. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
13. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土(骨を廃棄)
14. にぶい黄橙色(10YR7/2)砂質土
15. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
16. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
17. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
18. 灰黄褐色(10YR6/2)砂
19. 灰黄褐色(10YR6/2)砂
20. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
21. 黄橙色(10YR8/6)砂
22. 褐灰色(10YR5/1)砂
23. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
24. 灰黄褐色(10YR6/2)砂
25. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
26. 褐灰色(10YR5/1)砂
27. 褐灰色(10YR5/2)砂
28. 黒褐色(10YR3/1)砂質土(少し粘りあり)
29. 褐灰色(10YR5/1)砂質土と褐灰色(10YR6/2)砂互層
30. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
31. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
32. 褐灰色(10YR6/1)砂(炭化物混)
33. 褐灰色(10YR4/1)砂
34. 褐灰色(10YR5/1)砂
35. にぶい黄褐色(10YR7/2)～灰黄褐色(10YR4/2)砂
36. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
37. 灰黄褐色(10YR4/2)砂
38. 灰黄褐色(10YR4/2)砂
39. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
40. 黒褐色(10YR3/1)砂
41. 灰黄褐色(10YR4/2)砂
42. にぶい黄橙色(10YR7/3)砂
43. 褐灰色(10YR4/1)～灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
44. 黄褐色(10YR5/6)砂
45. 褐灰色(10YR4/1)砂
46. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
47. 灰褐色(10YR6/1)砂質土(粘りあり)
48. 灰色(10YR3/1)砂質土(粘りあり)
49. 灰黄褐色(10YR5/2)砂(50より汚れ)
50. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
51. にぶい黄橙色(10YR6/4)砂
52. にぶい黄橙色(10YR6/4)砂
53. 褐灰色(10YR2/1)砂(褐灰色(10YR5/1)砂質土混)
54. 浅黄橙色(10YR8/4)砂
55. 灰黄褐色(10YR6/2)砂
56. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
57. 灰黄褐色(10YR6/2)砂
58. にぶい黄橙色(10YR7/3)砂
59. 明黄褐色(10YR7/6)砂ブロック
60. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
〔にぶい黄橙色(10YR7/3)砂混〕
61. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
62. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(粘りあり)
63. 褐灰色(10YR6/3)砂

第７図　博多遺跡群第 209 次調査土層図１（縮尺１/60）



2. 褐灰色(10YR6/1)砂質土(若干しまり)
8. 灰黄褐色(10YR5/2～4/2)砂質土(若干粘りあり)
9. 明灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
15. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
21. にぶい黄橙色(10YR7/2)砂質土
22. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
23. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
24. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(礫多量含)
25. にぶい黄橙色(10YR7/2)砂
26. 褐灰色(10YR6/1)砂
27. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(29より砂質強)
28. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
29. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
30. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
31. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(32より粘りあり)
32. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
〔明黄褐灰色(10YR6/6)砂含〕
33. 褐灰色(10YR6/1)砂質土
34. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
35. 褐灰色(10YR6/1)砂質土
36. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
37. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
38. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
39. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
40. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
41. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
42. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
43. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
44. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
45. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
46. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
47. 灰黄褐色(10YR5/1)砂質土
48. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
49. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
50. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
51. 褐灰色(10YR6/1)砂
52. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
53. 褐灰色(10YR6/1)砂
54. 灰黄褐色(10YR6/2)砂
55. 灰黄褐色(10YR6/2)砂.
56. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
57. 灰黄褐色(10YR6/2)砂

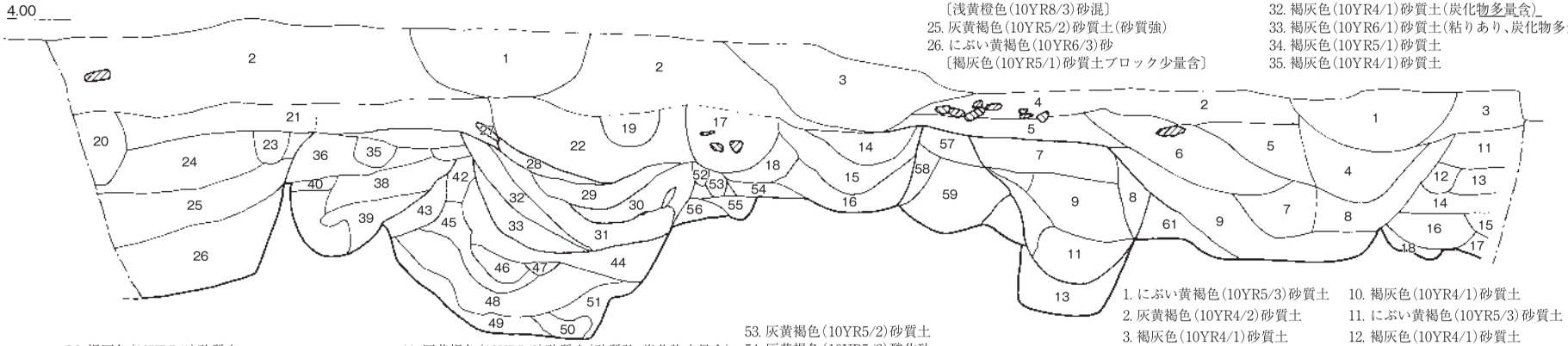


2. 褐灰色(10YR6/1)砂質土(若干しまり)
5. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(9より若干しまり)
6. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土(9より若干しまり)
9. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
11. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
12. 褐灰色(10YR6/1)砂質土
13. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
14. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
15. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(14より粘りあり)
16. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
17. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
18. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
19. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
20. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
21. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(粘りあり)
22. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
23. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
24. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
25. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
26. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
27. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
28. 褐灰色(10YR6/1)砂質土
29. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
30. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
31. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
32. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
33. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
34. 褐灰色(10YR6/1)砂質土
35. 褐灰色(10YR5/1)砂
36. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
37. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
38. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
39. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
40. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
41. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
42. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
43. にぶい黄橙色(10YR7/3)砂質土
44. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
45. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
46. 灰黄褐色(10YR6/2)砂
47. 灰黄褐色(10YR6/2)砂

0　2m

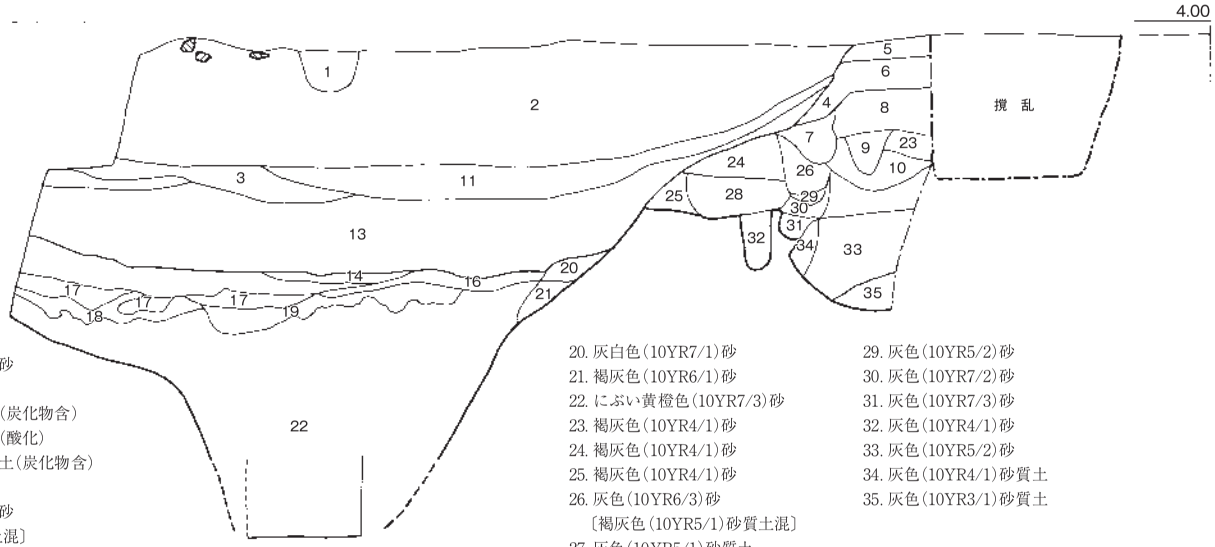
第８図　博多遺跡群第 209 次調査土層図２（縮尺１/60）

1. にぶい黄橙色(10YR6/3)砂質土(2より砂質強)
2. 褐灰色(10YR/)土(炭化物含)
3. 灰黄褐色(10YR/)砂質土(少し砂質強)
4. 灰黄褐色(10YR/)砂質土(礫多量含)
5. 褐灰色(10YR/)砂質土
6. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(砂質強)
7. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
8. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂
9. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(砂質強)
10. にぶい黄橙色(10YR6/4)砂質土(砂質強)
11. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(炭化物・骨含)
12. 褐灰色(10YR4/1)砂
13. 褐灰色(10YR6/1)砂
14. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
15. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
16. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(粘りあり)
17. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(礫含)
18. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
19. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(しまりあり)
20. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(酸化砂含)
21. 褐灰色(10YR5/1～4/1)砂質土(酸化砂ブロック含)
22. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
23. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(酸化砂含む)
24. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
〔浅黄橙色(10YR8/3)砂混〕
25. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(砂質強)
26. にぶい黄褐色(10YR6/3)砂
〔褐灰色(10YR5/1)砂質土ブロック少量含〕
27. 黒色炭化物のブロック
28. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(炭化物多量含)
29. 褐灰色(10YR6/1)砂質土(粘りあり、炭化物多量含)
30. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
31. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
(28・32よりしまりあり、炭化物多量含)
32. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(炭化物多量含)
33. 褐灰色(10YR6/1)砂質土(粘りあり、炭化物多量含)
34. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
35. 褐灰色(10YR4/1)砂質土



36. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
37. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(粘りあり、炭化物少量含)
38. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(砂混じり)
39. 浅黄橙色(10YR8/4)砂
〔褐灰色(10YR4/1)砂質土ブロック混じり〕
40. にぶい黄橙色(10YR7/2)砂
41. 灰黄褐色(10YR5/2)砂
42. 灰黄褐色(10YR5/2)砂(汚砂)
43. 黒褐色(10YR3/1)砂質土
(にぶい黄橙色(10YR/)砂混)
44. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(砂質強、炭化物少量含)
45. 浅黄橙色(10YR8/3)砂
46. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(粘りあり、炭化物少量含)
47. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(砂質強)
48. 灰褐色(10YR5/1)砂質土
49. 地山砂〔褐灰色(10YR5/1)砂質土混〕
50. 黒褐色(10YR3/1)砂質土
51. 地山砂流れ込み
52. にぶい黄橙色(10YR6/3)砂質土
53. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
54. 灰黄褐色(10YR5/2)酸化砂
55. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(地山砂混)
56. 地山砂〔灰黄褐色(10YR5/2)砂質土混〕
57. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
58. 明黄褐色(10YR6/6)砂質土(ほぼ砂、少し酸化)
59. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(砂質強)
60. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
61. 褐灰色(10YR4/1)砂質土

1. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
2. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
3. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
4. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
5. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
6. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
7. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
〔にぶい黄褐色(10YR6/3)砂混〕
8. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
9. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
10. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
11. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
12. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
13. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
14. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
15. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
16. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
17. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
18. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
19. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土



1. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
2. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
〔にぶい黄色(2.5Y5/4)砂混〕
3. 黄灰色(2.5Y5/1)砂質土
〔にぶい黄色(2.5Y5/4)砂混、2より砂質強〕
4. 黄灰色(2.5Y6/1)砂質土
5. 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土
6. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(5より砂質強)
7. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
〔にぶい黄橙色(10YR6/4)砂混〕
8. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
9. 褐灰色(10YR4/1)砂質土
〔にぶい黄橙色(10YR6/4)砂混〕
10. にぶい黄橙色(10YR6/3)砂
〔灰黄褐色(10YR452)汚〕
11. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(炭化物含)
12. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(酸化)
13. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(炭化物含)
14. 褐灰色(10YR5/1)砂
15. にぶい黄橙色(10YR7/2)砂
〔褐灰色(10YR5/1)砂質土混〕
16. にぶい黄橙色(10YR6/3)砂(一部酸化)
17. にぶい黄橙色(10YR7/2)砂
18. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(砂質強)
19. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(砂質強)
20. 灰白色(10YR7/1)砂
21. 褐灰色(10YR6/1)砂
22. にぶい黄橙色(10YR7/3)砂
23. 褐灰色(10YR4/1)砂
24. 褐灰色(10YR4/1)砂
25. 褐灰色(10YR4/1)砂
26. 灰色(10YR6/3)砂
〔褐灰色(10YR5/1)砂質土混〕
27. 灰色(10YR5/1)砂質土
28. 灰色(10YR3/1)砂
29. 灰色(10YR5/2)砂
30. 灰色(10YR7/2)砂
31. 灰色(10YR7/3)砂
32. 灰色(10YR4/1)砂
33. 灰色(10YR5/2)砂
34. 灰色(10YR4/1)砂質土
35. 灰色(10YR3/1)砂質土

0　2m

第９図　博多遺跡群第 209 次調査土層図３（縮尺１/60）

SE053　A－3Ⅲ層上面でSE054を掘下げる過程で新たな桶側の痕跡が検出されたので、掘り方本来の規模は不明である。桶側は径0.8m、深さ0.7m、底面から0.3m程木質が残存し、底面の標高0.75mを測る。

SE054　A－3Ⅱ層上面で検出した。径3.0mの不整円形を呈し、深さ1.5mを測る。基底部西寄りに径0.65m、深さ0.15mの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.85mを測る。

SE057　A－3Ⅲ層上面で検出した。上面から掘り込まれた遺構による攪乱を受け、残存する掘り方は径1.2mの不整円形を呈し、深さ0.75mを測る。掘り方中央の検出面から0.2m下で径0.65m、深さ0.5mの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.5mを測る。

SE066　A－4Ⅱ層上面で検出した。南東側は調査区外に延びる。掘り方は直径3.6mの不整円形とみられ、深さ2.1mを測る。基底部に径0.85m、深さ0.2mの桶側とその下部に径0.7m、深さ0.5mの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.6mを測る。

土坑

SK1152　C－3Ⅰ層上面で検出した。1.7m × 1.15mの不整楕円形を呈し、深さ0.45mを測る。土師器杯が数点底面から0.25 m浮いた状態で出土した。

SK3132 C－3Ⅲ層上面で検出した。径0.85mの不整円形を呈し、深さ0.6mを測る。北宋後半代の陶器片が複数底面から0.15 m浮いた状態で複数出土した。

SK3030　C－2Ⅲ層上面で検出した。1.45m × 1.1mの不整楕円形を呈し、深さ0.9mを測る。底面中心に扁平な礫を据え、土坑南側から口縁部の一部が欠失した南宋前半代の青磁碗が2点出土した。

SK3093　C－3Ⅲ層上面で検出した。径1.1mの不整円形を呈し、深さ0.45mを測る。北宋後半代の陶器片が複数底面から0.3 m浮いた状態で複数出土した。

SK002　B－4Ⅱ層上面で検出した。北側と東側は攪乱を受け、残存径1.8m、深さ0.9mの土坑で、北宋後半代の陶磁器片が土坑の西から東に流れ込んだ状態で出土した。

SK082　B－1Ⅲ層上面で検出した。2.4m × 0.8mの隅丸方形を呈し、深さ0.6mを測る。主軸の方位はN－30°－Wに取る。口縁部の一部が欠失した南宋前半代の磁器碗が数点底面から0.1 ～ 0.4 m浮いた状態で出土した。検出面から0.2m下で木箱の痕跡を土層断面から確認したが、平面形は確認できなかった。土坑SK122を切る。

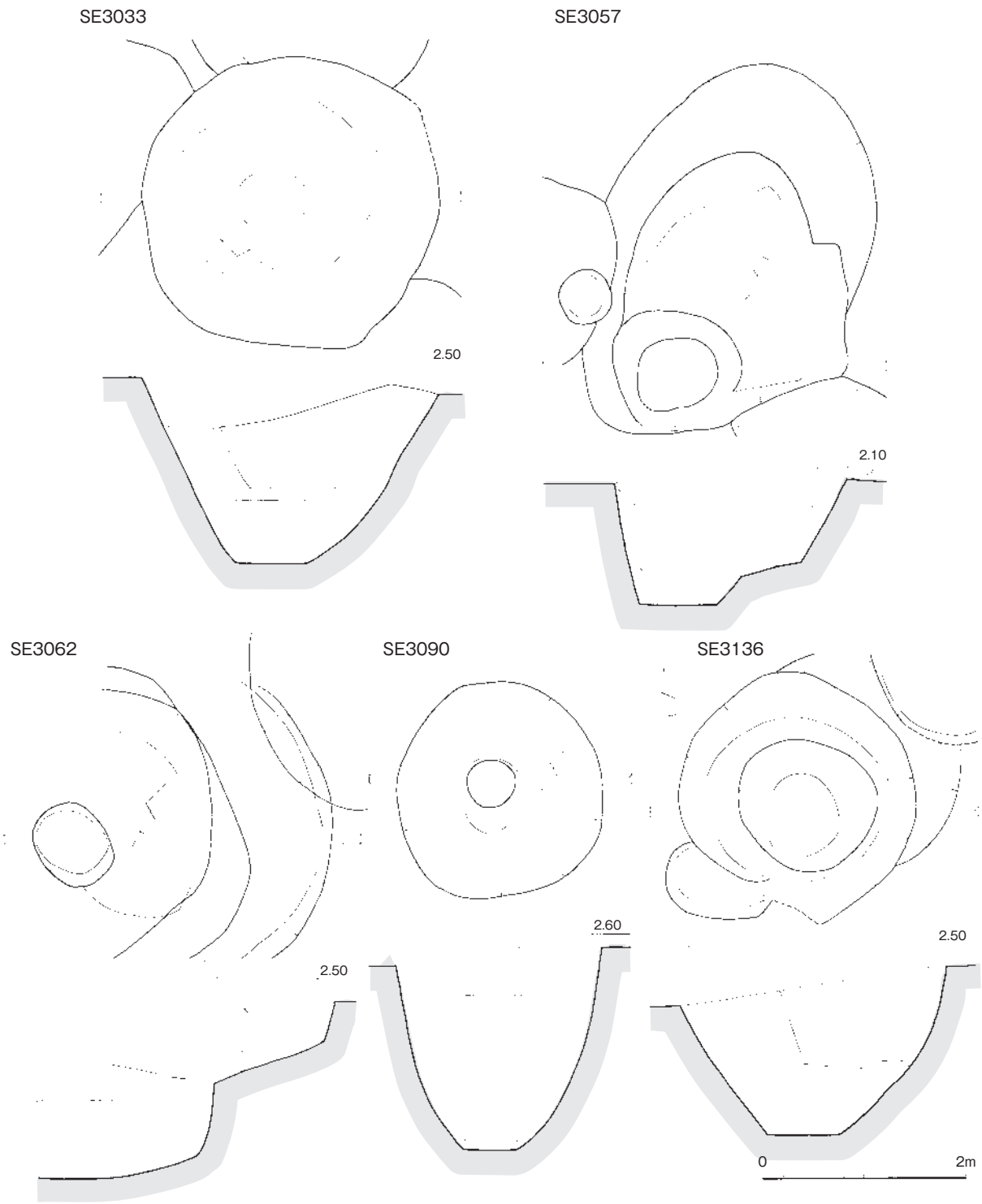
SK3151　C－2Ⅲ層上面で検出した。1.45m × 1.2mの不整楕円形を呈し、深さ1.0mを測る。土坑上面の北側に扁平な板石を二段積み、上面の中央から南にかけて外周部には木炭が弧状に重ね置かれている。底面から下1/3は腐植土、上2/3は黄褐色・灰褐色砂質土が5cm幅で互層をなしている。

SK122　B－1Ⅲ層上面で検出した。北側は土坑SK082に切られ、東西方向の幅1.55m、南北方向の残存長1.65mの隅丸方形を呈し、深さ0.65mを測る。主軸の方位はN－ 25°－Wに取る。土坑南側から口縁部の一部が欠失した北宋後半代の青磁碗が底面から0.2 m浮いた状態で数点出土した。

SK070　A－2Ⅱ層上面で検出した。径1.05 ～ 1.3mの不整楕円形を呈し、深さ0.45mを測る。土坑の北半に礫の集積があり、土師器片が底面から0.4 m浮いた状態で複数出土した。

SK099　B－2Ⅲ層上面で検出した。径0.65mの不整円形を呈し、深さ0.5mを測る。土坑の南西で土師器杯が底面から0.2 m浮いた状態で複数出土した。

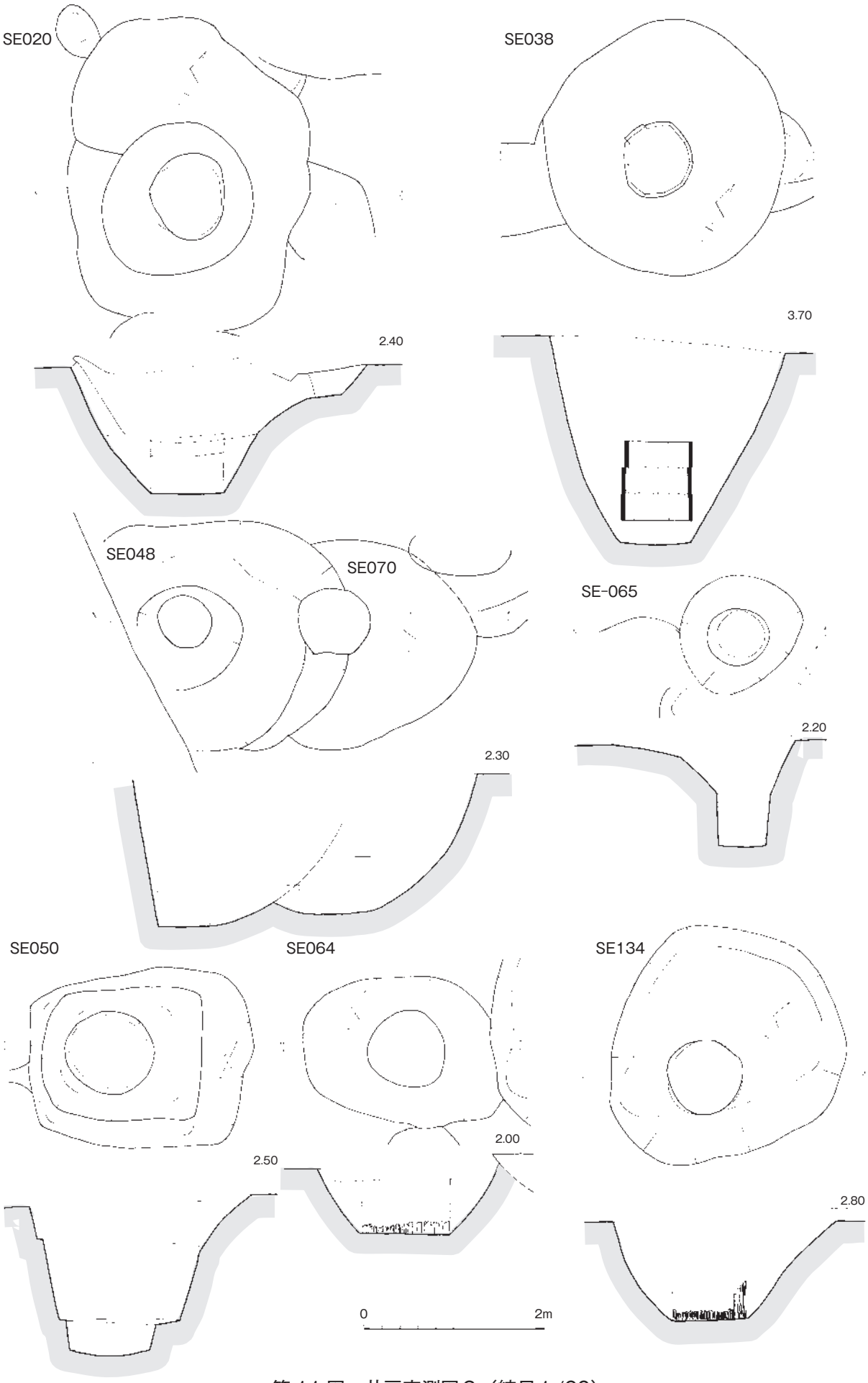
SK1018　B－2Ⅲ層上面で検出した。土坑2基が切り合っている。径1.4mの不整円形、深さ0.4mのSK1018aが径2.0mの不整円形、深さ0.7mのSK1018bを切る。SK1018aは黒褐色・灰褐色砂質土、SK1018bは灰黄褐色・褐灰色砂質土が5cm前後の厚さで互層をなしている。



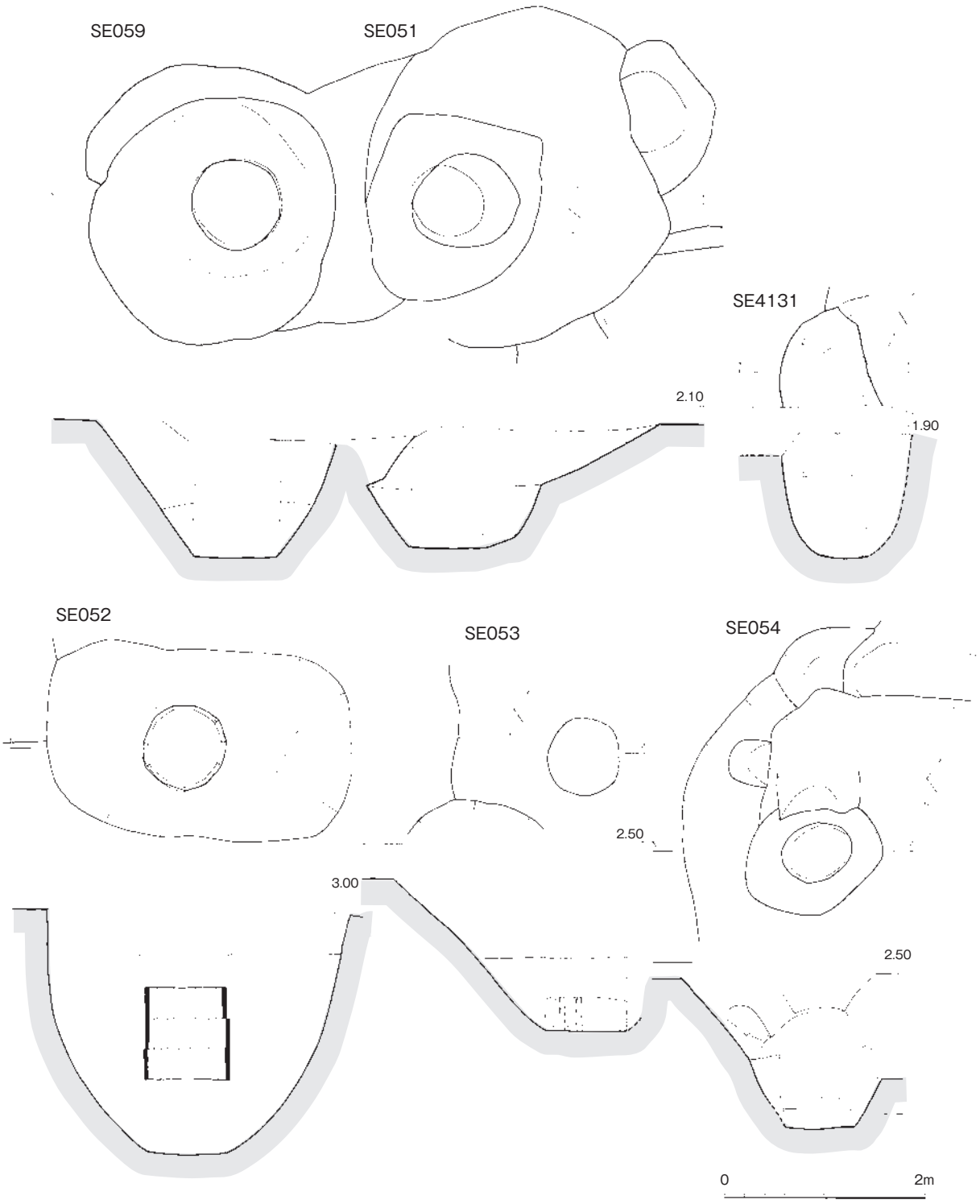
第 10 図　井戸実測図 1（縮尺 1 /60）

SK1097　C－3 Ⅰ層上面で検出した。南側は土坑 SK1120 を切る。2.0m × 1.7m の隅丸方形を呈し、深さ 0.55m を測る。主軸の方位は N－55 °－E に取る。炭化物を含む（灰）褐色土が堆積している。

SK1120　C－3 Ⅰ層上面で検出した。北側は土坑 SK1097 に切られ、東西方向の幅 1.8m、南北方向の残存長 1.8m の隅丸方形を呈し、深さ 0.9m を測る。主軸の方位は N－20°－W に取る。焼土・炭化物を含む褐灰色（粘質）土が堆積している。



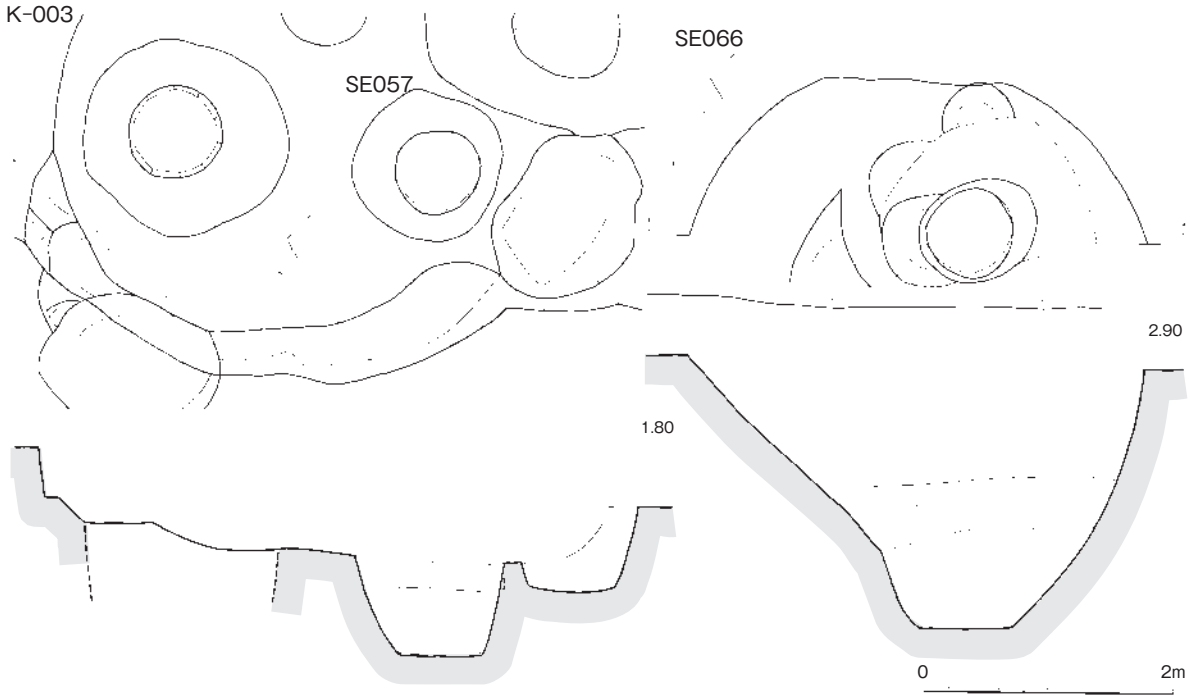
第 11 図　井戸実測図２（縮尺１/60）



第 12 図　井戸実測図３（縮尺１/60）

SK2004　A－1/2 Ⅱ層上面で検出した。北東は調査区外に延び、東西方向の幅 2.8m、南北方向の残存長 2.4m の不整隅丸方形を呈し、深さ 0.8m を測る。

SK2019　B/C－2 Ⅱ層上面で検出した。2.9m × 2.3m の不整隅丸方形を呈し、深さ 1.0m を測る。礫・土器が底面から 0.2 m 浮いた状態で複数出土した。



第 13 図　井戸実測図４（縮尺１/60）

SK3065/3064　B－2 Ⅲ層上面で検出した。土坑 2 基が切り合っている。径 2.2m の不整円形、深さ 1.0m の土坑 SK3065 が径 1.1m の不整円形、深さ 0.7m の SK3064 を切る。

SK2115　C－3 Ⅱ層上面で検出した。南東は撹乱を受け、1.8m × 1.3m の不整円形を呈し、深さ 1.3m を測る。細かく分層され、炭化物のみの層もみられた。

SK3081　C－2 Ⅲ層上面で検出した。径 1.4m の不整円形を呈し、深さ 0.8m を測る。上位に暗灰黄色砂質土、中位に黄褐色砂質土、下位には黒色粘質土が堆積している。

SK3084　C－2 Ⅲ層上面で検出した。径 1.4m の不整円形を呈し、深さ 0.4m を測る。焼土を含む黄橙色・黄褐色・褐灰色土が細かく入り混じって堆積している。

SK3138/3139　C－2 Ⅲ層上面で検出した。土坑 2 基が切り合っている。径 1.2m の不整円形、深さ 0.8m の土坑 SK3139 が径 1.4m の不整円形、深さ 0.3m の SK3138 を切る。SK3138 は炭化物を含む緑灰色・青灰色砂質土が 10cm 前後の厚さで堆積し、3139 は骨灰、炭化物を含む褐灰色・黄褐色砂質土が薄く水平に堆積している。

SK4063　C－2 Ⅲ層上面で検出した。北側は撹乱を受けている。残存径 1.0m の半円形を呈し、深さ 0.55m を測る。下位 1/3 は黄橙色砂・灰黄褐色砂質土が 5cm 前後の厚さで、上位 2/3 は灰黄褐色土が深さ 0.4m まで堆積している。

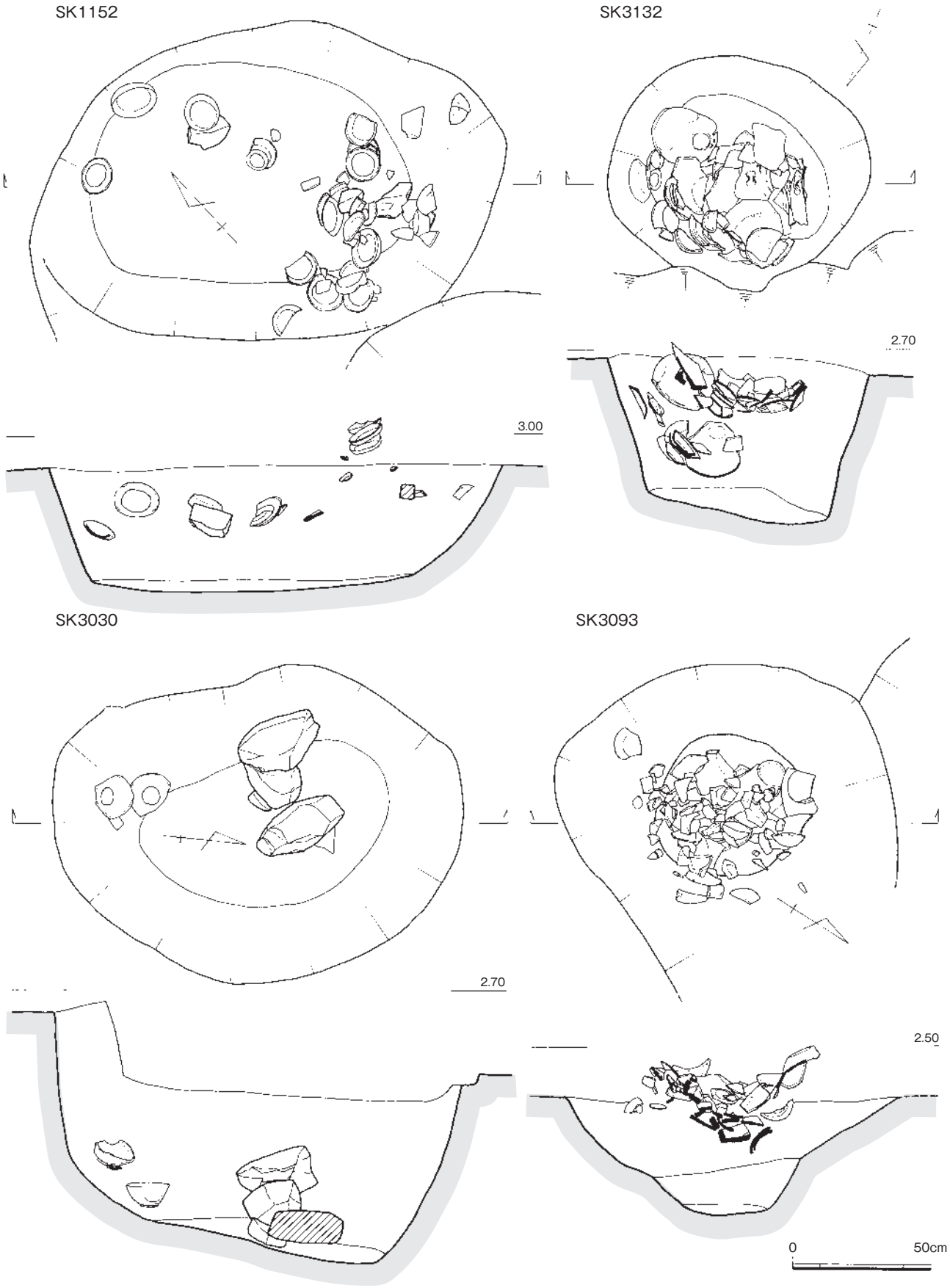
SK008　A－1/2 Ⅰ層上面で検出した。2.4m × 2.2m の隅丸方形を呈し、深さ 0.7m を測る。褐灰色（粘質）土・黒褐色土が 5cm 前後の厚さで堆積している。SK011 を切る。

SK011　A－2 Ⅰ層上面で検出した。3.0m × 2.4m の不整楕円形を呈し、深さ 0.7m を測る。SK008 に切られ、北半上部は撹乱を受けている。灰色・褐灰砂（粘）色土が 5cm 前後の厚さで堆積している。

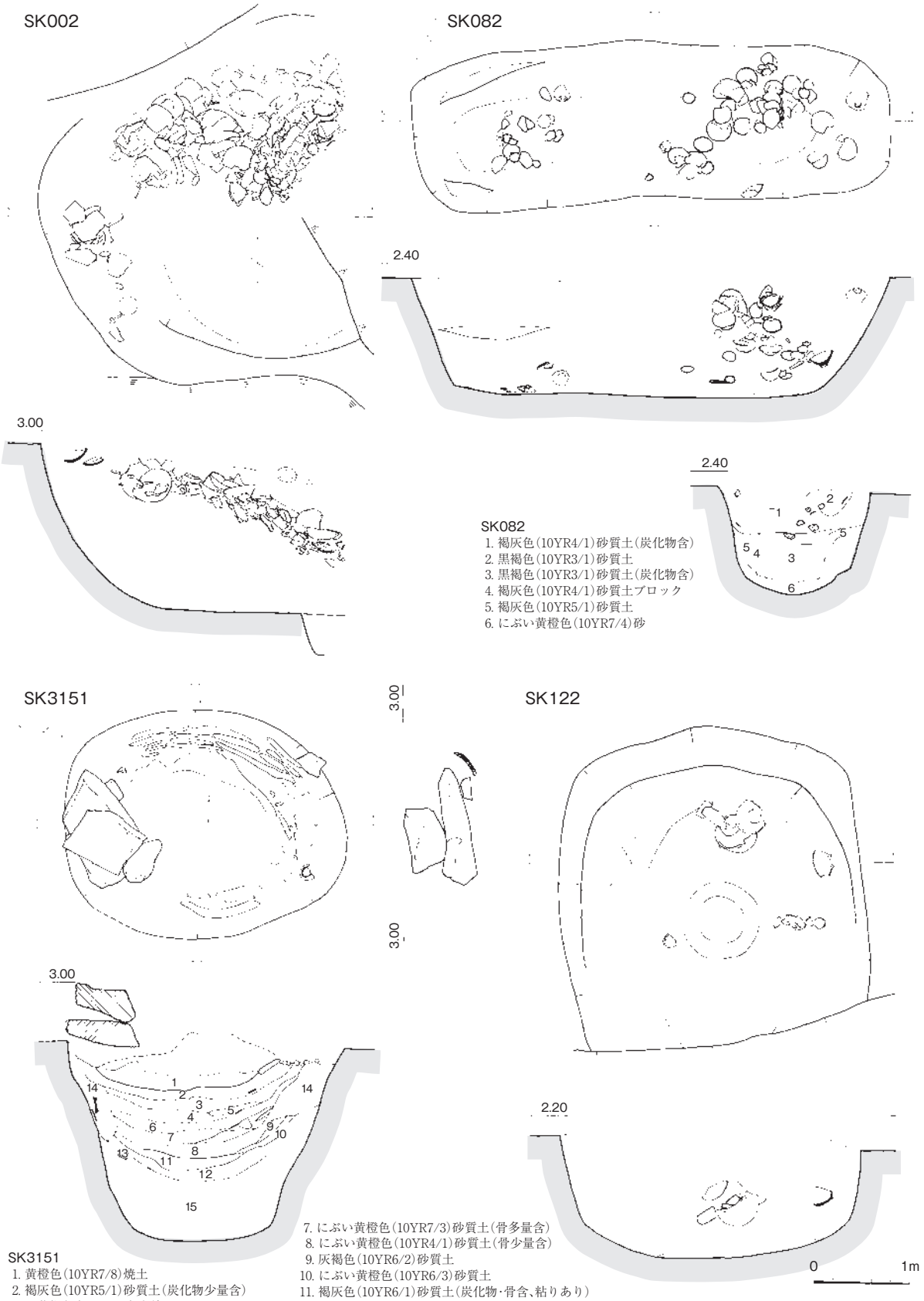
SK069　A－2 Ⅱ層上面で検出した。径 1.3m の不整円形を呈し、深さ 0.6m を測る。SK071/073 と同様な堆積状況を示す。

SK071　A－2 Ⅱ層上面で検出した。1.8m × 1.1m の不整楕円形を呈し、深さ 06.m を測る。

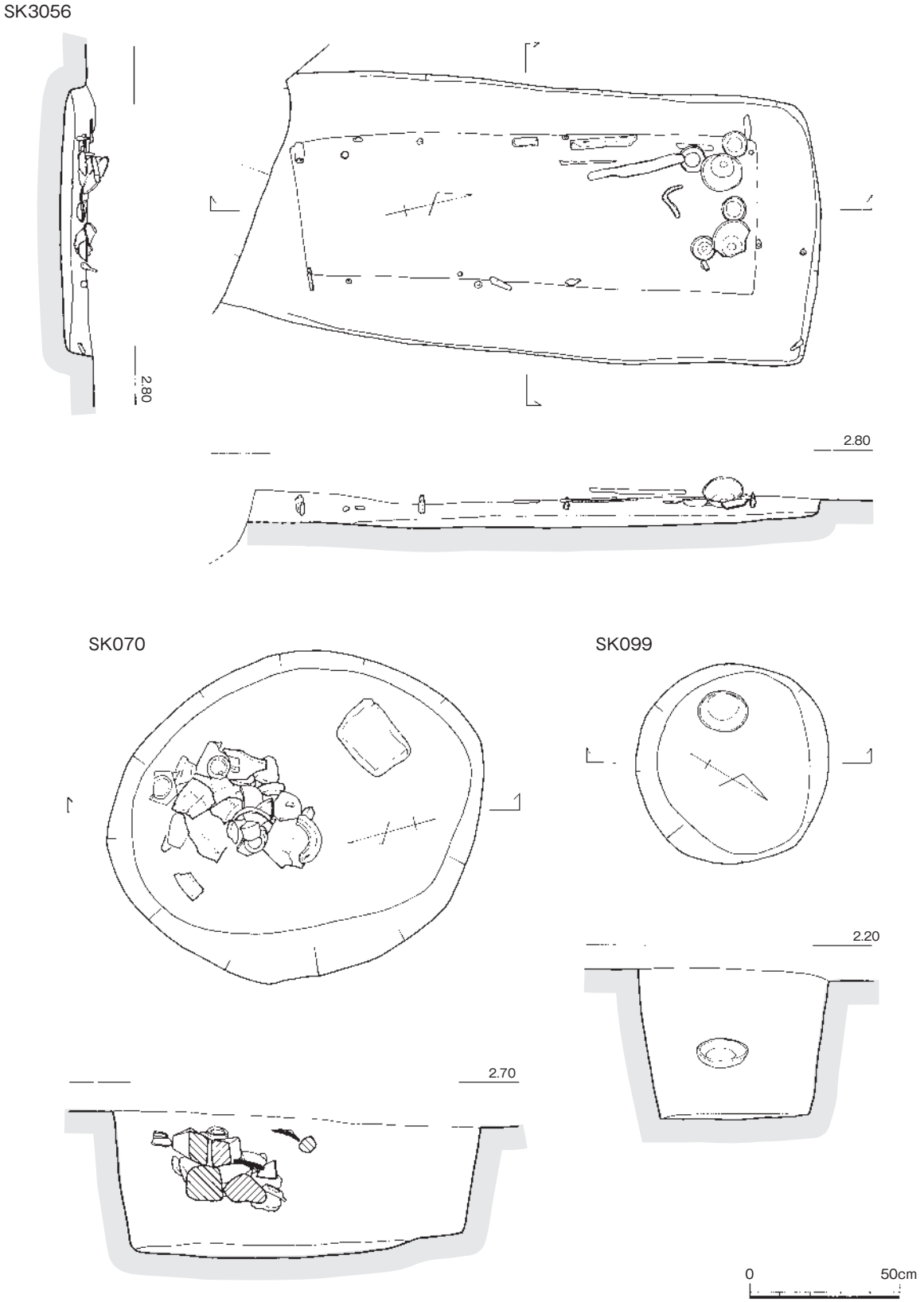
SK073　A－2 Ⅱ層上面で検出した。幅 1.2m の不整楕円形を呈し、南西は調査区外に延びる。深さ 0.3m を測る。



第 14 図　土坑実測図１（縮尺１/20）

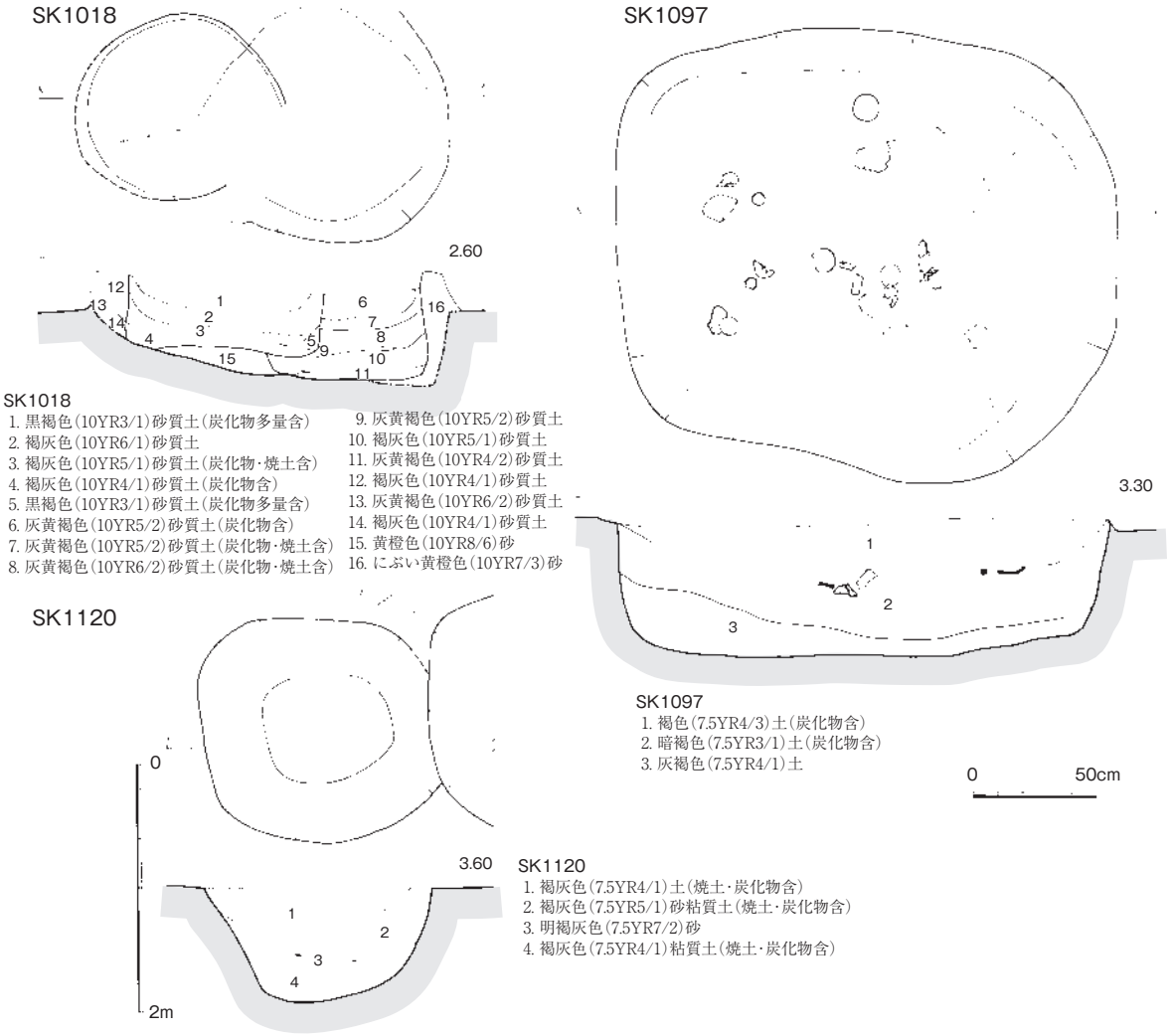


第 15 図　土坑実測図２（縮尺１/60）



第 16 図　土坑実測図３（縮尺１/20）

木棺墓 SX3030　C－2Ⅲ層上面で検出した。墓坑の南端は撹乱を受け、掘り方は残存長 1.9m × 幅 0.9m の不方形を呈し、深さ 0.1m を測る。鉄釘が墓坑内側の 1.55m × 0.5m の方形の外周部に沿って出土し、棺の木口や蓋を止めるために打ち込まれた釘が棺の腐朽に伴ってほぼ垂直に沈下したものとみられる。主軸の方位はＮ－ 10°－Ｅに取る。人骨の残りは良くないが、想定される棺内の北側で下顎骨が確認され、北枕に伸展した体勢で納棺されたとして、頭部付近で供献された口禿の白磁碗 2･

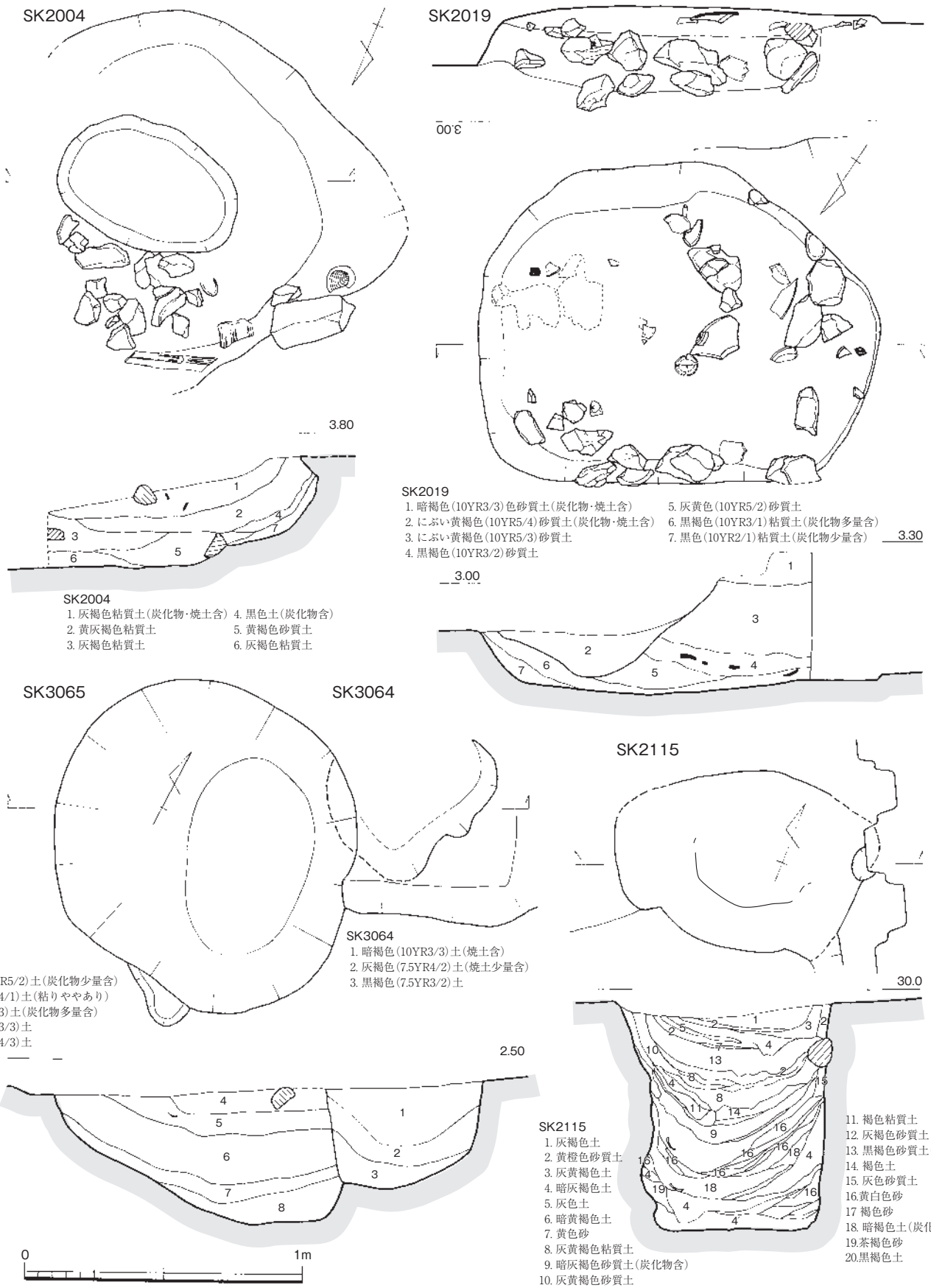


第 17 図　土坑実測図４（縮尺１/30・１/60）

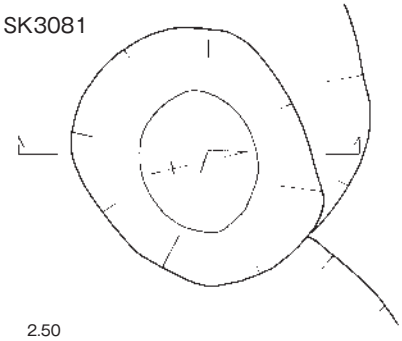
皿４、左肩部で軸を南北方向に取って小刀が出土した。小刀の西側では左上腕骨が確認された。方形竪穴 四隅に扁平な板石を据え、内側に木槨の痕跡がみられた。地下蔵とみられる。

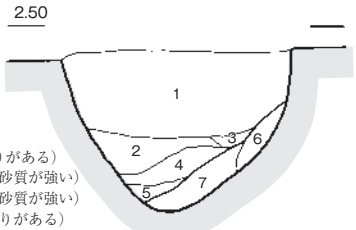
SK1142　B/C－４Ⅰ層上面で検出した。2.0m × 1.8m の方形を呈し、深さ 0.4m を測る。北東辺の角に板石を据える。内側に 1.5m × 1.2m の木槨の痕跡がみられた。方位はＮ－ 45°－Ｅに取る。

SK022　Ｃ－４Ⅰ層上面で検出した。1.8m × 1.5m の方形を呈し、深さ 0.4m を測る。内側に 1.35m × 1.0m の木槨の痕跡がみられた。木槨の四隅に板石を据える。方位はＮ－ 55°－Ｅに取る。

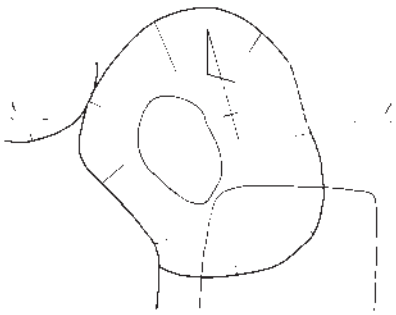


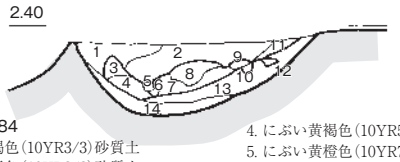
第18図　土坑実測図5（縮尺1/20）



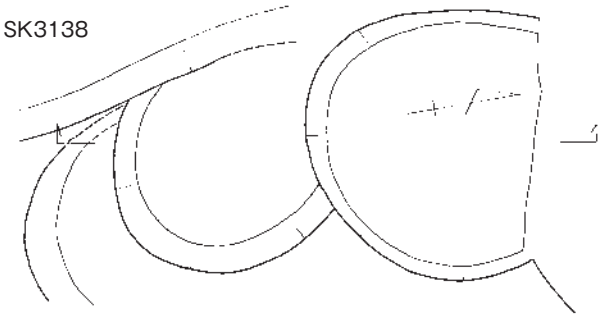


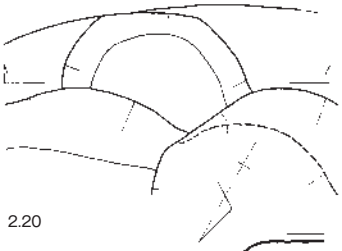
SK3081
1. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(しまりがある)
2. 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(1より砂質が強い)
3. 黄褐色(2.5Y5/4)砂質土(1･2より砂質が強い)
4. 黄褐色(2.5Y3/2)砂質土(2より粘りがある)
5. 黒褐色(10YR3/2)砂質土(4より砂質が強い)
6. 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土(7より砂を多く含む)
7. 黒色(2.5Y5/1)粘質土(砂質をもつ)

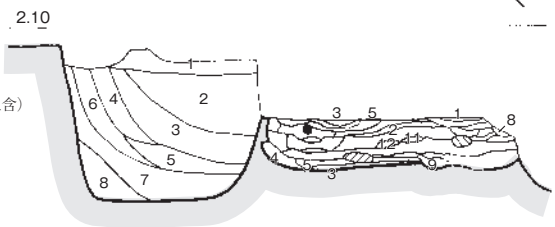




SK3084
1. 暗褐色(10YR3/3)砂質土
2. 黒褐色(10YR3/2)砂質土
3. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
4. にぶい黄褐色(10YR5/3)焼土混じりの砂質土
5. にぶい黄橙色(10YR7/3)砂質土(焼土ブロック)
6. 灰褐色(10YR5/1～4/1)砂質土(焼土ブロック)
7. 明黄褐色(10YR6/6)砂質土とにぶい褐灰色砂質土の混ざり
8. 黒褐色(10YR3/2)砂質土とにぶい黄橙色(10YR7/4)焼土の混ざり
9. 褐灰色(10YR5/1)砂質土とにぶい黄橙色(10YR6/4)焼土が混ざったブロック
10. 明黄褐色(10YR6/6)焼土ブロック
11. にぶい黄褐褐色(10YR6/4)焼土
12. 灰黄褐色(10YR4/2)焼土ブロック

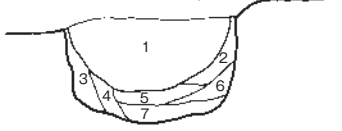




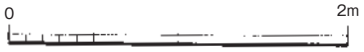


SK3138
1. 緑灰色(7.5GY6/1)土(炭化物･焼土含)
2. 暗青灰色(BG4/1)粘土(炭化物含)
3. 暗青灰色(BG4/1)砂粘質土
4. 暗青灰色(BG4/1)砂質土(炭化物･焼土含)
5. 暗青灰色(BG4/1)粘質土(炭化物含)
6. 暗青灰色(BG4/1)砂質土
7. 明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土(炭化物含)
8. 暗青灰色(BG4/1)砂質土

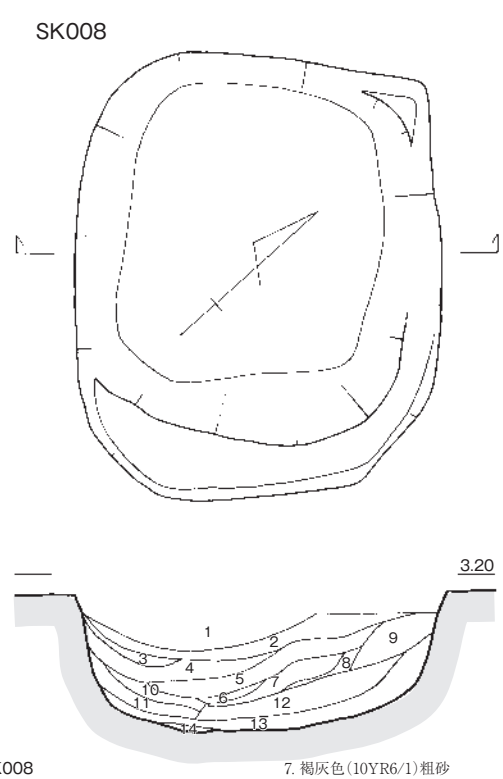
SK3139
1. 灰色(7.5Y6/1)骨灰(灰状の骨)
2. 灰色(10YR8/2)骨
3. 黒色(10YR1.7/1)炭化物
4. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(炭化物含)
5. 褐灰色(10YR6/1)砂質土(骨灰含)
6. 4層･5層の混ざり(炭化物多量含)
7. 黒褐色(10YR3/2)砂質土基の焼土層
8. 褐灰色(10YR6/1)砂質土
9. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(2層の骨混)
10. 褐灰色(10YR6/1)砂質土
11. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土(炭化物含)
12. 明黄褐灰色(10YR6/6)砂質土
13. 褐灰色(10YR4/1)砂粘質土
14. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(骨含)

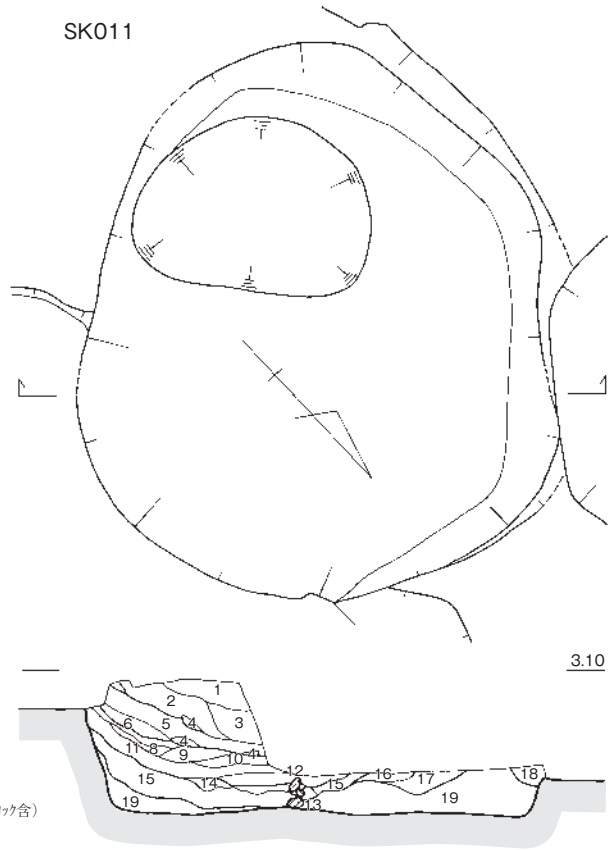


SK4063
1. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(炭化物含)
2. にぶい黄橙色(10YR6/4)砂
3. にぶい黄橙色(10YR6/4)砂
4. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
5. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(4より砂質強)
6. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(砂質強)
7. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(6より粘り)
8. 灰白色(10YR8/2)砂　地山



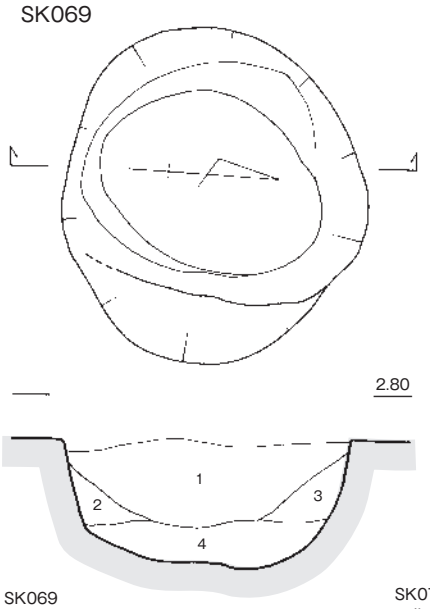
第 19 図　土坑実測図６（縮尺１/40）

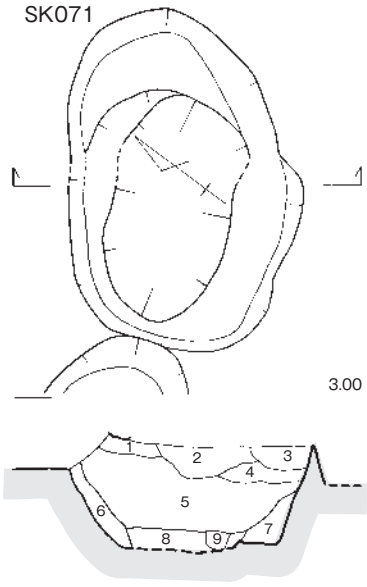


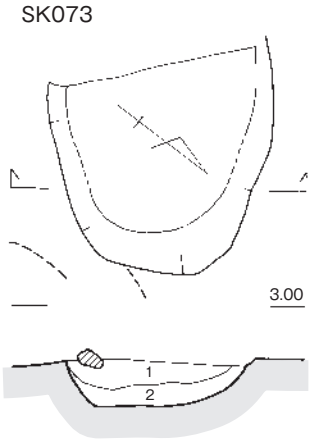


SK008
1. 褐灰色(10YR5/1)土(粗砂含)
2. 褐灰色(10YR4/1)土(炭化物含)
3. 褐灰色(10YR4/1)粘質土
4. 黒褐色(10YR3/1)粘質土(焼土・炭化物含)
5. 褐灰色(10YR4/1)粘質土
6. 褐灰色(10YR4/1)土(炭化物含)
7. 褐灰色(10YR6/1)粗砂
8. 褐灰色(10YR5/1)土
9. 褐灰色(10YR5/1)土(明黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ含)
10. 褐灰色(10YR4/1)土(粗砂含)
11. 黒褐色(10YR3/1)土
12. 褐灰色(10YR5/1)土(明黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ含)
13. 褐灰色(10YR4/1)砂粘質土
14. 褐灰色(10YR4/1)粘質土

SK011
1. 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土〔しまりあり,
黄橙色(10YR8/6)焼土ブロックを多量に含む〕
2. 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土(しまりあり)
3. にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土(2より砂質強)
4. 浅黄色(2.5Y7/4)砂ブロック
5. 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土
6. 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土
7. 黄灰色(2.5Y5/1)砂粘質土
8. オリーブ黄(5Y6/4)砂粘質土
9. 灰色(5Y6/1)砂粘質土
10. 灰色(5Y5/1)砂粘質土
11. 灰黄色(2.5Y6/2)砂粘質土
12. 黄灰色(2.5Y6/1)砂粘質土
13. 黄灰色(2.5Y6/1)砂粘質土
14. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(焼土・炭化物多量含)
15. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(焼土・炭化物多量含)
16. 褐灰色(10YR5/1)砂粘質土
17. 褐灰色(10YR5/1)砂質土
〔16層と黄色(2.5Y8/6)砂混〕
18. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(炭化物多量含)







SK073
1. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
2. 黒褐色(10YR3/2)砂質土

SK069
1. にぶい褐色(7.5YR5/4)砂質土
(赤褐色焼土ブロック含)
2. 褐灰色(7.5YR5/1)砂質土(少し粘りがある)
3. 褐灰色(7.5YR4/1)砂質土(少し粘りがある)
4. 褐灰色(7.5YR4/1)砂質土(粘りがある)
4層ほぼ同質.1層中心に焼土が見られる.2・3層
焼土少.A線を境に粘り強.

SK071
1. 黄灰色(2.5Y6/2)砂質土(砂質強 しまりあり)
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(砂質強)
3. 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土
4. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
5. 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
6. 黄灰色(2.5Y5/1)砂質土
7. 黄灰色(2.5Y5/1)砂質土
8. 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
9. にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土ブロック(砂質強)

0 1m

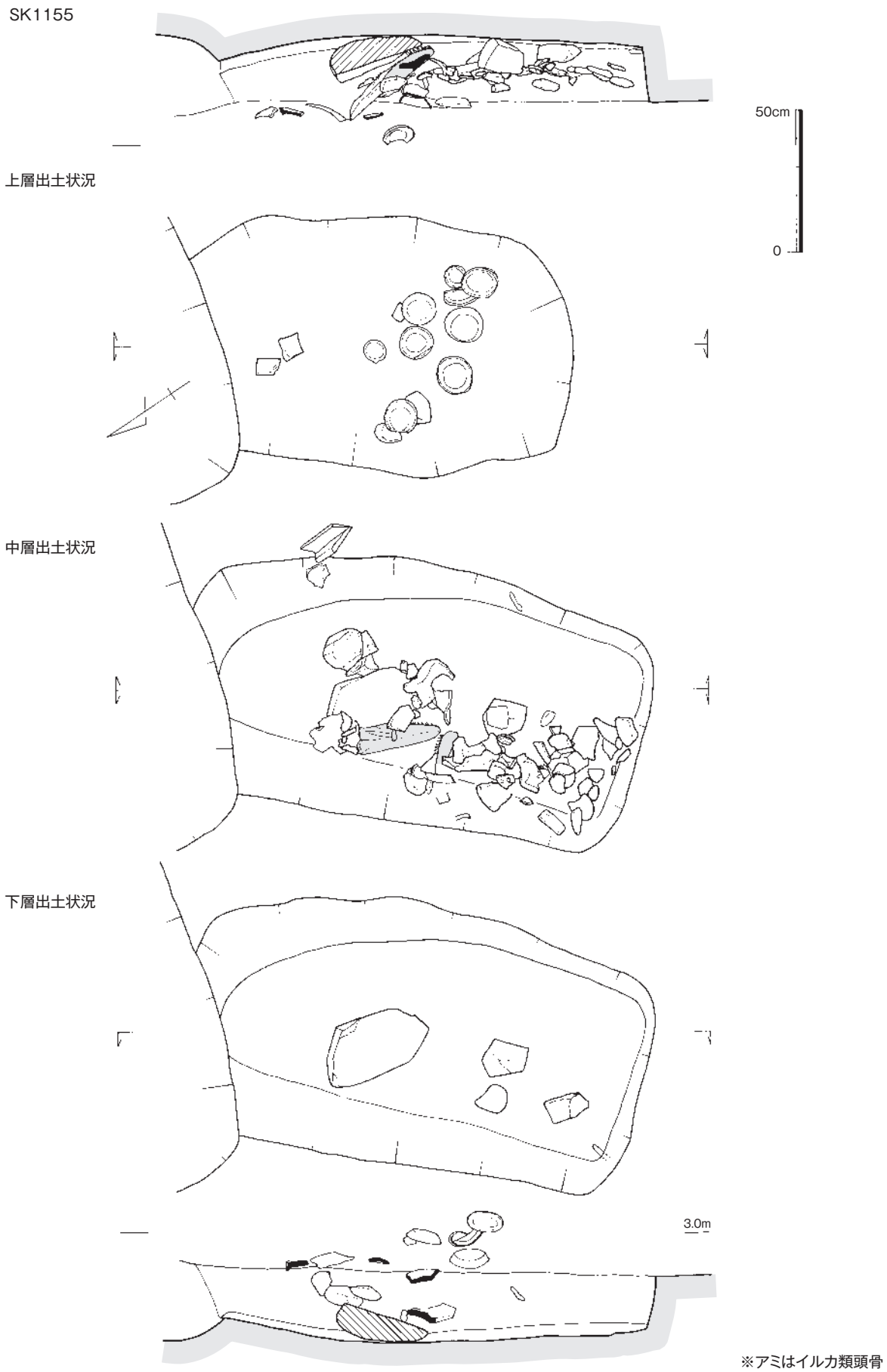
第 20 図　土坑実測図７（縮尺１/20）

第 21 図　方形竪穴実測図（縮尺 1 /30）

博多遺跡 209 次調査出土の動物遺存体

209 次調査区は博多濱中央からやや北側に位置し、周辺の調査では奈良時代以降の遺構が確認されている。調査面積は 980㎡と広く、約 90 箱の多量の動物遺存体が出土した。骨は掘り下げ中に目視で確認したものを取り上げており、篩を使った選別などは行っていない。古代から近世まで数多くの遺構から骨が出土しており、魚類なども多くの種が出土しているが、土ごと取り上げたものも多く、クリーニングが進んでいないため同定ができておらず、種が判明したものも解体痕などは観察できていない。また、報告のスペースの関係から今回は特殊な出土例の遺構のみ報告する。

SK1155（第 22 図）14 世紀頃の土坑で北側を土坑に切られる。現状で 165 × 93㎝、深さ 30㎝を測る。底面の西側に偏った状態で径 12 ～ 37㎝の礫が 4 点出土しているが、その礫の分布に重なるように底面から 10㎝程上でイルカ類の頭骨 1 点と径 10㎝ほどの礫群が分布し、更にその上から土師坏と皿 9 点が出土した。イルカ類の頭骨は底面の礫の直上から出土しているが、断面観察では頭骨と礫群の堆積はレンズ状を呈しながら面的に広がっており、土坑が埋没中の底面礫の上面が露出した状態で廃棄されたものである。底面礫と上の礫群の分布が重なることから、イルカ類頭骨と礫群は掘り直しされた別の遺構ではなく両者が同一の遺構であることは間違いないと思われる。イルカ類の頭骨は少なくとも 2 個体の吻部（1 個体は小片のみ）で、他に後頭部片、肋骨片、大型鯨類の椎骨が出土した。1 つの吻部には径 7.5㎜ほどの歯が 23 本並んでおりカマイルカやバンドウイルカの可能性がある。頭部が割られていることから脳を取り出したものと思われるが、博多遺跡群の 165 次調査でも脳を取り出した頭骨が埋納された状態で出土していて、祭祀と考えられている。1155 の性格は不明で、土坑の大きさや形状、礫の出土状況からは墓の可能性も考えられるものの、人骨片が出土していないため祭祀に伴う土坑の可能性がある。イルカ類の頭骨が祭祀の対象なのか、供え物なのか、廃棄後紛れ込んだのかは不明である。209 次調査では SK2062 でも完形の鯨類の頭骨が出土している。歯はすべて抜け落ちているが径 2.5㎝程の歯が片側 8 本生えており、オキコンドウである可能性が高い。土師坏・皿を伴っておらず、38 次でみられるような埋置土坑と考えられる。



※アミはイルカ類頭骨

第 22 図　土坑実測図８（縮尺１/20）

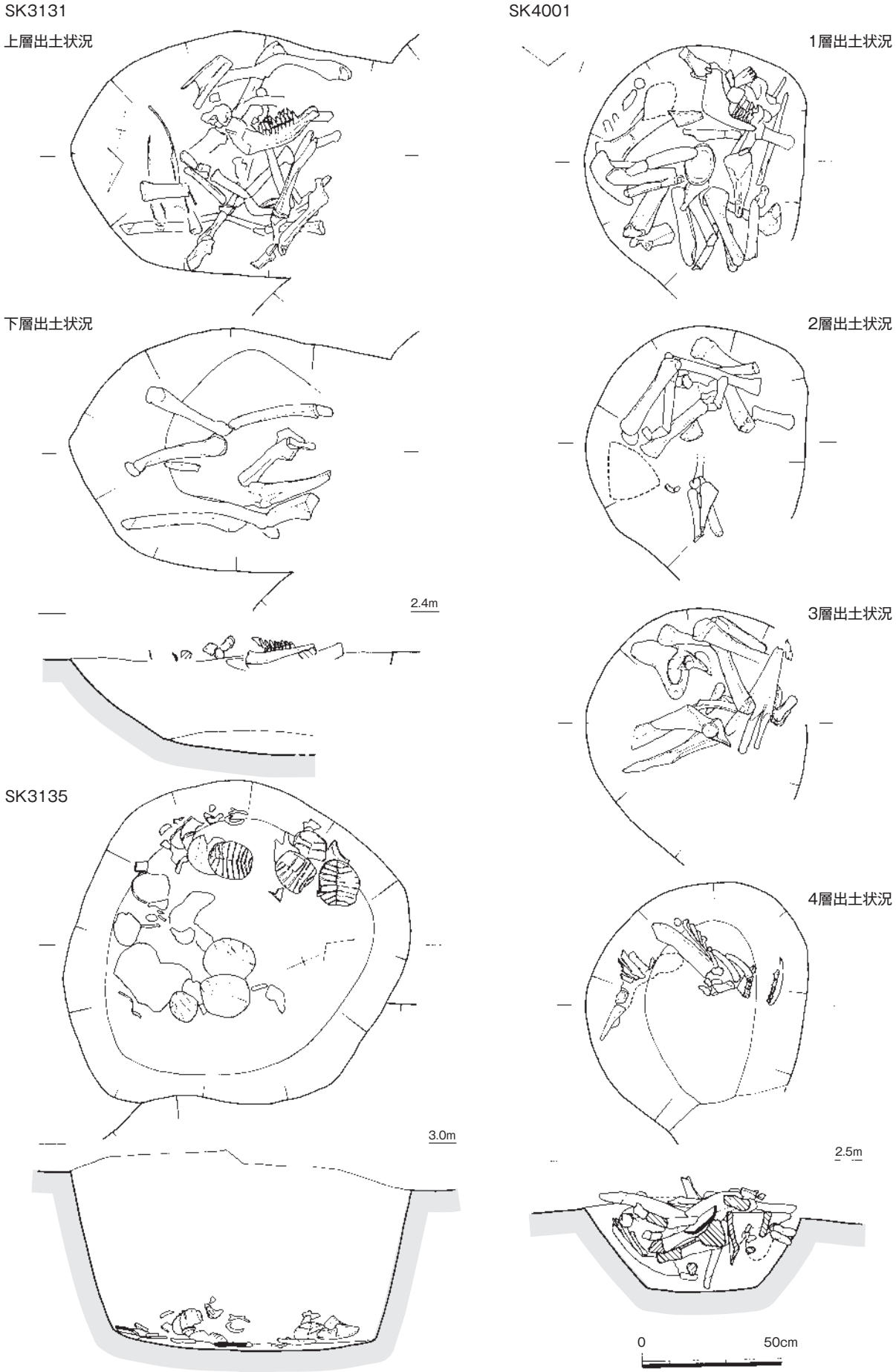
SK3131（第23図）12世紀の土坑で長方形を呈し西側を他の遺構に切られる。現状で東西約113cm、南北86cm、深さ40cmを測る。遺構上面でウシ1頭分の骨が出土した。骨は成獣のウシで、出土状況の図面からは四肢骨は関節がつながったまま廃棄されたものと思われる。また廃棄時には土坑の長軸を意識しており、四肢骨を南北両側と中央に配置し、中央上面に下顎やその他の骨を廃棄したと考えられ、肉片がついたまま埋納した祭祀の可能性がある。

SK3135（第23図）12世紀頃の土坑で径約123×115cm、深さ72cmを測る。底面からスッポンの背甲が11点出土した。そのうちほぼ完形なのは6点で甲長は14～19cmと中型の若いスッポンである。頭骨や四肢骨は確認されていない。スッポンは淡水に生息する動物がほとんど出土しない博多遺跡でみられる数少ない淡水性生物で、出土数は少なくないもののこれまでは一基の土坑から背甲の破片や頭骨が1～2点出土するのみで、これだけまとまって出土した例はこれまでに例がない。

SK4001（第23図）古代末から中世の土坑で約2.2×1.5m、深さは東側が70cmを測る。獣骨は30cm程離れて東西2箇所で出土した。西側は長径80cmほどの楕円形、東側は南北110cm、東西80cm程の長方形の範囲にまとまっていて、2箇所とも骨は30～40cm程の厚みで堆積していた。

西側は肩胛骨の他、四肢骨などの長骨を主とする。出土骨を全部は見ていないが、同定できた骨はすべてウシである。出土状況は検出した表面では南北方向を意識して埋めたように見え、中～下層でも若干ずれているものの、南北方向とそれに直交するように意識して並べたと思われる。東側は上層でウシの下顎と脛骨などの四肢骨、肩胛骨が出土した。上層では明らかに土坑の長軸を意識して配置しているが、下層にはそれがみられない。2箇所の獣骨の集積が同時期であるかどうかは現在不明であり、今後同定を進める必要があるが、少なくとも東側では複数頭のウシの下顎が出土しており同時期に複数のウシを解体したことが判る。複数のウシが同時に死ぬことは事故などを除くと普通にはあり得ないため、屠殺・解体されたものとするのが自然であり、当時一度に多量の肉を必要とするような機会があったことが判る。このように複数のウシ・ウマを屠殺・解体した例は博多遺跡では39次調査の井戸から3頭分の若いウシの骨がまとまって出土した例や、133次調査のM272で複数頭のウシ、158次SK1353から少なくともウシ・ウマが2頭ずつ解体されたと思われる状態で出土している。また遺構掘方が確認できず包含層からの出土となっているがウシ・ウマの骨がまとまった例を含めると博多遺跡だけではなく箱崎遺跡などでもみられる。それらの遺構は時代が不明なものもあり今後検討が必要となるが、大量の肉を必要として39次調査のようにわざわざ若いウシを屠殺して料理する機会が博多遺跡を中心として少ならずあったことが判る。

SK110（第24図）12世紀の土坑である。径80cm程の円形で深さ40cmを測り、南西端を他の遺構に切られる。図面によると土坑全体に骨が詰まった状態で出土し、上層中央からは土師坏が出土している。骨はクリーニングしていないのと取り上げ後に細片化が進んでおりこまかな観察はしていない。出土した骨のうち同定できた上顎歯、下顎、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、踵骨、距骨、指骨はすべてウシで、少なくとも2頭分の骨を含み、細片化して今回同定に至らなかった骨を加えると2頭分を超える可能性がある。土坑の下層からは指骨や椎骨、肋骨片が出土し、中層からは左右が結合した状態で下顎が出土したほか、左右の上顎歯列が本来の位置を保った状態で出土しており、頭骨もそのまま廃棄されたことが判る。中層からは寛骨、肩胛骨なども出土しているが細片化しており現在観察するに至っていない。上層からは分離した左右下顎や中手・中足骨、上腕骨が出土しているが、各層とも関節がつながった状態で破棄された骨はほとんどみられない。ただ、脛骨から距骨・踵骨・足根骨などがつながった状態で出土しており、四肢の末端部分は肉が少ないためか、そのまま廃棄されたようである。上層で左右下顎、中層で左右下顎と上顎歯列が出土しているが、上層の下顎歯は歯

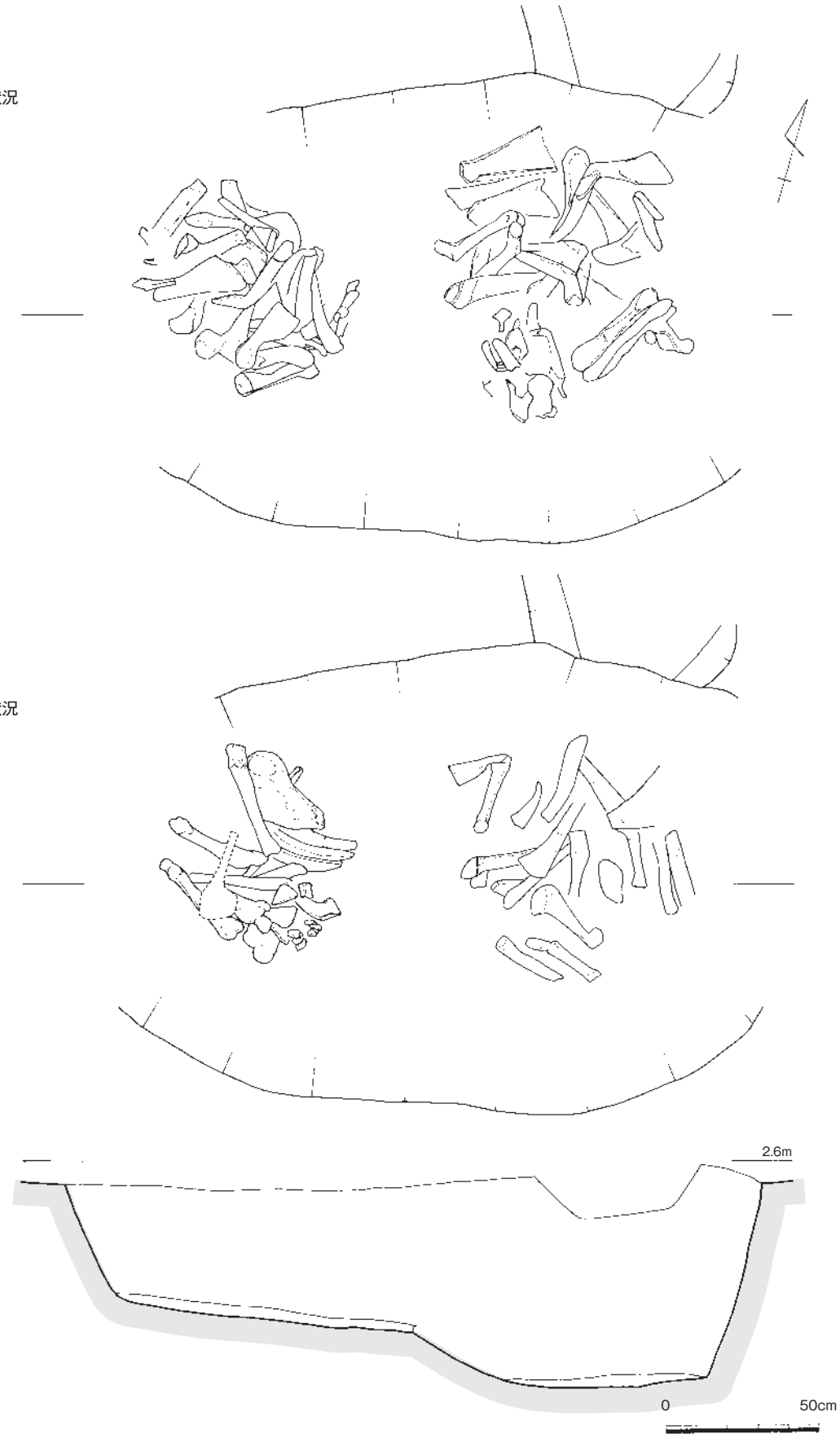


第 23 図　土坑実測図 9（縮尺 1 /20）

SK110

上層出土状況

下層出土状況



第 24 図　土坑実測図 10（縮尺 1 /20）

冠高が2cm強、中層の下顎歯は歯冠高が1.5cm、上顎歯列の歯冠高は約1cmと2頭とも老齢の個体で、四肢骨も観察できたものは骨端関節面は化骨化済みである。ただ、椎骨片の中に前後関節面が化骨化していないものが1点みられた。この椎骨は小片であるが、ウシにしては小さい可能性があるので、他種の骨が紛れ込んだ可能性もある。年を取って役に立たなくなった個体を屠殺・解体したものと思われる。

この他にはSK3094（12世紀）でも歯冠高の残りから比較的若めの成獣と推定されるウシの左右下顎、上腕骨などの四肢骨が出土しており、209次調査区は博多遺跡群の中でもウシの廃棄土坑が集中する特異な地点である。

上記以外にも骨角器に使用した鹿角の廃材（SK1116）やイヌ頭蓋骨（SK2115）、アワビ（SK2047）、マダイやサメをなどの多種多量の魚骨など多量の動物遺存体が出土した。同定を進めることにより当調査区の骨角器生産の様相や動物を使用した祭祀、食料としての動物利用の状況等が判明することが期待される。（屋山洋）

古墳時代以前の遺構（第25図）

SK4072 土坑　C－3地山上面で検出した。平面形は0.8m × 1.8mの不整方形を呈し、深さ0.75mを測る。遺構の西側が後世の遺構によって破壊されている。検出された土坑底面の西端で底部穿孔の壺が出土した。頸部より上は欠失している。

SK130 壺棺墓　A－3地山上面で検出した。墓壙、埋置された壺の北東側が後世の遺構によって破壊されている。墓壙の平面形は1.1m × 0.9m（折り返し復元）の楕円形を呈し、深さ0.7mを測る。主軸の方位はN－45°－Wに取る。埋置された壺の角度は15°を測る。

近世の遺構（第26図）

K001 溜桝　内法2.5m × 2.9mの方形を呈し、残存する深さ0.8mの石積み土坑である。主軸の方位はN－45°－Wに取る。石積みの集水桝の可能性が高い。A－4 Ⅰ層上面で検出した。以降の北東側の石積みは切れている。上面に想定される桝に伴う水路は削平されている。あるいは地下蔵の可能性もある。

出土遺物　本報告書の中国陶磁器の分類は山本信夫「陶磁器分類編」『大宰府条坊跡XV』太宰府市の文化財第49集2000、小野正敏「15、16世紀の染付椀の分類」『貿易陶磁研究N0.2』1982による。

土師器小皿・杯については特記しない限り、底部糸切り離し、体部横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕がみられる在地のものである。灯明皿等の用途で、口縁部に炭付着のものは図示している。図示された中、個別の記述を省略する個所もある。

SE2002 出土遺物（第27図）**須恵器** 杯蓋（1・2）口縁端部内面返りの境は稜をなさない。

SE3057 出土遺物（第27図）**土師器** 小皿（3・4）口径8.3・10.0cm、器高0.8・1.2cm、杯（5）口径16.3cm、器高2.8cmを測る。

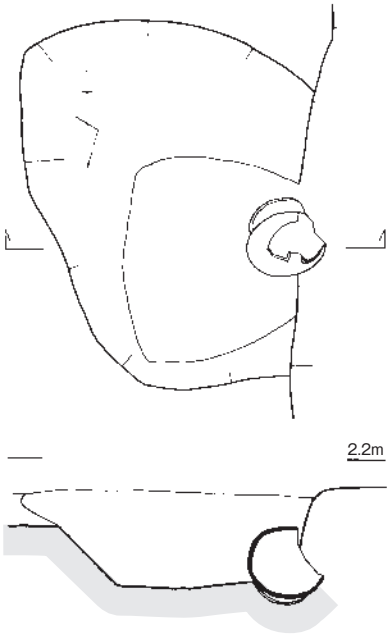
青白磁（6・7）6は体部外面に蓮弁をヘラ彫りする小壺、7は鼎形香炉の破片資料である。

柿釉陶器 紫定と呼ばれる定窯産の一群で、胎土には黒色微粒子を含み、灰白色を呈する。光沢のある褐色の釉が高台の上まで掛けられる。外底高台内に釉が点状に付いている。碗（9～12）9～11は口縁部を輪花状にする。皿（13）は口縁部が欠失、上げ底の外底部は露胎である。

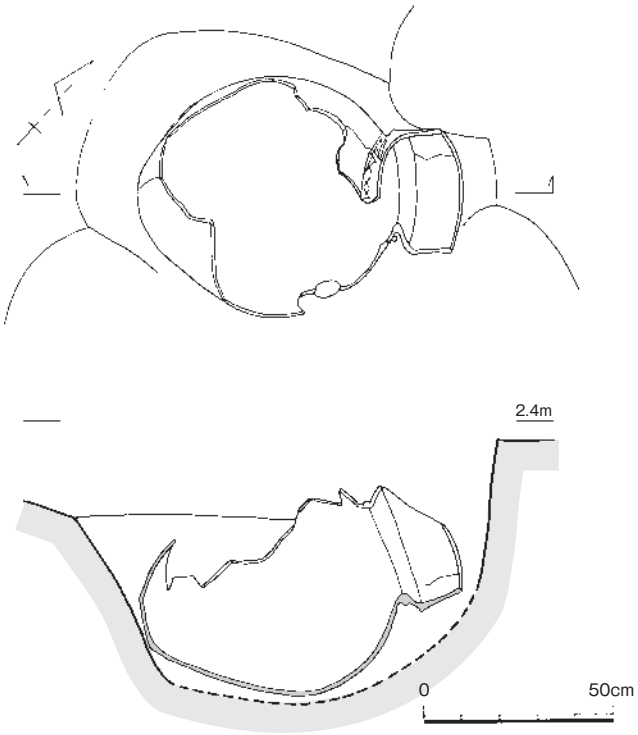
14は白磁小碗で体部外面にヘラで花弁文を施す。15は黒釉陶器碗、16は毬杖玉（もしくは投弾）。

SE3062 出土遺物（第27図）**土師器** 17は特小皿、18～20は小皿、21・22は杯である。
24は白磁八角杯で体部外面下半まで施釉される。25は口縁部外面に雷文、体部に蓮弁をヘラ彫りする

SK4072

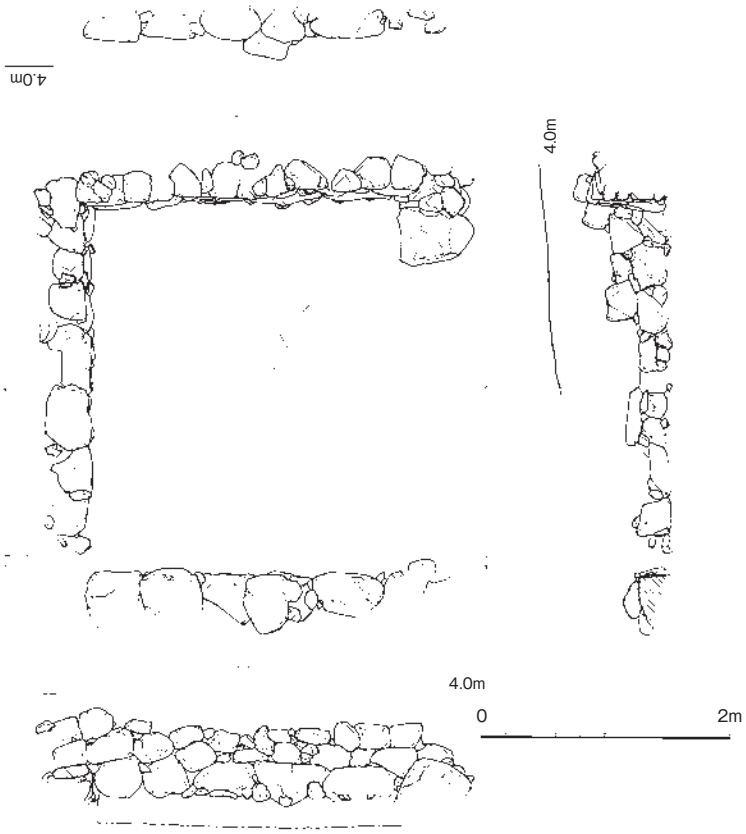


SK130



第 25 図　壺棺実測図（縮尺 1 /20）

K001



第 26 図　近世遺構実測図（縮尺 1 /60）

青磁碗、28 は瀬戸卸皿、31 は砥石である。土師器 19・20・22、白磁碗 26、青磁碗 27・陶器鉢 29、須恵器高杯脚部 30 は混入した 12 世紀後半以前のものである。

SE3090 出土遺物（第 27 図）**土師器** 小皿（32）口径 9.7cm、器高 1.1cm を測る。丸底杯（33）口径 17.3cm、器高 3.8cm を測る。

SE3136 出土遺物（第 28 図）**土師器** 杯（1）口径 13.1cm、器高 3.2cm を測る。

白磁 皿（2）高台は低く厚く、口縁部は直口、体部中位に段が付くⅡ－1a、碗（3 ～ 5）・四耳壺（6）いずれも底部片で、外底に墨書が記されている。4 は「黄□」、5 は「胡□」と判読できようか。
7 は磁器小壺、8 は緑釉陶器底部片、9・10 は毬杖玉（もしくは投弾）である。

SE3096 出土遺物（第 28 図）11 は龍泉窯系**青磁** 皿Ⅰ－1b、12 は八角に面取りした水注の注口。

SE020 出土遺物（第 28 図）**土師器** 小皿（13 ～ 15）口径 8.2 ～ 9.3cm、器高 1.0 ～ 1.5cm を測る。丸底杯（16）口径 14.7cm、器高 3.1cm を測る。

白磁 碗（17 ～ 21）底部片で外底に墨書が記されている。17 ～ 19 は「□綱」と判読できようか。
22 は混入した土師器甕片で、23 は石製　、24 は土錘である。

SE038 出土遺物（第 28 図）**土師器** 小皿（25 ～ 27）は内底まで回転横ナデ、口径 6.3 ～ 7.1cm、器高 1.3 ～ 1.5cm を測る。

白磁 皿（28）口縁部を輪花状にする平底皿で、外底は露胎となっている。

SE038 出土遺物（第 28 図）**土師器** 小皿（25 ～ 27）は内底まで回転横ナデ、口径 6.3 ～ 7.1cm、器高 1.3 ～ 1.5cm を測る。

白磁 皿（28）口縁部を輪花状にする平底皿で、外底は露胎となっている。

SE048 出土遺物（第 29 図）**土師器** 小皿（1）は口径 8.5cm、器高 1.3cm を測る。**白磁** 皿（2・3）2 はⅣ－1b、3 はⅧ－2a で、外底に墨書が記されている。4 は瓦玉、5 は毬杖玉である。

SE051 出土遺物（第 29 図）6 ～ 9・11・12・14・17・18 と 15、それ以外の 3 時期に分かれる。

土師器 小皿（6 ～ 7）は口径 7.2 ～ 8.7cm、器高 1.3 ～ 1.5cm、杯（11・12）は口径 11.9・12.3cm、器高 2.2・2.5cm を測る。14 は小壺である。

17 は内面に凹蓮弁をヘラ彫りする青磁稜花盤、18 は瀬戸卸皿で底部は欠失している。

10 ～ 13 は**土師器**、10 は小皿で口径 10.1cm、器高 1.1cm を測る。13 は丸底杯を 2 個体連結した中空の高杯脚部、15 は釦形のつまみが付く須恵器杯蓋片である。16 は青磁碗片である。

白磁 碗（19 ～ 22）底部片で外底に墨書が記されている。19 は「周綱」、20 は「十」と判読できる。
23 は皿Ⅲ－2 類、27 は白い磁器質の玉状製品である。

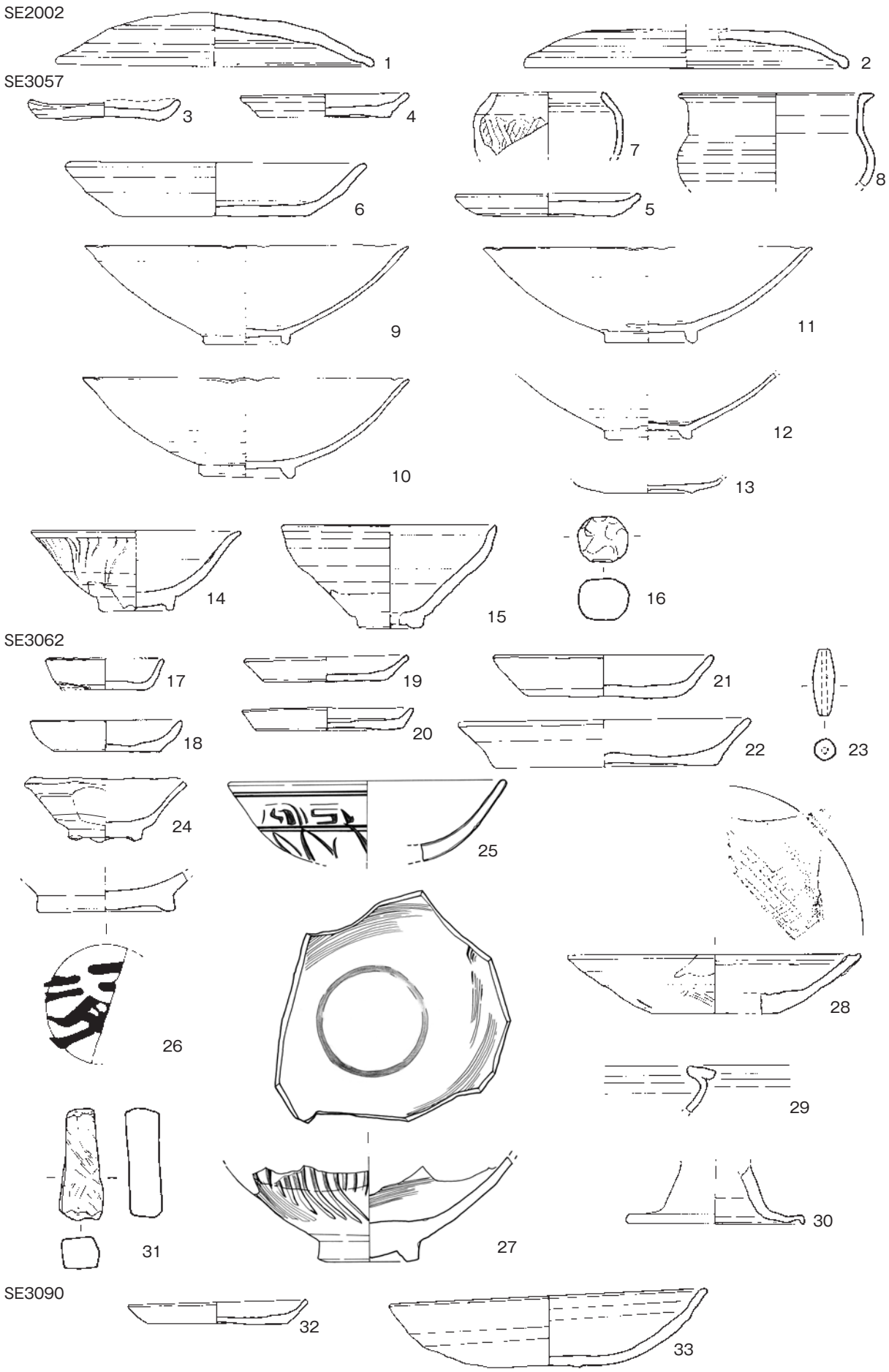
24・25 は**陶器** 四耳壺、26 は**陶器** 長瓶の底部である。

SE052 出土遺物（第 30 図）**土師器** 小皿（1・2）口径 7.7・8.2cm、器高 1.5・1.2cm、杯（3・4）口径 11.1・12.2cm、器高 3.3・2.7cm を測る。3 は口径に比して底径が小さく、外反して大きく開く深めの杯である。6 は小壺である。
5 は青磁稜花皿、7 は瓦玉、8 は土錘、9 は朝鮮無釉陶器、10 は内面型押宝相華文青磁小碗片である。

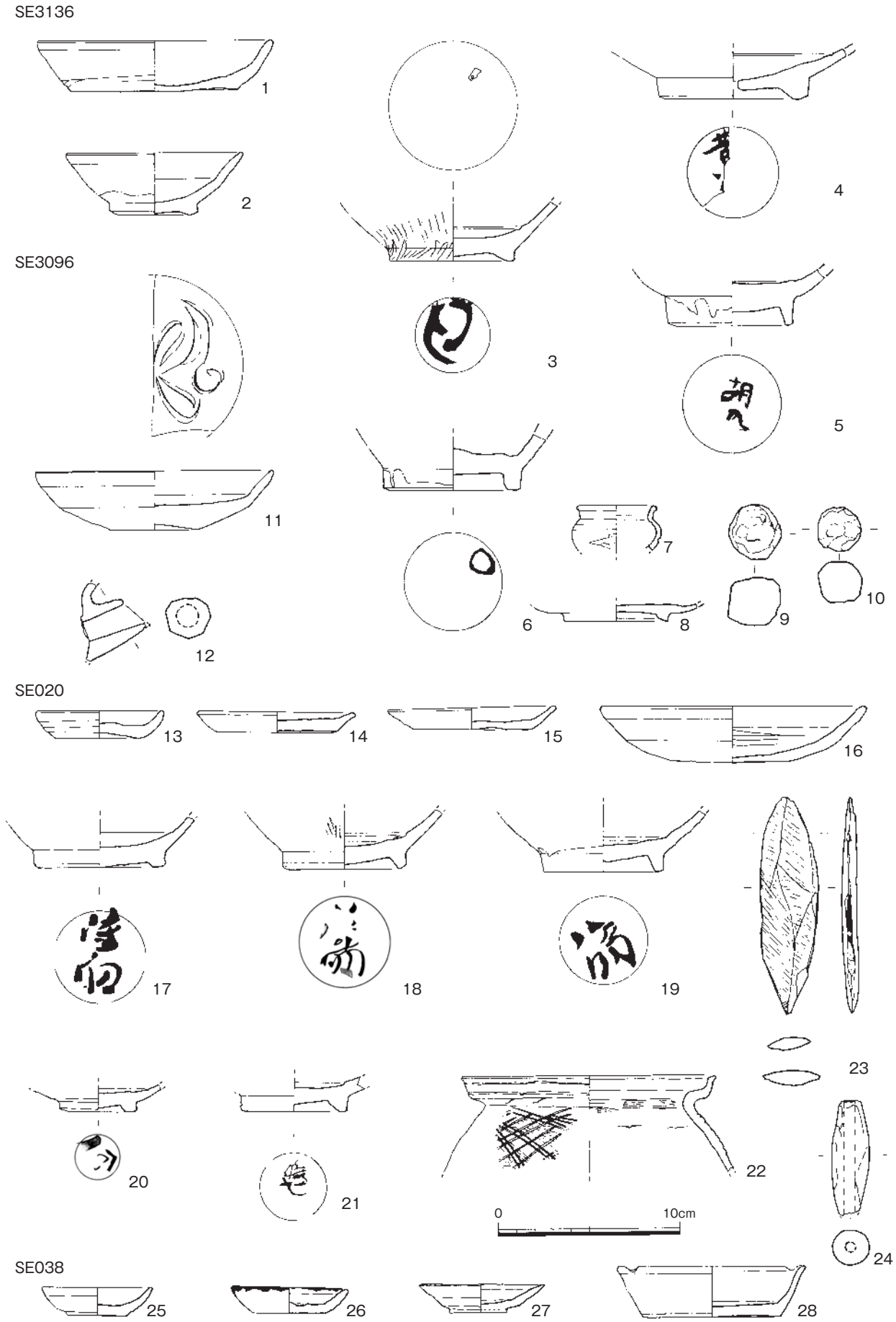
SE053 出土遺物（第 30 図）11 は口縁部外面に雷文、体部に蓮弁をヘラ彫りする青磁碗である。

SE054 出土遺物（第 30 図）**土師器** 小皿（12・13）は口径 6.7・7.9cm、器高 1.5cm、杯（14・15）口径 11.3・12.1cm、器高 2.3・2.9cm を測る。

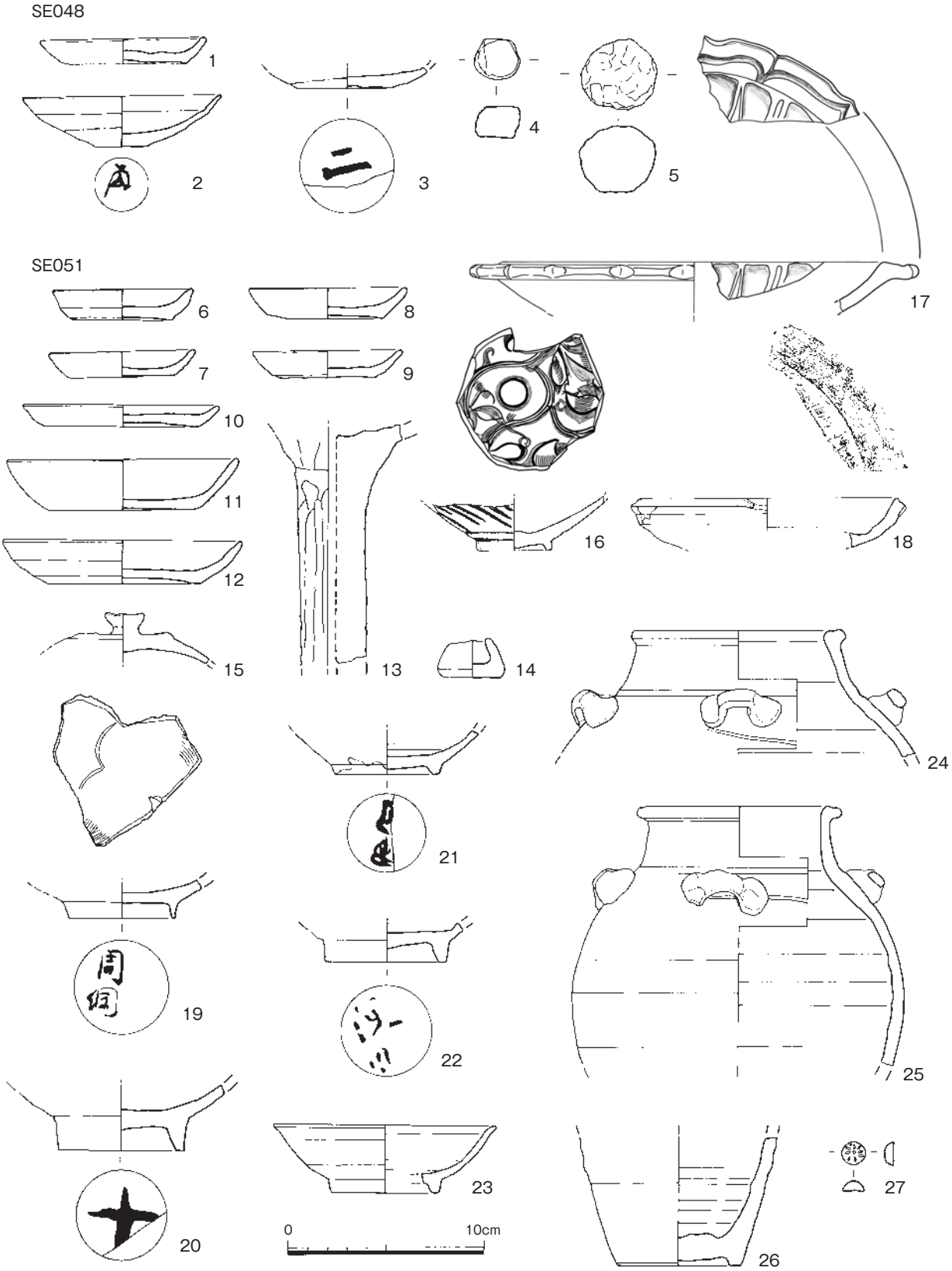
陶器（16・22）16 は「く」の字口縁の鉢で、底部は欠失している。残存範囲では全面に施釉され、口平坦におさめられている口縁端部の釉は掻き取られている。22 は壺もしくは甕の下部片で、残存範囲では全面に施釉されている。外面の底部付近に突帯、その上下に波状凹線をめぐらせる。



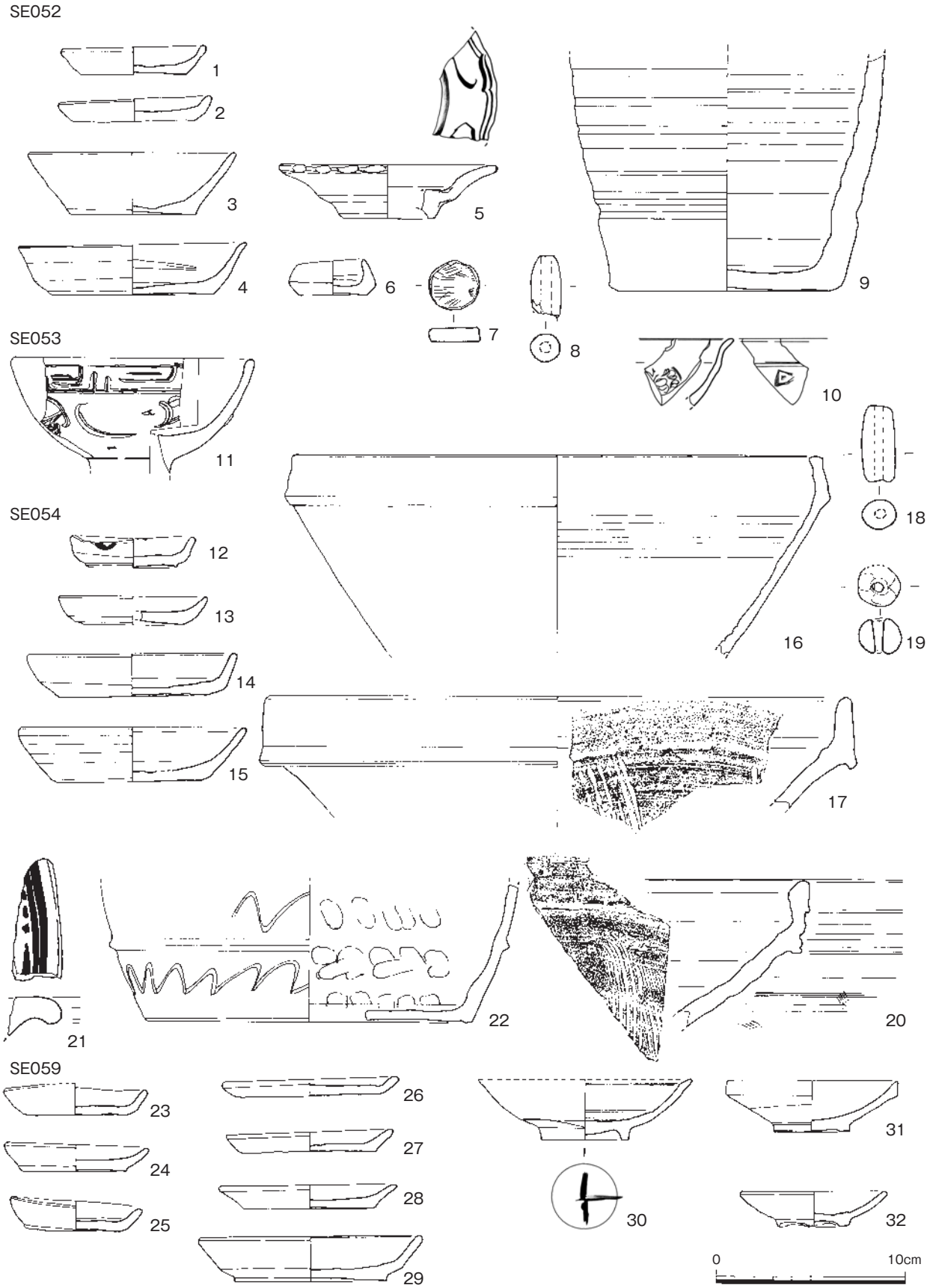
第 27 図　出土遺物実測図１（縮尺１/３）



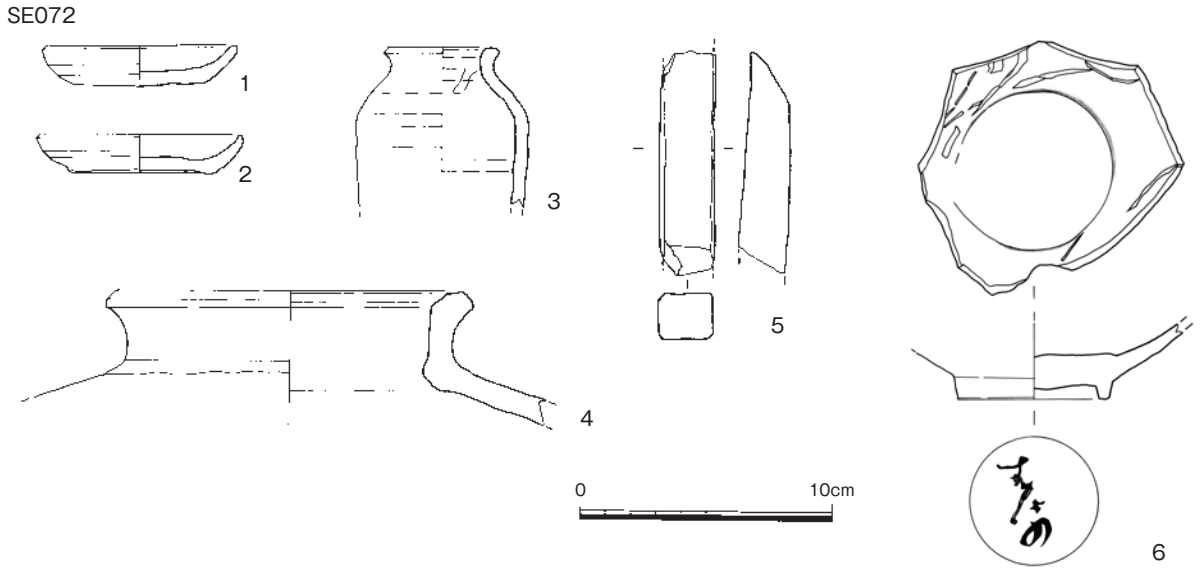
第 28 図　出土遺物実測図２（縮尺１/３）



第 29 図　出土遺物実測図３（縮尺１/３）



第 30 図　出土遺物実測図４（縮尺１/３）



第 31 図　出土遺物実測図５（縮尺１/３）

備前陶器 すり鉢（17・20）「く」の字口縁外面の屈曲部は下に垂れ、口縁端部は内傾している。18・19 は土錘、21 は鉄絵が施されている陶器の口縁部片である。

SE059 出土遺物（第 30 図）26 ～ 28・30・31 と 23 ～ 25・29・32 の 2 時期に分かれる。**土師器** 小皿 23 ～ 25 は口径 7.0 ～ 7.6cm、器高 1.4 ～ 1.6cm、杯 29 は口径 11.8cm、器高 2.4cm を測る。32 は高台の 4 ヵ所に弧状の抉り込みを入れ、全面施釉する**白磁** 皿 D 群である。**土師器** 小皿 26 ～ 28 は口径 8.7 ～ 9.7cm、器高 0.9 ～ 1.2cm を測る。30 は内底の釉を輪状に掻き取る**白磁** 皿Ⅲ－1 類、外底に墨書「十」が記されている。31 は玉縁口縁に低く厚い高台の**白磁**皿Ⅱ－1 類である。

SE072 出土遺物（第 31 図）**土師器** 小皿（1・2）は口径 7.7・8.2cm、器高 1.1cm を測る。3 は**陶器** 長瓶、4 は壺口縁部片、5 は砥石、6 は**青磁**碗底部片で、外底に墨書が記されている。

SK1018 出土遺物（第 32 図）**土師器** 小皿（1）口径 9.0cm、器高 1.5cm を測る。杯（2）口径 15.5cm、器高 3.1cm を測る。3 は瓦玉、4 は石製硯片、5 は青白磁合子蓋、6 は瓦器椀、7・8 は混入の須恵器片で、7 は杯蓋、8 は瓶胴部片である。

SK1097 出土遺物（第 32・33 図）**土師器** 小皿（1・2）1 は口径 5.6cm、器高 0.6cm を測る。2 は口径に比して底径が小さく、外反して大きく開く。口径 6.3cm、器高 0.8cm を測る。杯（3 ～ 6）3 ～ 5 は口径 10.1 ～ 10.3cm、器高 2.0cm を測る。6 は口径に比して底径が小さく、口縁部は強く横ナデされ鋭く稜が付く。口径 10.1cm、器高 2.1cm を測る。

白磁 皿（7 ～ 11・17 ～ 22）10 は端反りの C 群で 10・大型の 11 の外底には銘款が記されている。17 ～ 22 は菊皿で、外底の二重圏線内に 17 ～ 20「天下太平」、21「大明年造」、22「洪武年造」と記す。

青花 皿（12 ～ 14）12・13 は白磁皿 C 群と同じ器形の B_1 群で、体部外面に牡丹唐草文、見込には 12 が雲堂、13 は十字花文を描く。14 は碁笥底の C 群で、体部外面に唐草文、見込には字を略した文様を描く。碗（15・16）体部外面と見込に牡丹唐草文を描く蓮子碗である。

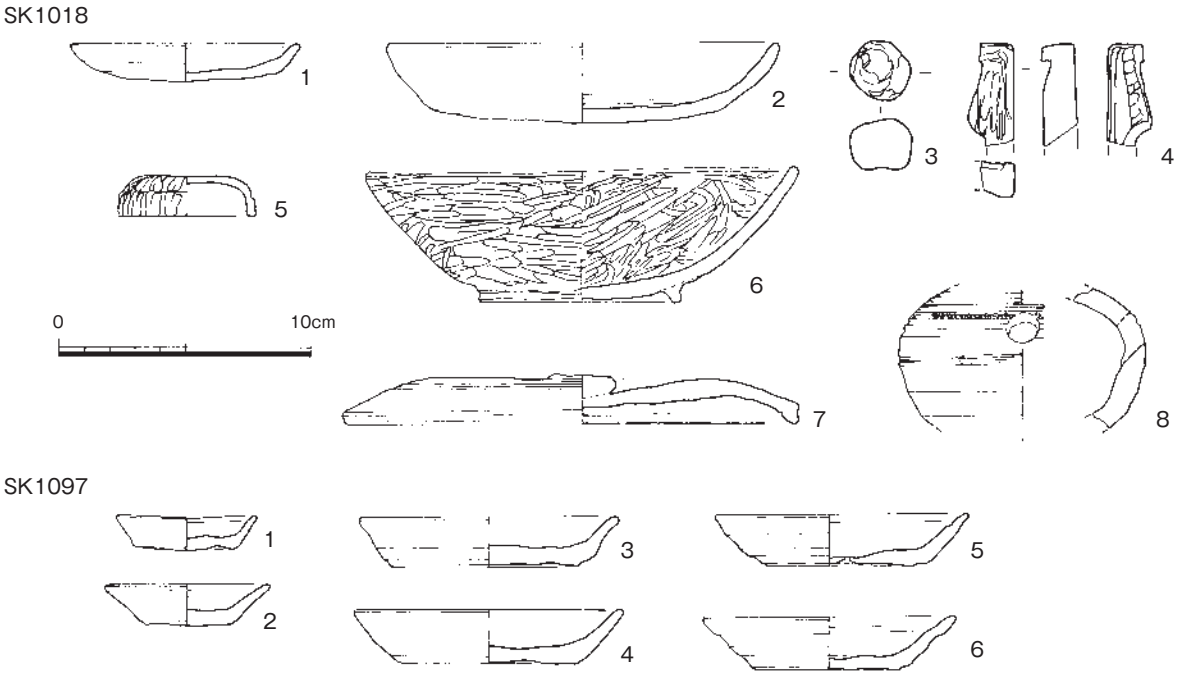
SK1001 出土遺物（第 34 図）1 は**土師器** 小皿、2 は深めの杯で内面には鋭くロクロ目の稜線が入る。

SK1008 出土遺物（第 34 図）3 は**瓦質土器**火鉢下部片で、外面に突帯 2 条、間に四菱の印文を施す。

SK1007 出土遺物（第 34 図）4 は**白磁皿**Ⅷ－1b で見込に花文をヘラ彫りする。5 は**白磁**水注の頸部片。

SK1013 出土遺物（第 34 図）9 は**備前陶器**すり鉢、10 は**青磁**碗で外面に細蓮弁をヘラ彫りする。

SK1083 出土遺物（第 35 図）8・9 は**青磁**碗で内面に花文をスタンプする。外底の高台内は露胎で、



第 32 図　出土遺物実測図６（縮尺１/３）

8 は墨書「上」が記されている。6 は白磁高台付皿で、灰白色の胎土に透明釉が掛かる。10 は粉青沙器碗で、胎土は黄灰色を呈し、灰色～灰白色の釉が掛かる。

SK1106 出土遺物（第 35 図）16 は土師器杯、17 は白磁端反り皿、18・19 は陶器壷で、18 は肩部に貼付されていた耳が剥離し、体部外面に斜め格子の叩き、内面に青海波の当て具痕が残る。

SK1149 出土遺物（第 37 図）20 は**青磁**碗Ⅰ－4b で腰は張らない。内底見込に「鳳□竒範」の印文、外底に墨書が記されている。21 は青白磁菊皿、22・23 は青白磁合子蓋と身である。

SK1152 出土遺物（第 38 図）**土師器** 小皿（1）口径 7.8cm、器高 1.3cm を測る。杯（2 ～ 16）口径 12.0 ～ 14.7cm、器高 2.6 ～ 3.7cm を測る。

SK2155 出土遺物（第 38 図）**土師器** 小皿（17 ～ 19）口径 8.6 ～ 9.7cm、器高 1.1 ～ 1.6cm を測る。杯（30・31）口径 15.2・16.5cm、器高 3.1・3.5cm を測る。

白磁 碗（32 ～ 34）32 はⅡ－1a、33 はⅤ－4a、34 はⅤ－4a の底部片で、外底に墨書が記されている。皿（35・36・38）35・36 は見込の釉を輪状に掻き取る皿Ⅲ－1 で、外底に墨書が記されている。38 は見込にヘラと櫛状施文具を用いて花文を施すⅧ－1c で、外底に墨書が記されている。

37 は体部内面にヘラによる簡略化した花文と櫛状施文具による「之」字方点綴文を入れ、体部外面に櫛状施文具による条線を入れる青磁碗Ⅰ－1b 類、39 は陶器皿、40 は花卉文軒丸瓦である。

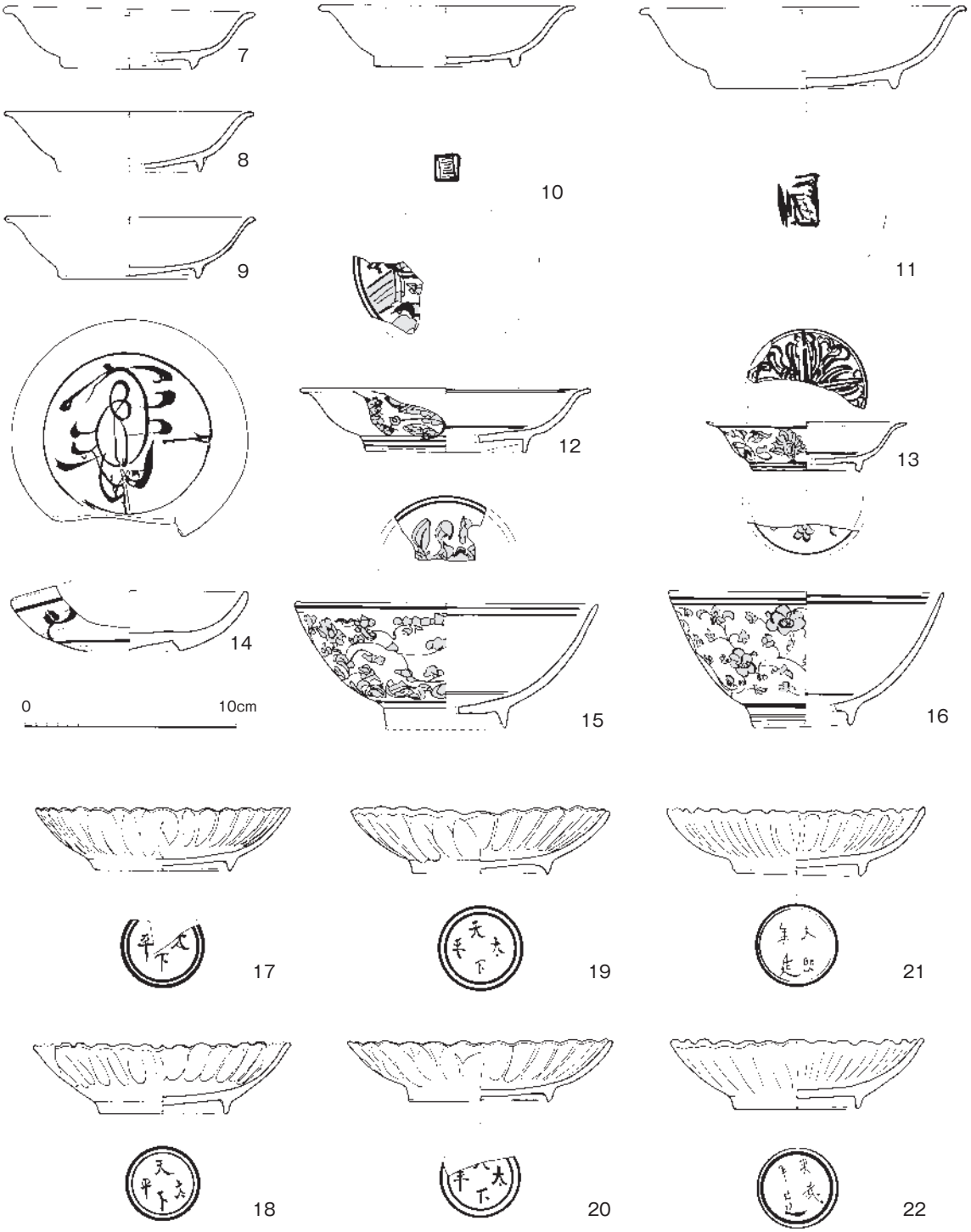
SK1156 出土遺物（第 39 図）**土師器** 小皿（1）口径 7.0cm、器高 1.7cm を測る。杯（2・3）口径 12.2・12.7cm、器高 2.7 ・3.0cm を測る。4 は鍋の取っ手、5 は青磁壺の蓋、6 は象嵌粉青沙器梅瓶の下半部、7・8 は白磁碗底部片で混入、外底に墨書が記されている。

SK1160 出土遺物（第 39 図）**土師器** 小皿（9・10）口径 7.8 ～ 8.1cm、器高 1.3 ～ 1.4cm を測る。杯（11 ～ 15）口径 12.8 ～ 13.0cm、器高 2.6 ～ 2.9cm を測る。

SK1164 出土遺物（第 39 図）**粉青沙器** 碗（19）内外面を印花で施文する。

SK2017 出土遺物（第 40 図）**陶器** 壺（4）内面にはガラス質溶着物がみられる。ガラス玉などの製作の際、坩堝として用いられたものであろう。

SK1097

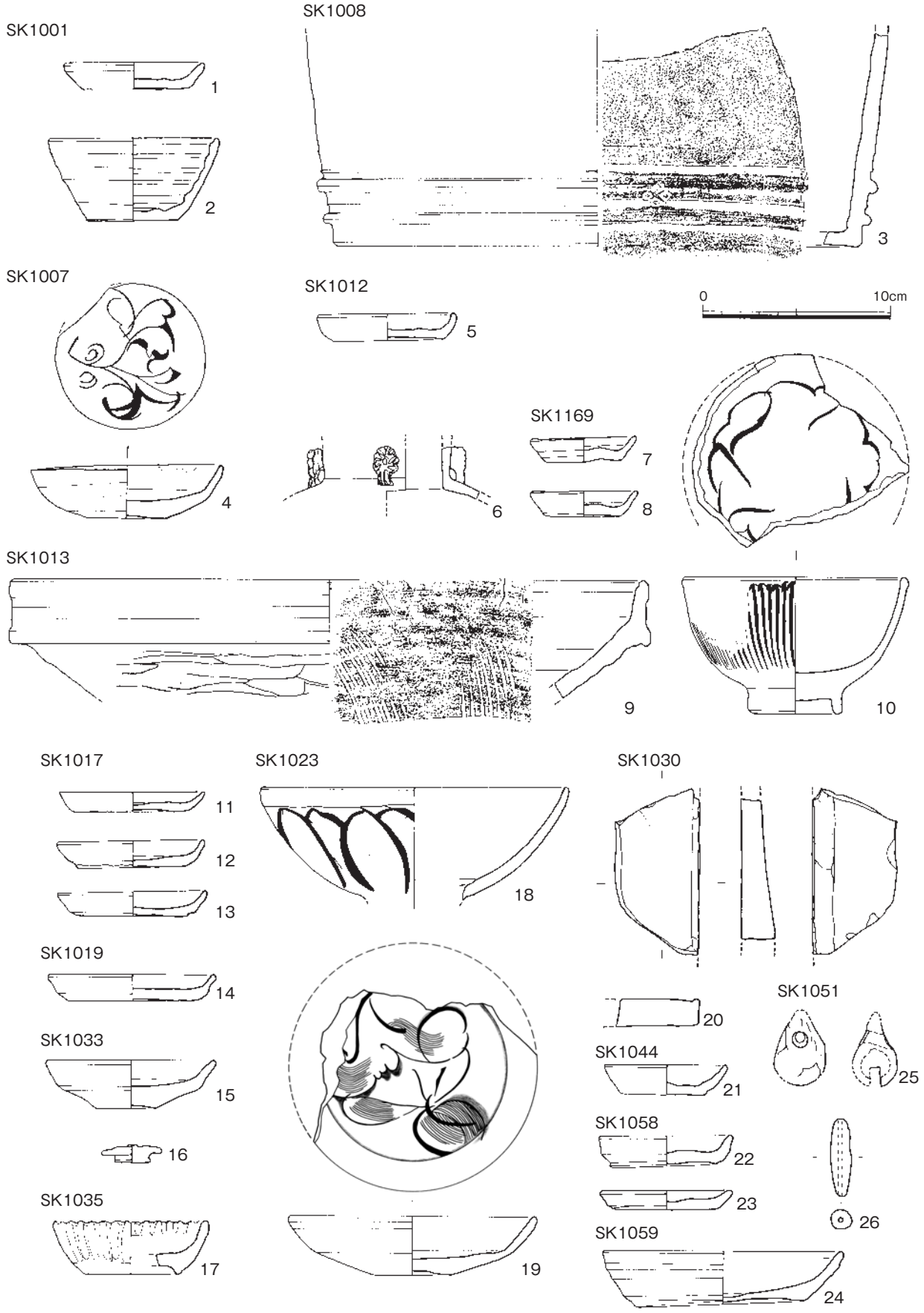


第 33 図　出土遺物実測図７（縮尺１/３）

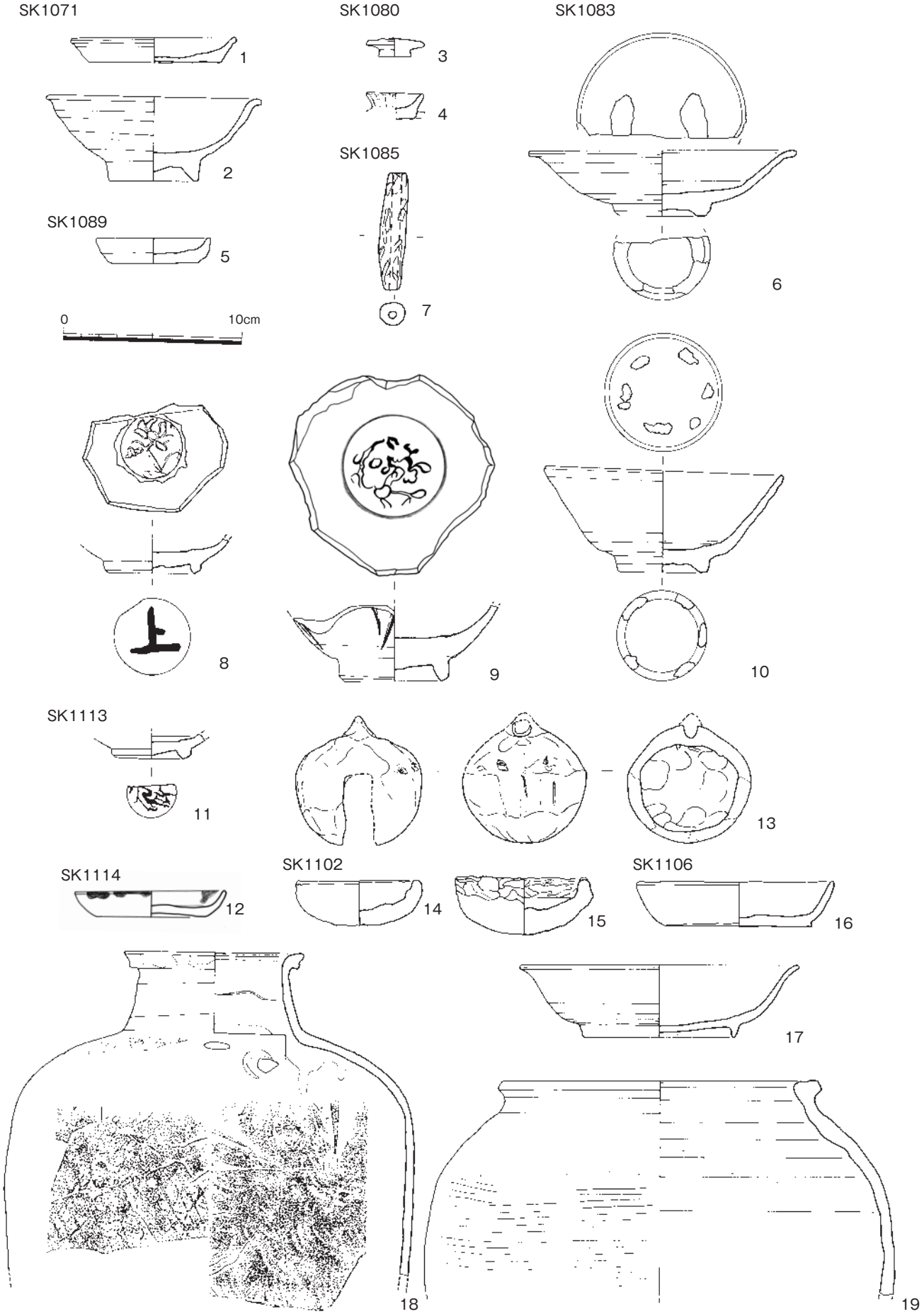
SK2036 出土遺物（第 40 図）**土師器** 小皿（9･10）口径 7.7･8.5cm、器高 1.1･1.4cm を測る。杯（11･12）口径 12.8・12.8cm、器高 2.6 ・2.5cm を測る。13 は瓦質土器すり鉢、14 は青白磁小壺蓋で混入、15 は粉青沙器の碁笥底の底部片で、内外面は印花による施文が施されている。

SK2047 出土遺物（第 40 図）**土師器** 杯（16 ～ 18）口径 10.6 ～ 11.2cm、器高 2.1 ～ 2.7cm を測る。19 は茶臼の受け部。

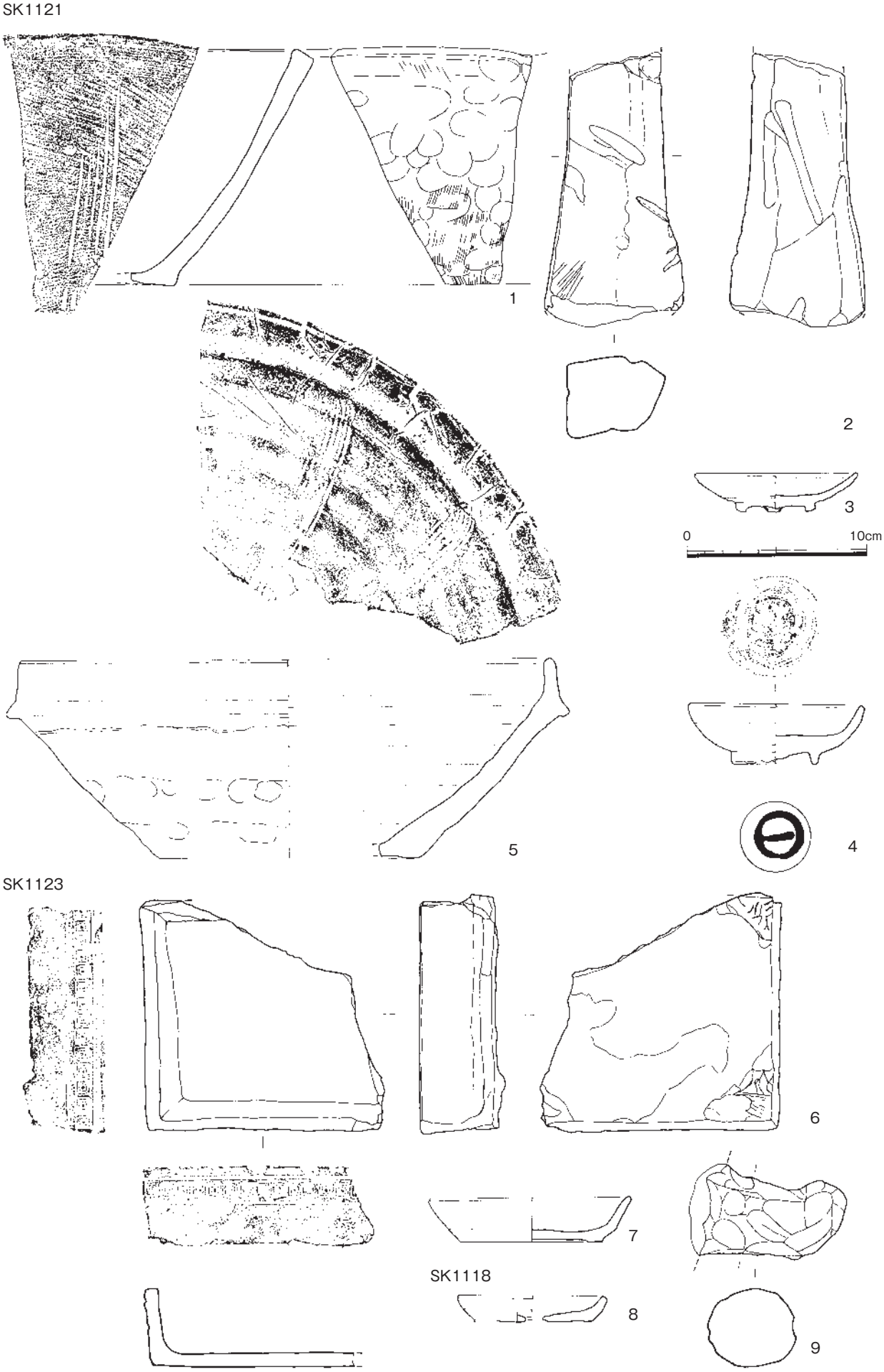
SK2004 出土遺物（第 41 図）**土師器** 小皿（1・2）口径 6.6・7.5cm、器高 1.3・1.4cm を測る。杯（3・4）口径 11.6・13.0cm、器高 2.5・2.4cm を測る。



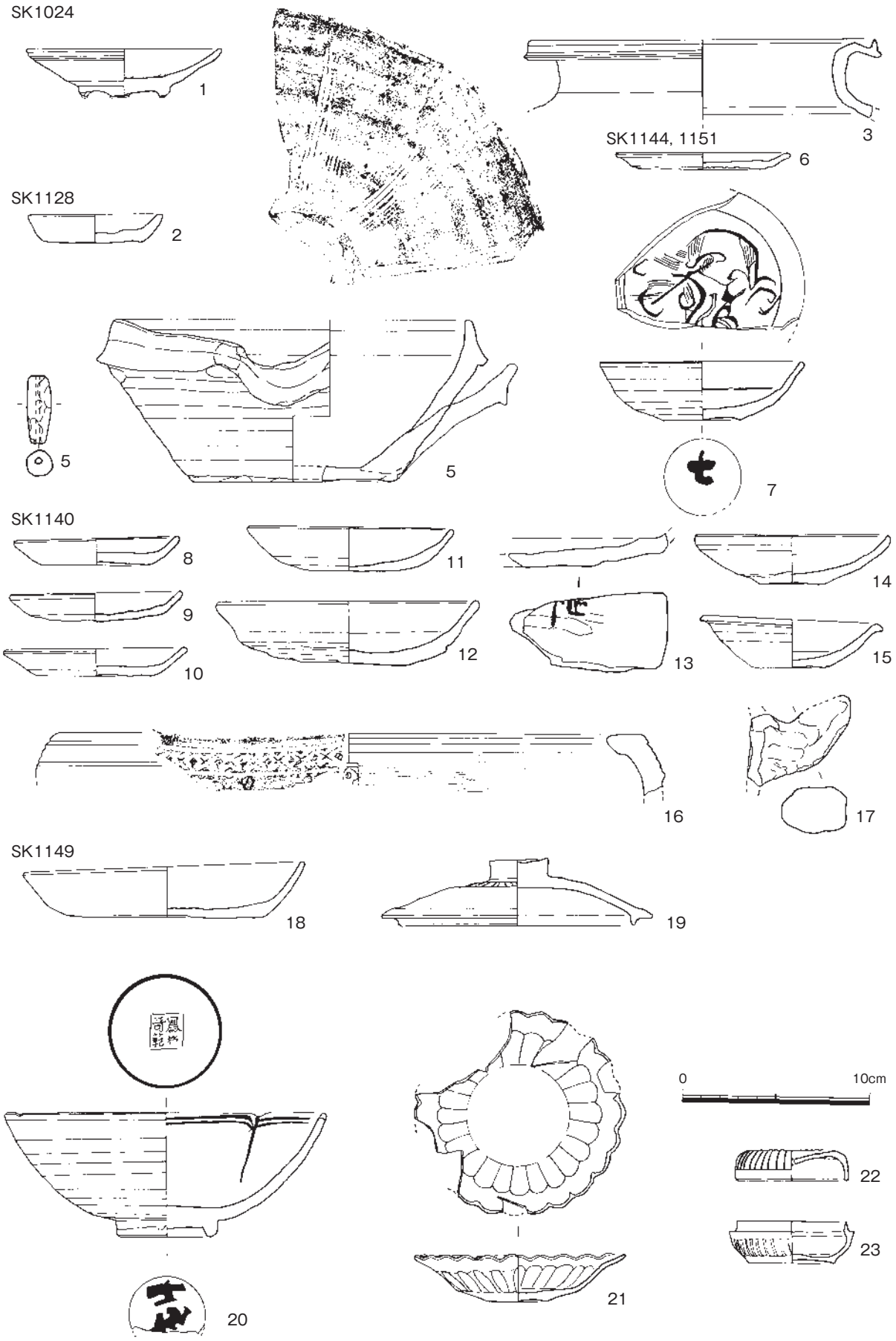
第 34 図　出土遺物実測図８（縮尺１/３）



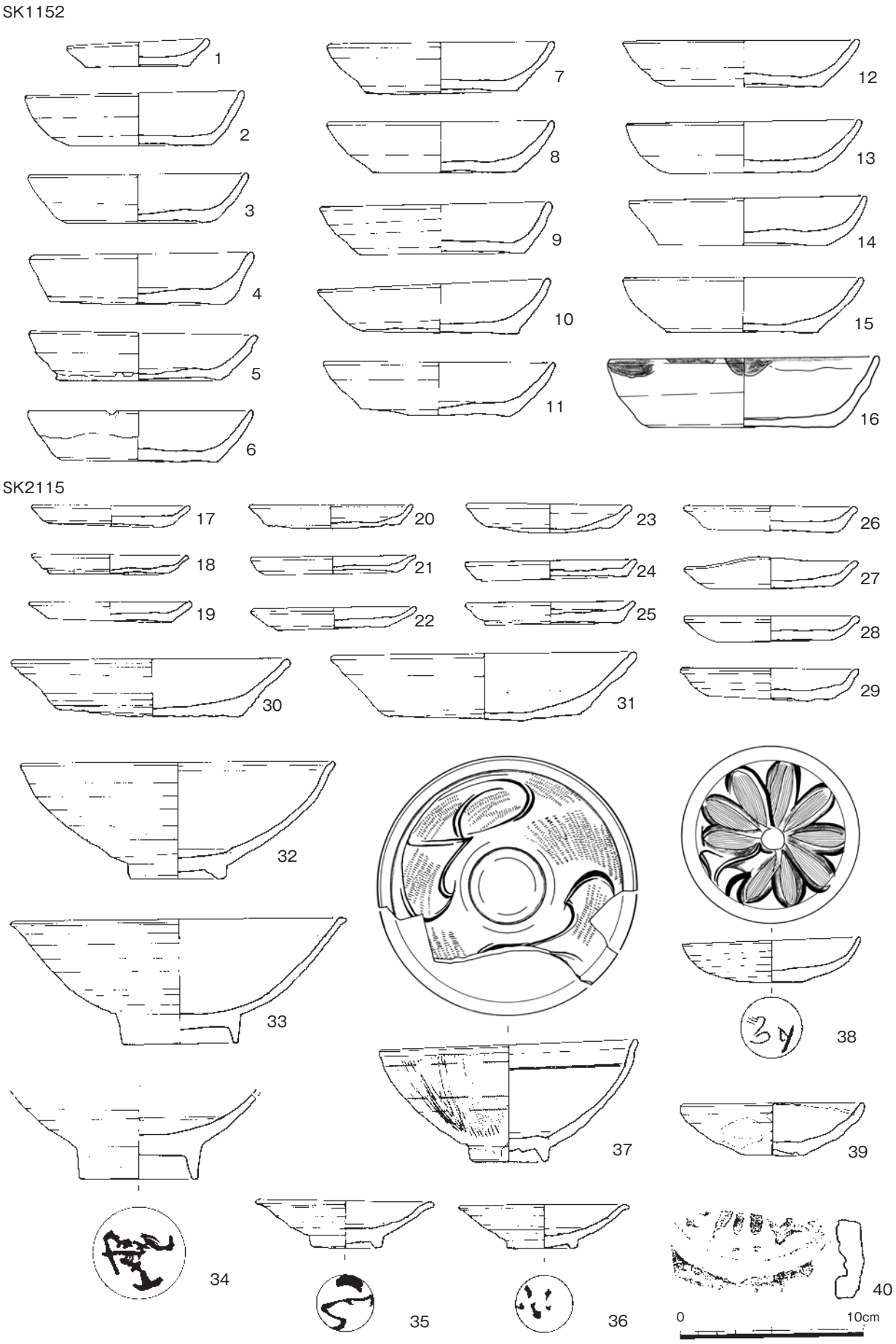
第 35 図　出土遺物実測図９（縮尺１/３）



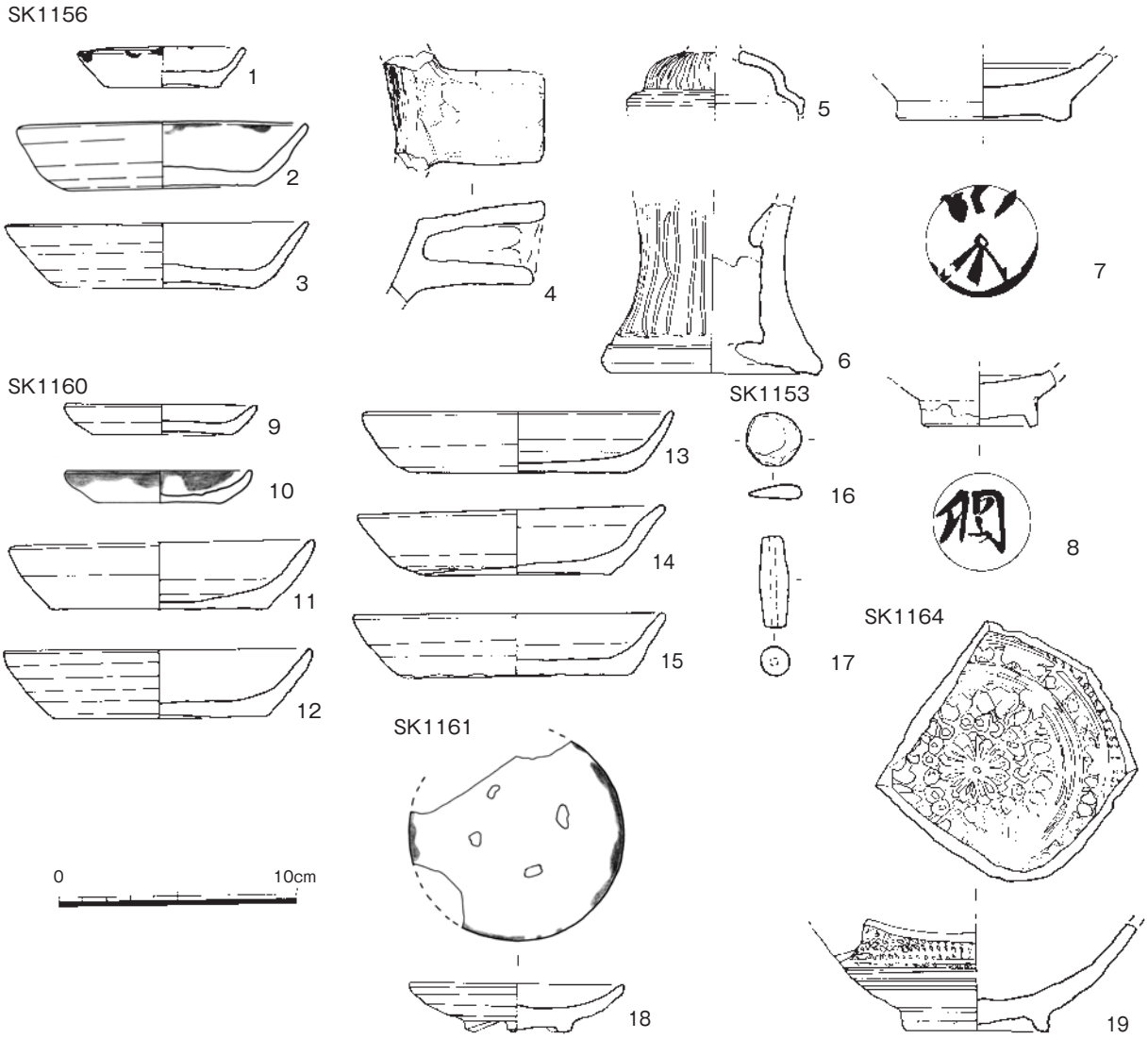
第 36 図　出土遺物実測図 10（縮尺 1 / 3）



第 37 図　出土遺物実測図 11（縮尺 1 / 3）



第 38 図　出土遺物実測図 12（縮尺 1 / 3）



第 39 図　出土遺物実測図 13（縮尺 1 / 3）

SK3081 出土遺物（第 41 図）**白磁** 7 は碗Ⅱ－4 で、体部内面に櫛状工具で簡略な文様を施す。6 は皿Ⅵ－1b で、体部の下位に段が付く。

SK3093 出土遺物（第 41 図）8 は丸底杯で内外面とも密にヘラ磨きを施す。9 は**陶器** 長瓶である。

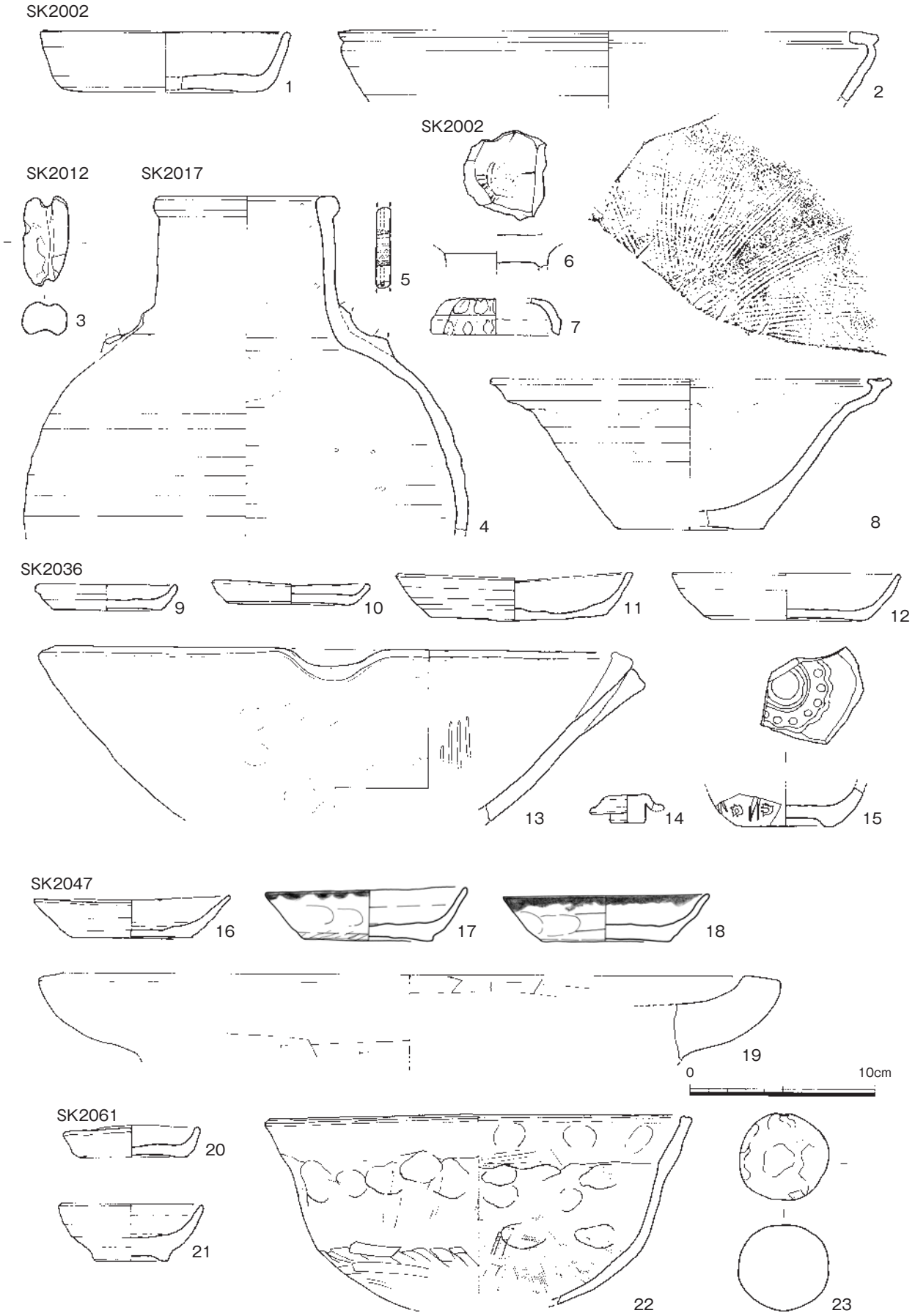
SK2061 出土遺物（第 42 図）1 は**土師器**鍋で、直線的に屈曲する口縁部と体部の境は内面には稜が付くが、外面は不明瞭である。口縁部内面は横方向のハケ目、体部内面は斜め方向のハケ目、外面はハケ目がナデ消されている。底部は丸底で、外面には煤が付着している。2 は**陶器**甕で、口縁部は鋤先状を呈する。

SK2062 出土遺物（第 42 図）**土師器** 小皿（3・4）2 点とも口径 8.0cm、器高 1.3cm を測る。杯（5）口径 12.3cm、器高 2.6cm を測る。

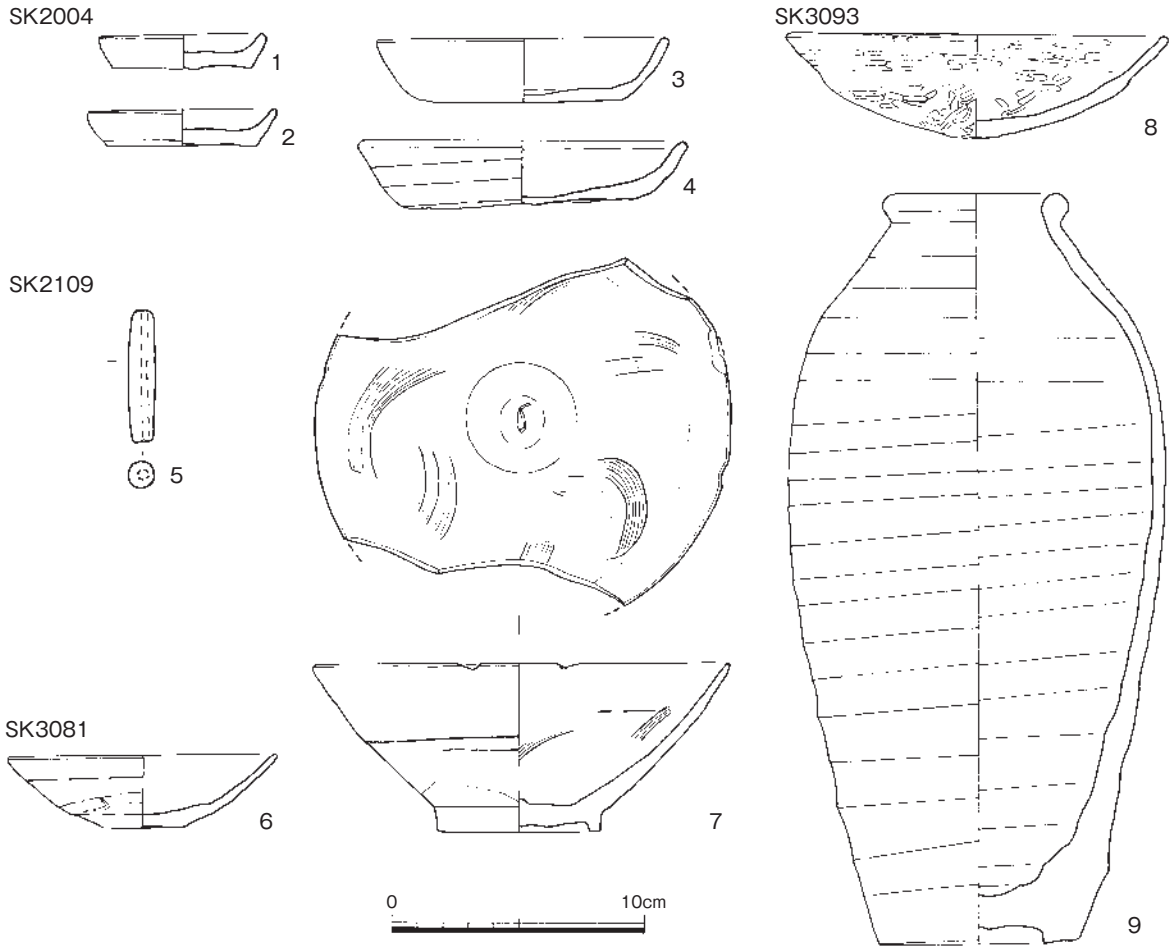
SK2071 出土遺物（第 42 図）6 は**青磁**碗で、高台畳付まで施釉され、見込の釉は掻き取られている。7 は**瓦質土器**湯釜で、やや内に窄まる口縁部外面は横ナデ、内面は横方向のハケ目、体部外面はヘラ磨き、内面はやや斜め方向のハケ目を施す。

SK2166 出土遺物（第 43 図）1 は鍔状の口縁部に、平底の黄釉鉄絵の盤で、口縁部外面から内面全体に化粧土、その上からほぼ同じ範囲で釉が掛かる。内面の体部下半から底面にかけて魚 3 匹を描く。

SK2100 出土遺物（第 44 図）1 は龍泉窯系青磁皿で、平坦な底部から口縁部まで外反して大きく開く。口縁部を輪花状にし、内面の口縁部下に輪花に沿ったヘラ彫り、底部との境に圏線をヘラ彫り、



第 40 図　出土遺物実測図 14（縮尺 1 / 3）



第 41 図　出土遺物実測図 15（縮尺 1 / 3）

見込に団花文をヘラと櫛状工具を用いて施文する。2 は石硯片で、楕円或いは木瓜形を呈するものか。

SK2101 出土遺物（第 44 図）3 は樽形を呈する陶器壷で、頸部と胴部の境には段が付き、頸部は内傾し直線的に延びる。口縁部は外に三角につまみ出される。

SK2130 出土遺物（第 44 図）**土師器** 小皿（10 ～ 25）口径 9.3 ～ 9.8cm、器高 1.3 ～ 1.6cm を測る。

SK2113 出土遺物（第 45 図）**土師器** 特小皿（1）口径 6.7cm、器高 2.1cm を測る。小皿（2 ～ 5）口径 8.0 ～ 9.4cm、器高 1.2 ～ 1.5cm を測る。高台付小皿（6）口径 9.0cm、器高 3.9cm を測る。

7 は**土師器**鍋で、口縁部と体部の境は不明瞭で、内面は横方向のハケ目、体部内面は斜め方向のハケ目、外面はハケ目がナデ消されている。体部と底部の境は外面には稜が付くが、内面は不明瞭である。外面には煤が付着している。8 は**瓦質土器**火鉢片で、口縁部外面に突帯 2 条、間に連続する渦文のスタンプを施す。12 は**青磁**皿で、高台内まで施釉され、見込の釉は掻き取られている。9 ～ 11・13 は混入、9 ～ 11 は白磁碗底部片で、外底に墨書が記されている。13 は龍泉窯系青磁碗Ⅰ－2 である。

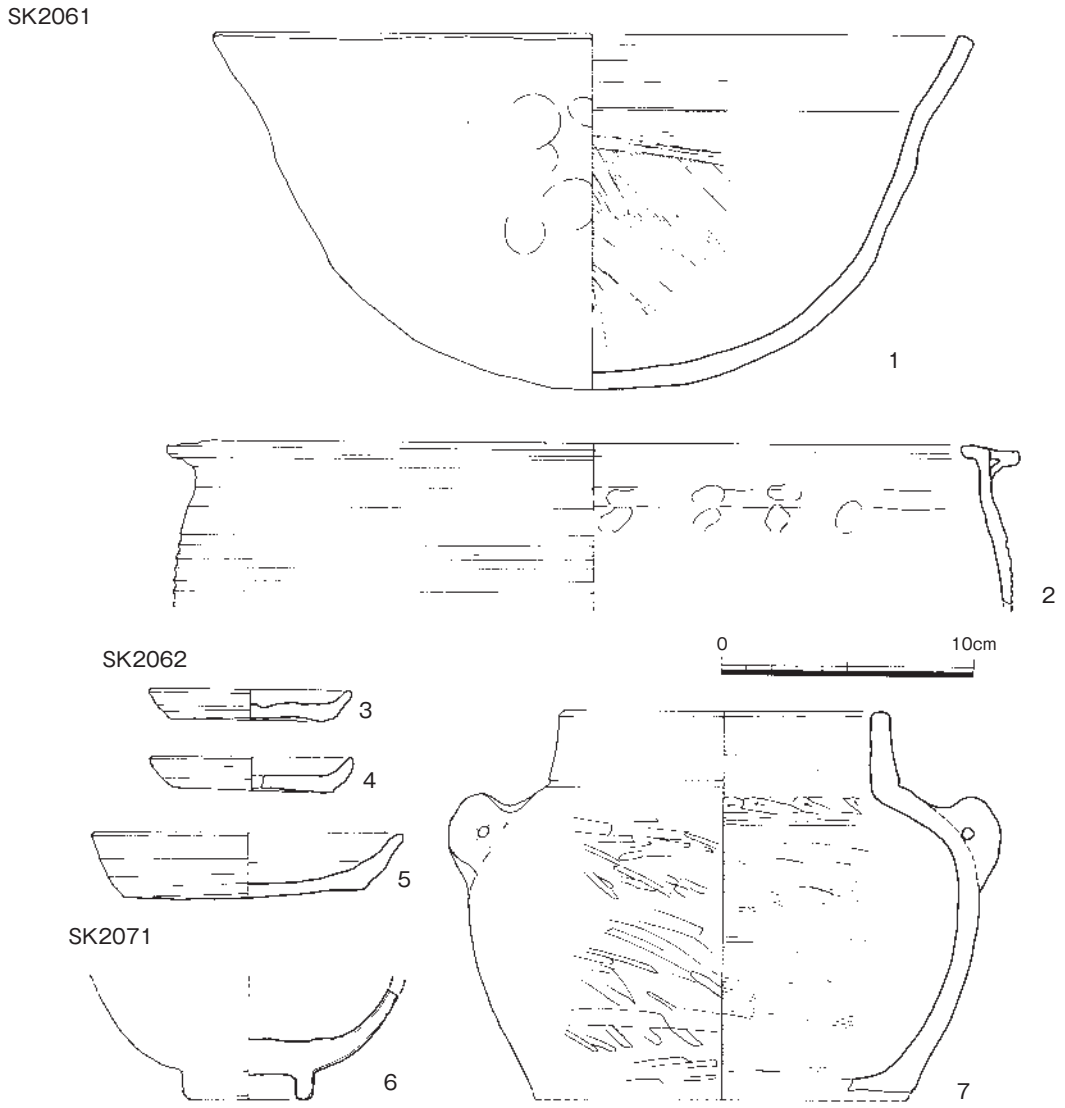
SK2114 出土遺物（第 46 図）**土師器** 小皿（1）口径 7.7cm、器高 1.1cm を測る。杯（2 ～ 7）口径 11.8 ～ 12.6cm、器高 2.4 ～ 2.8cm を測る。

SK2120 出土遺物（第 46 図）8 は紡錘形の石製品で、両端が欠失している。

SK2125 出土遺物（第 46 図）**土師器** 小皿（9 ～ 31）口径 7.8 ～ 8.4cm、器高 1.5 ～ 1.9cm を測る。杯（32 ～ 41）口径 11.8 ～ 12.5cm、器高 2.8 ～ 3.2cm を測る。31 は歪みが著しい。

42 は**瓦質土器**火鉢で、口縁部付近では直立に近く立ち上がり、内外面ともヘラ磨きが施されている。

SK3016 出土遺物（第 47 図）6・7 は高麗陶器甕で、口縁部は内外面とも横ナデ、胴部外面は叩き



第 42 図　出土遺物実測図 16（縮尺 1 / 3）

の後ナデ、内面は叩きの後横ナデ、当て具痕が残る。8 は毬杖玉、9 は滑石製硯片である。

SK3020 出土遺物（第 47 図）12・13 は**土師器**杯で、口径 15.4・15.2cm、器高 2.5・2.7cm を測る。14 は体部外面にヘラで条線を入れる同安窯系青磁碗Ⅲ類で、体部内面に櫛状施文具による弧状に連続する刺突文を施す。15 は同安窯系青磁皿Ⅲ－a で内外面とも無文である。16・17 は白磁碗底部片、18 は青磁小碗片で、外底に墨書が記されている。

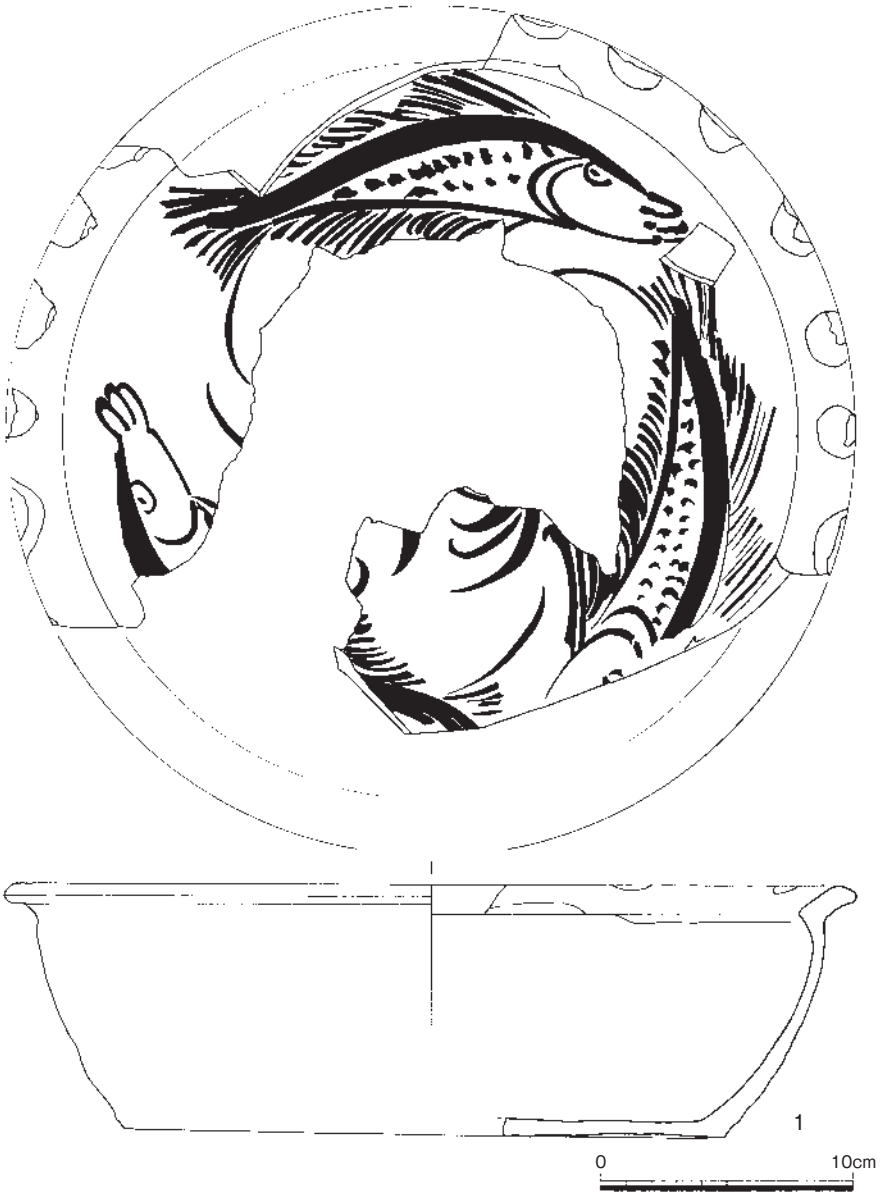
SK3024 出土遺物（第 48 図）1 ～ 3 は**土師器** 小皿で、口径 8.6 ～ 9.4cm、器高 1.0 ～ 1.4cm を測る。4 は見込の釉を輪状に掻き取る白磁皿Ⅲ－1 で、外底に墨書が記されている。5 は白磁皿、6 は青磁皿、7 は高麗陶器壷口縁部片である。

SK3027 出土遺物（第 48 図）**土師器** 8 は混入とみられる。9 ～ 26 は小皿で、口径 8.2 ～ 9.5cm、器高 0.9 ～ 1.8cm、27 は杯で口径 15.0cm、器高 3.0cm を測る。28 ～ 30 は丸底杯である。

白磁 碗（31 ～ 34）31 はやや内湾した直口縁、内底見込に段が付き、体部内面は白堆線で分割する碗Ⅱ－4b、32 は碗Ⅳ－1a、33 は浅碗Ⅵ－1b で外底に墨書が記されている。34 は碗Ⅶ－b 底部片である。35 は白磁皿Ⅵ－1b、36 は滑石製品で、石鍋の穴補修に用いられた。

SK3030 出土遺物（第 49 図）**青磁** 碗（1 ～ 3）1 は内外面とも無文の同安窯系青磁碗Ⅱ類、2・3 は内面に蓮華文を片彫りする龍泉窯系青磁Ⅰ－2 類である。4 は白磁皿、5 は青白磁合子蓋である。

SK2166



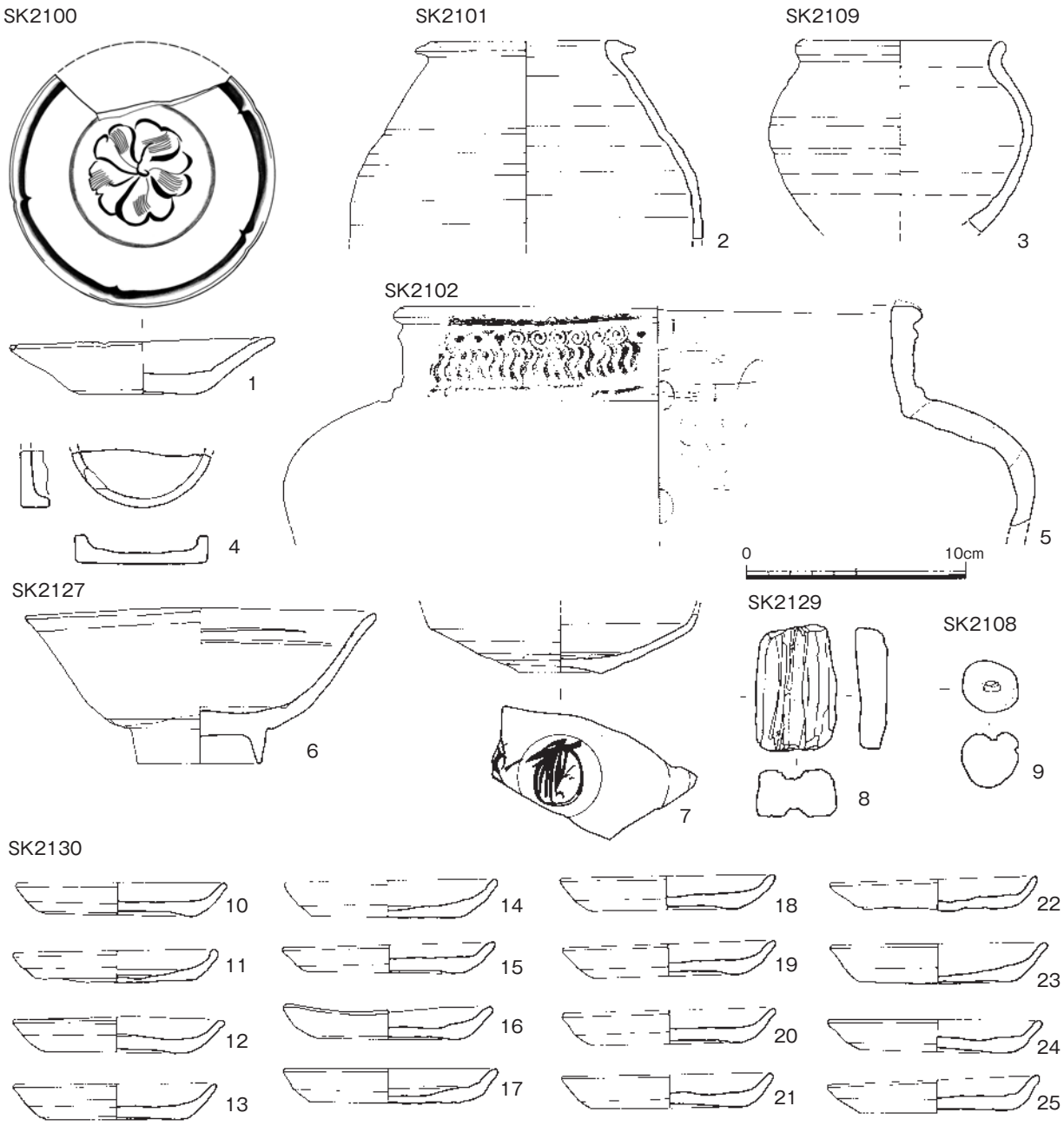
第 43 図　出土遺物実測図 17（縮尺 1 / 3）

SK3056 出土遺物（第 49 図）**白磁** 皿（6 ～ 9）同一器形の 4 点で、6 ～ 8 が内面から外面の底部付近まで施釉なのに対し、9 のみ口禿となっている。碗（10・11）口禿の碗Ⅸ－2a で、内底に段が付く。

SK3054 出土遺物（第 50 図）2 は土師器丸底杯、3 は白磁碗Ⅴ－2b、4 は白磁皿Ⅱ－1a、5 は陶器行平で、取っ手は欠失している。胎土は灰褐色を呈し、化粧土掛けした上から赤褐色の釉が掛かる。

SK3088 出土遺物（第 50 図）**土師器**（7 ～ 9）7 は京都系土師器小皿、8・9 は丸底杯である。10 は瓦器椀である。**白磁**（11 ～ 14・17）11 －碗Ⅱ－1、12・13 －やや内湾した直口縁、内底見込に段が付く碗Ⅱ－4a で、体部内面に櫛状工具による施文がみられる。14 はⅤ－2b で内外面ともに櫛状工具による施文がみられる。17 は無文の皿Ⅵ－1b である。15・16 は陶器四耳壷で同一個体とみられるが、接合できなかった。黒色微粒子を含む灰色の胎土にオリーブ黄色の釉が掛かる。17 は高麗陶器胴部下半片で、外面は叩きの後ナデ、内面は叩きの後横ナデ、当て具痕が残る。

SD3094 出土遺物（第 51･52 図）11 は底部ヘラ切り離しの土師器小皿で、口径 9.7cm、器高 1.3cm を測る。12 は丸底杯である。13･14 は白磁碗Ⅳで、内底に段や沈線はない。15 は口縁部を輪花状にし、体部内面は白堆線で分割する。外底に墨書が記されている。16 は越州窯青磁八角水注の底部片である。1 はＬ字口縁の小型の陶器甕、4 は口縁部がＬ字に折れ内湾する。胴部は丸みをもち、底部は欠失し器種は不明。口縁端部に横耳を貼付するが、残存する破片では 1 ヵ所のみだが、器周の残存から元は 2 ヵ所とみられる。胎土は灰色を呈し、黒～褐色の釉が内面に掛けられ、外面は露胎である。2 は土錘、3 は滑石製石錘である。



第 44 図　出土遺物実測図 18（縮尺 1 / 3）

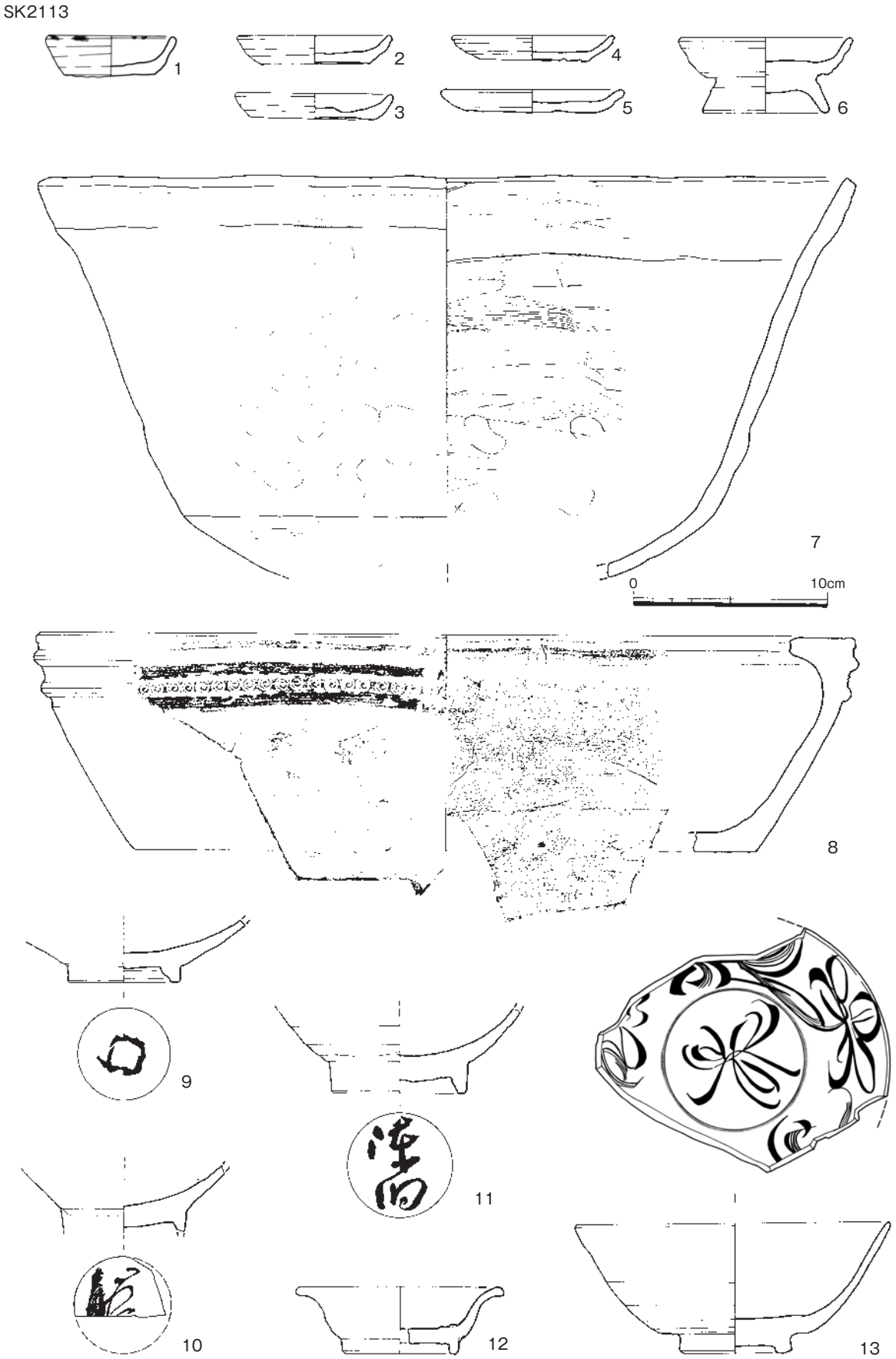
SK3100 出土遺物（第 52 図）**土師器** 小皿（5）口径 8.9cm、器高 1.4cm を測る。丸底杯（6 ～ 8）。

白磁 碗（11 ～ 15）11・12 は碗Ⅱ－4 で、11 の内面は無文、12 は口縁部を輪花状にし、体部内面に櫛状工具による施文がみられる。13・14 －は碗Ⅳ－1、15 －碗Ⅴ－2a、17 は鉢Ⅲで、内面に鉄絵が施される。9・10 は皿Ⅵ 1－b である。16 は粗製の高麗青磁小碗、18 は**陶器**耳壺Ⅶである。

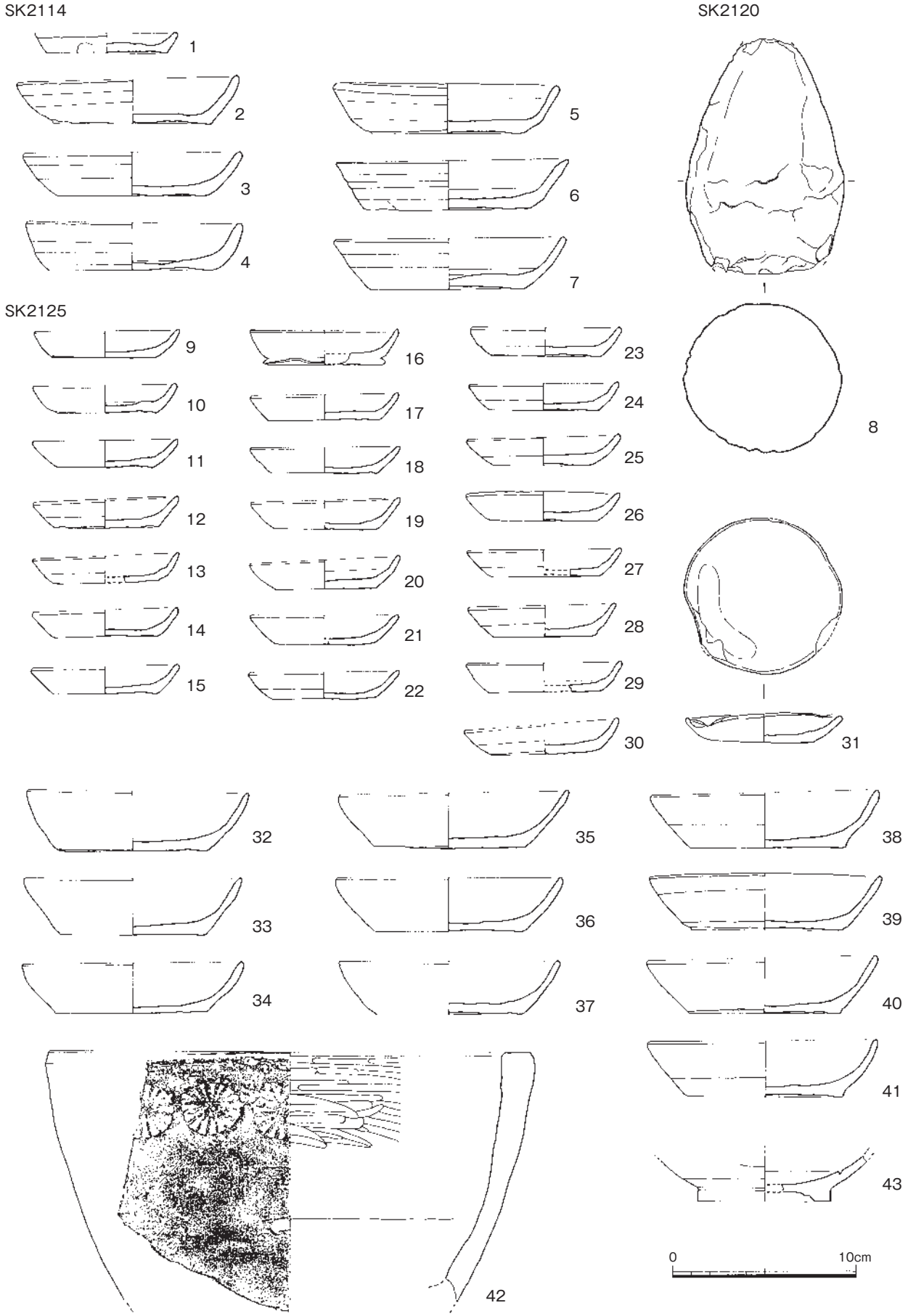
SK3132 出土遺物（第 54･55 図）**土師器** 小皿（1・2）口径 8.8・9.1cm、器高 6.0・0.7cm を測る。杯（3 ～ 17）口径 14.8 ～ 16.5cm、器高 2.8 ～ 3.5cm を測る。

陶器 18・19 は褐釉四耳壺Ⅴ－2 類、22 は黄釉褐彩四耳壺Ⅲ－2 類、20・21 は黄釉鉢Ⅲ－2 類である。

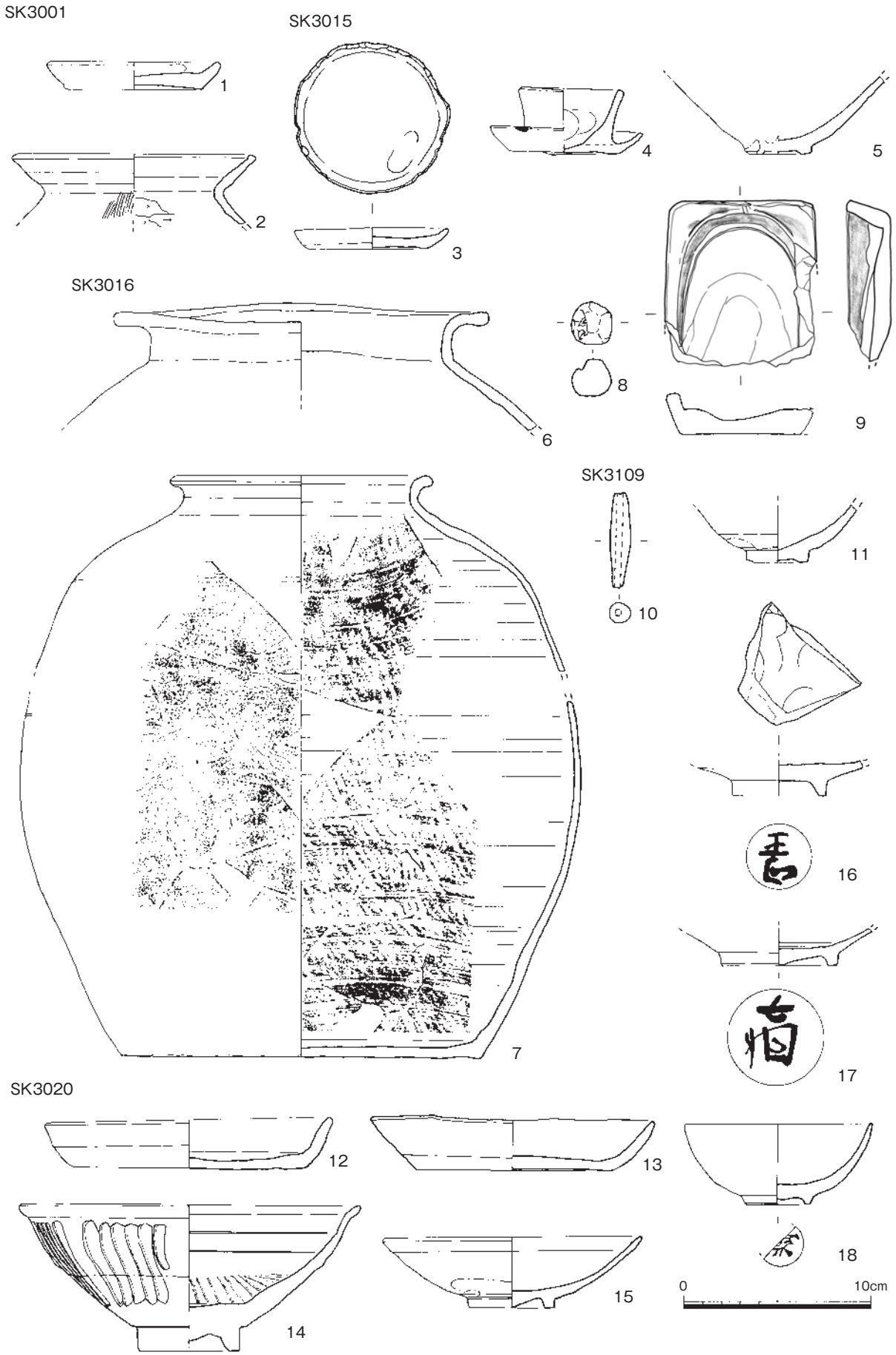
SK3138 出土遺物（第 56 図）1 は**土師器**小皿で、口径 9.3cm、器高 1.5cm を測る。2 は**白磁**碗Ⅴ－4b で、外底に墨書が記される。3 は滑石製錘、4 は白磁皿Ⅵ－1b、5 は褐釉陶器壺、6 は**白磁**碗Ⅴ－1a 類、7 は滑石製石鍋底部である。



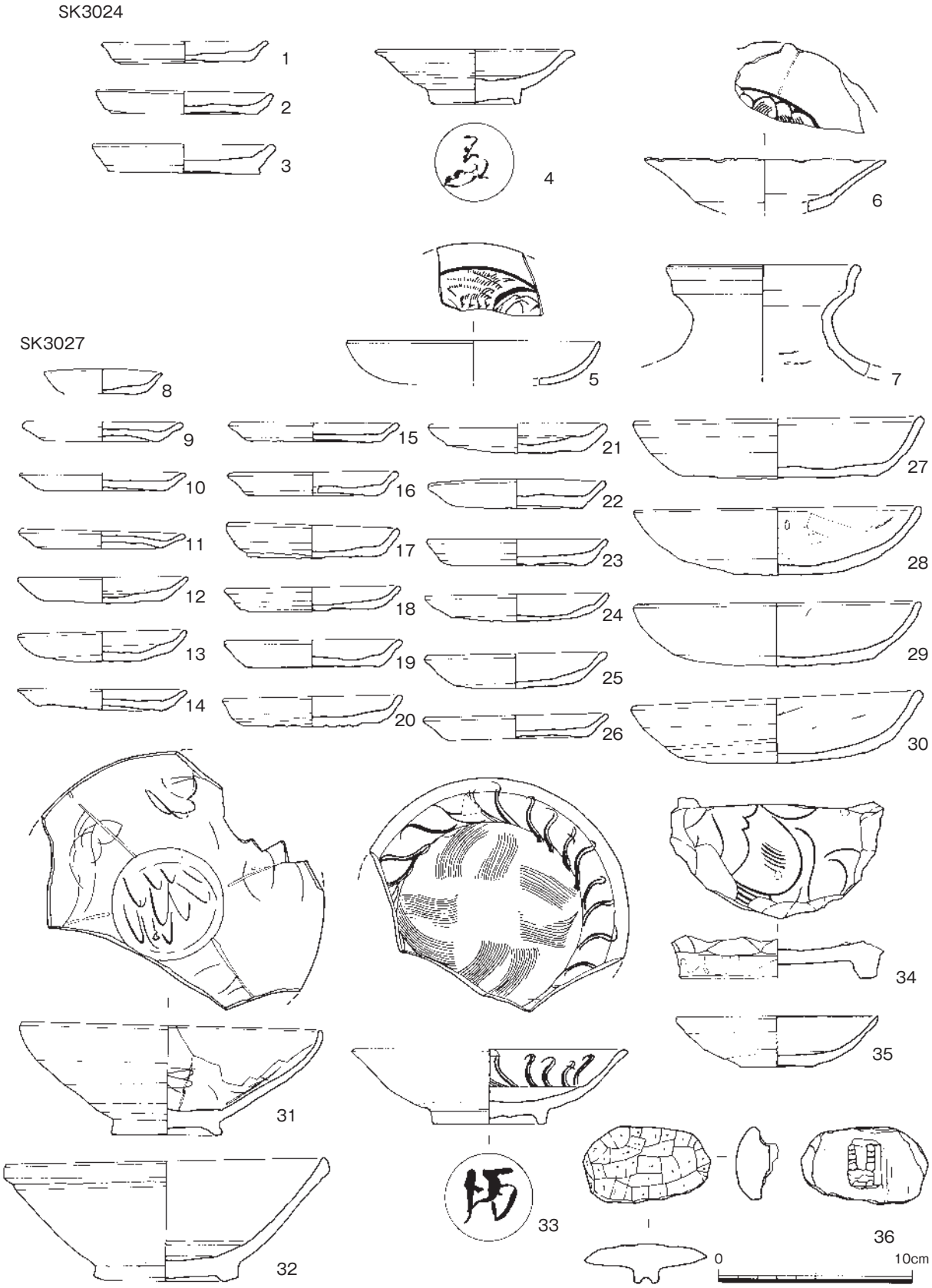
第 45 図　出土遺物実測図 19（縮尺 1 / 3）



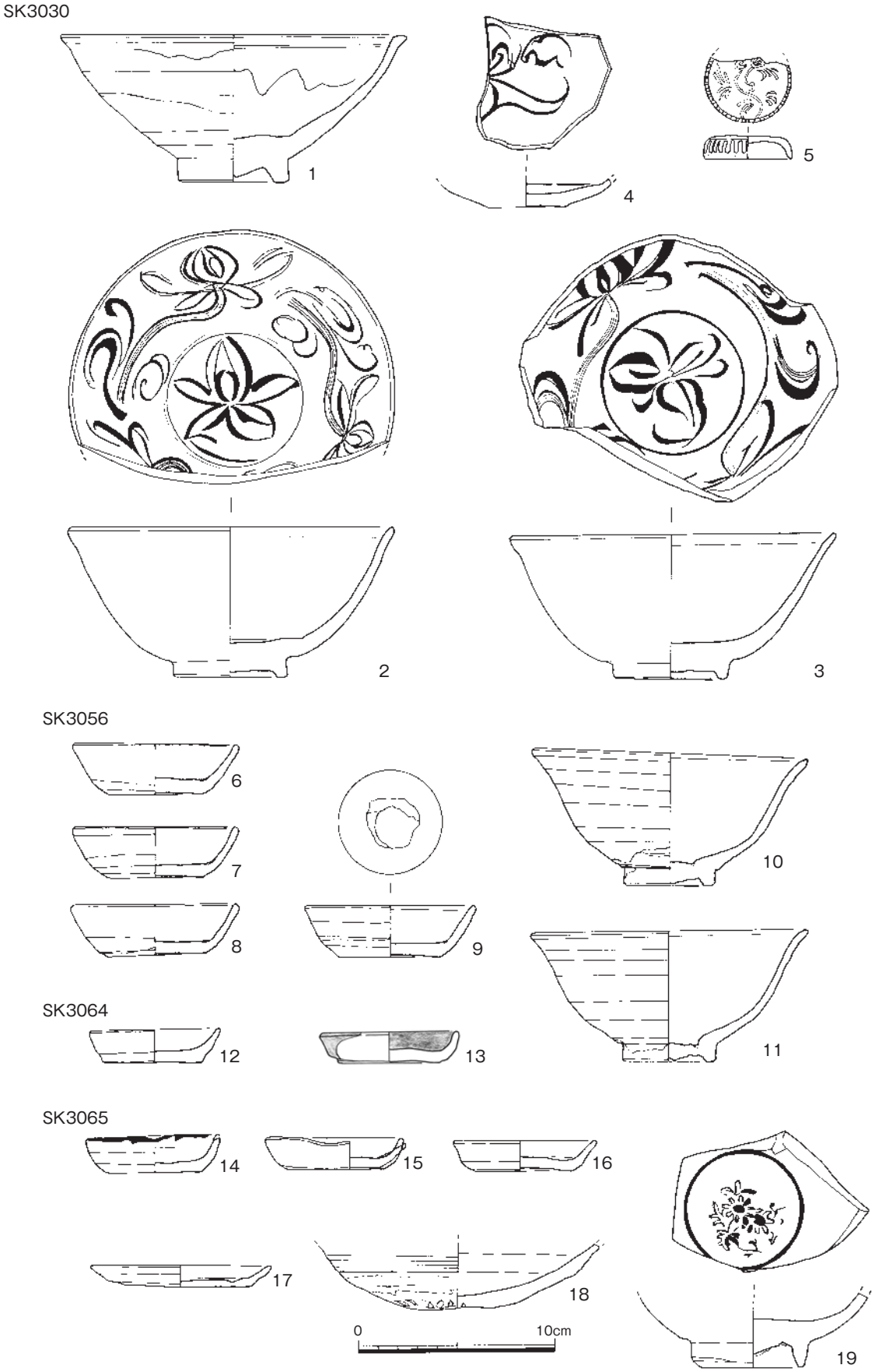
第 46 図　出土遺物実測図 20（縮尺 1 / 3）



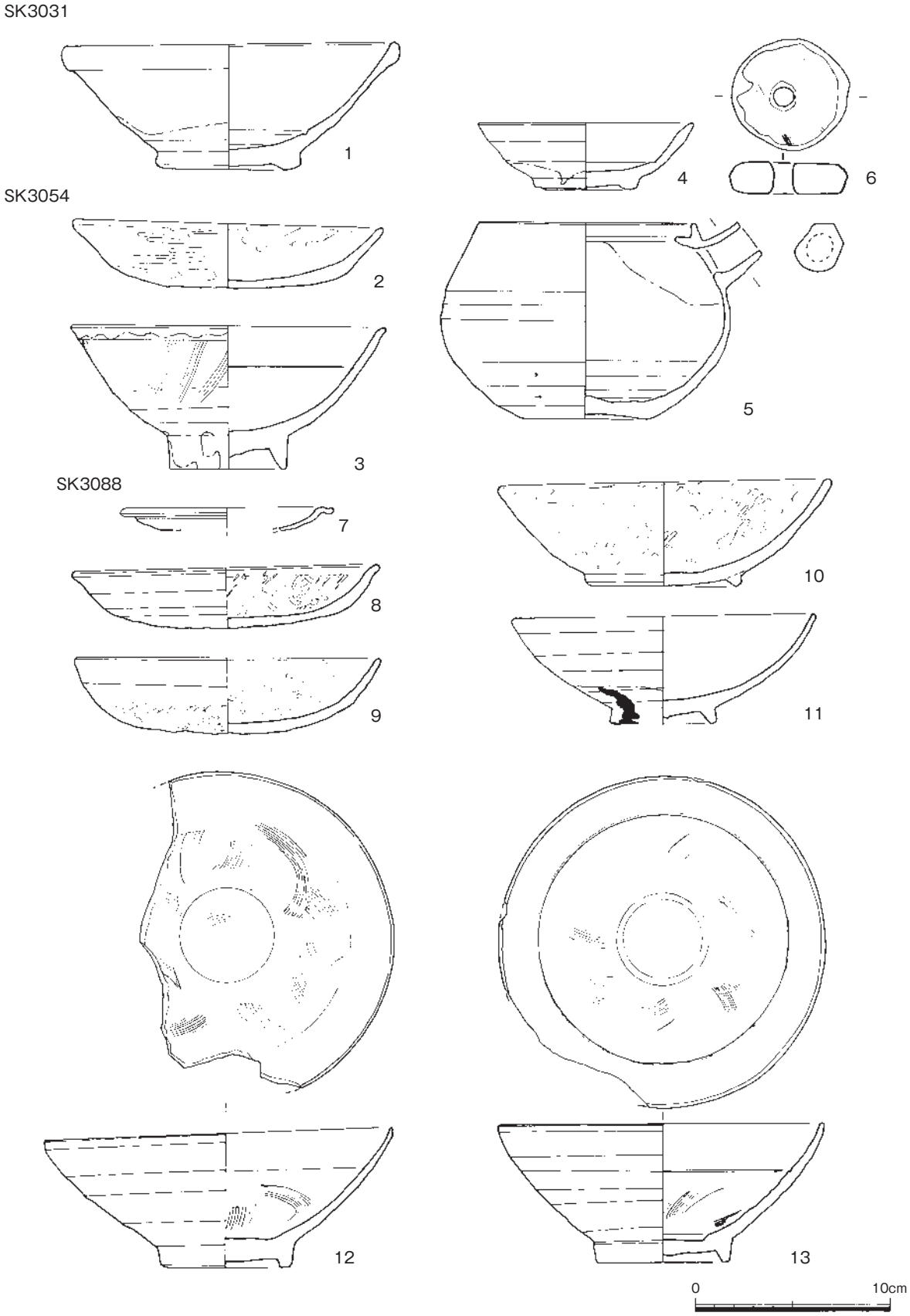
第 47 図　出土遺物実測図 21（縮尺 1 / 3）



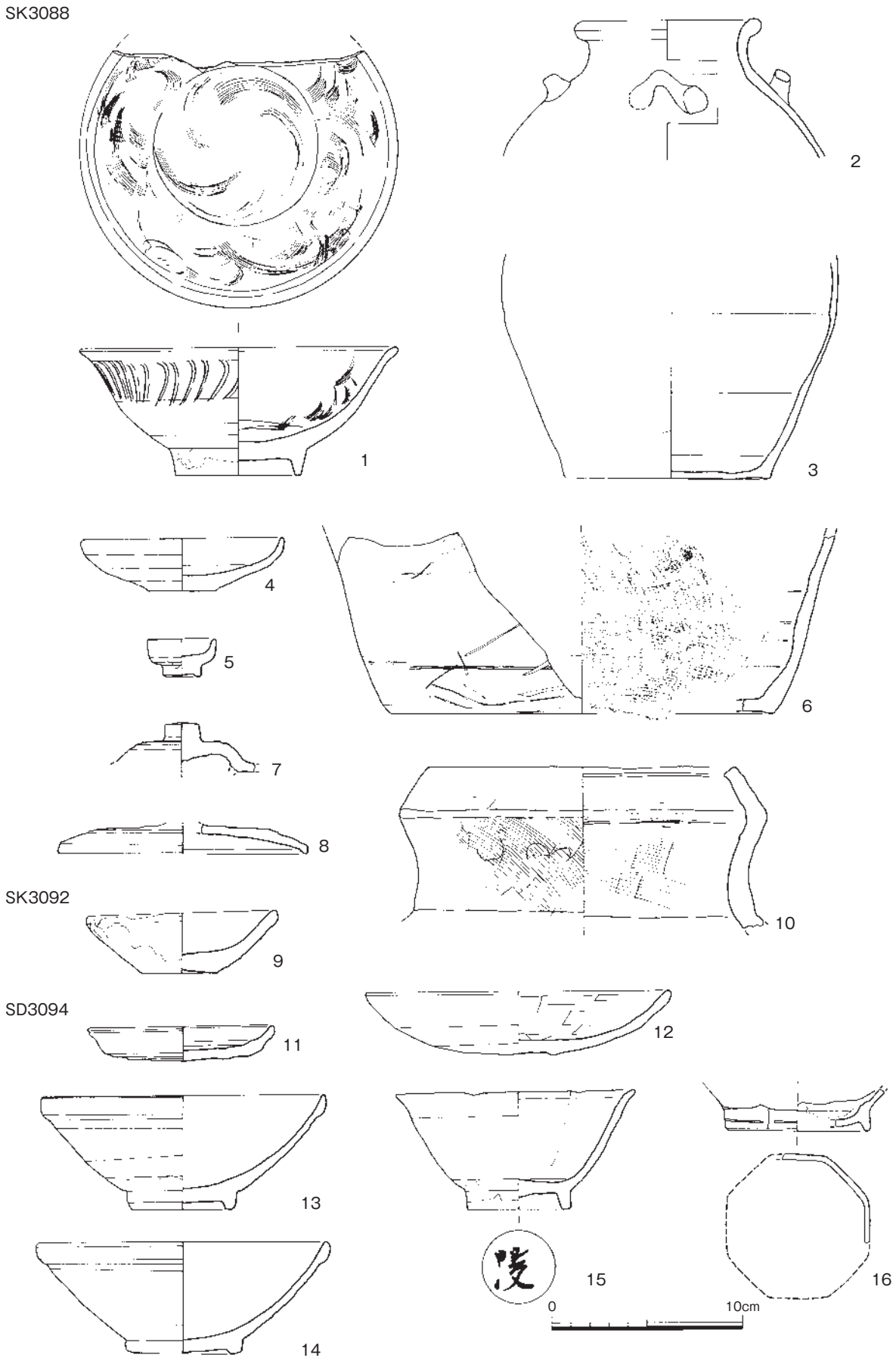
第 48 図　出土遺物実測図 22（縮尺 1 / 3）



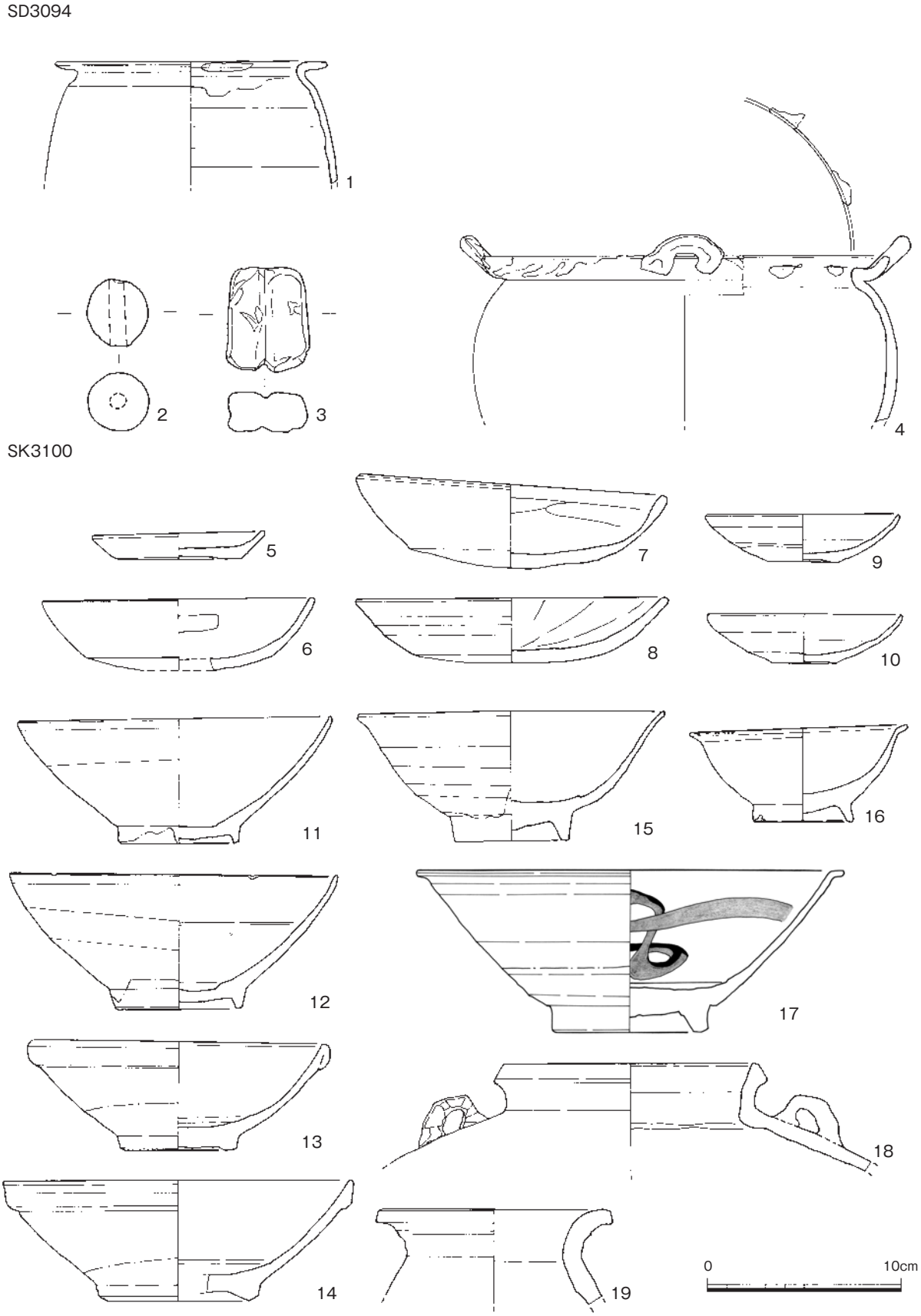
第 49 図　出土遺物実測図 23（縮尺 1 / 3）



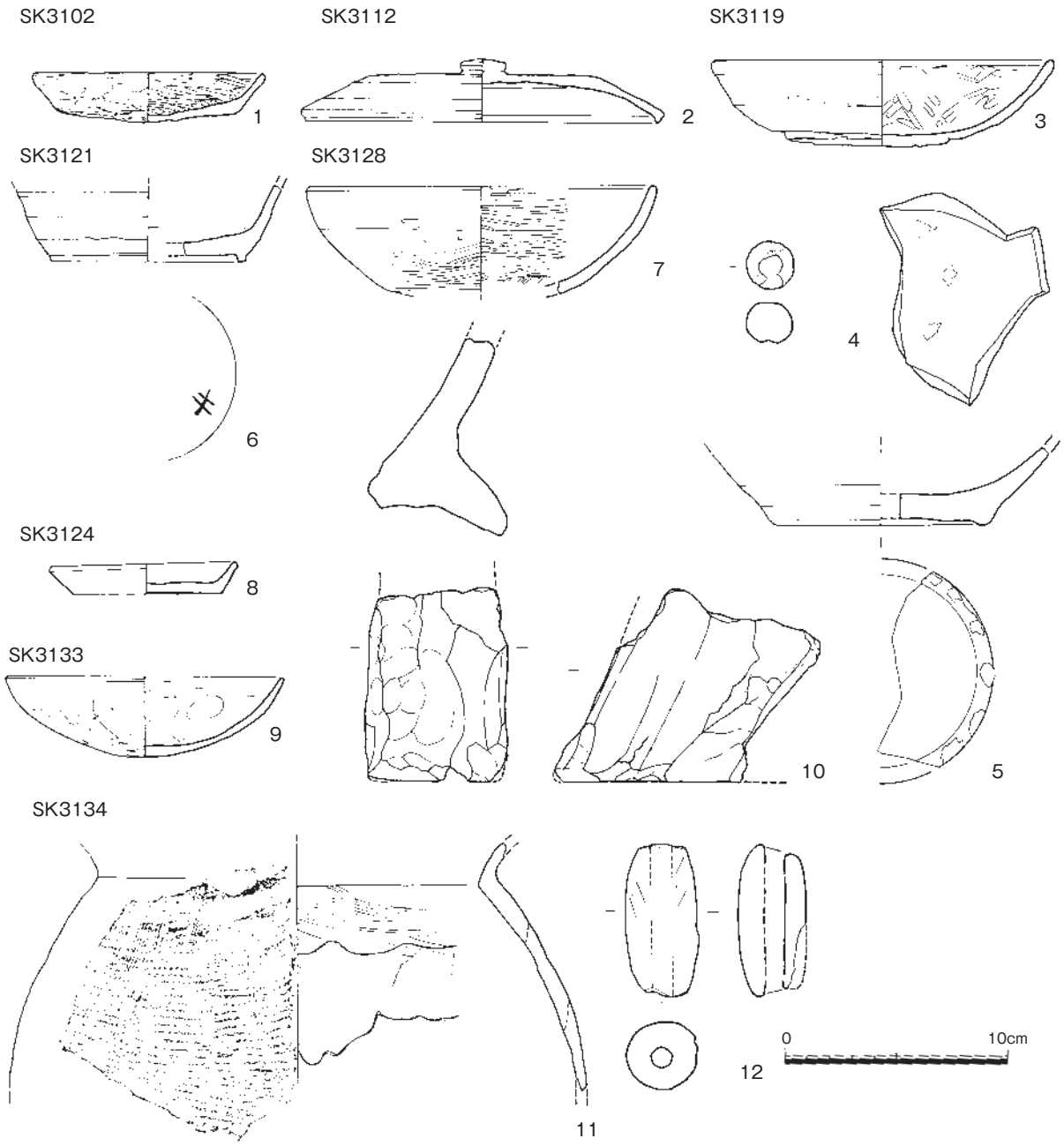
第 50 図　出土遺物実測図 24（縮尺 1 / 3）



第 51 図　出土遺物実測図 25（縮尺 1 / 3）



第 52 図　出土遺物実測図 26（縮尺 1 / 3）



第 53 図　出土遺物実測図 27（縮尺 1 / 3）

SK3150 出土遺物（第 57 図）**土師器** 小皿（1・2）口径 7.9・8.0cm、器高 1.4・1.5cm を測る。1 の口縁部と底部の境には 3 か所孔を穿つ。杯（3 ～ 8）口径 12.0 ～ 15.1cm、器高 2.4 ～ 2.9cm を測る。

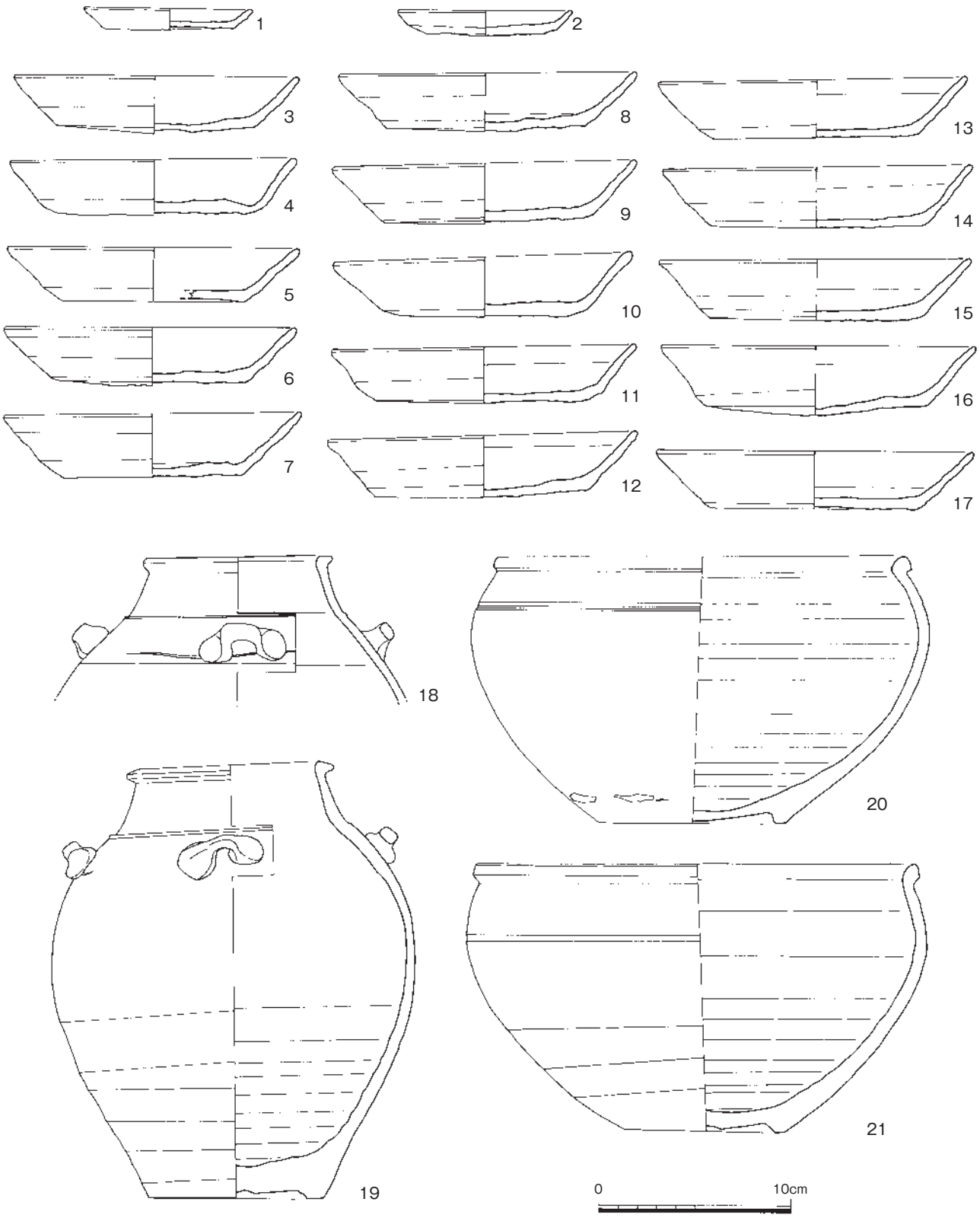
9 は**瓦器**椀、10 は**白磁**碗Ⅴ－2 で、体部内面に櫛状工具による施文がみられ、内底に段や沈線はない。11 は青白磁小壺蓋で、筒部下面に墨書が記されている。

SK3200 出土遺物（第 57 図）12・13 は**土師器**小皿で、12 は口径 8.9cm、器高 1.5cm を測る。13 は口縁部が欠失し、外底に墨書「十」が記される。14 は**白磁**小碗で外底に墨書「大綱」が記されている。

SD4002 出土遺物（第 58 図）**土師器** 小皿（1）口径 8.0cm、器高 1.1cm、杯（2）口径 13.1cm、器高 2.9cm を測る。3 は陶器四耳壺である。

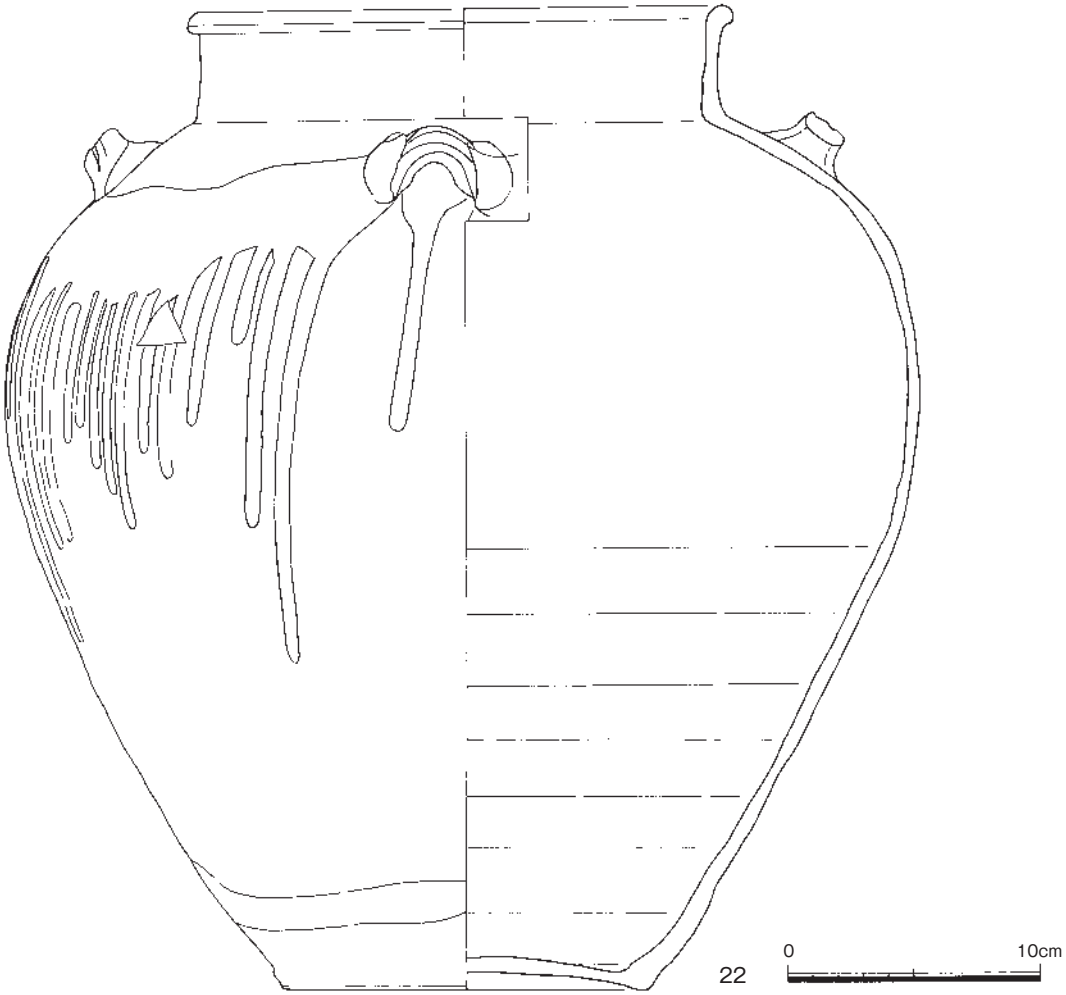
SK4060 出土遺物（第 58 図）6 は**白磁**碗Ⅴ－4a で、口縁部が屈折し、端部は水平におさめられ、

SK3132



第 54 図　出土遺物実測図 28（縮尺 1 / 3）

SK3132



第 55 図　出土遺物実測図 29（縮尺 1 / 3）

輪花を有する。外底に墨書「下」と記されている。

SK4058 出土遺物（第 58 図）**土師器** 小皿（8・9）口径 8.0・8.5cm、器高 1.1・1.0cm、杯（10）口径 12.9cm、器高 2.8cm を測る。

SK4068 出土遺物（第 58 図）17 は無釉のこね鉢で、体部外面は横ナデ、内面は斜め方向のナデ。

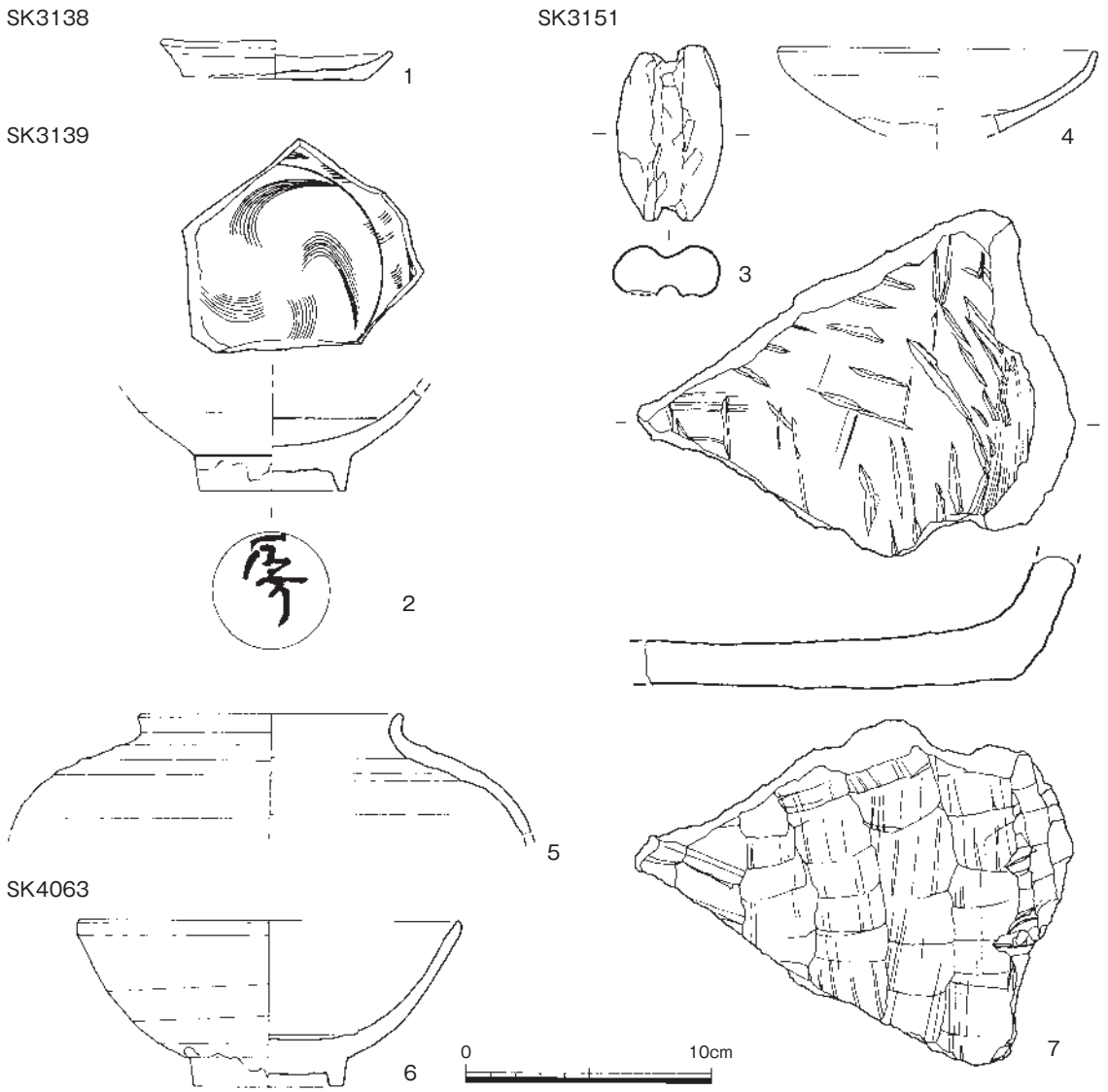
SK4072 出土遺物（第 58 図）19 は底部に穿孔がある壺で、頸部より上位は欠失している。体部外面はハケ目後、ヘラ磨き、内面は指頭押圧後、ナデを施す。

SK4100 出土遺物（第 59 図）**土師器** 杯（5・6）口径 11.4・13.1cm、器高 2.7・2.8cm を測る。

SK4112 出土遺物（第 59 図）**土師器** 小皿（8）口径 8.7cm、器高 1.3cm、杯（9）口径 14.4cm、器高 3.4cm を測る。

SK5082 出土遺物（第 59 図）10 は**白磁**四耳壺で、胴部下半以下が欠失している。口縁部は玉縁状で、胴部は倒卵形を呈し、なだらかな肩部に横向きの四耳を貼り付ける。

SK001 出土遺物（第 60 ～ 62 図）**白磁**四耳壺（1 ～ 3）1 は胴部下半以下が欠失している。口縁部は丸く折り曲げられ、胴部は倒卵形を呈し、なだらかな肩部に凹線を廻らせ横向きの四耳を貼り付ける。2 は口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部はやや鋭角に折り曲げられている。3 は胴部下半で、外に開く角高台の端部外面をわずかに面取りする。



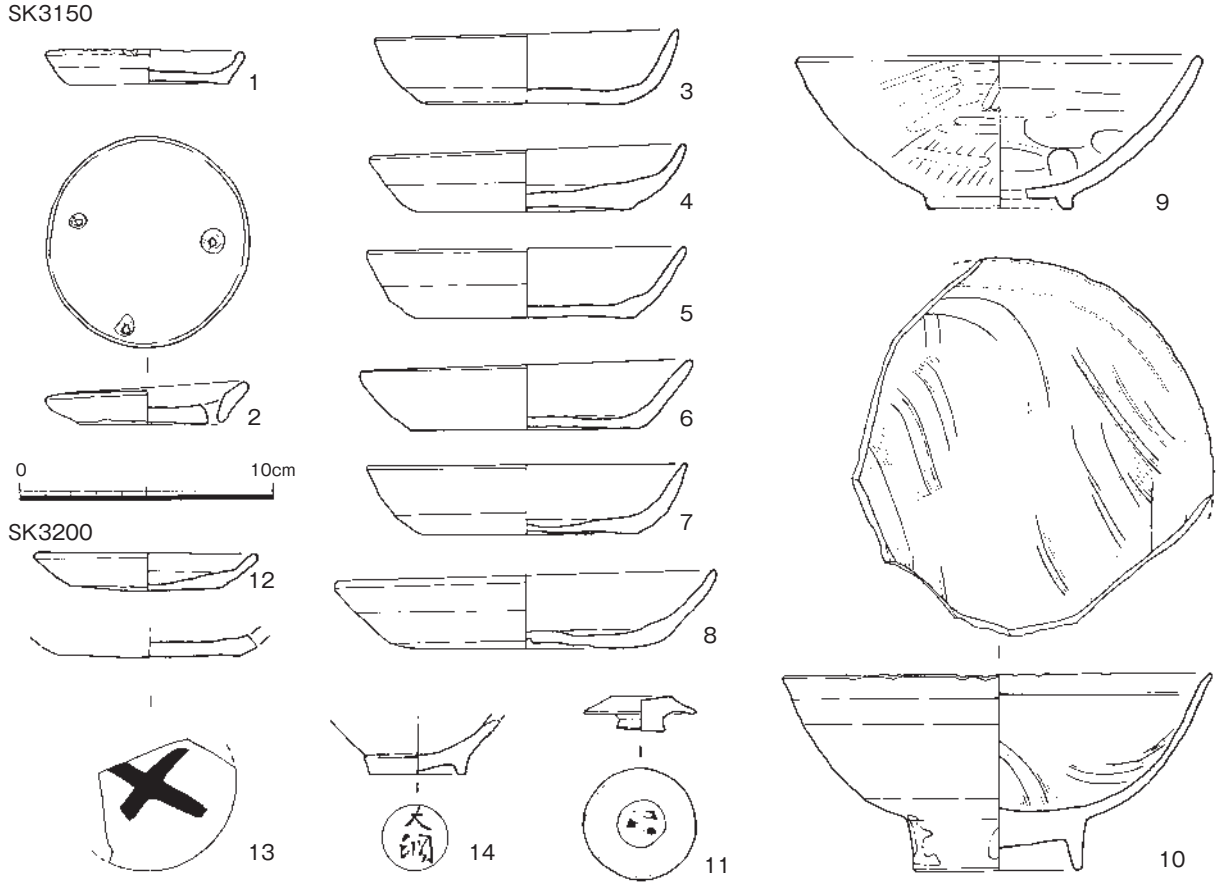
第 56 図　出土遺物実測図 30（縮尺 1 / 3）

陶器 経筒（4 ～ 7）4 はやや外に開く深めの被せ蓋で、天井部は平坦で上面に小皿のような形状の縁を廻らせ、中心に相輪を象った紐が付く。5 は筒身の上半で、内湾する胴部は口縁部でやや窄まり蓋受けとなす。胴部中位のやや上位に凹線を 2 条、その下位に波状沈線をめぐらす。6 は蓋の天井部片で、小皿状の天井部の中心に擬宝珠状の紐が付く。7 は筒身の中位で、上位に波状沈線、その下位に凹線を 2 条めぐらす。

盤（8）鍔状の口縁部に、平底の黄釉鉄絵の盤で、口縁部外面から内面全体に化粧土、その上からほぼ同じ範囲で釉が掛かる。内底に魚を描く。

四耳壺（9 ～ 14）9 ～ 12 は頸部と胴部の境は不明瞭で、13 は倒卵形の胴部で肩が張り、頸部との境は明瞭である。境に凹線をめぐらせ、凹線下に横耳、波状凹線を配する。14 は上半部が欠失している。外底に墨書が記されている。

白磁 碗（1 ～ 15）1 ～ 8 は碗Ⅴ－1a で、2 の外底に墨書が記されている。9 －碗Ⅴ－2a、10 －碗Ⅴ－4b、11 ～ 12 －碗Ⅷ－2、13 －浅碗Ⅵ－1b で底に墨書が記されている。皿（14・15）14 －皿Ⅳ－2a、15 －皿Ⅲ－2 である。蓋（16・17）水注など容器の蓋である。



第 57 図　出土遺物実測図 31（縮尺 1 / 3）

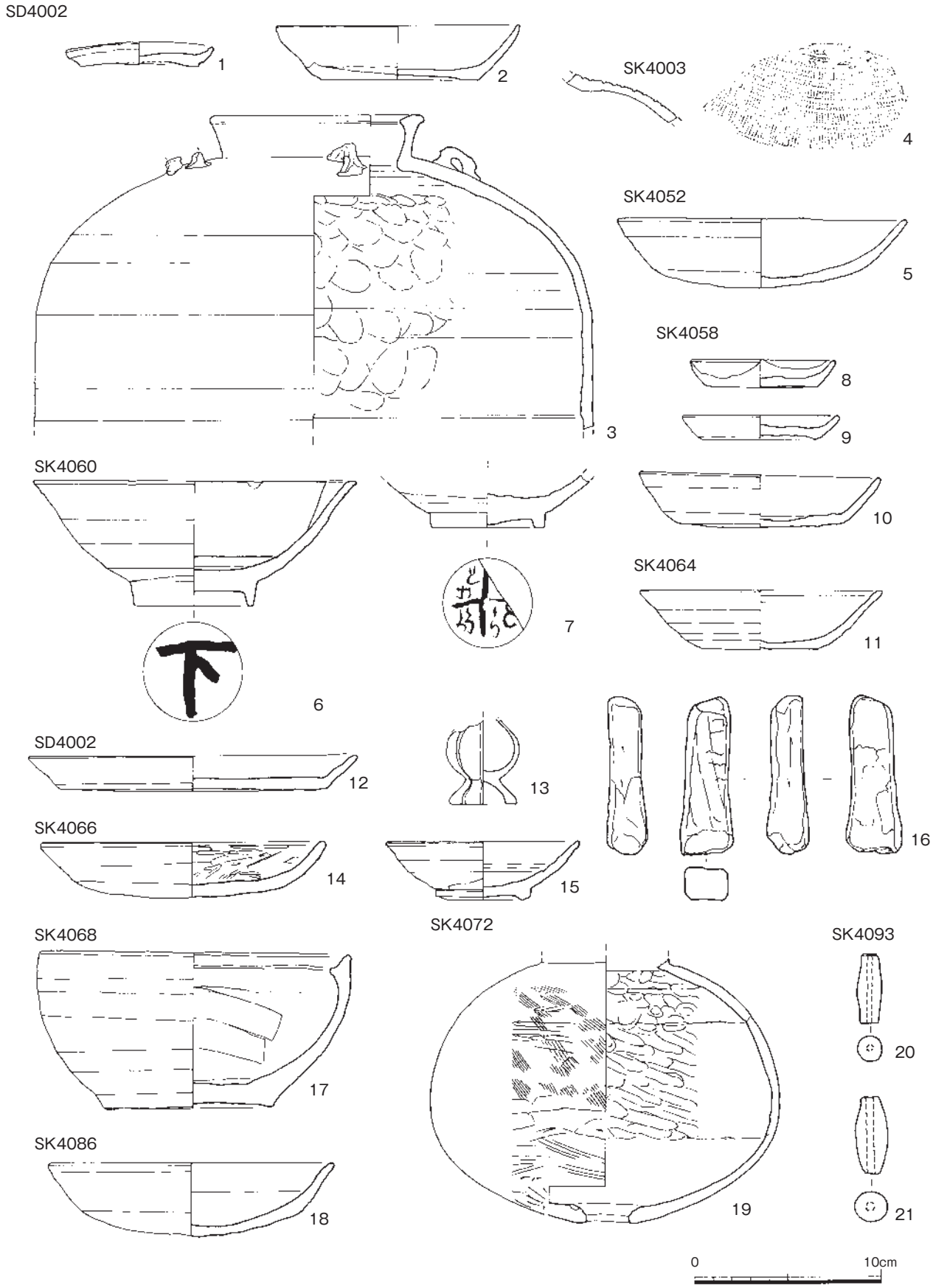
18 ～ 21 は土錘、22 は鳥の線刻がある滑石製品、23 は土鈴、24 は鞴羽口である。25 ～ 26 は土師器小皿で口径 7.5 ～ 9.8cm、器高 1.1 ～ 1.5cm を測る。

SK002 出土遺物（第 63 図）**土師器** 小皿（1 ～ 7）口径 6.7 ～ 8.2cm、器高 1.5 ～ 1.7cm を測る。1 は口縁部の中心を挟んで対称な位置 2 か所に孔を穿ち、2 孔の間と中心から直角に十字形の線状圧痕がみられる。杯（8・9）口径 10.3・8.9cm、器高 2.5・2.1cm を測る。

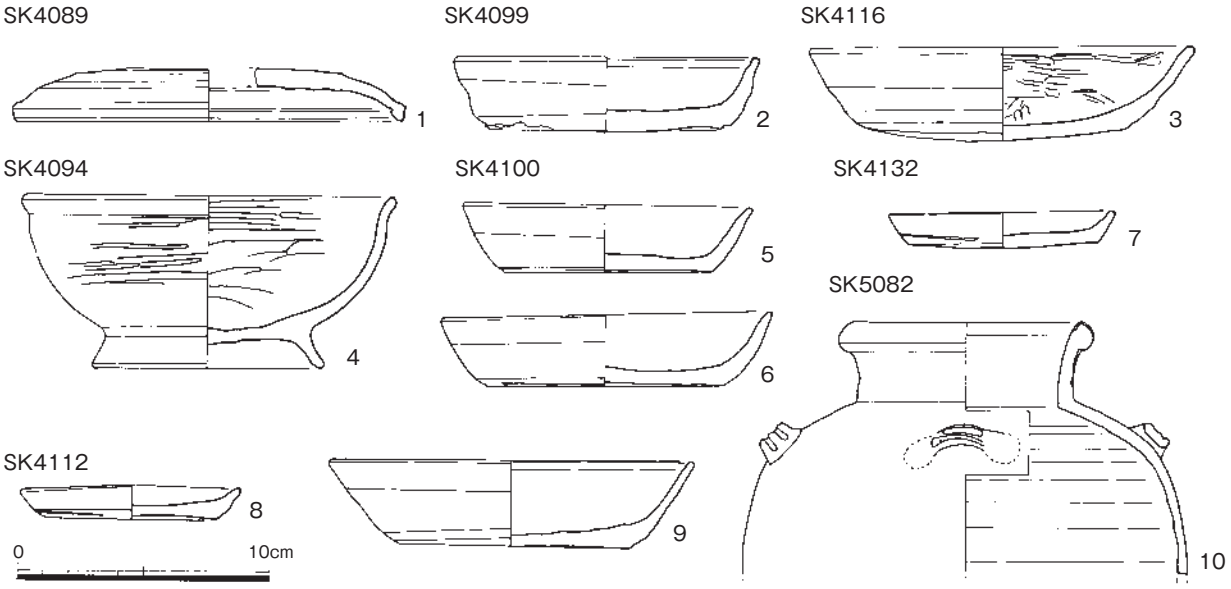
10 は**瓦質土器**火鉢の口縁部片で、内側に L 字屈曲する口縁部の外面に凸線を 2 条、凸線の間には円形の刺突文を巡らせる。11・12 は**青花**高台付皿の B_1 群で、体部外面に牡丹唐草文、見込に十字花文を描く。13 は縁折れの**青花**大皿である。14 は**白磁**菊皿で、外底の二重圏線内がみられるが、その内側の吉祥句か年款が記された部位は欠失している。15 は筒形三足香炉で、口縁部が欠失している。16 は越州窯青磁蛇の目高台碗で混入である。**鋳造関係遺物** 17 ～ 24 は坩堝または取鍋、25 ～ 28 は鉄鍋の耳の鋳型とみられる。29 は土鈴である。（第 64 図）1 は**肥前系陶器** 碗、2 は同すり鉢、3 は**青磁**皿、4 は鞴羽口、5 は毬杖玉、6 は土錘、7 ～ 10 は**白磁**菊皿、**土師器** 小皿（11 ～ 18）口径 6.9 ～ 7.5cm、器高 1.3 ～ 2.0cm を測る。杯（19・22）19 は口径 12.5cm、器高 2.7cm を測る。21 は土錘、23 が柄付片口鍋である。

SK003 出土遺物（第 65 図）1 は**白磁** 獅子で、水注蓋などのつまみとみられる。

土師器 小皿（2）口径 7.5cm、器高 1.3cm を測る。杯（3 ～ 6）3・4 は口径 12.1・11.7cm、器高 2.3 ～ 2.5cm を測る。5・6 は口径に比して底径が小さく、口縁部は強く横ナデされ鋭く稜が付く。口径 12.1・14.1cm、器高 2.8・2.8cm を測る。



第 58 図　出土遺物実測図 32（縮尺 1 / 3）



第 59 図　出土遺物実測図 33（縮尺 1 / 3）

SK040 出土遺物（第 66 図）1 は土師器高台付皿、2・3 は白磁皿Ⅵ－1a、4 は碗Ⅴ類底部で外底に墨書が記される。

SK041 出土遺物（第 66 図）**土師器** 特小皿（5・7）5 は口径 6.9cm、器高 1.5cm を測る。7 は口径に比して底径が小さく、外反して大きく開く。口径 7.5cm、器高 1.9cm を測る。小皿（8）口径 9.1cm、器高 1.1cm を測る。杯（6）口縁部が欠失している。

9 は内面に櫛状工具で施文する**白磁**碗Ⅴ－4b 類で、外底に墨書を記す。10 は**青磁** 碗 Ⅰ－4a、11 は備前すり鉢、12 は滑石製石鍋片を再利用した製品である。

青花 皿（15・16）15 は内面に麒麟を描く高台付端反り皿、16 は花卉文を描く碁笥底皿である。

13 は青白磁碗底部片、14 は同合子蓋、17・18 は土錘である。

SK049 出土遺物（第 67 図）**土師器** 特小皿（1）口径 7.5cm、器高 1.8cm を測る。小皿（2 ～ 7）口径 7.9 ～ 8.5cm、器高 1.1 ～ 1.7cm を測る。杯（8 ～ 17）口径 12.3 ～ 13.7cm、器高 2.5 ～ 2.9cm を測る。

18･19 は混入、18 は白磁皿Ⅵ－1a、19 は白磁皿Ⅵ－2b、20 は外面に細蓮弁をヘラ彫りする青磁碗片。21 は砥石、22 は土錘、23 は毬杖である。

SK060 出土遺物（第 68 図）1 は**土師器**小皿で、口径 7.5cm、器高 1.9cm を測る。2 は毬杖玉、3 は須恵器こね鉢である。

SK063 出土遺物（第 68 図）4 は**土師器**小皿で、口径 8.3m、器高 1.6cm を測る。5 は須恵器杯で混入。

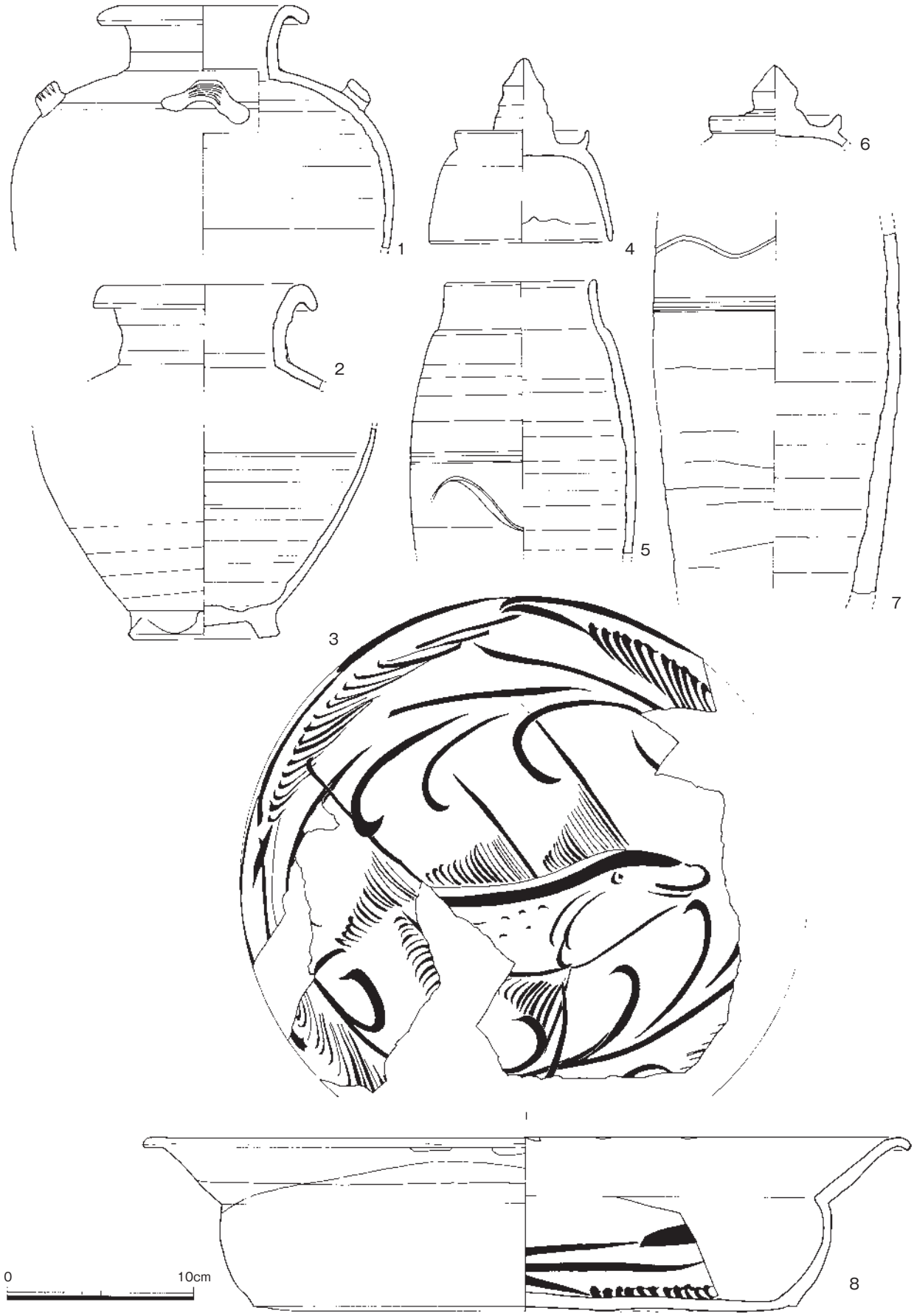
SK062 出土遺物（第 68 図）6 は**土師器**小皿で、口径 8.5cm、器高 1.5cm を測る。7・8 は杯で、口径 12.5・12.6cm、器高 2.2・2.7cm を測る。

SK067 出土遺物（第 68 図）9 は**土師器**小皿で、口径 10.1cm、器高 1.5cm を測る。10 は丸底杯で、口径 15.5cm、器高 3.5cm を測る。

SK068 出土遺物（第 68 図）**土師器**小皿（11・12）口径 8.1・8.3cm、器高 1.5・1.3cm を測る。杯（13）口径 15.6cm、器高 3.1cm を測る。14 は内面に櫛状工具で施文する白磁碗 Ⅴ－4b 類で、15 は石硯片、16 は白磁碗Ⅳ類底部片で、外底に墨書が記されている。17 は陶器四耳壷ⅩⅡ－1 類である。

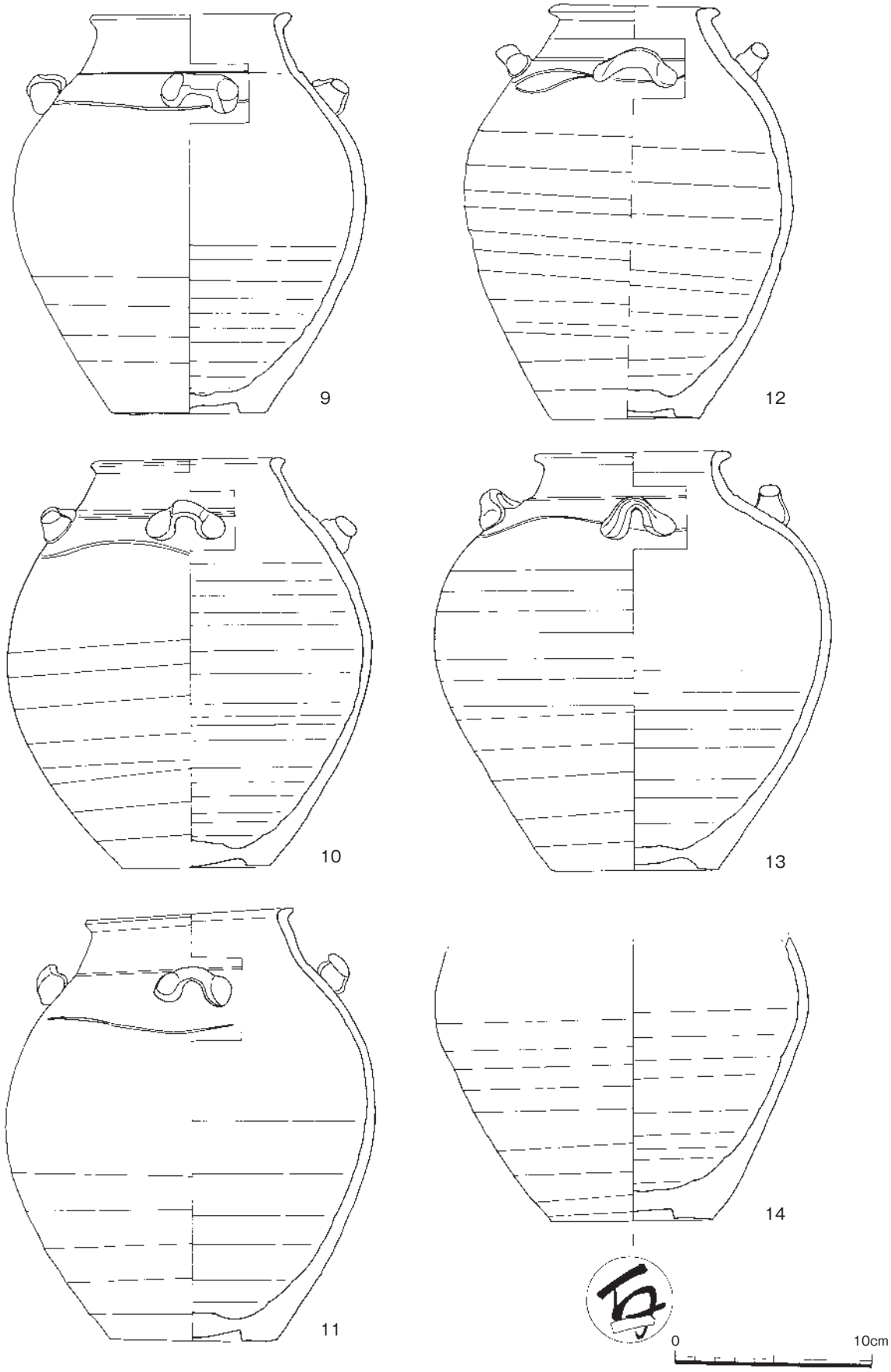
SK067b 出土遺物（第 68 図）**土師器** 小皿（18 ～ 20）口径 7.7 ～ 8.5cm、器高 1.3 ～ 1.6cm を測る。杯（21）口径 12.5cm、器高 2.6cm を測る。22 は瓦玉である。

SK001

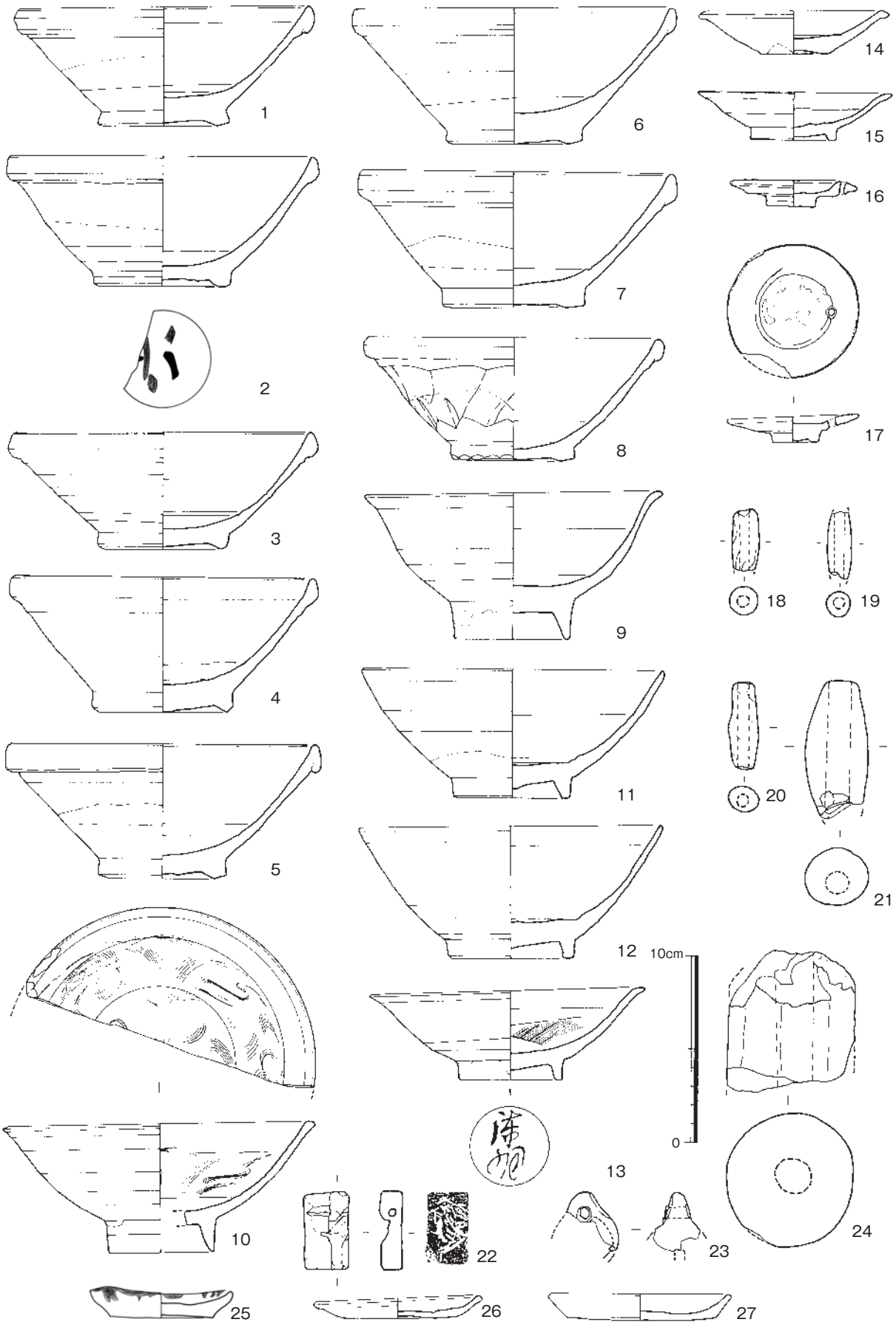


第 60 図　出土遺物実測図 34（縮尺 1 / 3）

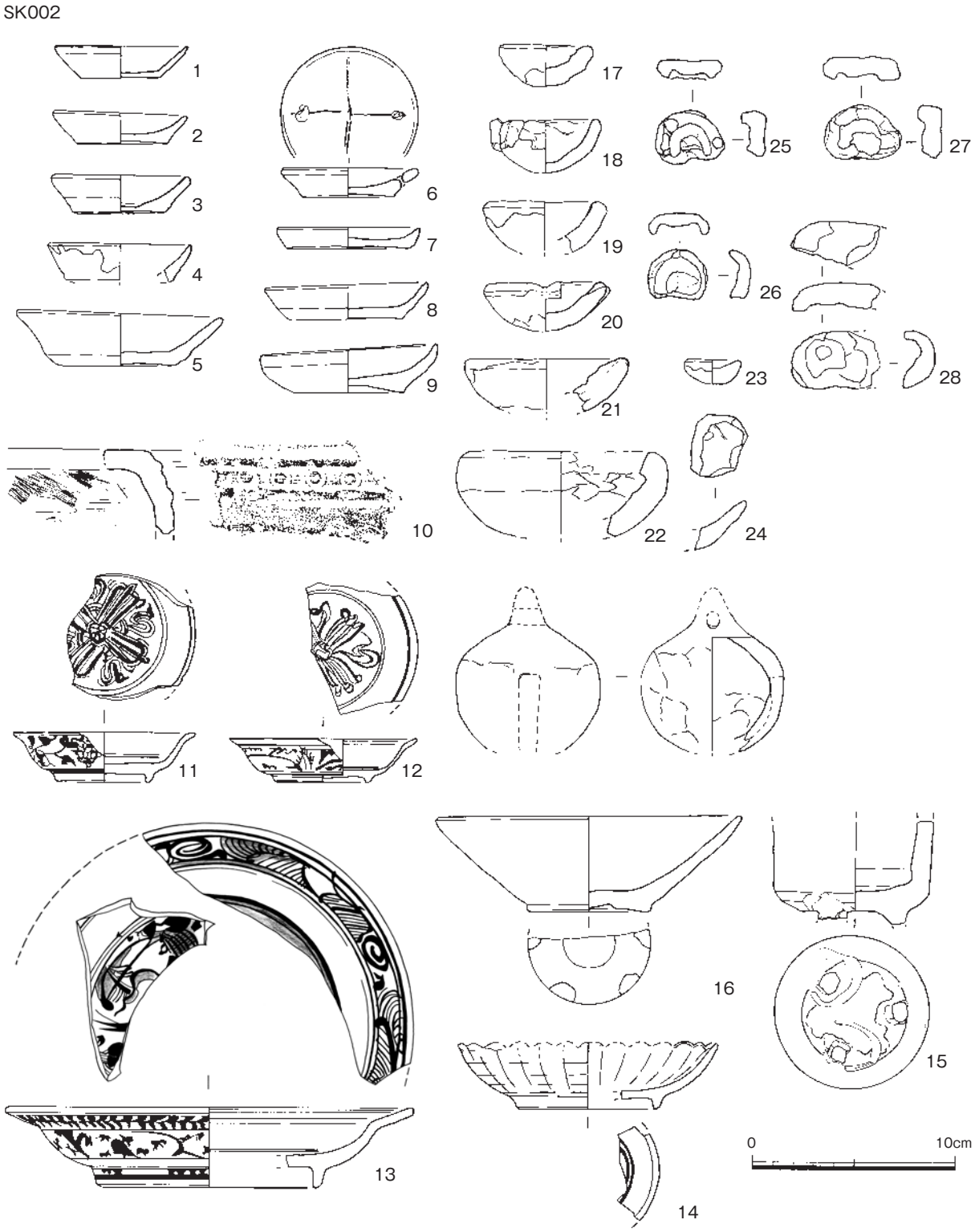
SK001



第 61 図　出土遺物実測図 35（縮尺 1 / 3）



第 62 図　出土遺物実測図 36（縮尺 1 / 3）

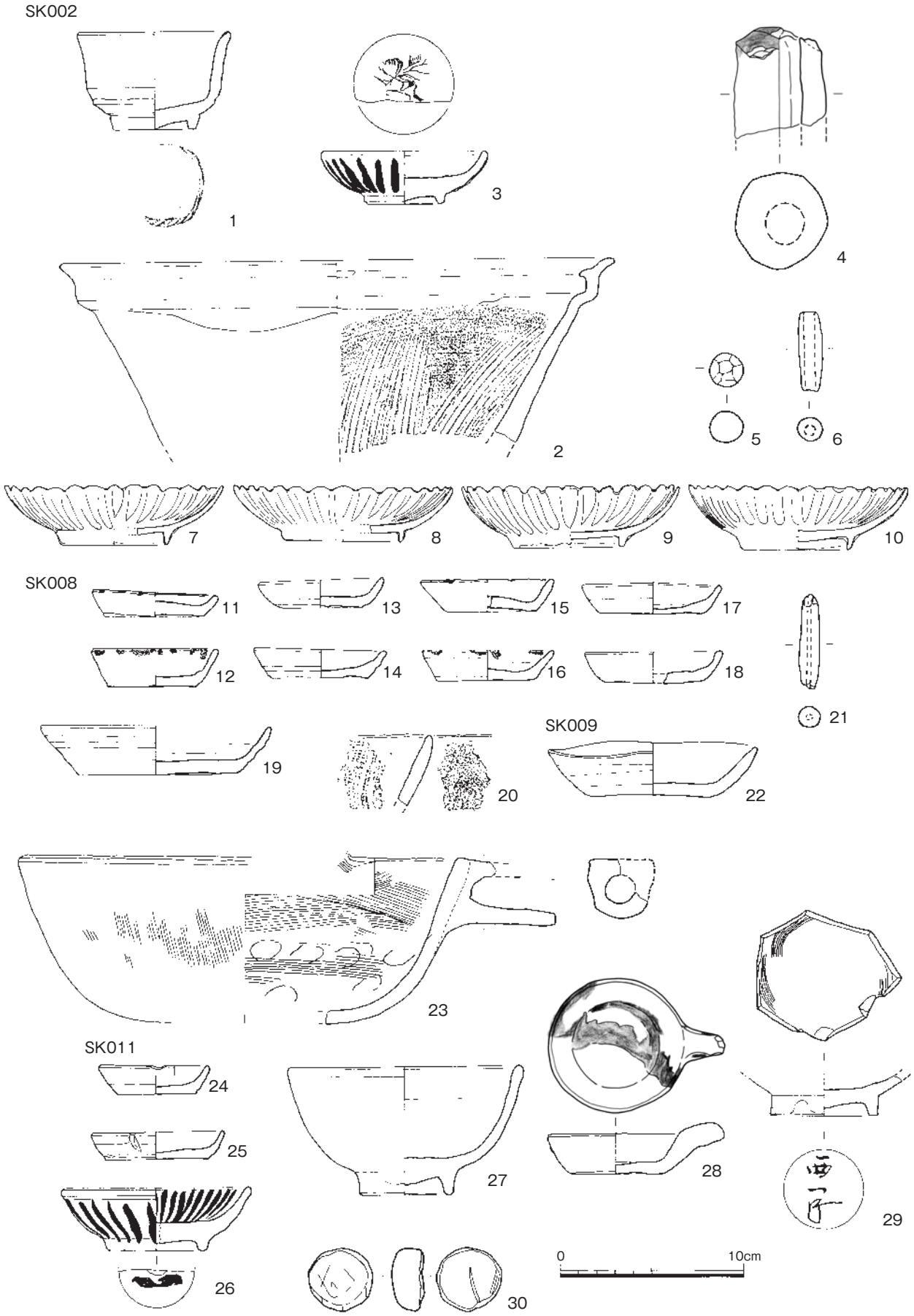


第 63 図　出土遺物実測図 37（縮尺 1 / 3）

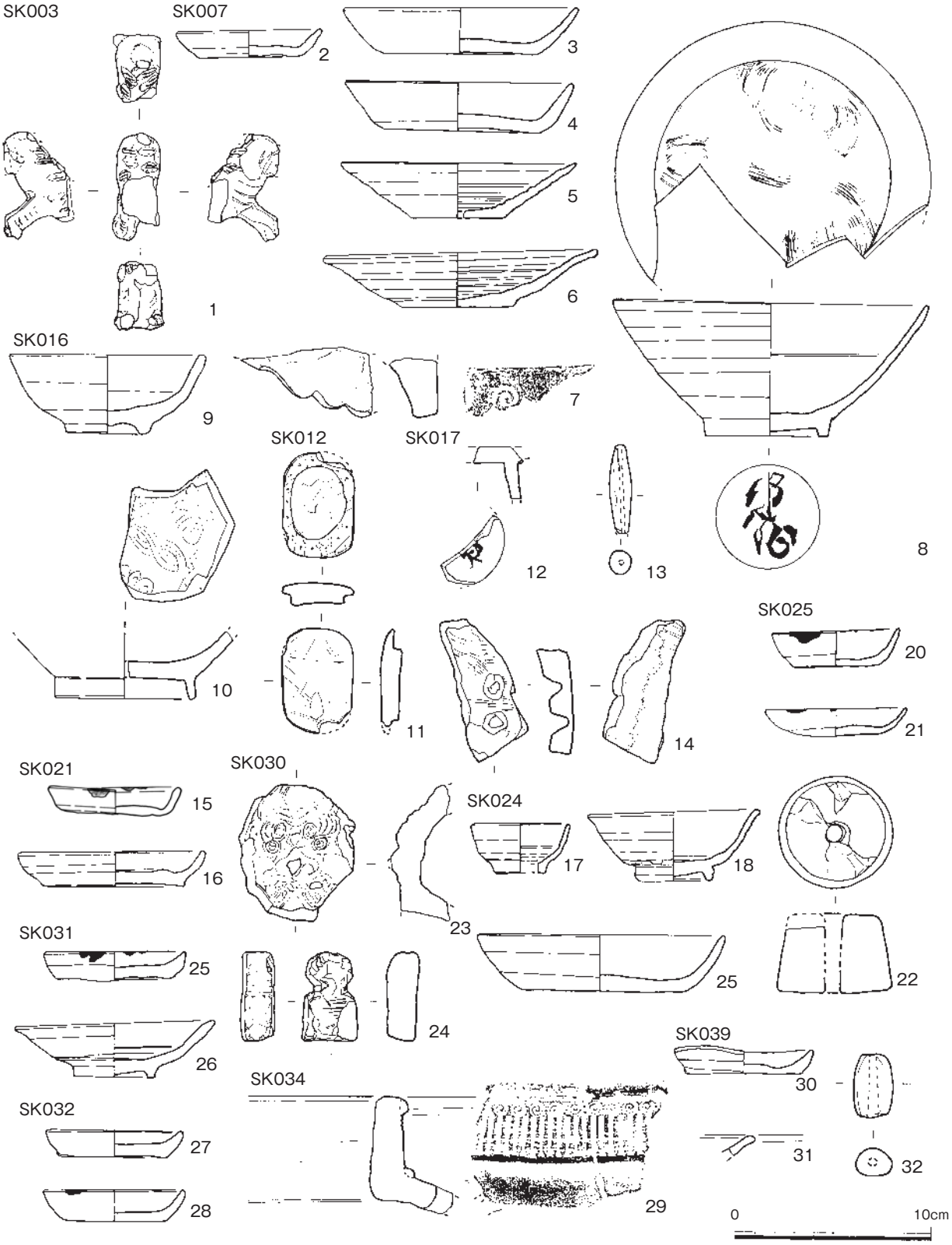
SK069 出土遺物（第 69 図）**土師器** 杯（1・2）口径 15.1・15.5cm、器高 2.7・3.5cm を測る。3 は**青磁**碗、4・5 は土錘である。

SK070 出土遺物（第 69 図）**土師器** 小皿（6・7）口径 9.1・8.8cm、器高 1.5・1.3cm、杯（8）口径 12.2cm、器高 2.5cm を測る。9 ～ 11 は**白磁**碗Ⅳ類である。

SK071 出土遺物（第 69 図）**土師器** 小皿（12）口径 8.6cm、器高 1.0cm、杯（13・14）で、口径



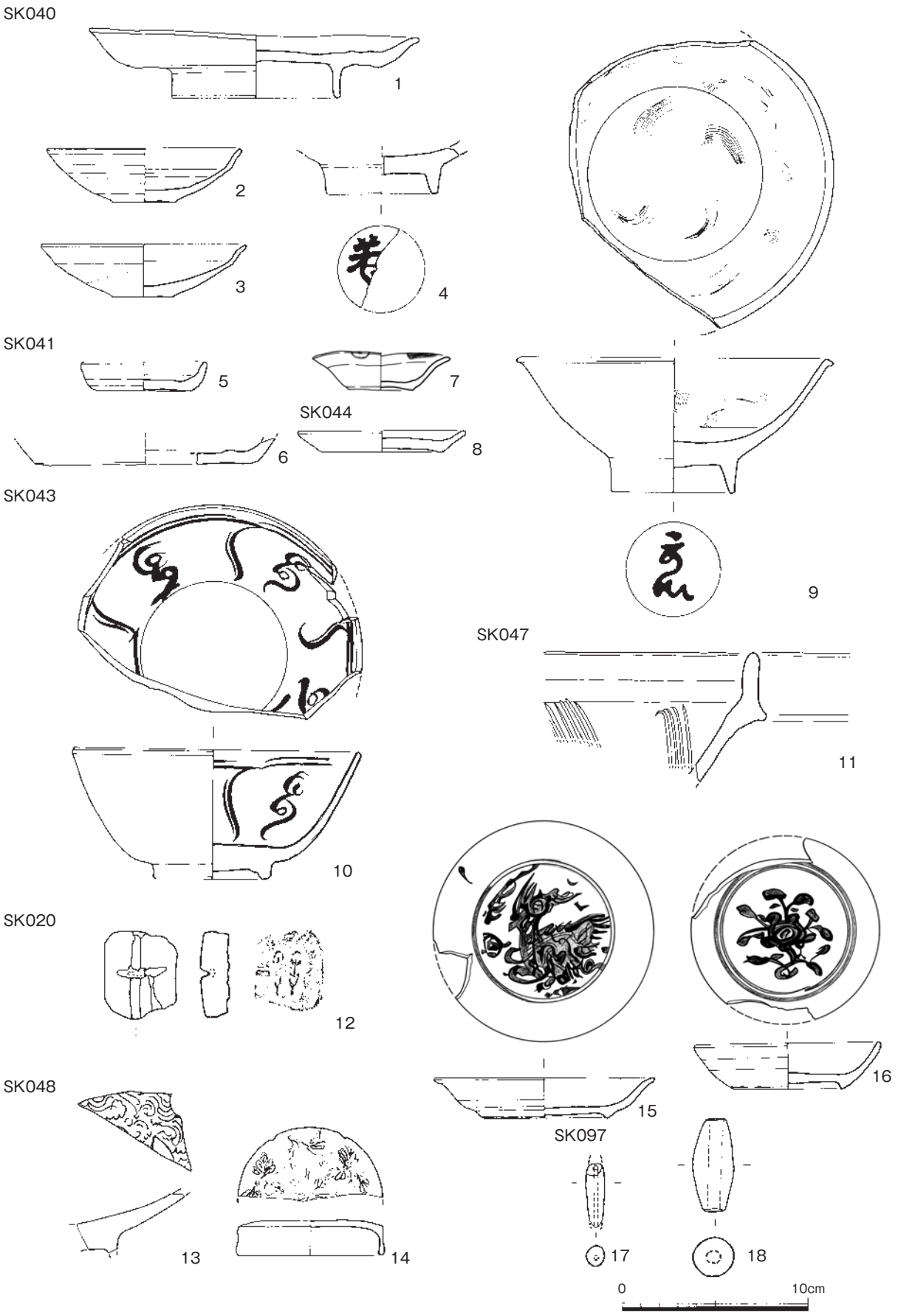
第 64 図　出土遺物実測図 38（縮尺 1 / 3）



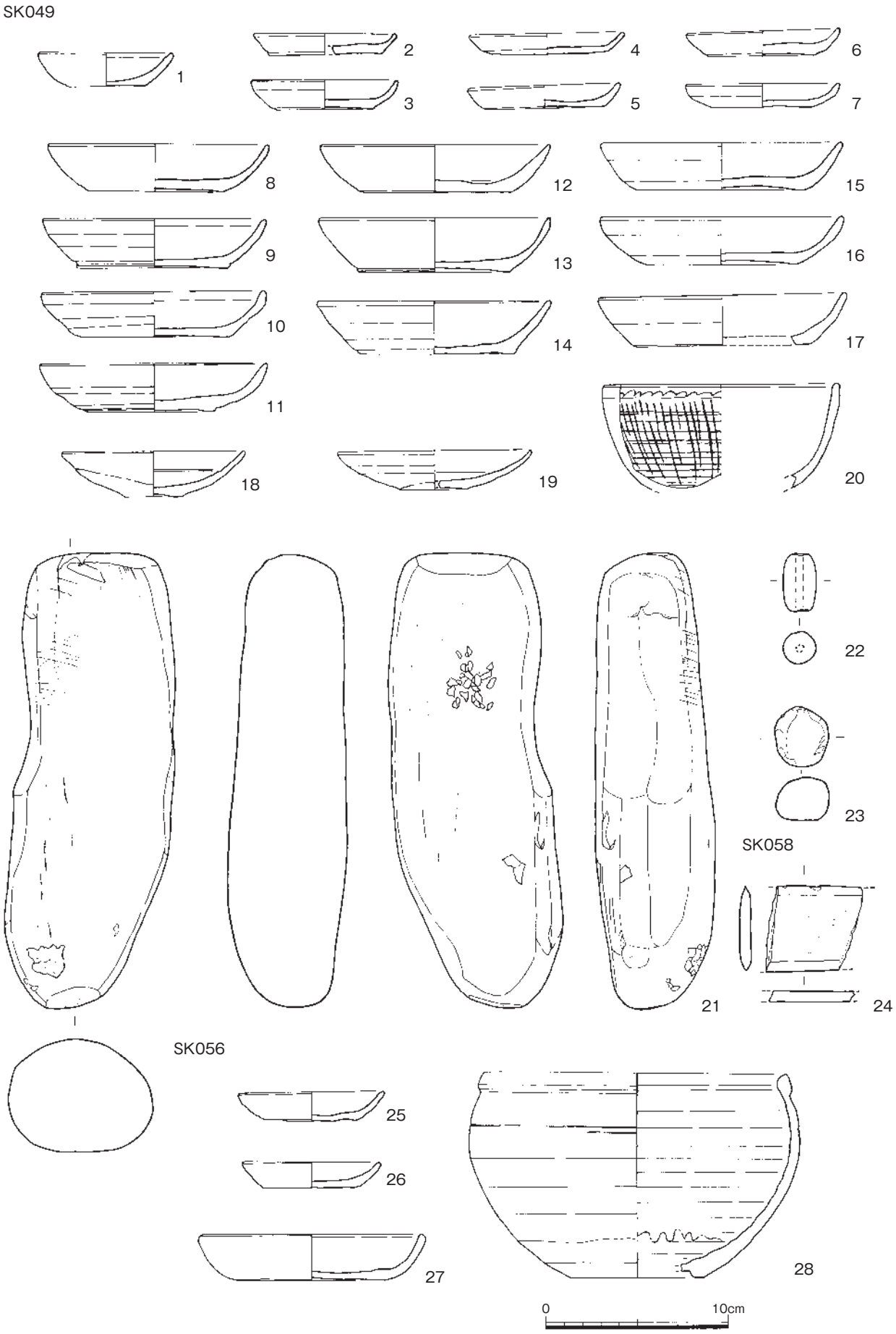
第 65 図　出土遺物実測図 39（縮尺 1 / 3）

12.2・12.0cm、器高 2.3・2.5cm を測る。15 は**白磁**皿で、外底に墨書「十」が記されている。16 は**土師器** 杯で、口径 12.7cm、器高 2.8cm を測る。17 は**青磁**高台付皿。

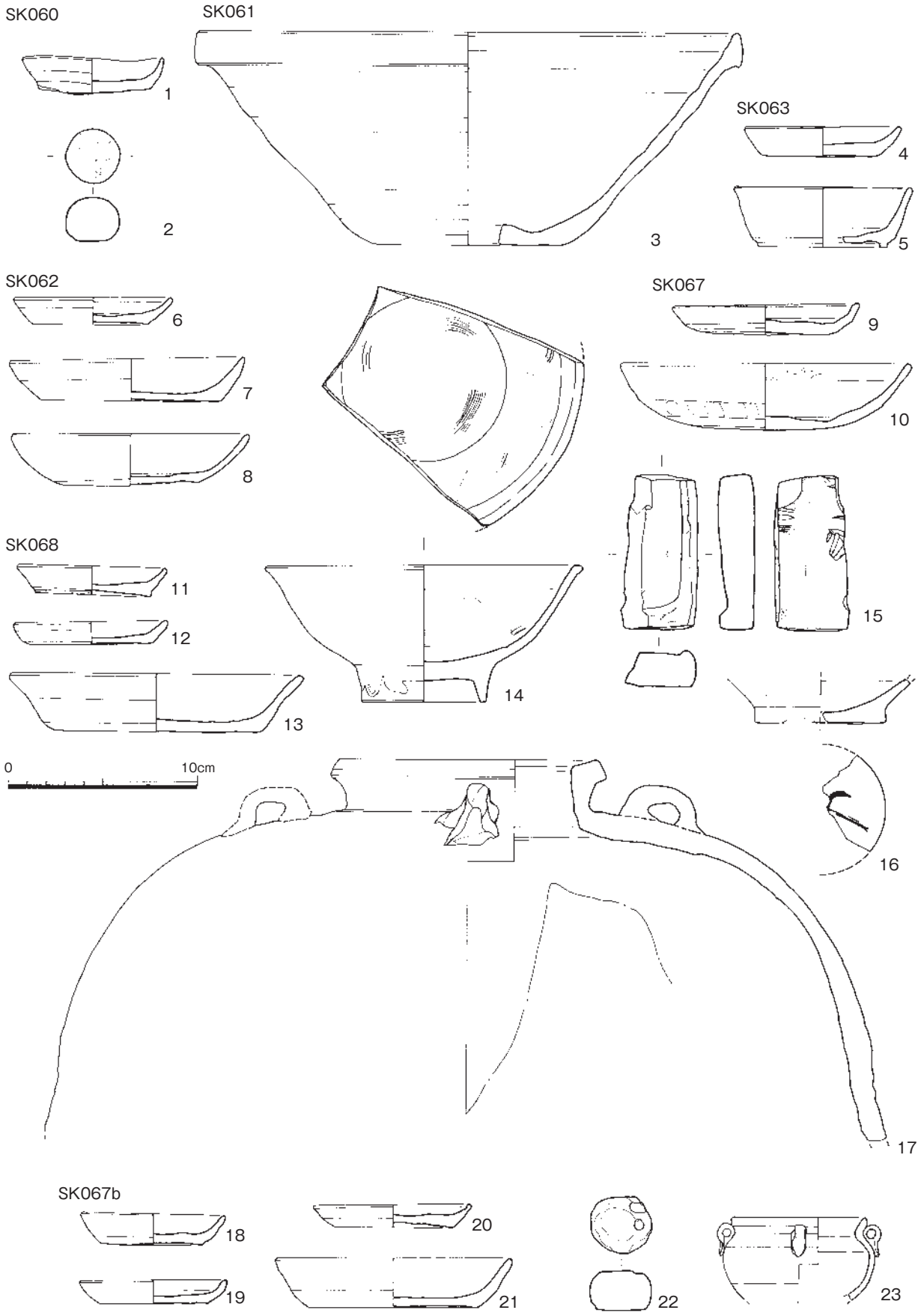
SK074 出土遺物（第 70 図）**白磁** 碗（1 ～ 3）1 は碗Ⅳ－2a、2 は碗Ⅴ－1a、3 は小碗で、外底に墨



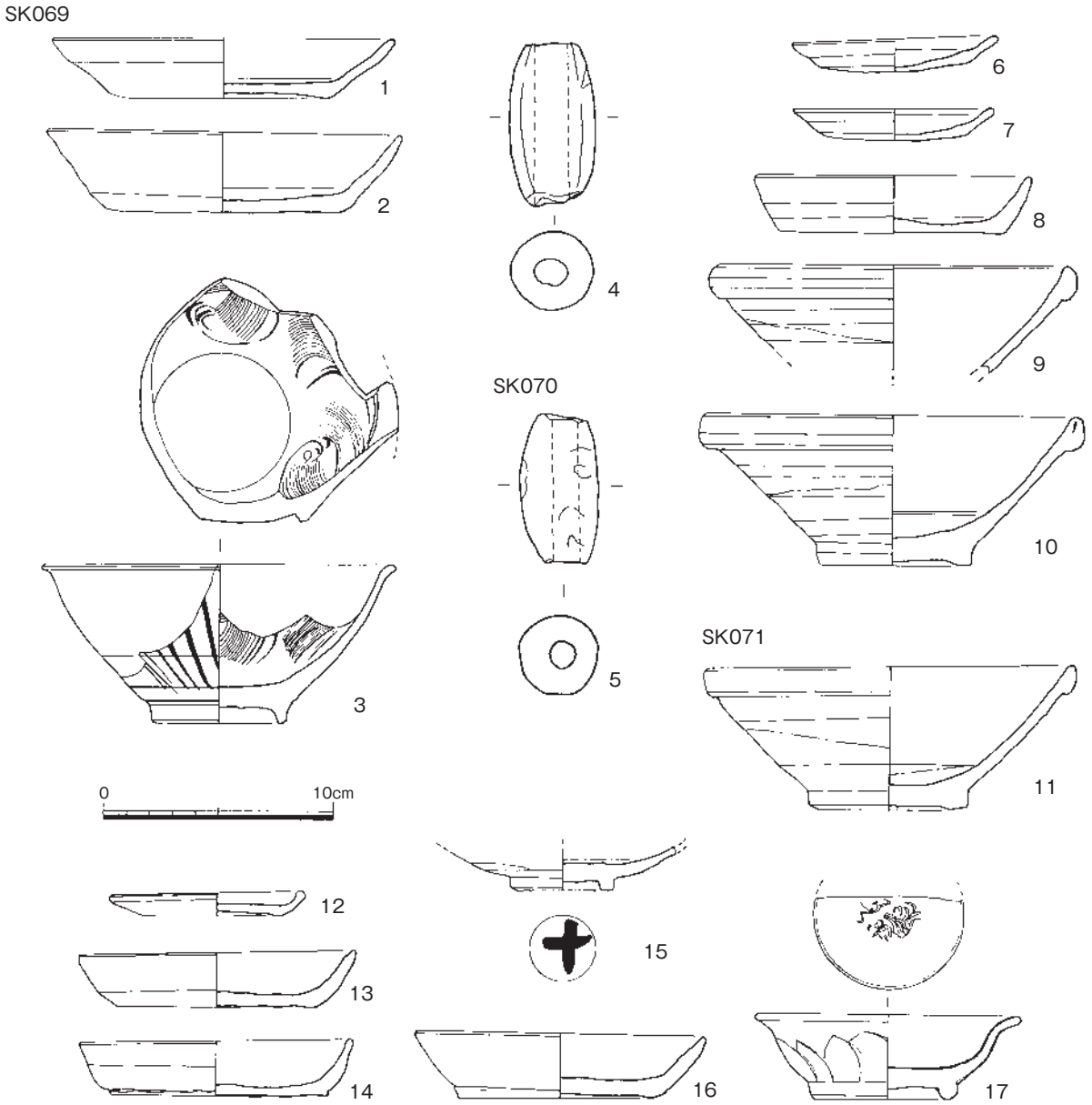
第 66 図　出土遺物実測図 40（縮尺 1 / 3）



第 67 図　出土遺物実測図 41（縮尺 1 / 3）



第 68 図　出土遺物実測図 42（縮尺 1 / 3）



第 69 図　出土遺物実測図 43（縮尺 1 / 3）

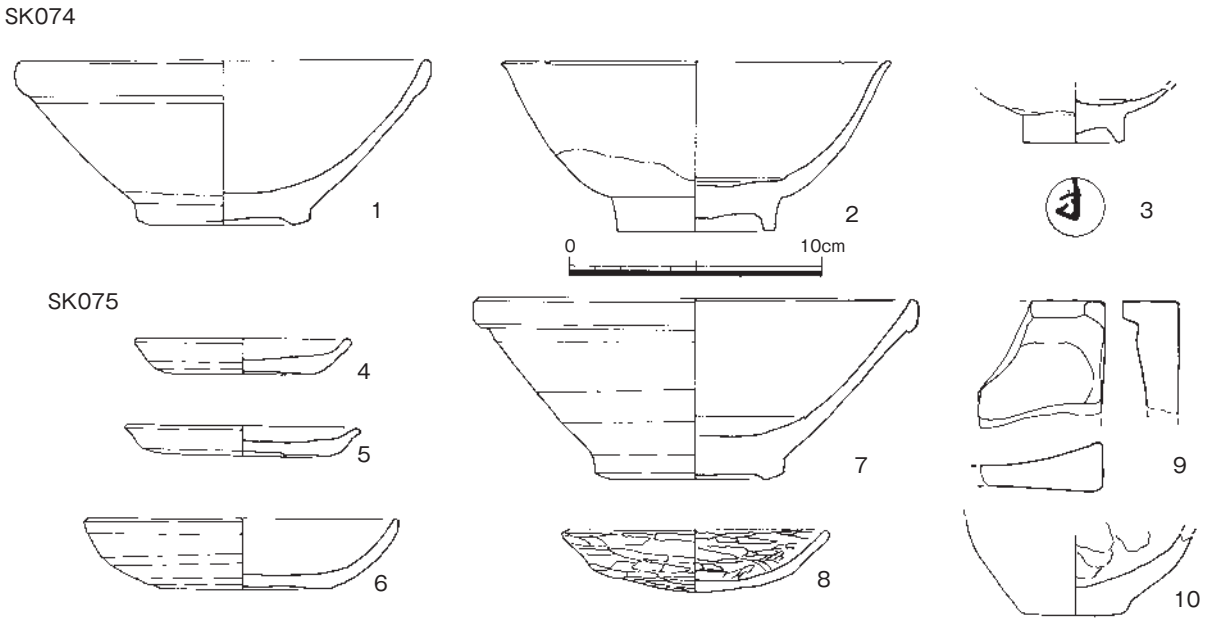
書が記されている。

SK075 出土遺物（第 70 図）**土師器** 小皿（4・5）口径 8.7・9.4cm、器高 1.5・1.1cm、杯（6）で口径 12.5cm、器高 2.7cm を測る。7 は**白磁**碗Ⅳ－1a である。8 は瓦器小皿、9 は石硯片、10 は混入した弥生土器底部片である。

SK076 出土遺物（第 71 図）**土師器** 小皿（1 ～ 8）口径 7.7 ～ 9.2cm、器高 1.1 ～ 1.4cm を測る。杯（9 ～ 25）口径 11.8 ～ 12.3cm、器高 2.4 ～ 3.1cm を測る。大皿（26）杯の一群より 3 割増しの口径 15.3cm、器高 3.7cm を測る。鍋（32）

27 は**瓦器** 椀、29・30 は**白磁** 碗、31 は白磁皿で、いずれも外底部に墨書が記されている。33 は**須恵器** 片口鉢、34 は滑石製品石鍋片を再利用し、温石に成形する。35 は砥石である。

SK082 出土遺物（第 73 ～ 75 図）**土師器** 小皿（1 ～ 18）口径 8.7 ～ 10.1cm、器高 0.9 ～ 1.5cm を測る。杯（19 ～ 32）口径 14.2 ～ 15.7cm、器高 2.3 ～ 2.9cm を測る。22・26 は外面に人面墨書が描かれている。



第 70 図　出土遺物実測図 44（縮尺 1 / 3）

22 は左目と鼻の部分が残る。目の瞳部分は穿孔されている。26 は中軸より右側が残る。眉が太く、目は吊り上がり、額の中央にも目が描かれている。丸底杯（33）内面は研磨され、口径 14.9cm、器高 2.9cm を測る。

白磁 碗（34 ～ 37）34･35 は口縁部を輪花にし、体部内面にヘラ・櫛状施文具を用いて花文を施すⅦ－b で、34 の高台内には墨書「三」を記す。36 －Ⅷ－3、37 －Ⅶ類の底部で高台内に墨書を記す。

高台付皿（51・52）52 は口縁部を輪花にし、底部は欠失しているが高台が付くとみられる。

四耳壺（55）倒卵形の胴部上半で、横向きの四耳を肩部に貼り付ける。

青磁 碗（38 ～ 45）38 は龍泉窯系青磁の体部外面無文、内面に蓮華花文 2･ 葉文 1、内底見込みに花文 1 を片切り彫りするⅠ－2b 類、39 ～ 45 は同安窯系青磁で、39 ～ 41 は体部外面にヘラで条線を入れるⅢ類で、体部内面に 39 はヘラ、40 は櫛状施文具を用いて花文を施す。41･44 は櫛状施文具による弧状に連続する刺突文を施す。42･43･44 体部内面にヘラによる簡略化した花文と櫛状施文具による「之」字方点綴文を入れ、42･43 は体部外面に櫛状施文具による条線を入れるⅠ－1b 類、45 は体部外面無文のⅠ－1a 類で、42 の体部外面半の露胎部分と外底高台内に墨書を記す。

小碗（46）体部外面無文、内面に花文を片切り彫りする龍泉窯系の小碗で、内底見込みに段や沈圏線はない。

皿（47 ～ 49･53）47 ～ 49 は同安窯系青磁で、内底にヘラによる簡略化した花文と櫛状施文具による「之」字方点綴文を入れる。ヘラ・櫛状施文具を用いて花文を施す。53 は龍泉窯系青磁で、内底にヘラ・櫛状施文具を用いて花文を施す。

青白磁 合子（54）型作りで体部外面に花弁を施す合子の身で、蓋受け部分は露胎となっている。

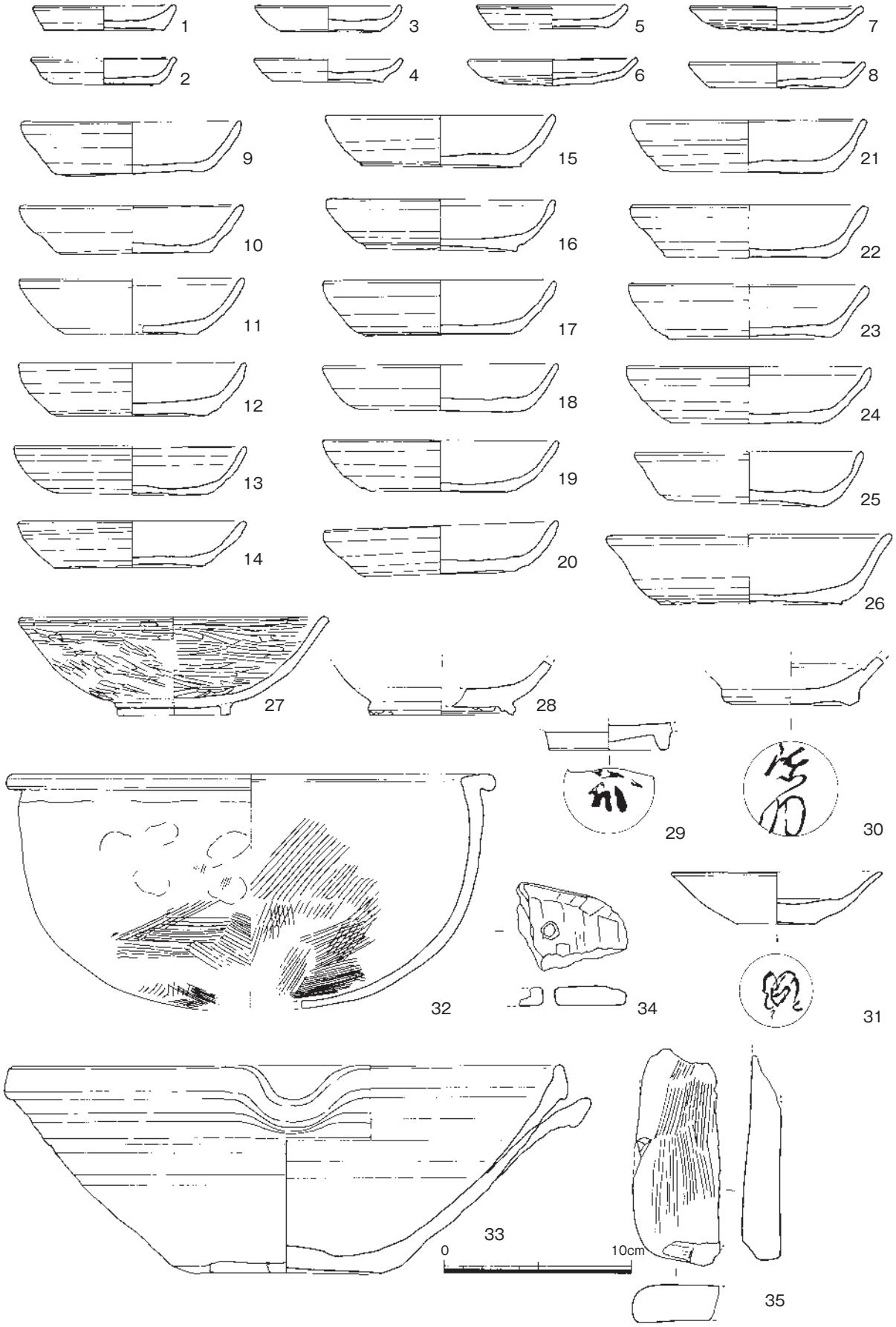
陶器 すり鉢（56）口縁部を折り曲げ玉縁状にし、体部は丸みをもち、内面は露胎ですり目が入る。底部は欠失している。

壺（57・58）57 は平底の底部片で、外底に墨書が記されている。58 は盤口の口縁部片である。

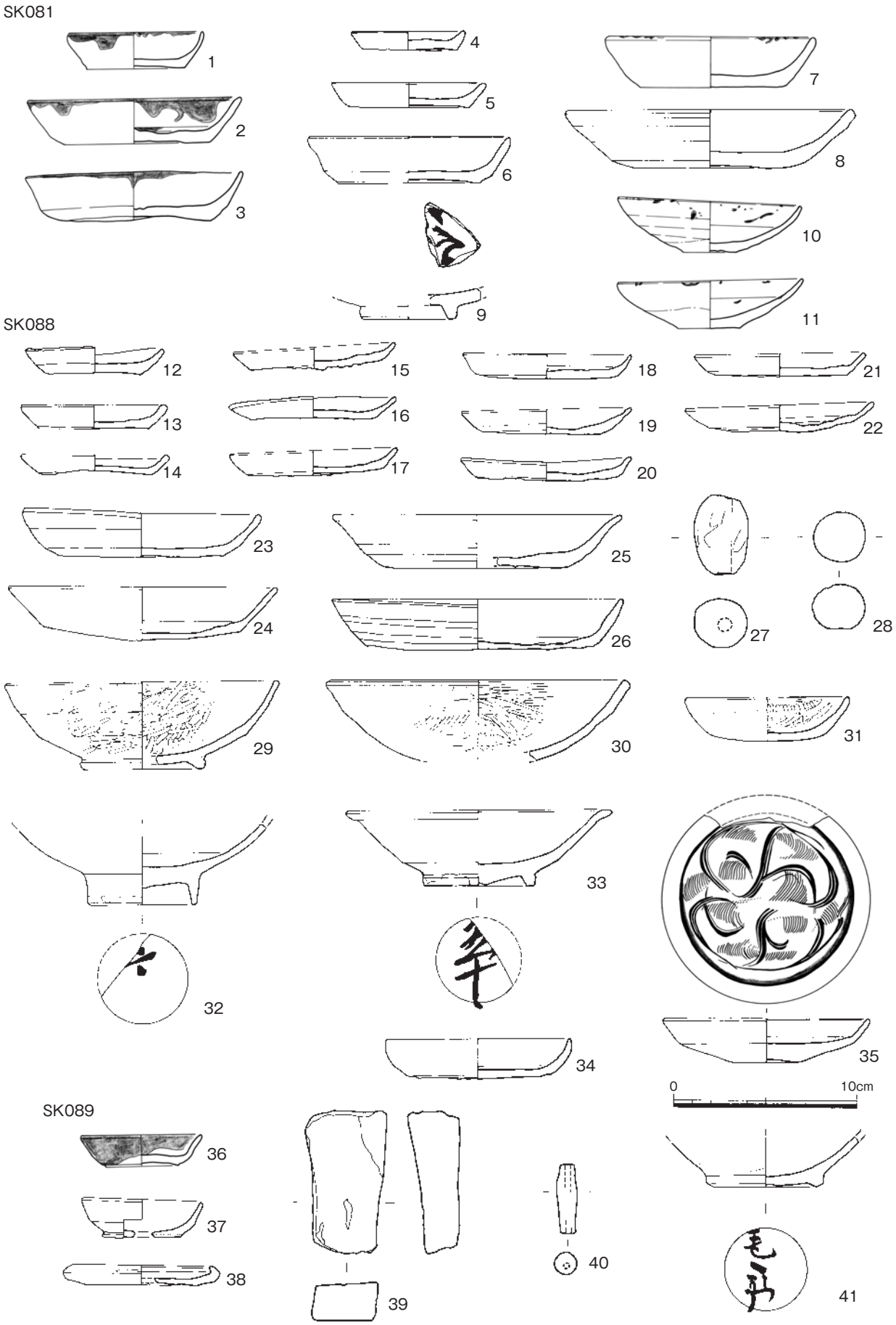
滑石製容器（59）矢立の墨壺として用いられたものか。

SK0122 出土遺物（第 75 図）**土師器** 小皿（1）口径 7.7cm、器高 1.3cm を測る。丸底杯（2）。

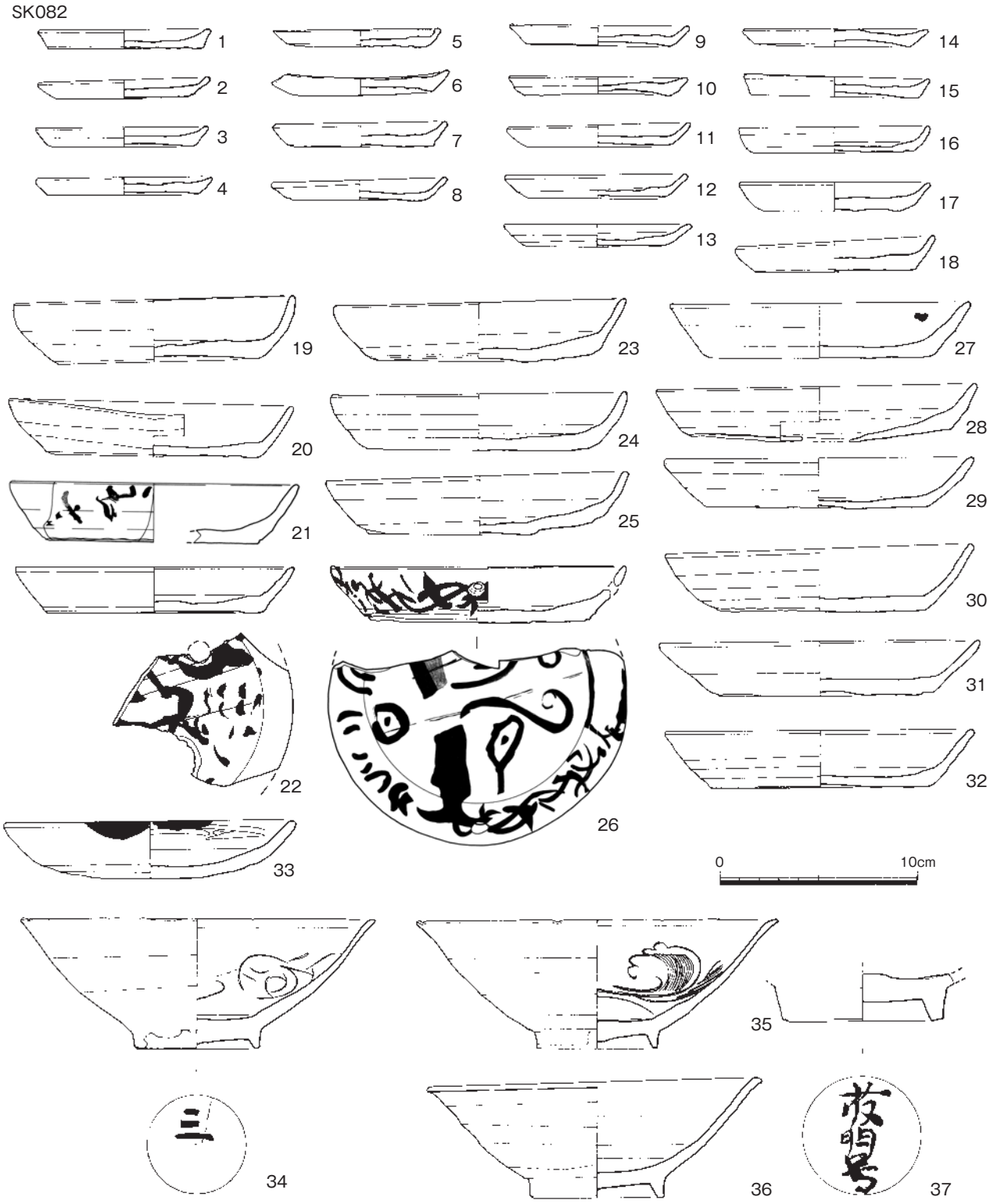
SK076



第 71 図　出土遺物実測図 45（縮尺 1 / 3）



第 72 図　出土遺物実測図 46（縮尺 1 / 3）

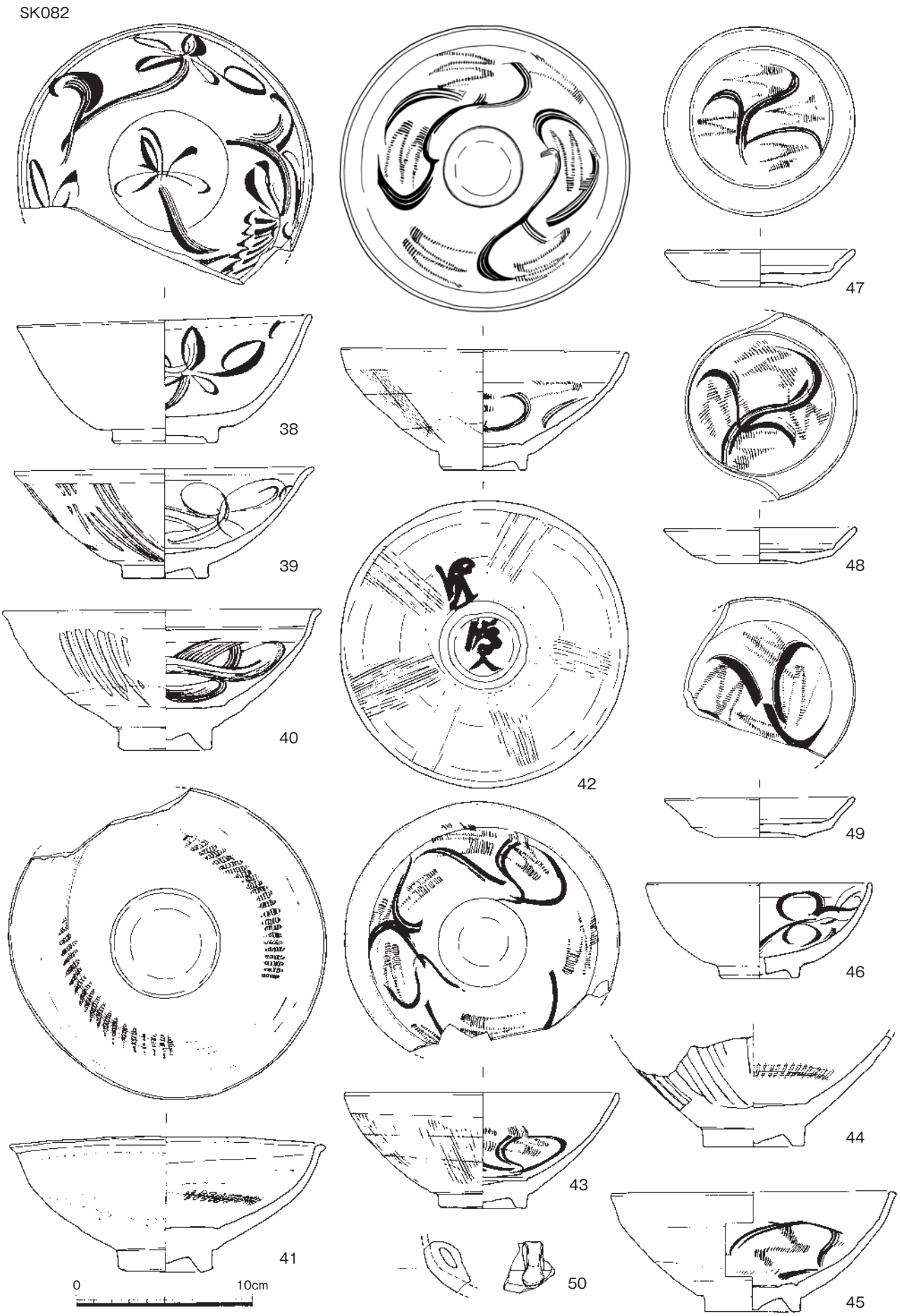


第 73 図　出土遺物実測図 47（縮尺 1 / 3）

3 は**瓦器**椀、4・5 は内面の体部と底部の境に沈圏線が付く白磁碗Ⅳ－1a 類である。

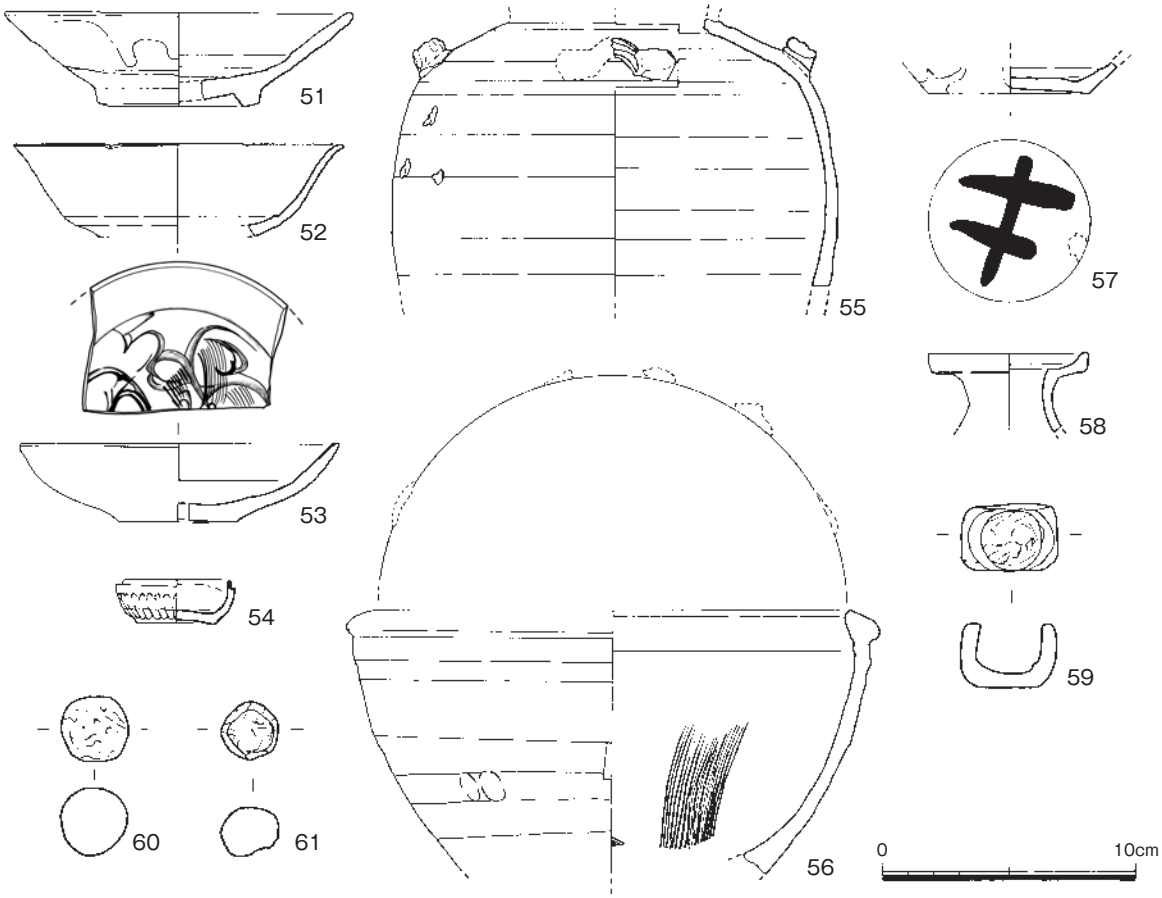
SK083 出土遺物（第 76 図）**土師器** 小皿（1・2）口径 7.2・7.5cm、器高 1.4・1.7cm を測る。

SK085 出土遺物（第 76 図）**土師器** 小皿（3 ～ 8）口径 7.5 ～ 9.3cm、器高 1.1 ～ 1.6cm を測る。杯（9 ～ 14）9 ～ 13 は口径 11.8 ～ 12.5cm、器高 2.1 ～ 2.5cm、やや大型の 14 は口径 15.2cm、器高 3.2cm を

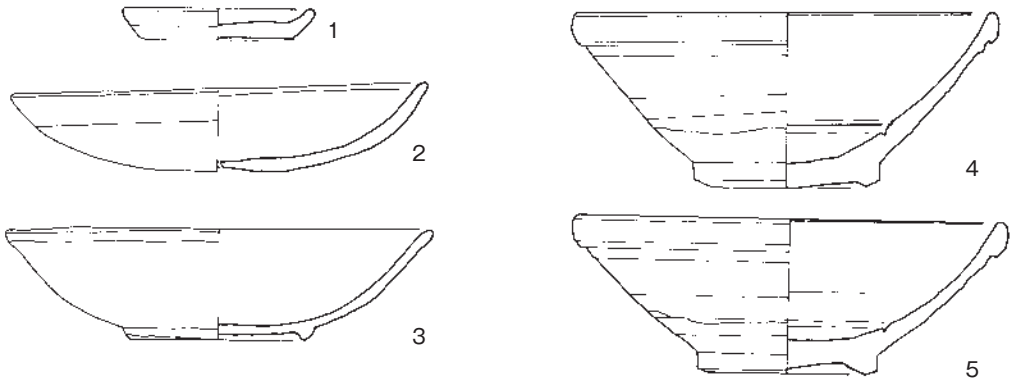


第 74 図　出土遺物実測図 48（縮尺 1 / 3）

SK082



SK122



第 75 図　出土遺物実測図 49（縮尺 1 / 3）

測る。

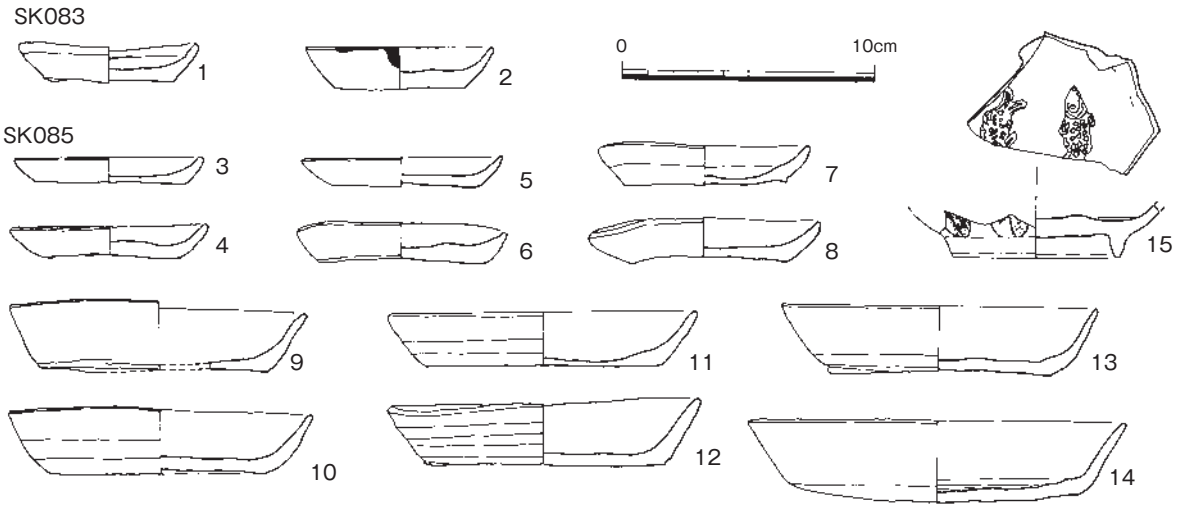
青磁 杯（15）体部外面は蓮弁削り出し、見込に双魚文を貼付する杯Ⅲ－4b 類で、口縁部は欠失。

SK089 出土遺物（第 77 図）**古式土師器** 1 ～ 3 は山陰系甕、4 は小壺で混入、**土師器**小皿 6 は口径 10.1cm、器高 1.2cm を測る。

SK090 出土遺物（第 77 図）**土師器** 小皿（7・8）口径 9.0・10.1cm、器高 1.1・1.2cm を測る。杯（9・10）口径 15.0 ～ 15.3cm、器高 3.0 ～ 5.5cm を測る。

5 は滑石製小型容器、11・12 は白磁皿Ⅵ－1b で、口縁部がやや内湾し、体部内面下位に段が付く。

SK143 出土遺物（第 77 図）**土師器** 小皿（19）口径 8.0cm、器高 1.4cm を測る。杯（20 ～ 22）口径



第 76 図　出土遺物実測図 50（縮尺 1 / 3）

12.3 ～ 12.7cm、器高 2.3 ～ 2.6cm を測る。

SK093 出土遺物（第 78 図）1 は**白磁** 碗Ⅴ－ 1a 類、2 は無釉の陶器こね鉢Ⅰ類である。

SK095 出土遺物（第 78 図）**土師器** 小皿（3･4）口径 8.9･9.7cm、器高 0.9･1.3cm を測る。丸底杯（5 ～ 7）内面は研磨され、口径 14.8 ～ 15.7cm、器高 2.9 ～ 3.3cm を測る。

8 は滑石製紡錘車、9 は土師器杯で混入品である。10 －**白磁**碗Ⅱ－1、11 －**白磁**碗Ⅴ－1a 、12 －**白磁**皿Ⅴ－2a である。13 は高麗陶器口縁部片、14 は**白磁**碗Ⅴ－1a 、15 は砥石、16 は**白磁**小碗ⅩⅣ－b で口縁部を輪花状にし、体部内面に白堆線を入れる。高台は細く高いが内側の削りが高台の 1/3 程で、底部が厚くなる。17 は **白磁**皿Ⅴ－1a、18 は**白磁**皿Ⅶ－1c である。

SK123 出土遺物（第 79 図）**土師器** 小皿（1・2）口径 9.4・9.5cm、器高 1.3・1.5cm を測る。杯（3）口径 12.3cm、器高 3.0cm を測る。

SK131 出土遺物（第 79 図）**土師器** 小皿（6）口径 7.5cm、器高 1.4cm を測る。杯（7 ～ 9）口径 12.0 ～ 12.8cm、器高 2.4 ～ 3.3cm を測る。

10 は**瓦器**椀、11 は脚付椀、12 は青磁碗底部片で、外底に墨書が記されている。

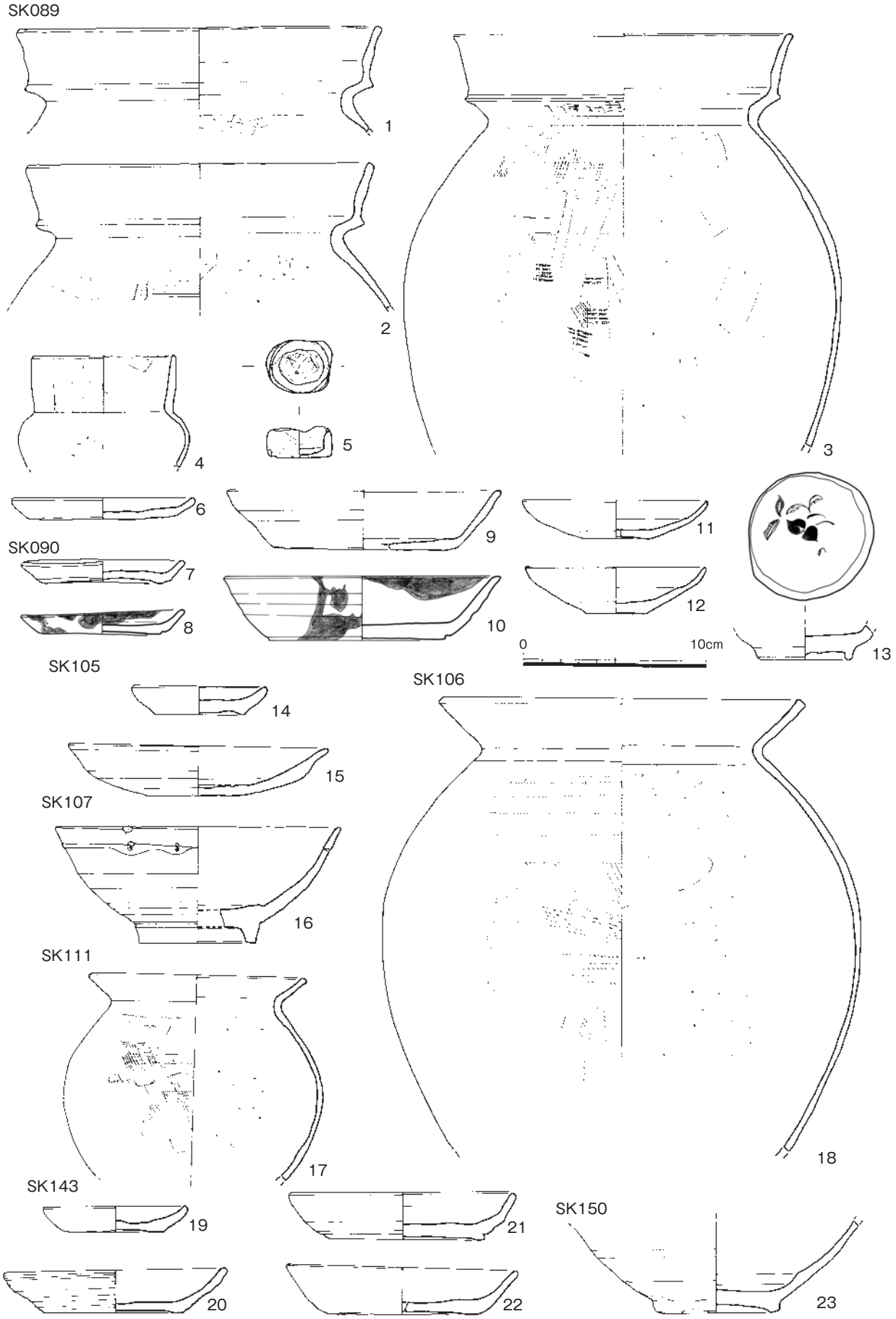
13 は陶器高台付こね鉢底部片（SK132）、14 は土師器丸底杯（SK142）。

SK1143 出土遺物（第 80 図）15 は**土師器**小皿、口径 7.2cm、器高 1.4cm を測る。16 は印花粉青沙器碗底部片。

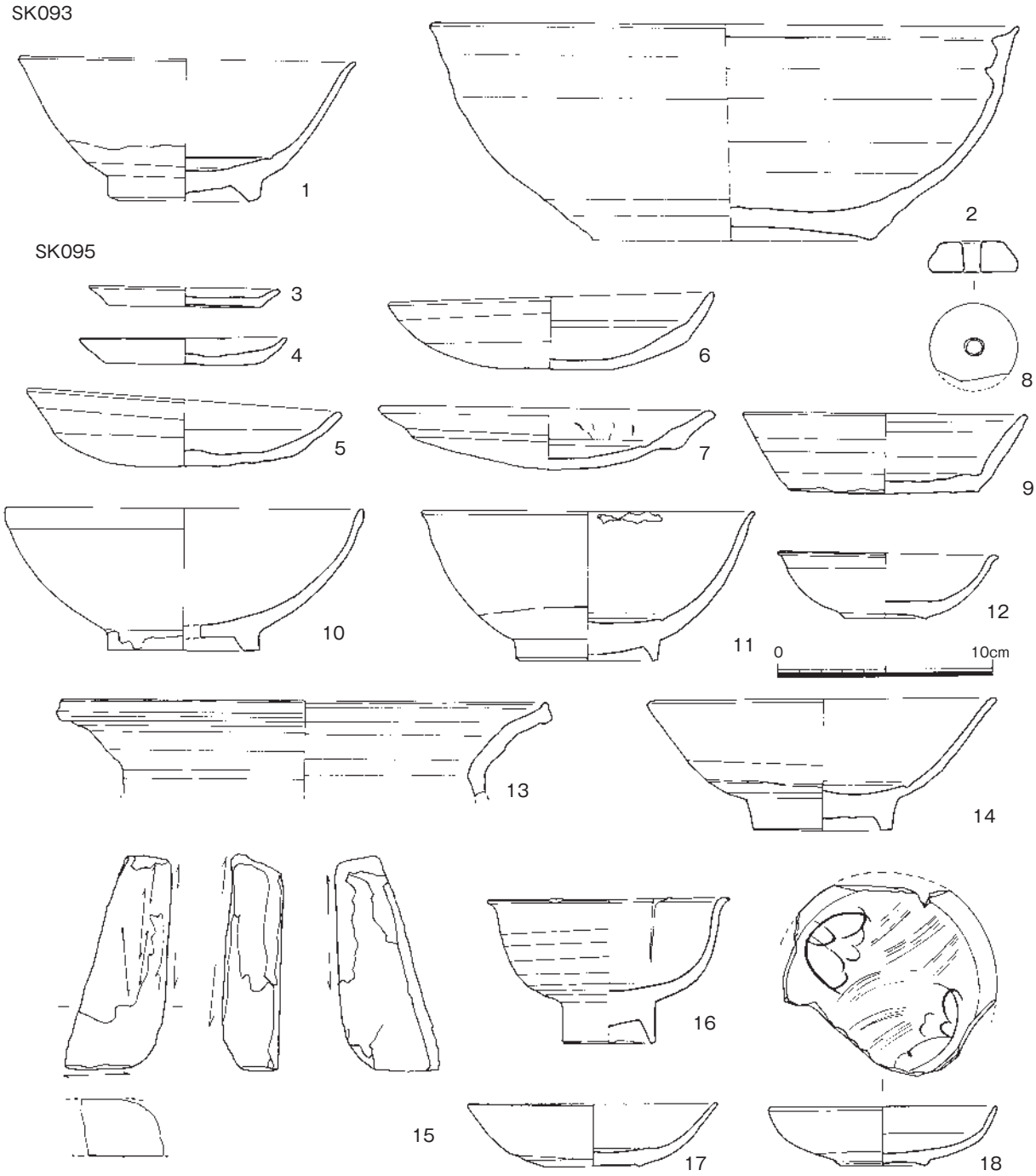
SK022 出土遺物土師器 小皿（17）口径 6.5cm、器高 1.6cm を測る。杯（18）口径に比して底径が小さく、口縁部を輪花状にし、口径 12.0cm、器高 2.8cm を測る。

SK4001 出土遺物（第 79 図）26 ～ 28 は**須恵器** 杯、29 は土錘である。

30 は**土師器** 丸底杯（SK110）である。



第 77 図　出土遺物実測図 51（縮尺 1 / 3）



第 78 図　出土遺物実測図 52（縮尺 1 / 3）

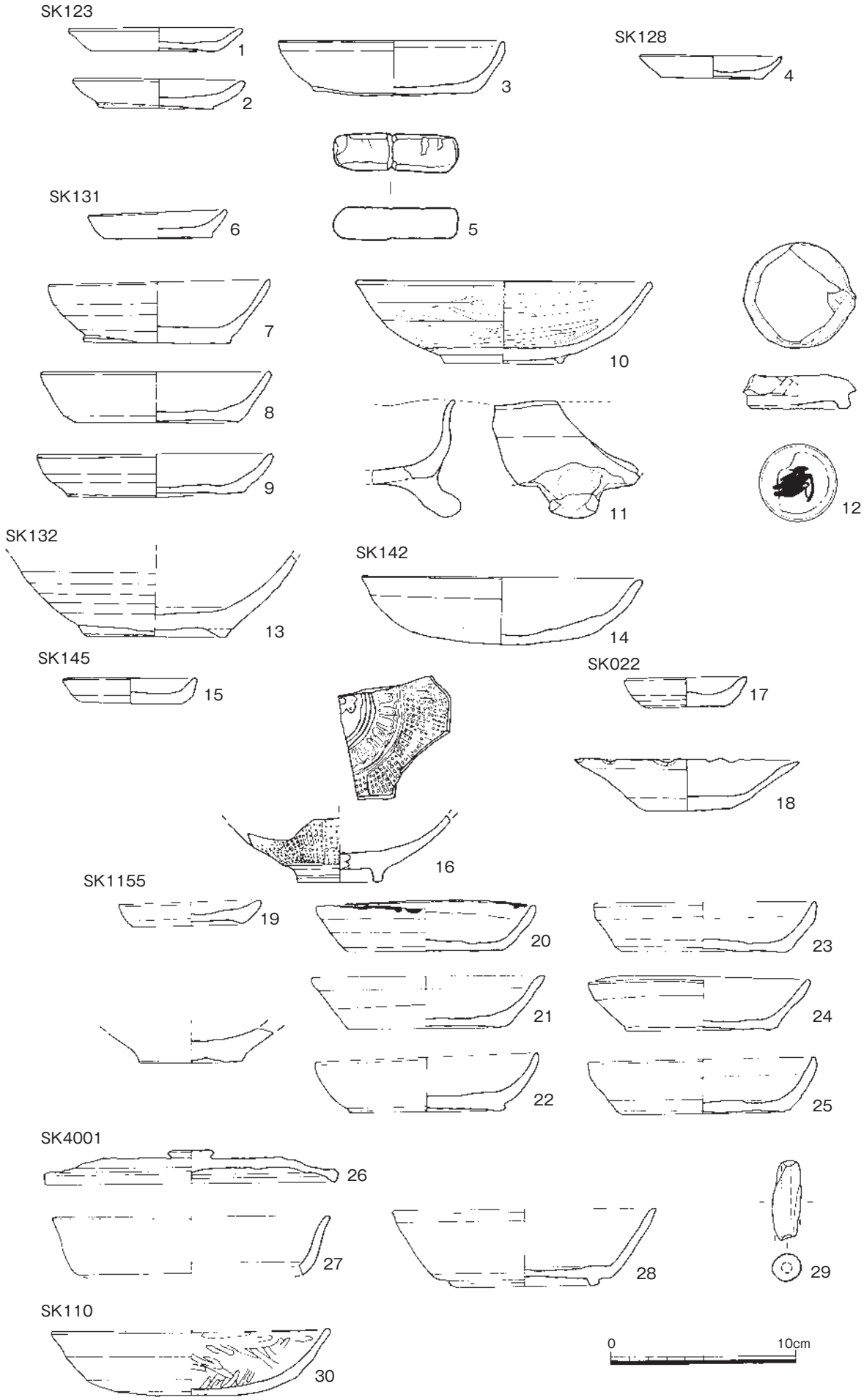
弥生・古墳時代（第 80・81 図）

1 は鉢、B － 3 Ⅲ層出土。　2 は小型の甕、B － 3 Ⅲ層

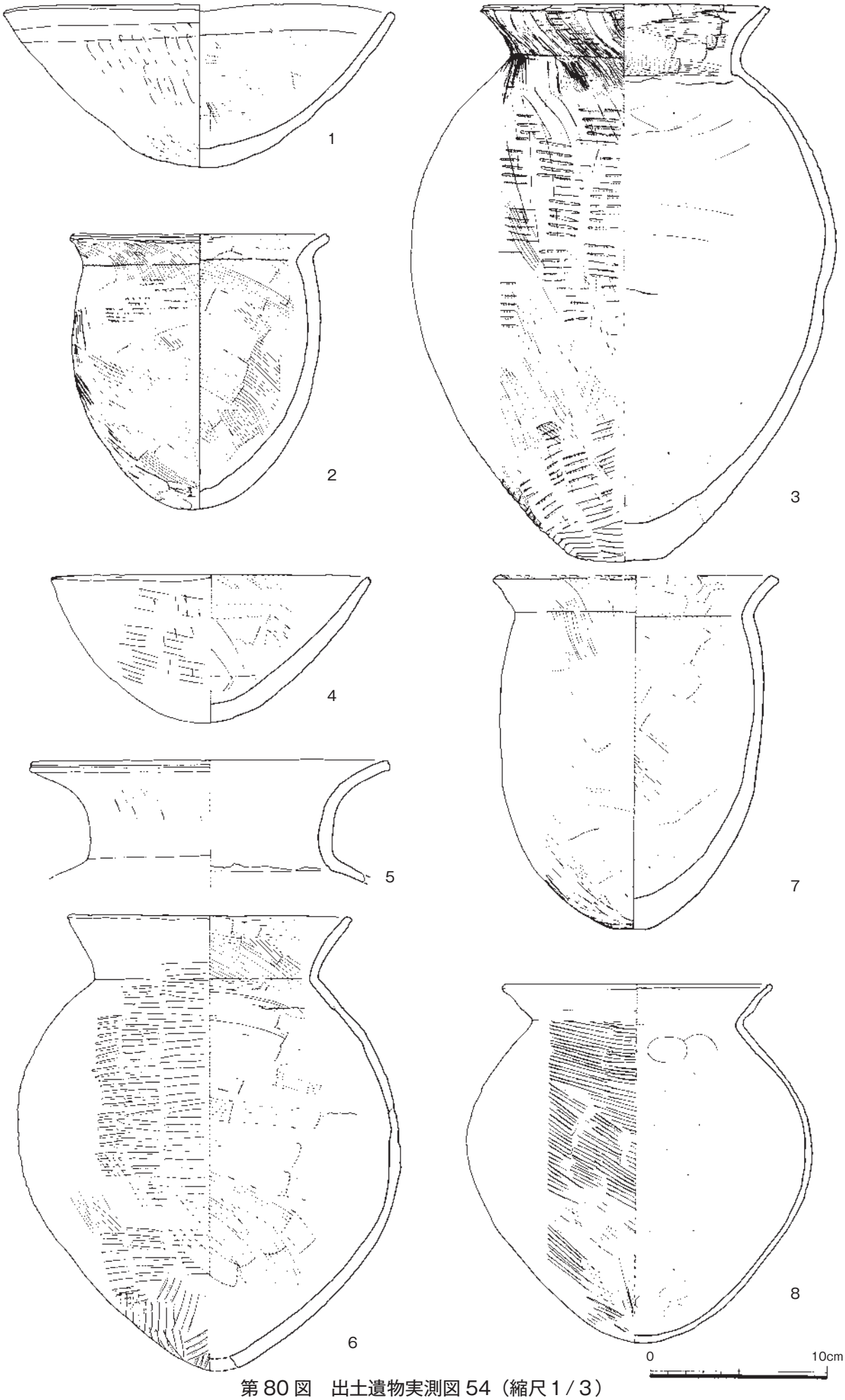
3 は甕、B － 3 Ⅲ層　　4 は鉢、B － 3 Ⅱ層

5 は広口壺、B － 3 Ⅱ層　　6 は甕、C － 3 Ⅲ層

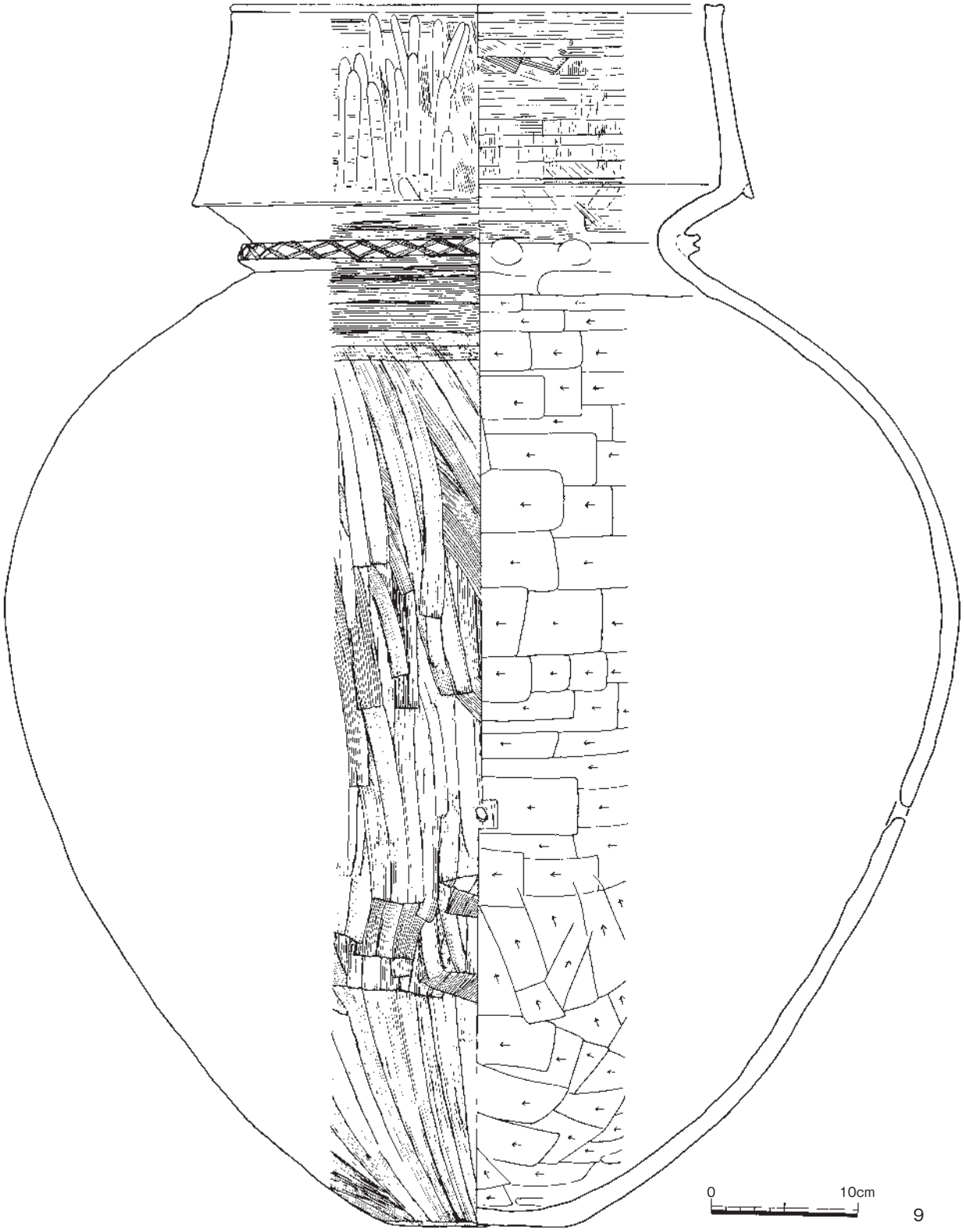
7 は小型の甕、B － 3 Ⅱ層　8 は土師器甕、SK4106　9 は壺、SK130 からの出土である。



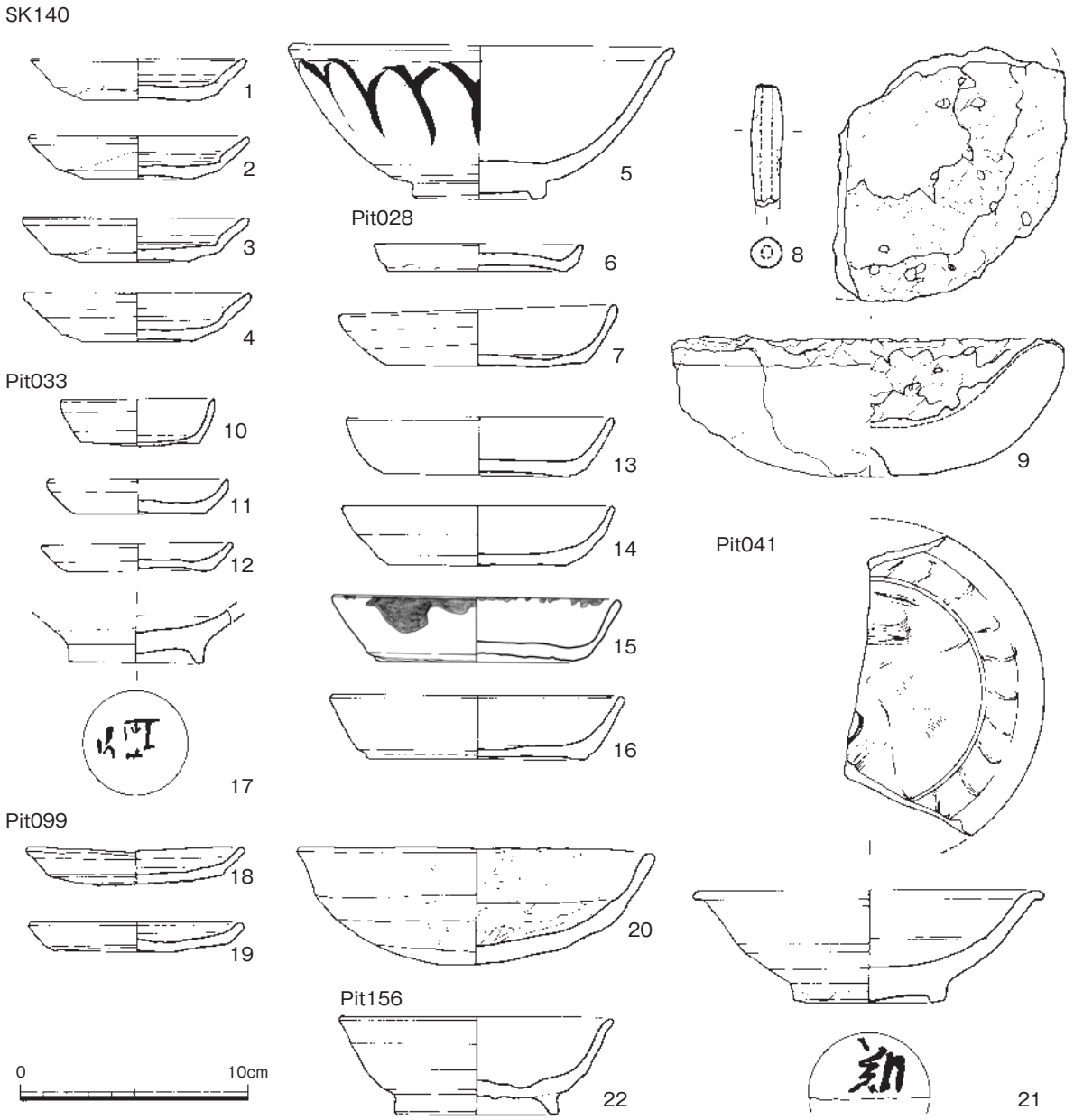
第 79 図　出土遺物実測図 53（縮尺 1 / 3）



第 80 図　出土遺物実測図 54（縮尺 1 / 3）



第 81 図　出土遺物実測図 55（縮尺 1 / 4）



第 82 図　出土遺物実測図 56（縮尺 1 / 3）

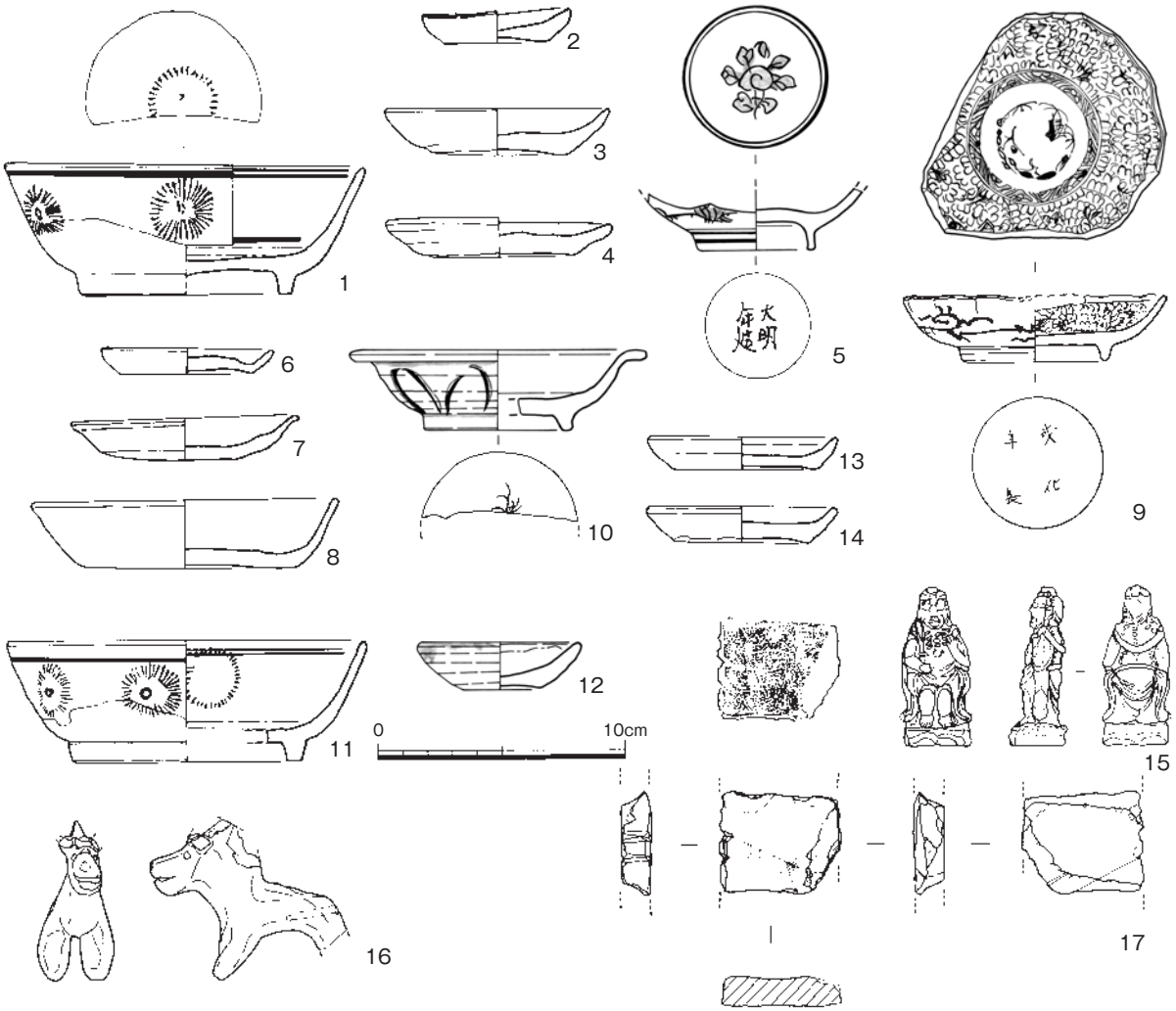
SK140 出土遺物（第 82 図）**青磁器** 皿（1 ～ 4）碗（5）

Pit028 出土遺物（第 82 図）6 は**土師器**小皿、口径 9.3cm、器高 1.1cm を測る。7 は杯、口径 12.3cm、器高 2.3cm を測る。8 は土錘、9 は坩堝。

Pit033 出土遺物（第 82 図）**土師器** 特小皿（10）口径 6.8cm、器高 1.9cm、小皿（11･12）口径 8.1･8.5cm、器高 1.5・1.2cm を測る。杯（13 ～ 16）口径 11.7 ～ 13.0cm、器高 2.5 ～ 2.7cm を測る。
17 は白磁碗底部で、外底に墨書が記されている。

Pit099 出土遺物（第 82 図）18・19 は土師器小皿で、口径 9.5・9.5cm、器高 1.5・1.3cm を測る。20 は土師器丸底杯、21 は白磁浅碗　類で、外底に墨書が記されている。

Pit156 出土遺物（第 82 図）22 は土師器高台付杯で、口径 12.1cm、器高 4.3cm を測る。



第 83 図　出土遺物実測図 57（縮尺 1 / 3）

近世遺構出土遺物（第 83 図）近世の遺物の他、中世以前の遺物も多々出土している。

1・11 はベトナム陶器杯で、内底見込は輪状に釉が掻き取られ、体部内外面と 1 は見込に菊花文の鉄絵を描く。1 は K－001、11 は K－032 出土。

2 ～ 5 は K－002 出土で、特小皿 2 は口径 6.0cm、器高 1.3cm、小皿 3・4 は口径 7.0・7.2cm、器高 1.9・1.6cm を測る。5 は青花饅頭心碗底部片である。

6 ～ 8 は K－006 出土の土師器で小皿 6・7 は口径 7.0・9.3cm、器高 1.0・1.7cm を測る。杯 8 は口径 12.5cm、器高 2.7cm を測る。

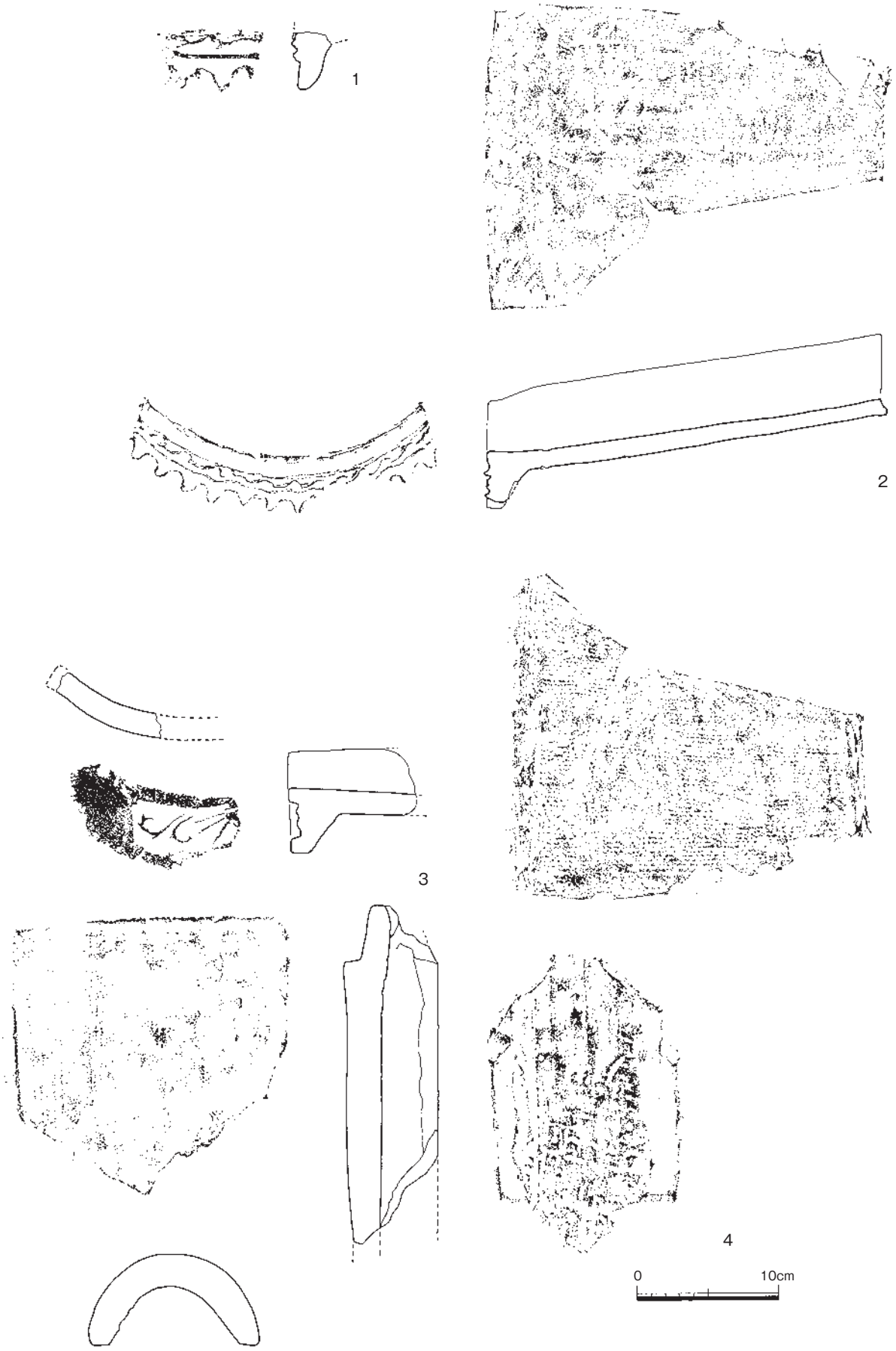
9 は肥前磁器皿、K－010、10 は青磁杯で、K－019 出土。

12 ～ 14 は K－039 出土で、特小皿 12 は口径 6.6cm、器高 1.9cm、小皿 13・14 は口径 7.6・7.7cm、器高 1.3・1.5cm を測る。

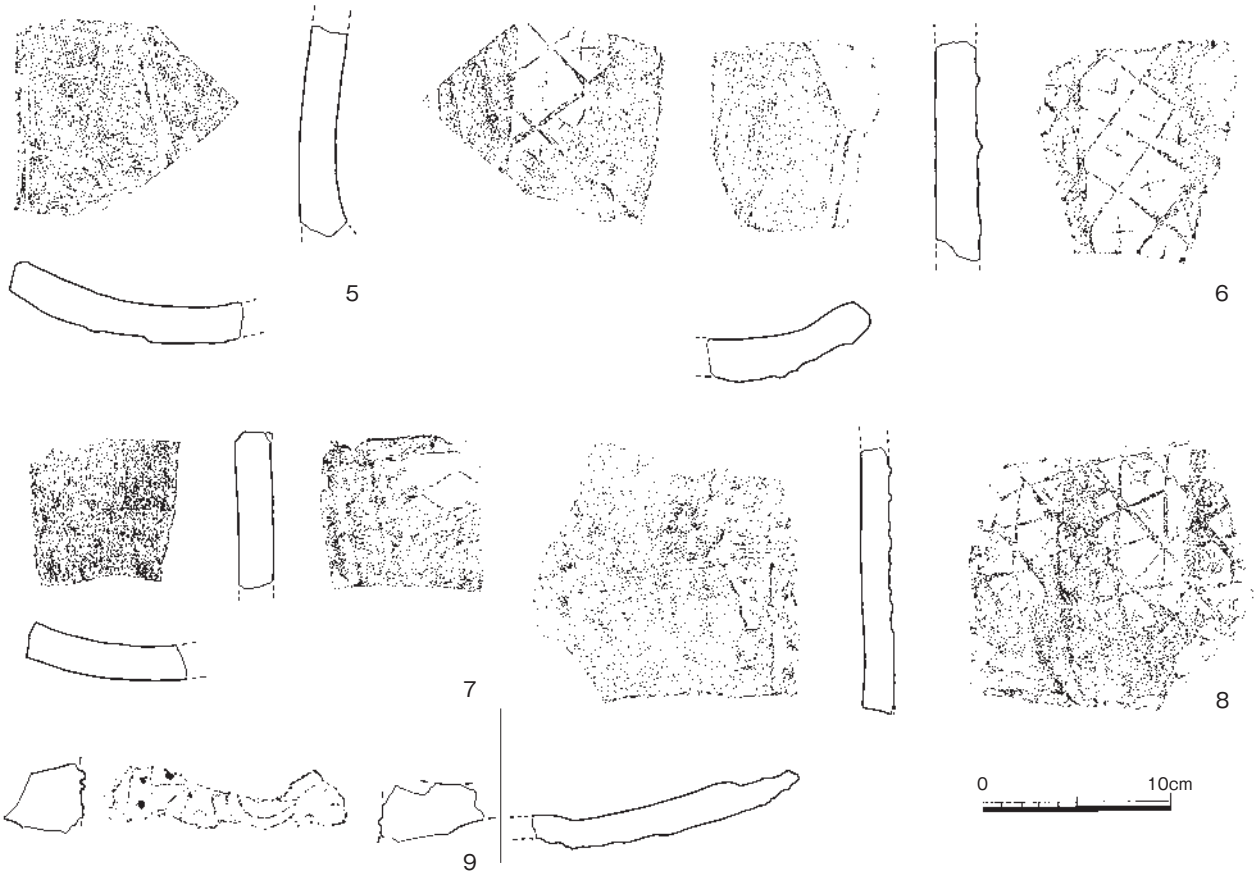
15 は褐灰色～オリーブ褐色の低火度釉を掛けた型押し作りの陶製の小仏像で、K－042 出土。

16 は土製馬形で、たてがみと後脚が欠失している。SK2048 出土。

17 は砥石片で、文字が線刻されている。K－030 出土。



第 84 図　出土瓦実測図１（縮尺１/４）



第 85 図　出土瓦実測図２（縮尺１/４）

瓦（第 84・85 図）

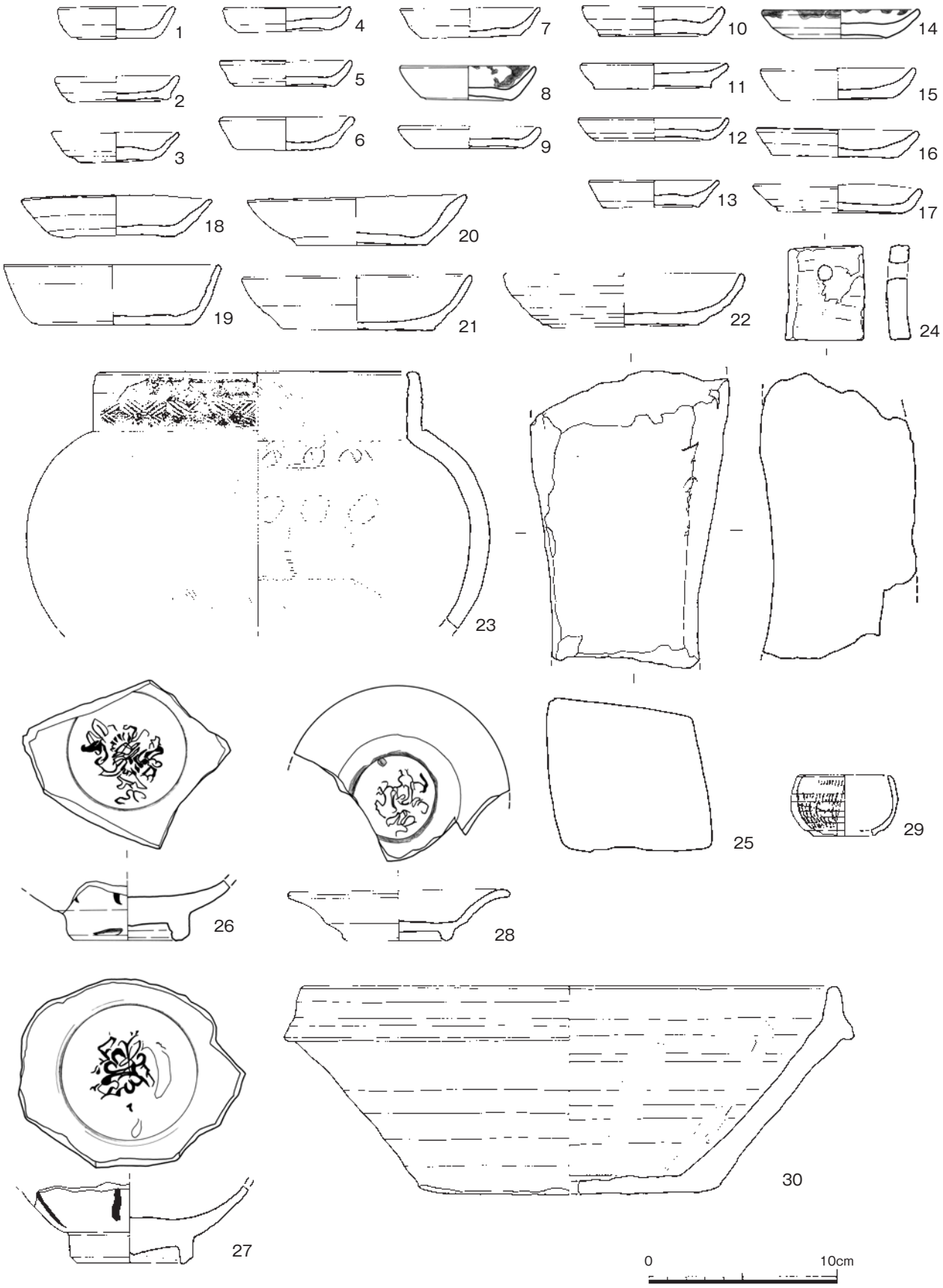
重弧文押圧波状文軒平瓦（1・2）型引きによる三重弧文の顎部に押圧による波状文を配し、二重弧目を刺突し右流れの波状文とする。1 は顎上部が欠失している。B－1 Ⅰ層出土である。2 の瓦当と平瓦の接合部は強く横ナデされ、平瓦部分は凹面に布目痕、凸面に縄目痕が残る。SK2111 出土である。

軒平瓦（3）SK1070 出土

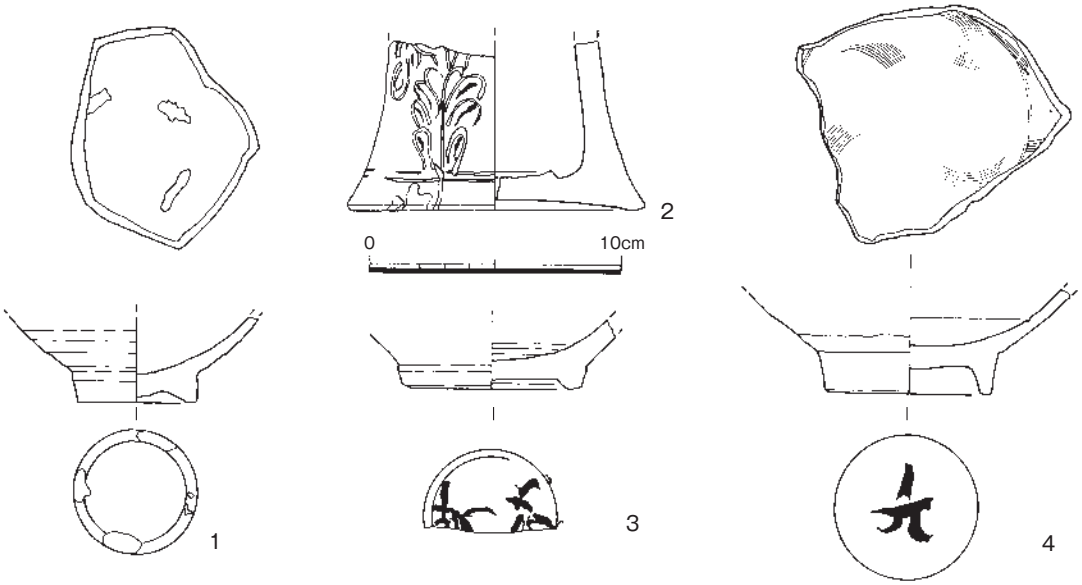
丸瓦（4）玉縁付丸瓦で、凹面に布目痕、凸面に縄目痕が残る。SK3062 出土である。

平瓦（5 ～ 8）　5・7 は SK051、6・8 は SK059 出土

軒平瓦（9）SK059 出土



第 86 図　出土遺物実測図 58（縮尺 1 / 3）



第 87 図　出土遺物実測図 59（縮尺 1 / 3）

包含層出土遺物

1 ～ 2 **面掘り下げ出土遺物**（第 86 図）1 ～ 8 は**土師器**特小皿、口径 6.0 ～ 7.4cm、器高 1.3 ～ 1.8cm を測る。9 ～ 17 は**土師器**小皿、口径 7.6 ～ 9.0cm、器高 1.2 ～ 1.5cm を測る。18 ～ 22 は土師器杯、口径 11.5 ～ 12.8cm、器高 2.5 ～ 3.0cm を測る。23 は瓦質土器湯釜、24 は滑石製温石、25 は砥石、26・27 は青磁碗、28 は青磁皿で、内底見込に花文をスタンプする。29 は青白磁、30 は備前陶器すり鉢。

（第 87 図）1 は白磁碗、2 は粉青沙器象嵌梅瓶底部である。3 は白磁碗Ⅳ類底部片、4 は白磁碗Ⅴ類底部片、いずれも外底に墨書が記されている。

A－1　**Ⅰ層出土遺物**（第 88 図）1・2 は**土師器**小皿、口径 7.8・8.0cm、器高 1.4・1.2cm を測る。3 は土師器杯、口径 12.0cm、器高 2.7cm を測る。

A－4　**Ⅰ層出土遺物**（第 88 図）4 は**土師器**特小皿、口径 6.4cm、器高 1.5cm を測る。5 は**土師器**小皿、口径 7.7cm、器高 1.3cm を測る。

A－2　**Ⅱ層出土遺物**（第 88 図）6 は白磁浅碗Ⅵ類底部片で、外底部に墨書「黄綱」が記されている。

B－1　**Ⅰ層出土遺物**（第 88 図）7 は**土師器**小皿、口径 8.8cm、器高 1.0cm を測る。8 は毬杖玉、9 は土錘である。

B－1　**Ⅱ層出土遺物**（第 88 図）10 は青磁筒形三足香炉である。

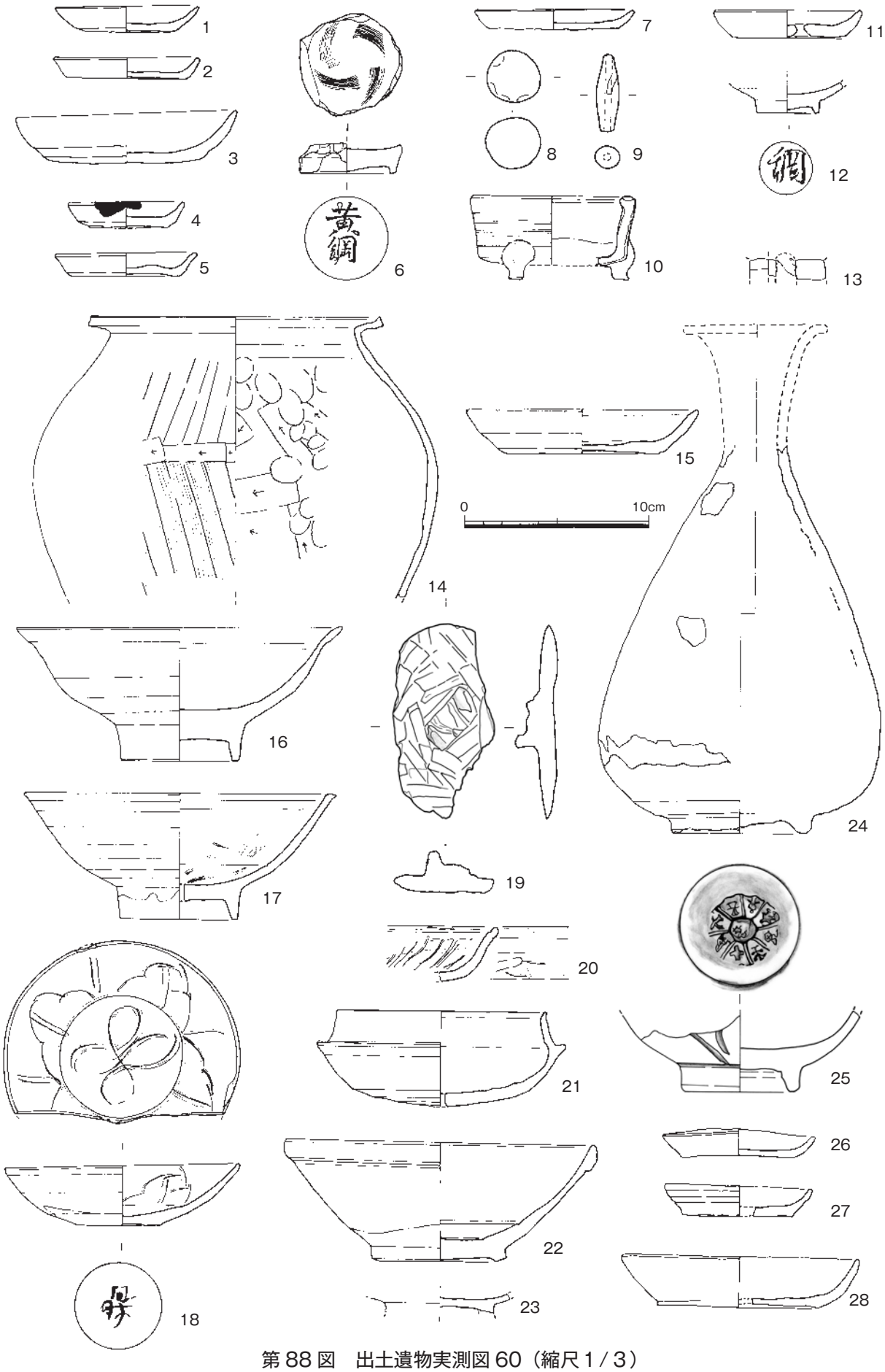
C－2　**Ⅱ層出土遺物**（第 88 図）11 は**土師器**小皿で底部中央に穿孔があり、口径 8.1cm、器高 1.5cm を測る。12 は白磁小碗底部片で、外底部に墨書「綱」が記されている。13 は土師器高杯の脚部端杯との接合部である。14 は土師器甕で、口縁端部を上につまみ上げる。

C－3　**Ⅱ層出土遺物**（第 88 図）15 は土師器杯、口径 8.0cm、器高 1.5cm を測る。16 は白磁碗Ⅴ－2a 類、17 はⅤ－4b 類である。18 は白磁皿Ⅵ－2b 類で、外底部に墨書が記されている。19 は滑石製石鍋の破損部位を補修するための滑石製品、20 は畿内系暗文土器、21 は須恵器杯である。

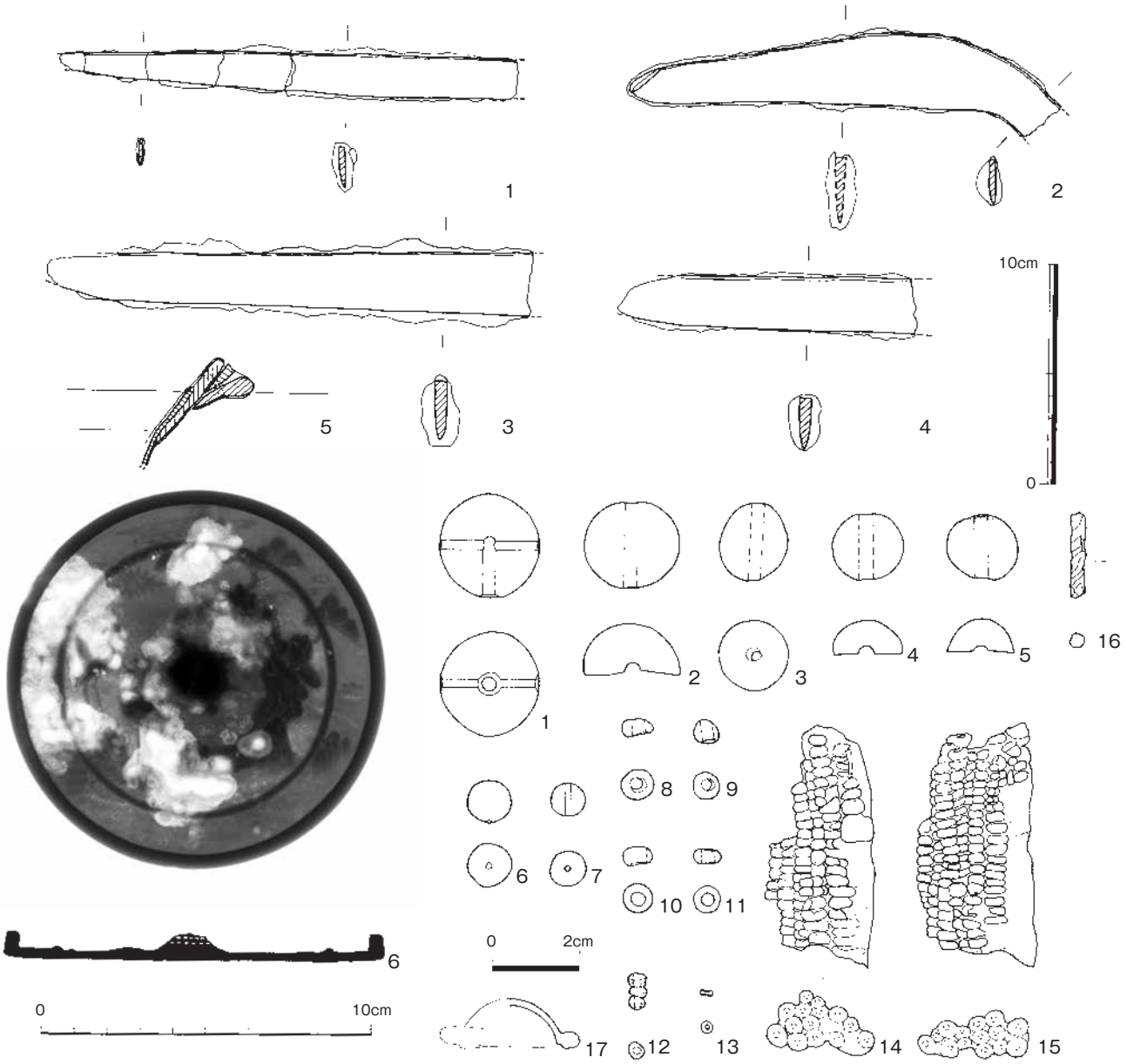
C－3　**Ⅲ層出土遺物**（第 88 図）22 は白磁碗Ⅳ－1a 類、

C－3　**Ⅰ層出土遺物**（第 88 図）24 は粉青沙器粉引瓶、25 は青磁碗底部片で、内底見込に八宝文をスタンプする。

C－3　**Ⅰ層出土遺物**（第 88 図）26・27 は**土師器**小皿、口径 8.2・8.0cm、器高 1.5・1.7cm を測る。28 は土師器杯、口径 12.7cm、器高 2.7cm を測る。



第 88 図　出土遺物実測図 60（縮尺 1 / 3）



第89図　出土遺物実測図61（縮尺2/3・1/3・1/2）

鉄製品（第89図）1は小柄で、SK049出土、2は鎌で、SK3139出土、3・4は小刀、3はSK3203、4はSK052出土である。5は鍋口縁部片で、SK4066出土である。

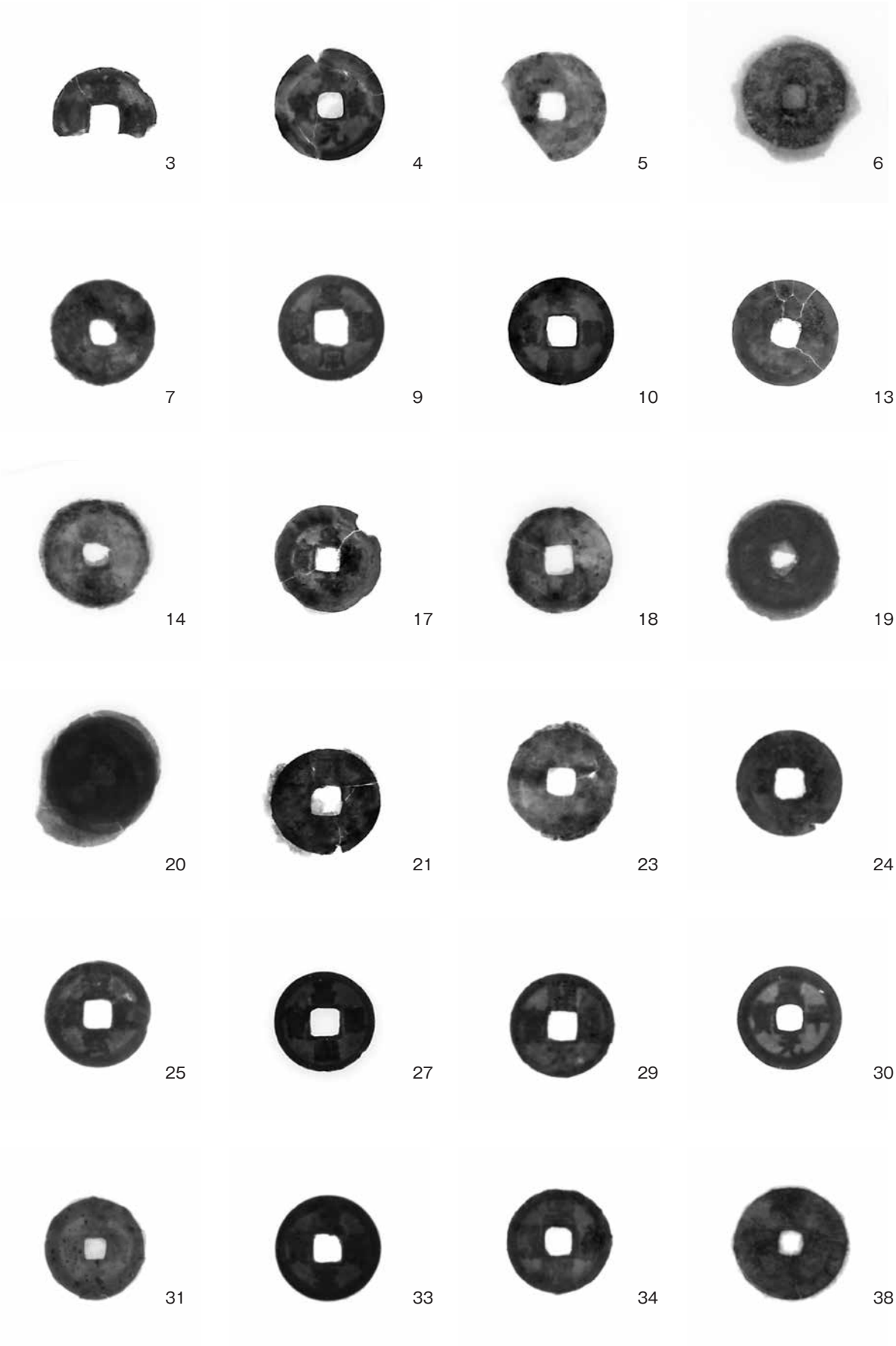
水晶・ガラス製品（第89図）1は水晶製数珠親玉で、T字に穿孔されている。無色透明で、SK1149出土。2～5・7～13はガラス玉で、ガラス棒を高熱で熔かし鉄の棒に巻き付けてつくられたものである。2はガラス玉、青色不透明、B－2Ⅱ層出土。3はガラス玉、黄白色透明、SK3088出土。4は青色透明、SK3019出土。5は緑色透明、SK3081出土。6は水晶玉で、SK2047出土。7は青色不透明、C－4出土。8～11はガラス小玉で、8は緑色透明、9～11は青色透明を呈する。8はSK3027、9はSK3136、10はSK086、11はSK054出土である。12はガラス小玉3個が溶着したもので、青色不透明、A－2Ⅱ層出土。14・15はSK069出土16はガラス棒を捻ったもので、青色不透明、SK002出土。17はガラス製小壺蓋で、吹きガラスに熱せられたガラス棒を巻き付け縁とする。黄白色不透明を呈し、B－1Ⅰ層出土。

銅製和鏡（第 89 図）6 は SE059 井戸枠内からの出土で、鏡背の銹化が著しく、鋳込まれた文様が不鮮明であるため、拓影に代えてＸ線写真を示す。厚縁が直角に曲がる。内区左に 2 羽の鶴、右は銹化がさらに著しく不明、外区には松枝他を配し、中心には亀の形をした紐が付く。径 11.4cm を測る。南北朝期の松楓双鶴鏡である。

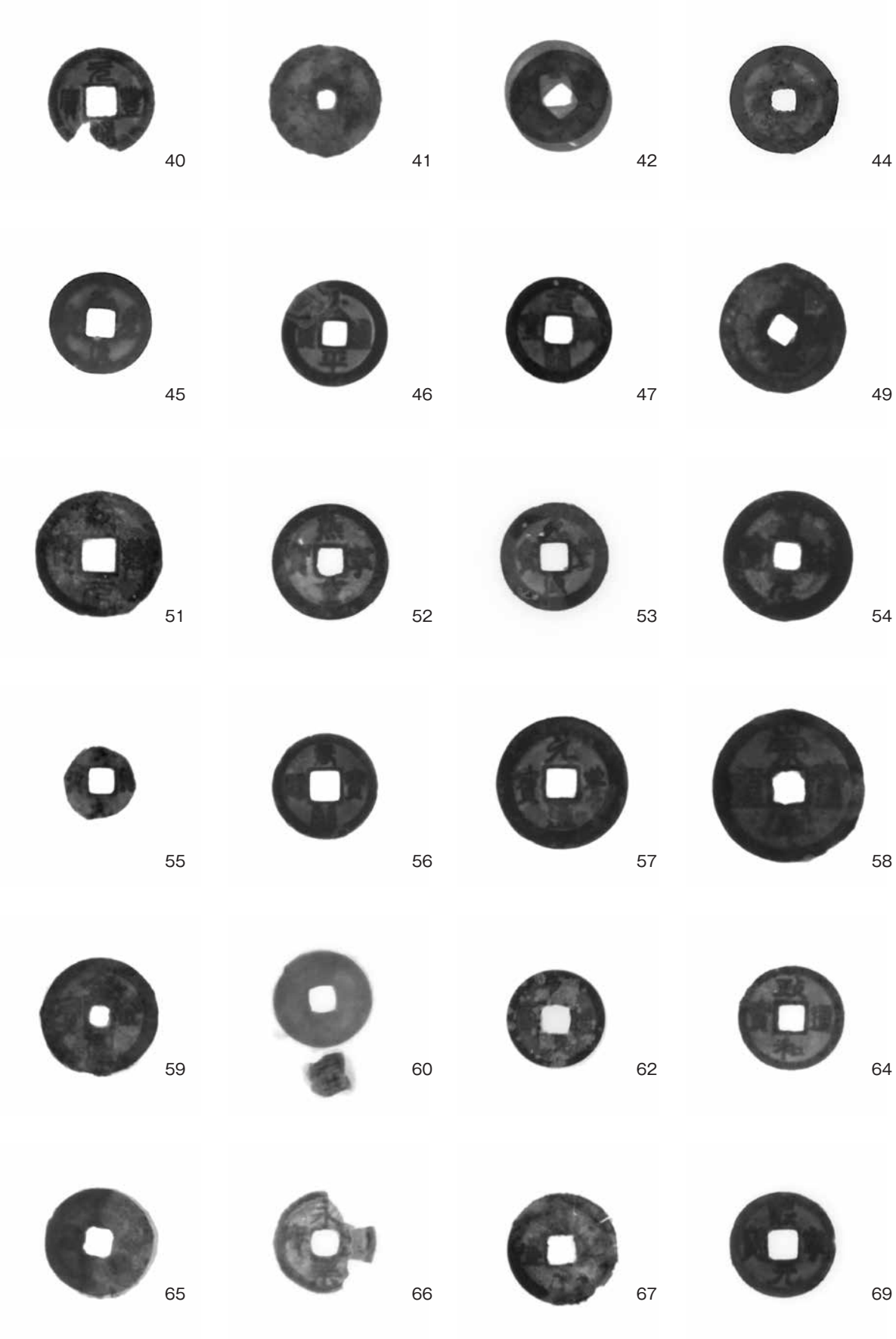
銅銭（第 90・91 図）銹化が著しく、鋳込まれた銭名が不明瞭で、拓影により破損のおそれがあるため、それに代えて比較的残存良好な資料のＸ線写真を示す。資料№、銭名、初鋳年、出土遺構・層位等については下図に示す。銭名を判読できたものは選別した中の半数にも及ばなかった。

№	銭　名	初鋳年	出土遺構・層位	備考		銭　名	初鋳年	出土遺構・層位	備考
3			ＳＫ０１０		40	元豊通寶	1078	SK １１６２	
4	景徳元寶	1004	ＳＥ０２０		41			SK ２０４７	
5			ＳＥ０２０		42			SK ２０４８	２枚銹着
6			ＳＥ０２０ 井戸枠内		44			SK ２１２５	
7			ＳＫ０２５		45	元豊通寶	1078	SK ３０１５	
9	皇宋通寶	1039	ＳＥ０３８		46	太平通寶	976	SK ３０２４	
10			ＳＥ０３８		47	元豊通寶	1078	SK ３０３０	
13			ＳＥ０５１		49			SK ３１１９	
14			ＳＥ０５２		51			SK ３２００	
17			ＳＫ０５５		52	熙寧重寶	1068	SK ３２００	
18			ＳＫ０５６		53	元豊通寶	1078	SK ３２００	
19			ＳＫ０５６	３枚銹着	54			SK ３２００	
20			ＳＥ０５９	４枚銹着	55			SK ３１２５	
21			ＳＥ０５９ 井戸枠内		56			SK ３１５０	
23			ＳＫ０７６		57	元豊通寶	1078	SK ４１１７	
24			ＳＫ１３１		58	崇寧重寶	1072	Ⅱ層	
25			Ｋ－００２		59			Ⅰ層	
27			Ｋ－０２９		60			Ⅰ層	
29	開元通寶	621	Ｋ－０３１		62	寛永通宝		Ⅰ層	
30	□平元寶	976	Ｋ－０３２		64	政和通寶		Ⅰ層	
31			SK １０５８		65			Ⅰ層	
33			SK １０７３		66	永楽通寶	1408	下層	
34			SK １０９７		67			下層	
38			SK １１５６		69	熙寧元寶	1068	掘り下げ１段分	

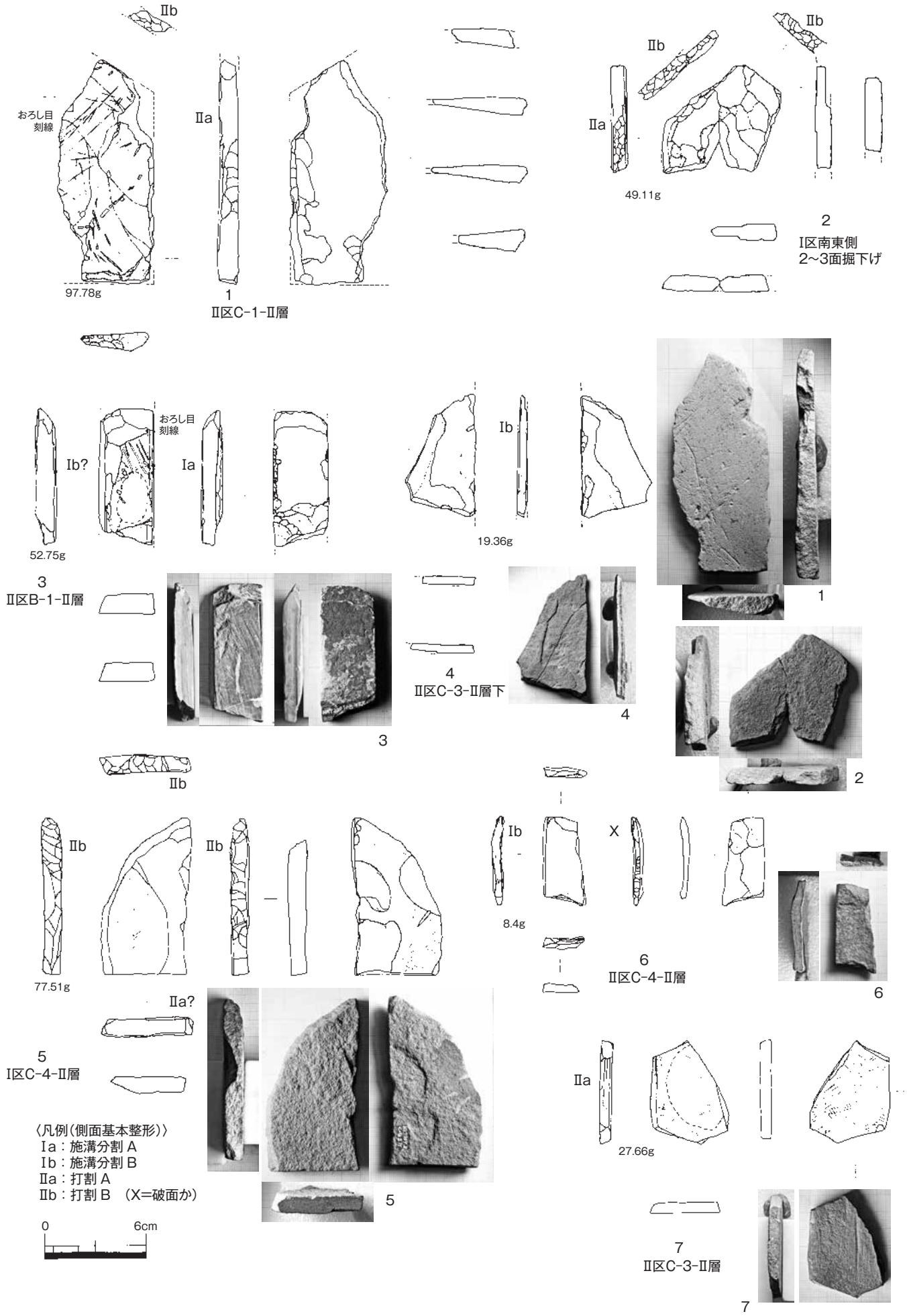
銅銭一覧



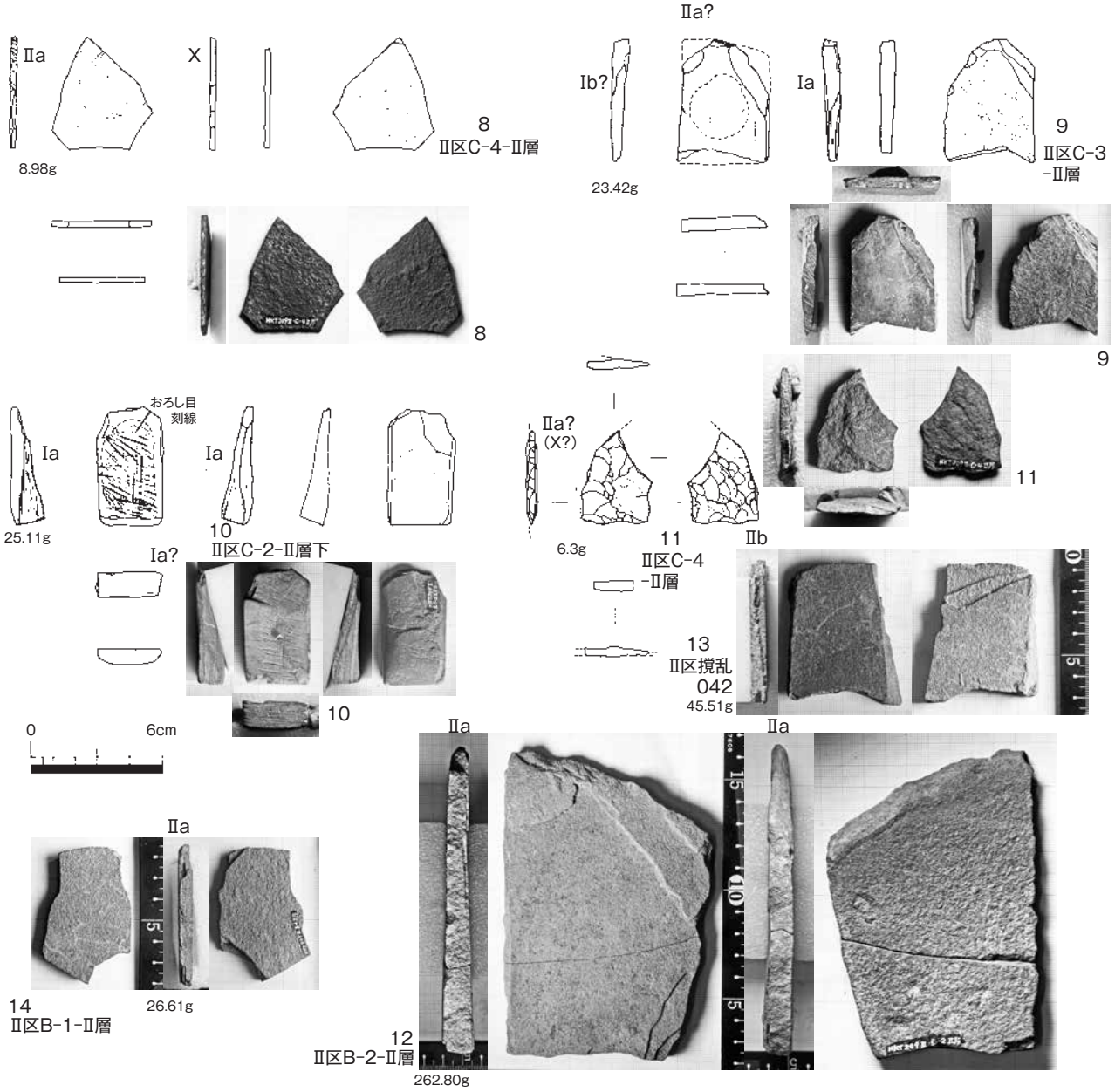
第 90 図　銅銭 X 線写真 1



第 91 図　銅銭 X 線写真 2



第92図　板石硯・研石の可能性がある資料（1）（1／3、写真も約1／3）



第93図　板石硯・研石の可能性がある資料（2）（1/3、写真も約1/3）

「板石硯」とは、中国漢代の「長方形板石硯」を模倣受容した列島の弥生～古墳時代の板状石製硯で、後世の石材が統一的な「石硯」とは区別される。「研石」は板石硯の上で「墨丸」を磨り潰す小型方形石製品である。いずれも「砥石」や中世の石製品とは使用痕や製作技法（側面整形や剥離技法）から区別できる。抽出資料はいずれも中世の埋立包含層の出土だが、弥生終末～古墳前期の韓半島系土器や多数の外来系搬入土器が含まれる層であり、南側の博多浜砂丘Ⅱ中央部に本来存在した遺物と考える。1～8、12～14は板石硯（5、8、12～14は未成品）、9、10は研石（9は板石硯再生品、10は砥石転用）、1、2、5、12は五角形型またはその未成品、8、11は円頭笏状型またはその未成品。未成品は硯表面に加工する面を図の左とした。板石硯裏面は剥離未調整のもの（1､2､6､11）と粗研磨のもの（4、7）がある。石材は多様で、1、2、6、12は白雲母多い砂質泥岩、3、10はシルト質頁岩ないし粘板岩、4、5、7、8、11、12、13、14砂質頁岩（4、5は白雲母やや多、他は少）、9は頁岩とみられる。（久住猛雄）

◆参考文献
久住猛雄 2019「古墳時代における「板石硯」の展開について（予察）」『令和元年度和九州考古学会総会研究発表資料集』
久住猛雄 2020「近畿地方以東における「板石硯」の伝播と展開」『第 34 回考古学研究会東海例会荒尾南遺跡を読み解く～集落・墓・生業～』

Ⅳ．小結

博多遺跡群は中世前半において大陸からの物資の門戸として、宋商人が居留し、交易船から積み下ろされた物資の一大集散地とされる。井戸や廃棄土坑から出土する膨大な量の宋代の陶磁器は、博多が交易の拠点であった物証とされる。しかし、検出された遺構の位置づけについては、得られる情報が乏しく、国際港湾都市を構成する要素として具体的にどのような機能をもっていたのか、その実像について具体的に述べていくことは困難である。港湾施設として、船着場、荷の揚げ下ろしの際に必要となる桟橋、倉庫、荷役を担った人夫たちが詰めていた小屋、住居、店舗などが想定される。200 次を超える発掘調査で、港湾施設が置かれた大唐街、唐房と呼ばれた宋人居留区域の一画を引っ掛けているのであろうが、居留区を画した塀や溝、港湾施設、信仰の対象となる祠堂、墓地と断定できる遺構は検出されていない。宋商人たちが構えた住居とはどのようなものだったのか、周辺集落でみられる建物とはどのような差異がみられるのか。発掘調査では用途まで明確に特定できるような建物遺構の検出例はない。

店舗や倉庫についても明確に断定できる遺構は検出されていないが、これまでの博多の発掘調査では第 56・79 次調査など陶磁器が大量に廃棄された遺構が多く検出されている。本調査では、12 世紀中頃から後半にかけての土坑が多く検出された。その多くは廃棄土坑とみられ、出土した陶器壷・鉢・盤片から完形に近い残存率で数個体分を復元することができた。液体の容器として陸揚げされた後に、破損し容器として再利用できないことにより廃棄されたのであろう。また、陶製経筒のように容器自体が商品として輸入されたものの破片が 4 個体分出土している。これらも破損により廃棄されたのであろう。磁器碗・皿も口縁部が数分の一欠けた完形に近い状態のものが多く出土している。その多くも検品ではねられた破損品であろう。同じ器形のものが数個体出土している中で、井戸から国内ではほとんど流通していない定窯柿釉碗片が 4 個体分出土したことは特筆される。同じく国内にほとんど流通せず、箱崎遺跡を含めた広義の博多限定で出土例がある 12 世紀代、北宋末に生産された黒釉陶器「天目碗」と同様に、すでに一般化していた居留宋商の喫茶の風習によるものであろう。白磁では博多周辺の 12 世紀代の遺跡で通有の碗玉縁口縁の碗Ⅳ類や端反り口縁の碗Ⅴ類の他に、出土頻度が低いやや内湾した直口縁、内底見込に段が付く碗Ⅱ－4b 類が多く出土しており、体部内面を堆線で分割するもの、内面に櫛目の施文がみられるもの、口縁部を輪花状にするものなど多種多様な型がみられる。

また、同時期の遺構では獣骨の廃棄、あるいは埋納土坑も多く検出された。複数頭の牛が廃棄、埋納された土坑については、屠殺、あるいは疫病死、疫病による殺処分、殺牛祭祀等の要因が考えられよう。農耕や運搬などの労役のために飼育された牛が屠殺された場合、食肉以外にも皮革、膠生産など多様な目的が想定される。

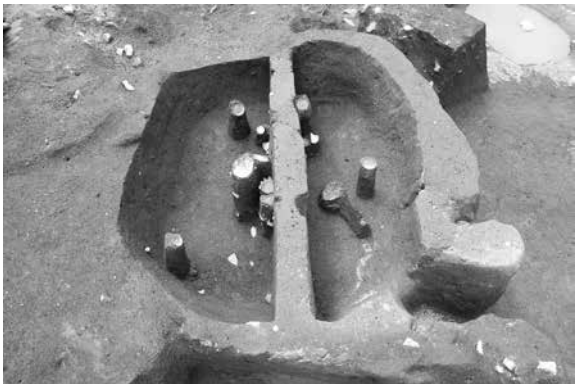
ガラス玉生産に関する遺物も多く出土した。坩堝とみられる無釉の陶器壺（元は取っ手が付いていた）の他、ガラス棒を高熱で熔かし金属製の棒に巻き付けガラス玉を作る工程で複数のガラス玉が溶

着したもの、さらにはガラス玉が孔の方向に連なって溶着したものが数条房状に溶着したものもあった。

流通・生産に関する遺物が多量に出土しているが、それらは廃棄されたものである。本調査地で地山と見なしている黄白色砂層上面の標高が 2m 前後と砂丘内では低い標高に位置し、廃棄土坑が多く検出されていることから、不衛生で居住には適さない立地であったと推定され、建物が構えられていたとして倉庫や工房など用途が限られよう。

◆参考文献

博多 ―高速鉄道関係調査（1）―福岡市埋蔵文化財調査報告書第 105 集 1984
博多 34 ―博多遺跡群第 56 次発掘調査報告―福岡市埋蔵文化財調査報告書第 326 集 1993
博多 50 ―博多遺跡群第 79 次調査の概要―福岡市埋蔵文化財調査報告書第 447 集 1996



1. SK1097（北東から）

2. SK1097（南東から）

3. SK2061 礫群

4. SK1097（南東から）

5. 土層 2（南東から）

6. SK3020（北から）

7. SK1145（南東から）

8. SX3056 供献遺物出土状況（南から）

図版２

1. SX3056 木棺墓（南から）

2. SK3030（北から）

3. SK1152（南西から）

4. SK1155 上面（北西から）

5. SK3093 廃棄土坑（北東から）

6. SK1155（北西から）

1. SE3062（北西から）

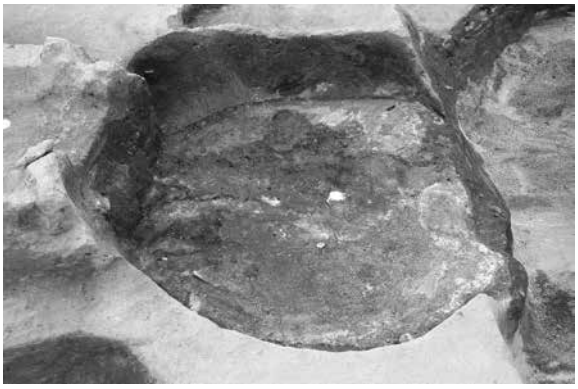
2. Ⅰ層鹿角出土状況

3. SD3094 上 牛骨出土状況（東から）

4. SD3094 下 牛下顎骨出土状況（北から）

5. SK3121 鹿下顎骨出土状況（東から）

6. SX3151（西から）



7. SK3139

8. K－3137（南西から）

図版４

1.　Ⅰ区Ⅱ層下面全景（西から）

2.　Ⅰ区Ⅱ層下面全景（北から）

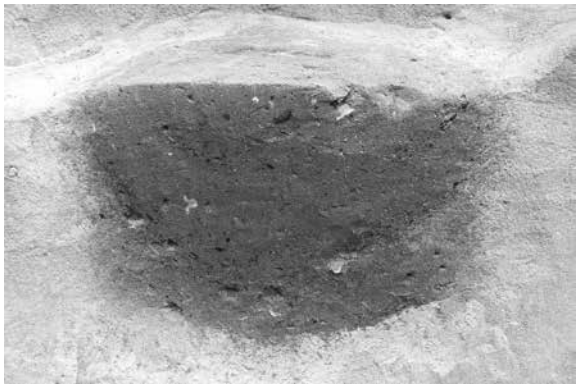
1. SX1160（南東から）

2. SK3030（南から）

3. SE3015 井戸（北東から）

4. SE3057 井戸（北西から）

5. SK3089 土層



6. SK4063 土層

7. SE3033 井戸（北西から）

8. SK3132 廃棄土坑（北西から）

図版６

1. SD3094 下 獣骨出土状況（東から）

2. SK4001 獣骨廃棄土坑（西から）

3. SK1155 完掘（南東から）

4. SK3105 土層

5. SE3024/27 井戸（北西から）

6. SE1007 井戸（東から）

7. SK3088 土層（北から）

8. SK3092（北から）

1. SK3135 すっぽん腹甲出土状況

2. SK3139 土層

3. SK3054 土層（北西から）

4. SK3147 土層

5. SE3090 井戸（北西から）

6. SK3088（南から）

7. SK3203 土層（南西から）

8. SK3151 土層（西から）

図版８

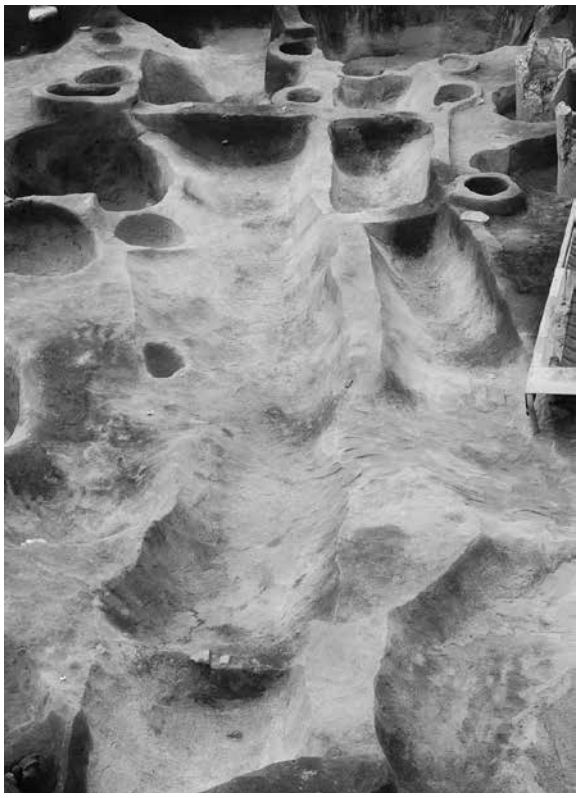
1. SK3135（南西から）

2. SK3135 すっぽん腹甲出土状況（南西から）

3. SK1018a/b 土層（西から）

4. SK3142（南から）

5. SK3140 すっぽん腹甲他出土状況（南東から）

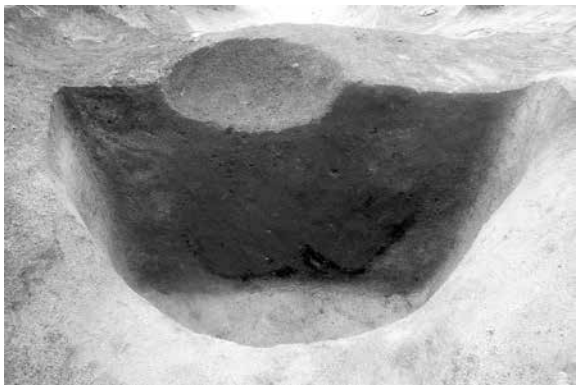


6. SD4002/4003 溝（北から）

1. SK3147 土層

2. SE3036 井戸（南東から）

3. A－1/2 Ⅲ層下面（北西から）



4. SK3093 土層

5. SK1149 焼土坑

6. SK3150（北東から）

7. SX4072 土師器甕（南西から）

8. SE3057 井戸枠（南東から）

図版10

1. SK3131 獣骨出土状況（北から）

2. SE3090 井戸（南西から）

3. SE3033 井戸（北西から）

4. SX3147 土師器甕（南西から）

5. K－1140（南東から）

6. SE3033 井戸（北東から）

7. SX4106 土師器甕（西から）

8. SE4131 井戸（南西から）

1.　Ⅰ区Ⅱ層下面（南から）

2.　Ⅰ区Ⅱ層下面（南東から）

2.　SD3094 溝（南東から）

図版12

1. SD4003/4004 溝土層（南東から）

2. SK4051

3. K－001（南東から）

4. K－001（北西から）

5. SK001（北西から）

6. SK4001 獣骨廃棄土坑（南から）

7. SK4001 ④（南から）

8. SK4001 ⑤（南から）

1. SK002（南東から）

2. SK007（北東から）

3. SK008 土層（北西から）

4. SK018 土層（南東から）

5. SK022（北東から）

6. SK024（南東から）

図版14

1. Ⅱ区Ⅰ層上面（南東から）

2. SK047（南東から）

3. SE052（南西から）

1. SE052 井戸枠（北西から）

2. SK011 土層（北西から）

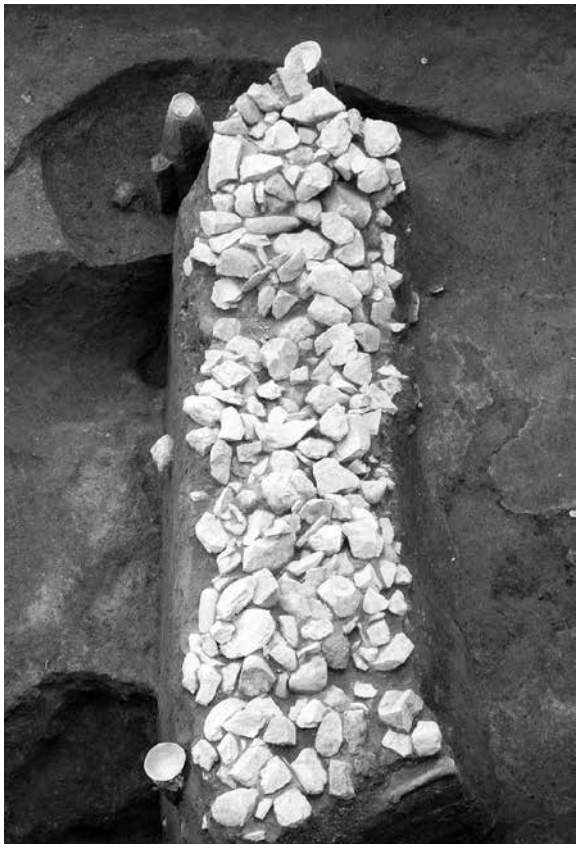
3. Ⅱ区Ⅱ層上面（南東から）

図版16

1. B/C－4 Ⅱ層上面（北東から）

2. SK070（西から）

3. SK082（北東から）



4. SE049 上面石敷（南東から）

5. SK022/084（南西から）

6. SK070（北西から）

1. SK089（東から）

2. C－4 Ⅱ層下面（北東から）

3. SK086 土層（南東から）

4. SK082 土層（南西から）

5. C－4 Ⅲ層下面（北東から）

6. SK088（南西から）

図版18

1. SK093 陶磁器出土状況（南東から）

2. SK085（西から）

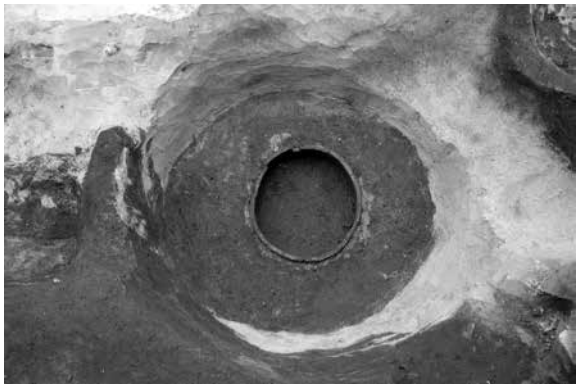
3. SK095（南西から）

4. SK087（南東から）

5. SK106（南東から）

6. SK104（南東から）

7. SK110 獣骨廃棄土坑（北西から）



8. SE038 井戸（南東から）

1. SK088 土層（北西から）

2. SX140（北から）

3. SD101/102 溝（南東から）

4. SE038 底（南西から）

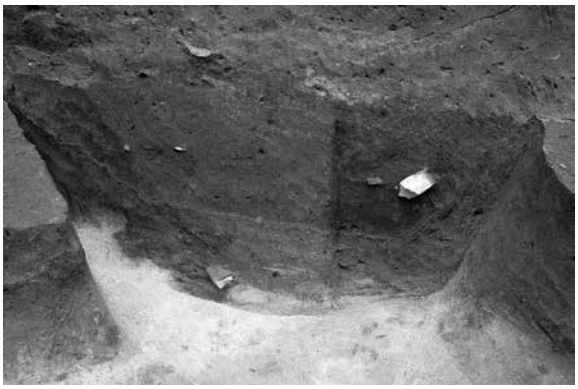
5. SK110 獣骨出土状況（南西から）

6. SK110 下顎骨出土状況（南西から）

図版20

1. SK110 獣骨出土状況（南西から）

2. SK110 獣骨出土状況（南西から）



3. SK088 土層（北西から）

4. SK082 完掘状況（北西から）

5. SE053/054/057 井戸（南西から）

6. Ⅱ区Ⅱ層下面（南西から）

1. Pit099（南西から）

2. SK122（南東から）

3. SE134 井戸（南東から）

4. SE057 井戸（南東から）

5. SE054/053/067/064 井戸（南東から）

図版22

1. SE053 井戸（南東から）

2. SE054 井戸（南西から）

3. SE064 井戸（南から）

4. SE055（北東から）

5. SE050 井戸（北東から）

6. SE048（北西から）

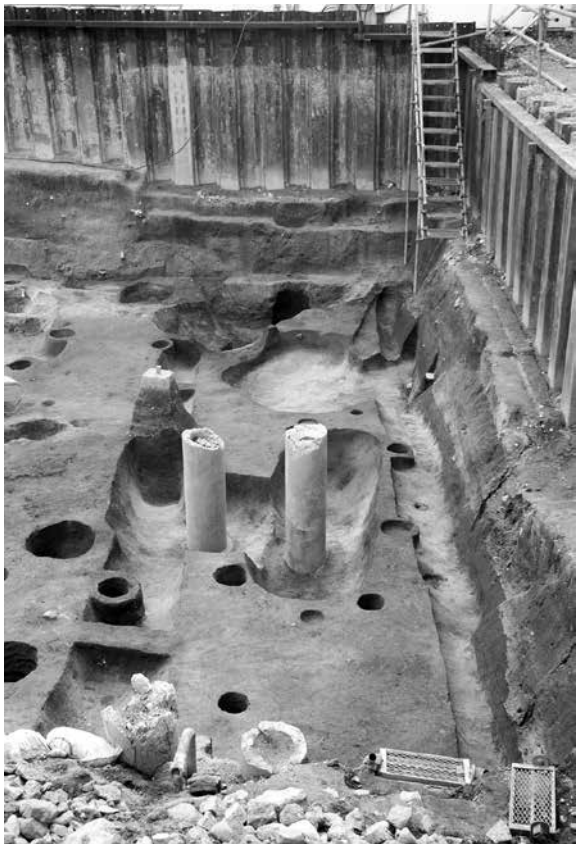
7. SE135 井戸（南東から）

8. SK131（東から）

1. SE065（東から）

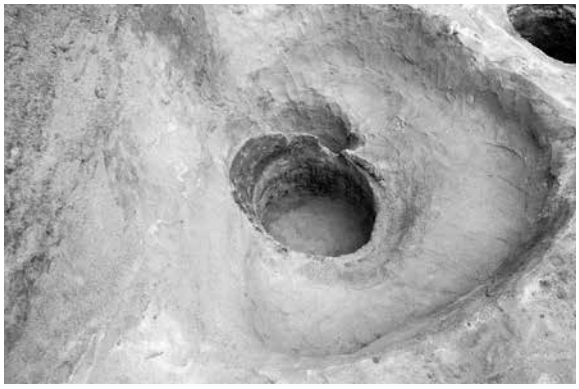
2. SE052 井戸（東から）

3. SX130 壺棺墓（南西から）



4. A･B－1 Ⅲ層上面（北東から）

5. SX130 壺棺墓（南西から）



6. SE066 井戸（北東から）

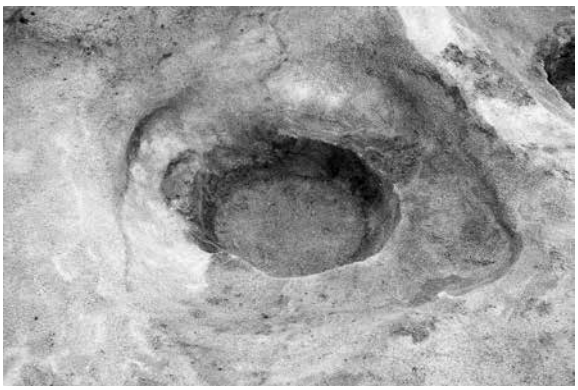
図版24

1. SE072 井戸（西から）

2. SE052 井戸（東から）

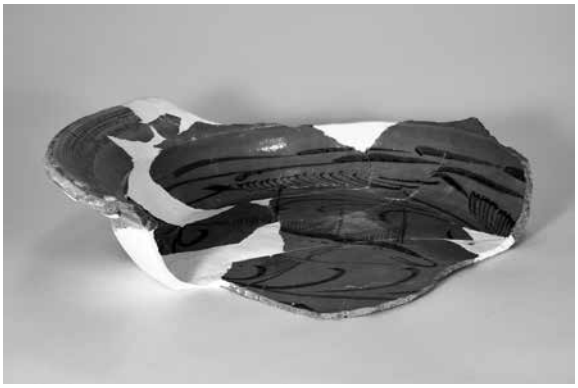
3. SE066 井戸（北東から）

4. SE020 井戸（北東から）



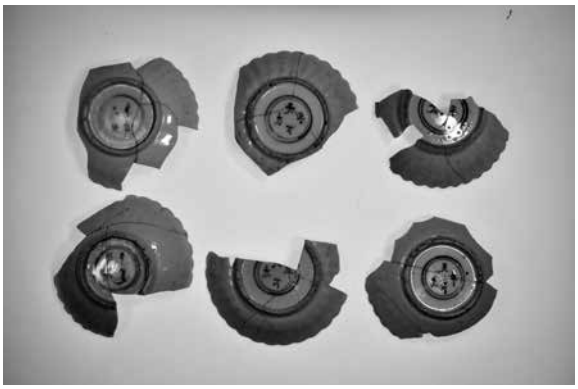
5. SE051 井戸（北西から）

6. 南張出部（北東から）



1. SK001 出土 黄釉鉄絵盤

2. SK2166 出土 黄釉鉄絵盤

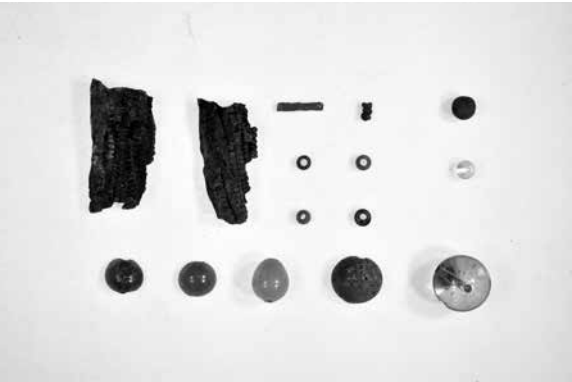


3. SK1097 出土 白磁菊皿

4. SK001 出土 陶器経筒

5. SK065 出土越州窯青磁耳壺

6. B－1 Ⅱ層出土 ガラス小壺蓋



7. 水晶・ガラス玉

8. SE3057 出土 柿釉碗

報　告　書　抄　録

ふりがな	はかた 166
書名	博多 166
副書名	博多遺跡群第 209 次調査報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1395 集
編著者名	佐藤一郎
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒 810－8621 福岡県福岡市中央区天神 1－8－1　TEL 092－711－4667
発行年月日	2020 年（令和 2 年）3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
はかた いせきぐん 博多遺跡群 （第 209 次調査）	ふくおかしはかたくれいせんまち 10 ばん 21 ごう 福岡市博多区冷泉町 10 番 21 号	40132	121	33° 35'46"	130° 24'41"	20170201 ～ 20171228	960㎡	記録保存

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
博多遺跡群	集落	弥生時代・古墳時代・古代・中世	井戸・土坑・溝・墳墓	土師器・須恵器・陶磁器・石製品・金属製品・ガラス製品	

要　約	検出した遺構は、古墳時代初期の壷棺墓 1 基、土師器埋納 3 基、古代の溝 3 条・井戸 1 基、中世前半の溝 3 条・井戸 20 基・土坑 40 基以上、中世後半の井戸 3 基・土坑 20 基以上である。特に 12 世紀中頃から後半にかけての廃棄土坑が多く検出された。獣骨の廃棄、あるいは埋納土坑も多く検出された。坩堝とみられる無釉の陶器壺、複数のガラス玉が溶着したものなど、ガラス玉生産に関する遺物も多く出土した。流通・生産に関する遺物が出土しているが､それらは廃棄されたものである。本調査地は砂丘内では低い位置にあり、廃棄土坑が多く検出されていることからも、不衛生で居住には適さない立地であったと推定され、建物が構えられていたとして倉庫や工房など用途が限られよう。

博多 166

―博多遺跡群第 209 次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1395 集

2020 年 3 月 25 日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目 8－1

印　刷　株式会社 博巧印刷
福岡市南区那の川一丁目 9 番 7 号